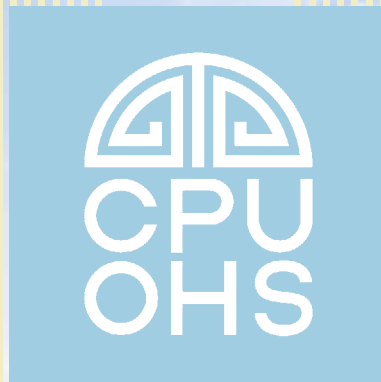


平成29年度版
(通巻第9号)

千葉県立保健医療大学

教育研究年報



Annual Report of Education and Research
Chiba prefectural University
Of Health Sciences

2017

平成 29 年度教育研究年報の発行にあたって

教育研究年報（以下「年報」という。）は千葉県立保健医療大学（以下「本学」という。）が開設された平成21年度末に第1号が刊行された。その巻頭言で山浦晶前学長は、次のように述べている、「教育研究年報は、各教員が毎年の業績を振り返り、更なる発展に資するのは当然として、認証評価の際にも大学評価の重要な審査項目になるものであり、各教員の再任審査時にも必須の資料となる」。平成27年10月、本学は開学後7年にして大学基準協会による機関別認証評価を初めて受審し、本学の現状が明らかとなった。

認証評価の評価結果は適合と認定されたが、内容は「自己点検・評価に関する取り組みや内部質保証システムの整備が不十分であること、管理運営の意思決定プロセスが不明確であることなどをはじめとして、さまざまな問題も抱えている。キャンパスの統合や大学院設置等、貴大学の長期目標が何年も頓挫していることから、県との協力・連携体制を強化し、種々の問題解決に向けて共に取り組んでいくことが喫緊の課題ある。」という厳しいものであった。評価結果の10内部質保証の項で「開学した 2009（平成21）年度以降、毎年『教育研究年報』を大学ホームページに公表しているが、同年報は委員会の活動実績と教員の研究活動記録が主であり、自己点検・評価の結果に相当するものではない。」という指摘があった。この指摘を受けて平成27年度から年報に「年度当初の目標」、「評価（成果及び改善すべき事項）」、「次年度の目標」の項目を新たに加え、自己点検・評価とそれに基づく改善のプロセスを明確にした。年報は本学における内部質保証のエビデンスである。

認証評価では十二の努力課題と四つの改善勧告が示された。努力課題はその対応状況を、改善勧告はその改善状況を改善報告書としてまとめ、平成31年7月末日までに大学基準協会へ提出しなければならない。上述の内部質保証の課題も改善報告書の一つである。改善報告書を期限までに提出するためには、改善のための取組みを平成28年度中に策定し、平成30年度には実施する必要がある。努力課題を含めて改善勧告を解決するための施策を平成28年度重点施策として作成し、各委員会等を中心にその達成に向けてご尽力いただいた。平成29年度末までに教育、管理・運営に関する施策の一部は達成された。各年度の達成状況はアニュアル・レポートとしてまとめられ、HP等で公表される。

開学後7年を経て本学は平成27年度に設置計画履行状況等調査（以下「AC」という。）を完了した。「設置計画履行状況等調査の結果について」という文科省からの通知にはその他意見として以下のような意見が付されていた、「設置者より示された「県立保健医療大学の整備に係わるロードマップ」について、大学と設置者の十分な連携のもと、着実に実行すること。中略、また、キャンパスの整備に当たっては、大学が単なる施設ではなく教育研究機関であることを認識し、大学設置基準第40条の3（大学は、その教育研究上の目的を達成するため、必要な経費の確保等により、教育研究にふさわしい環境の整備に努めるものとする）に照らして適切な整備に努めること。」。認証評価、ACにより本学が教育、研究、管理・運営など様々な面で多くの課題を抱えていることを全教職員は改めて認識した。このような状況下で平成28年度重点施策を作成し、課題を一つ一つ解決していく体制を構築した。我々の成すべきことは、本学の原点に立ち返り、その達成に向けて愚直に努力を続けることである。

平成 30 年 8 月

学長 田邊政裕

目 次

第 1 部 大学組織の活動記録

I	千葉県立保健医療大学の概要	2
1.	千葉県立保健医療大学の沿革	2
2.	大学の理念・目的	2
3.	健康科学部の目的	2
4.	千葉県立保健医療大学組織図	4
II	年間記録（一年の歩み）	5
1.	平成 29 年度学事歴および行事	5
2.	各学科定員等	5
III	管理運営の状況	6
1.	評議会の活動報告	6
2.	大学運営会議の活動報告	7
3.	教授会の活動報告	8
4.	各種委員会等の活動報告	11
5.	各学科・専攻の管理・運営活動報告	56
6.	事務局の活動	59
7.	FD の実施状況	60
IV	教育活動	61
1.	共通教育	61
2.	看護学科	61
3.	栄養学科	62
4.	歯科衛生学科	62
5.	リハビリテーション学科理学療法学専攻	63
6.	リハビリテーション学科作業療法学専攻	63
7.	学生による授業評価	64
8.	大学全体	66
V	学生の受け入れ状況	67
1.	学生の受け入れ方針	67
2.	年度当初の重点課題	68
3.	入学者選抜状況	69
4.	学生募集のための取り組み	71
5.	学生の在籍状況	73
6.	評価（成果および改善すべき事項）	74
7.	次年度の方策	75
VI	学生支援	76
1.	年度当初の重点課題	76
2.	活動内容	76
3.	キャンパスハラスメント	77
4.	各学科・専攻の取り組み	77
5.	平成 29 年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	80

6. 評価（成果および改善すべき事項）	82
7. 次年度の方策	82
VII 社会連携・社会貢献	83
1. 社会との連携・協力に関する方針	83
2. 年度当初の重点課題	83
3. 活動内容	83
4. 評価（成果および改善すべき事項）	90
5. 次年度の方策	91
VIII 教育研究等環境	92
1. 年度当初の重点課題	92
2. 施設・設備の整備状況	92
3. 図書館の状況	92
4. 研究倫理を遵守するための措置	93
5. 評価（成果および改善すべき事項）	93
6. 次年度の方策	93
IX 研究活動報告	94
1. 看護学科	94
2. 栄養学科	94
3. 歯科衛生学科	94
4. リハビリテーション学科理学療法専攻	94
5. リハビリテーション学科作業療法専攻	94
X 内部質保証のための取り組み	96
1. 年度当初の課題	96
2. 評価（成果および改善すべき事項）	96
3. 次年度の方策	97

第2部 教員の教育研究活動記録

・学長	101
・看護学科	105
教授 石井 邦子	107
教授 小川 真	110
教授 西野 郁子	112
教授 佐藤 まゆみ	114
教授 佐藤 紀子	117
教授 河部 房子	121
教授 杉本 知子	124
教授 神田 みなみ	127
教授 渡辺 尚子	129
准教授 浅井 美千代	131
准教授 雨宮 有子	133
准教授 三枝 香代子	137
准教授 細谷 紀子	139
准教授 平尾 由美子	142

准教授	川城	由紀子	144
准教授	北川	良子	146
准教授	植村	由美子	149
講師	植田	麻実	151
講師	西山	正恵	153
講師	今井	宏美	155
講師	成	玉恵	157
講師	石川	紀子	159
講師	鳥田	美紀代	161
講師	田口	智恵美	164
講師	加藤	隆子	166
講師	川村	紀子	168
講師	高山	京子	170
助教	上野	佳代	172
助教	佐伯	恭子	175
助教	宮澤	早織	177
助教	大内	美穂子	178
助教	椿	祥子	180
助教	坂本	明子	182
助教	鈴木	恵子	184
助教	妻倉	恵	186
助教	杉本	亜矢子	188
助教	木村	亜由美	190
助教	中山	静和	191
• 栄養学科			193
教授	渡邊	智子	195
教授	長谷川	卓志	199
教授	井上	裕光	201
教授	豊島	裕子	204
教授	東本	恭幸	207
教授	細山田	康恵	210
准教授	山田	正子	212
准教授	越川	求	213
准教授	谷内	洋子	215
准教授	荒井	裕介	219
講師	金澤	匠	222
講師	海老原	泰代	224
助教	阿曾	菜美	226
助教	田村	友峰子	228
助教	三宅	理江子	230
助教	岡田	亜紀子	231
• 歯科衛生学科			233
教授	大川	由一	235
教授	吉田	直美	238
教授	酒巻	裕之	240
教授	島田	美恵子	243
教授	麻賀	多美代	246
准教授	金子	潤	249

准教授 荒川 真	252
准教授 河野 舞	254
講 師 麻生 智子	256
講 師 榎本 輝樹	259
講 師 鈴鹿 祐子	261
助 教 山中 紗都	263
・リハビリテーション学科理学療法学専攻	267
教 授 雄賀多 聡	269
教 授 三和 真人	271
准教授 竹内 弥彦	274
講 師 高杉 潤	277
講 師 大谷 拓哉	280
助 教 太田 恵	282
助 教 藤尾 公哉	284
・リハビリテーション学科作業療法学専攻	287
教 授 岡村 太郎	289
教 授 高橋 伸佳	291
准教授 安部 能成	293
准教授 藤田 佳男	296
准教授 有川 真弓	300
講 師 吉野 智佳子	303
講 師 佐藤 大介	305
助 教 松尾 真輔	307
資料	
資料 1 履修規程別表	310
資料 2 平成 29 年度非常勤講師一覧	359

第 1 部

大学組織の活動記録

第1部 大学組織の活動記録

I 千葉県立保健医療大学の概要

1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は平成21年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、平成23年4月からは保健医療大学のみでの運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、昭和62年4月～平成5年3月）の頃からあったものの、県庁内に検討会ができたのは平成15年になってからである。平成17年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（平成17年7月）、整備計画が策定された（平成18年7月）。

平成20年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもとに平成21年4月に開学の日を迎えることができた。千葉県立保健医療大学の開学を認めた堂本知事から、森田知事に代ったのもこの頃であった。

2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

(1) 高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

(2) 健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

(3) 地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

(4) 県の健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

3. 健康科学部の目的

健康科学部は、本学の理念・目的を達成するために以下の人材育成を学部の目的とします。

- (1) 生涯にわたり総合的に保健医療を発展させようとする意欲を持った人材の育成
- (2) 科学的真理を追究する力を持った人材の育成
- (3) 専門的知識、技術、実践力及び指導力を身につけた人材の育成
- (4) 多様な分野で他の専門職と自在に連携、協働できる人材の育成
- (5) 総合的な健康づくりの推進力となり、保健医療の発展に寄与できる人材の育成

なお、学部の目的を達成するためには大学が定める所定の期間在学し、大学・学部の理念・目的に沿って設定された学科・各専攻の授業科目を履修し、卒業要件に満たす単位を修める必要があります。

〈学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。

II コミュニケーション能力

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。

III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。

IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。

V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。

VI 多職種との協働

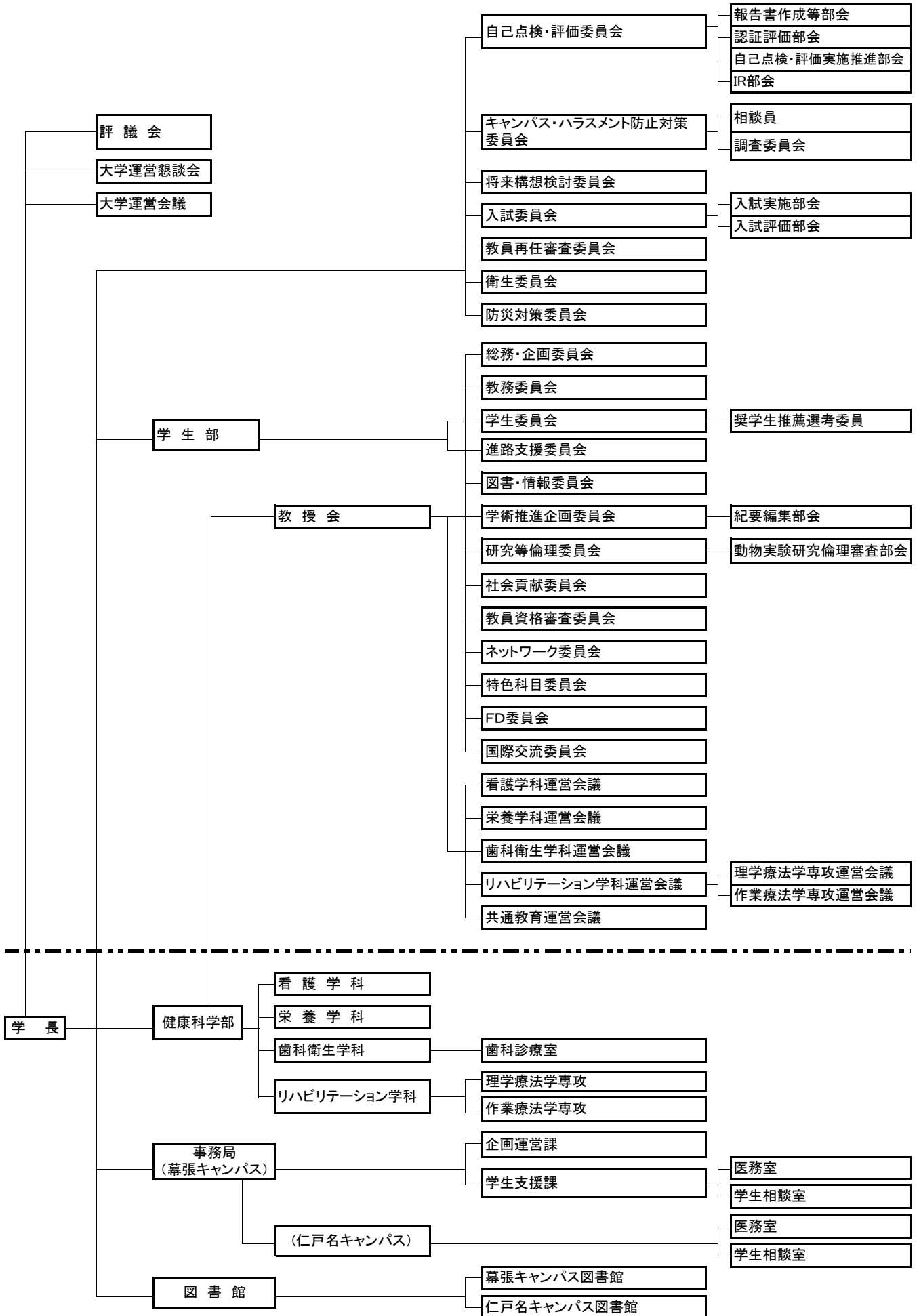
千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

(平成30年1月15日改変、同4月1日施行)

4. 千葉県立保健医療大学組織図



II 年間記録（一年の歩み）

1. 平成 29 年度学事歴及び行事

行 事	日 程
入学式、新入生ガイダンス	4月5日(水)
新入生ガイダンス	4月6日(木)幕張/4月12日(水)仁戸名
前期授業期間	4月10日(月)～7月31日(月)
前期履修登録期間	4月10日(月)～18日(火)
前期末試験	8月1日(火)～8月9日(水)
夏季休業	8月10日(木)～9月30日(土)
オープンキャンパス	7月8日(土), 9日(日)
前期試験結果発表	8月24日(木), 25日(金)
後期授業期間	10月2日(月)～2月9日(金)
後期履修登録期間	10月3日(火)～6日(金)
公開講座	10月8日(日)
大学祭 (いずみ祭)	10月8日(日), 9日(月)
公開講座	10月22日(日)
開学記念日	10月28日(土)
特別選抜(推薦・社会人) 入学試験	11月18日(土)
3年次編入学試験	11月29日(日)
冬季休業	12月24日(日)～1月7日(日)
大学入試センター試験	1月13日(土), 14日(日)
後期末試験	2月13日(火)～2月21日(水)
一般選抜2段階入学試験	2月25日(日)
後期試験結果発表	2月28日(水)
卒業式	3月14日(水)
春季休業	3月22日(木)～3月31日(土)

2. 各学科定員等

1) 入学定員, 収容定員, 在籍者数 (平成 30 年 3 月 1 日現在)

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健 康 科 学 部	看護学科	80 人	340 人 (編入学 20 名含む)	332 人
	栄養学科	25 人	100 人	102 人
	歯科衛生学科	25 人	100 人	97 人
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	50 人 (25 人)	200 人 (100 人)	202 人 (103 人)
	(作業療法学専攻)	(25 人)	(100 人)	(99 人)
合 計		180 人	740 人	733 人

2) 履修規程別表 資料 1 参照, 非常勤講師担当教員授業科目表 資料 2 参照

Ⅲ 管理運営の状況

1. 評議会の活動報告

A	議長名	田邊 政裕（保健医療大学長）
B	評議員名	飯田 浩子（県健康福祉部長） 雄賀多 聡（保健医療大学健康科学部長） 千葉 総一郎（保健医療大学事務局長） 大嶋 良弘（税理士法人大嶋会計代表社員） 來生 新（放送大学長） 水野 創（株式会社ちばぎん総合研究所取締役社長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度重点施策（設置計画履行状況等調査、機関別認証評価で指摘された諸課題の解決策） 設置者より示されたロードマップの着実な実行（平成 29 年度末までにキャンパス内バリアフリー化、平成 31 年度末までに大学院設置、看護学科定員増） 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	12 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県立保健医療大学名誉教授称号授与規程の内規について 平成 28 年度収支状況（決算）について 第一期重点施策について キャンパス・ハラスメントの防止対策について
2	平成 30 年 3 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> 学長の人事評価について 平成 29 年度当初予算について 平成 29 年度卒業生の就職進学状況について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度重点施策において新たに以下の施策が達成された。 未達成（取組継続）の重点施策が 23 項目あり、平成 29 年度の取組みは十分ではなかった。 <p>教育</p> <p>3. (オ) 千葉県内高等学校（主に推薦枠高校）との定期的な情報交換と大学説明会等の開催</p> <p>10. 教育ワークショップを定期的開催</p> <p>学生支援</p> <p>3. 学生支援の方針に照らした学生支援の検証と改善</p>	
I	次年度の方策	
	平成 29 年度の重点施策達成状況を踏まえた平成 30 年度重点施策（達成目標）の策定	

2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	田邊 政裕・学長
B	構成員名	雄賀多 聡・学部長 西野 郁子・学生部長 豊島 裕子・図書館長 石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 千葉 総一郎・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学長からの諮問事項に関すること 2 評議会及び教授会に諮る案件の事前調整に関すること 3 学科間の調整に関すること 4 その他大学運営に係る企画及び調整に関すること
E	年度当初の重点課題	
・上記（評議会活動報告）		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月24日	1 カウンセラーと教職員の連携について 2 学生団体と学外団体の共同活動についての申し合わせについて 3 平成28年度重点施策達成状況について
2	5月29日	1 新「千葉県総合計画」において本大学が協力できる分野の調査について 2 平成28年度国家試験合格状況について
3	6月26日	1 学生団体と学外団体の共同活動についての申し合わせについて 2 千葉県立保健医療大学名誉教授称号授与規程について 3 千葉県総合計画について
4	8月28日	1 URと本学との連携協定について
5	9月25日	1 救急対応マニュアル（学生委員会案）について 2 看護学科在宅看護学准教授の後任補充について 3 保健医療大学からの提言について 4 アニュアルレポートについて
6	10月30日	1 障害学生への修学支援に関する指針について
7	11月27日	1 平成30年度運営会議・教授会の日程について 2 大学のガバナンス改革の推進について 3 ディプロマ・ポリシーについて
8	12月25日	1 教員資格審査委員会スケジュールについて 2 平成30年度運営会議・教授会の日程について 3 IR部会の状況について
9	平成30年 1月29日	1 運営会議の運営方法の改善について 2 健康福祉部との意見交換会について 3 千葉大学との連携について 4 メールアカウントの流出事故について 5 教員募集における履歴書及び教育研究業績書について 6 平成29年度卒業式について

10	平成 30 年 2 月 19 日	1 ディプロマ・ポリシーについて 2 平成 30 年度入学式について
11	平成 30 年 3 月 26 日	1 担当教員の変更について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	・上記（評議会活動報告）	
I	次年度の方策	
	・上記（評議会活動報告）	

3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され、学部長が招集し、議長となって運営した。開催頻度は月 1 回を定例とし、必要に応じて臨時教授会を開催した。平成 29 年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A	年度当初の重点課題		
	教員組織を定期的に検証し、大学の方針に沿って適正化させる（人事計画を含む）体制の構築		
B	会議記録		
	月日	主な議題	主な報告事項
1	4 月 3 日	1) 教員(看護学科・基礎看護学・助教)の選考について 2) 歯科衛生学科・教授の資格審査結果について 3) 平成 29 年度研究費予算・教育用予算について 4) 平成 29 年度研究費予備費(委員会経費)について 5) 平成 29 年度前期履修登録について 6) 学生の休学・復学について 7) 非常勤講師の新規任用について 8) 平成 30 年度入学者選抜要項について	運営会議報告 ・障害のある学生への修学支援に関するガイドラインについて ・平成 28 年度第 2 回評議会の結果について ・医療整備課との打ち合わせについて
2	4 月 7 日	1) 平成 29 年度研究費予算について 2) 既修得単位の認定について 3) 平成 29 年度委員会委員について 4) 平成 29 年度前期不開講科目について	
3	5 月 1 日	1) 教員資格審査委員会(看護学科・高齢者看護学・講師)の設置について 2) カウンセラーと教職員との連携について 3) 学生の公欠について 4) 学生の休学について 5) 実習施設の新規追加について 6) 非常勤講師の新規任用について 7) 28 年度履修登録内容の訂正について	運営会議報告 ・平成 28 年度重点施策達成状況について
4	6 月 5 日	1) 教員再任審査 について 2) 教員(歯科衛生学科・教授)の選考について 3) 栄養学科・助教の資格審査結果について 4) 看護学科・精神看護学・助教の資格審査結果について 5) 看護学科・公衆衛生看護学・講師の資格審査結果について 6) 看護学科・小児看護学・助教の資格審査結果について 7) 教員資格審査委員会(看護学科・精神看護学・教授)	運営会議報告 ・新「千葉県総合計画」への本学の関与について ・公立大学協会定時総会について

		<p>の設置について</p> <p>8) 教員資格審査委員会(看護学科・看護管理学・准教授)の設置について</p> <p>9) 教員資格審査委員会(看護学科・在宅看護学・准教授)の設置について</p> <p>10) 学生の公欠について</p> <p>11) 学生の休学・復学・退学・除籍について</p> <p>12) 非常勤講師の新規任用について</p> <p>13) 試験問題の開示について</p>	
5	7月3日	<p>1) 看護学科・精神看護学・助教の選考について</p> <p>2) 看護学科・小児看護学・助教の選考について</p> <p>3) 教員(看護学科・精神看護学・教授)の公募について</p> <p>4) 教員(看護学科・看護管理学・准教授)の公募について</p> <p>5) 教員(看護学科・在宅看護学・准教授)の公募について</p> <p>6) 教員(看護学科・公衆衛生看護学・講師)の公募について</p> <p>7) 教員(栄養学科・助教)の公募について</p> <p>8) 教員資格審査委員会(歯科衛生学科・教授)の設置について</p> <p>9) 教員資格審査委員会(歯科衛生学科・講師)の設置について</p> <p>10) 平成29年度後期科目等履修生等の募集について</p> <p>11) 平成29年度前期末試験の日程について</p> <p>12) 学生の退学について</p> <p>13) 学生募集要項について(推薦・社会人・編入学)</p> <p>14) 教員資格審査委員会(看護学科・精神看護学・助教)の設置について</p>	<p>運営会議報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生団体と学外団体の共同活動についての申し合わせについて ・千葉県立保健医療大学名誉教授称号授与規程について ・千葉県総合計画について ・ダイバーシティ CHIBA 研究環境促進コンソーシアムについて
6	9月4日	<p>1) 看護学科・看護管理学・准教授の資格審査結果について</p> <p>2) 看護学科・公衆衛生看護学・講師の資格審査結果について</p> <p>3) 看護学科・高齢者看護学・講師の資格審査結果について</p> <p>4) 教員(歯科衛生学科・教授)の公募について</p> <p>5) 教員(歯科衛生学科・講師)の公募について</p> <p>6) 教員(看護学科・精神看護学・助教)の公募について</p> <p>7) 看護学科・在宅看護学の公募状況について</p> <p>8) 学生の休学・復学・退学について</p> <p>9) 非常勤講師の新規任用について</p> <p>10) 実習施設の新規追加について</p> <p>11) 委員会委員の変更について</p> <p>12) URと本学の連携協定について</p>	<p>運営会議報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度歯科衛生学科授業科目教員の一部変更について ・新千葉県総合計画について ・公立大学協会地区協議会について
7	10月2日	<p>1) 看護学科・看護管理学・准教授の選考について</p> <p>2) 看護学科・公衆衛生看護学・講師の選考について</p> <p>3) 看護学科・高齢者看護学・講師の選考について</p> <p>4) 看護学科・精神看護学・教授の資格審査結果について</p> <p>5) 栄養学科・助教の資格審査結果について</p>	<p>運営会議報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県民の健康寿命の延伸と健康格差縮小により県民負担を抑制するための提言づくりについて ・アニュアルレポートについて

		6) 教員資格審査委員会(看護学科・在宅看護学・教授)の設置について 7) 教員資格審査委員会(看護学科・高齢者看護学・助教)の設置について 8) 学生の休学・復学・退学について 9) 非常勤講師の新規任用について 10) 実習施設の新規追加について 11) 「新規実習施設の追加」を教授会議題から報告へ変更について 12) 特別講義について 13) 一般選抜学生募集要項について	
8	11月6日	1) 栄養学科・助教の選考について 2) 看護学科・在宅看護学・教授の公募について 3) 看護学科・高齢者看護学・助教の公募について 4) 教員(歯科衛生学科・教授)の公募状況について 5) 教員資格審査委員会(歯科衛生学科・教授)の設置について 6) 教員資格審査委員会(栄養学科・准教授)の設置について 7) 教員資格審査委員会(看護学科・母性看護学助産学・助教)の設置について 8) 非常勤講師の新規任用について 9) 特別講義について	
9	11月27日	特別選抜・3年次編入合否判定について	
10	12月4日	1) 看護学科・精神看護学・教授の選考について 2) 看護学科・在宅看護学・教授の資格審査結果について 3) 歯科衛生学科・講師の資格審査結果について 4) 看護学科・精神看護学・助教の資格審査結果について 5) 看護学科・高齢者看護学・助教の資格審査結果について 6) 歯科衛生学科・教授の公募について 7) 栄養学科・准教授の公募について 8) 看護学科・母性看護学助産学・助教の公募について 9) 教員資格審査委員会(看護学科・看護管理学・講師)の設置について 10) 教員資格審査委員会(理学療法学専攻・助教)の設置について 11) 平成30年度前期科目等履修生等の募集について 12) 平成30年度学年暦(案)について 13) 平成30年度シラバスの作成について 14) 非常勤講師の新規任用について 15) 学生の休学について 16) カリキュラム・ポリシーの変更(案)について 17) 千葉県立保健医療大学学生規程の改正について	運営会議報告 ・大学のガバナンス改革の推進について ・ディプロマ・ポリシーについて
11	平成30年 1月4日	1) 看護学科・在宅看護学・教授の選考について 2) 歯科衛生学科・講師の選考について 3) 看護学科・精神看護学・助教の選考について 4) 看護学科・高齢者看護学・助教の選考について 5) 理学療法学専攻・助教の公募について	運営会議報告 ・ストレスチェック等について ・評議会の議事・報告事項について

		6) 教員資格審査委員会スケジュールについて 7) 平成 29 年度後期末試験日程について 8) 平成 30 年度時間割(案)について 9) 非常勤講師の新規任用について 10) 一般選抜及び特別選抜における募集人員の変更について 11) 平成 30 年度運営会議・教授会の日程について	
12	平成 30 年 2 月 5 日	1) 教員募集における履歴書及び教育研究業績書について 2) 看護学科・母性看護助産学・助教の資格審査結果について 3) 栄養学科・准教授の資格審査結果について 4) 看護学科・看護管理学・講師の公募について 5) 歯科衛生学科・助教の公募について 6) 教員資格審査委員会(看護学科・精神看護学・教授)の設置について 7) 平成 30 年度新生・在学生ガイダンスのスケジュールについて 8) 平成 30 年度看護学科選択科目を一部不開講にすることについて 9) 非常勤講師の新規任用について 10) 学長表彰についての申し合わせについて 11) 学長表彰候補者推薦について	運営会議報告 ・メールアカウントの情報流出事故について ・平成 29 年度卒業式について
13	平成 30 年 2 月 28 日	平成 29 年度卒業判定について	
14	平成 30 年 3 月 2 日	1) 平成 30 年度一般選抜合否判定 2) 看護学科・母性看護助産学・助教の選考について 3) 栄養学科・准教授の公募について 4) 看護学科・精神看護学・教授の公募について 5) 教員資格審査委員会(看護学科・公衆衛生看護学・助教)の設置について 6) 研究費の配分等について 7) 平成 30 年度時間割変更要望について 8) 非常勤講師の新規任用について 9) 学生の休学・復学について	運営会議報告 ・ディプロマ・ポリシーについて ・入学式について
C	評価(成果および改善事項)		
	管理・運営ワーキンググループ(以下「WG」という。)を新たなメンバーで組織し、非法人化公立大学である本学においては、県の方針と整合性をとりつつ、学内組織全体のあり方(教授会の所掌を教育関連項目に絞り、管理運営面を切り離す)について検討中であるが、新たな組織図の完成にはいたらなかった。		
D	次年度の方策		
	平成 29 年度に引き続き、現在の組織体制の中で、WG を中心として、教育研究と管理運営組織の再編および教員組織を定期的に検証する仕組みを構築する。		

4. 各種委員会等の活動報告

1) 学長直属委員会

(1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 雄賀多 聡・学部長
B	委員名	西野 郁子・学生部長 豊島 裕子・図書館長 兼 自己点検・評価委員会報告書作成等部会長 石井 邦子・看護学科長

		渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 兼 自己点検・評価委員会認証評価部会長 兼 自己点検・評価委員会自己点検・評価実施推進部会長 兼 自己点検・評価委員会 IR 部会長 千葉 総一郎・事務局長
C	部会名と 部会員名	【報告書作成等部会】 部会長：豊島 裕子・教授（栄養学科） 部会員：成 玉恵・講師（看護学科） 川村 紀子・講師（看護学科） 山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 高杉 潤・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【自己点検・評価実施推進部会】 部会長：岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：杉本 知子・教授（看護学科） 渡邊 尚子・教授（看護学科） 川城 由紀子・准教授（看護学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山口 妙美・事務局企画運営課長 【認証評価部会】 部会長：岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：石井 邦子・教授（看護学科） 西野 郁子・教授（看護学科） 佐藤 まゆみ・教授（看護学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 大川 由一・教授（歯科衛生学科） 【IR 部会】 部会長：岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 杉山 祐子・図書館司書 高山 京子・講師（看護学科） 山田 正子・准教授（栄養学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 榎本 輝樹・講師（歯科衛生学科） 神田 みなみ・教授（看護学科）
D	所掌事務	1 自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項 2 自己点検・評価の項目の設定に関する事項 3 自己点検・評価の実施に関する事項 4 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項 5 認証評価に関する事項 6 その他、自己点検・評価に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	・ IR 部会の設置 ・ 自己点検・評価実施推進部会による平成 29 年度重点施策・改善計画実施状況調査（中間点評価，最終評価）	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題

1	4月17日	1 平成28年度重点施策・改善計画実施状況最終報告の確認 2 大学基準協会による改善勧告の達成状況報告（平成28年度）
2	9月24日	1 自己点検・評価項目と担当について 2 重点施策・改善計画実施状況報告書について 3 スケジュールについて 4 平成28年度アニュアルレポートについて 5 IR実施部会運営指針等について 6 教育研究年報の電子化について
3	平成30年 3月19日	1 IR専門部会の所掌事項について 2 IR指標について 3 卒業生のフォローアップ調査体制について 4 平成29年度重点施策・改善実施状況について
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【報告書作成等部会】
1	5月8日	1 教育研究年報の項目と作成について 2 今年度のスケジュールについて 3 委員会の運営経費について
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【自己点検・評価実施推進部会】
1	8月1日	1 自己点検・評価実施推進部会の経緯について 2 自己点検・評価実施推進部会の今年度の方針 3 自己点検・評価実施推進部会の計画案の検討
2	9月11日	1 自己点検・評価の項目担当の内容の検討 2 点検項目の担当割振り
3	平成30年 2月22日	1 報告書の内容の整合性の見直し（今後の方法と手順） 2 アニュアルレポートの作成について
4	平成30年 3月26日	1 平成29年度重点施策・改善計画実施状況報告書の確認について 2 アニュアルレポートの作成について
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【IR部会】
1	6月6日	1 IR専門部会の方針について 2 職務分掌と指針及び規程に関する方針について
2	9月8日	1 千葉県立保健医療大学IR実施部会運営指針について 2 各委員会の収集済みの基礎資料の一覧提出 3 基礎資料の整理方法について 4 今後のスケジュールについて
3	12月19日	1 共通フォルダー保管について 平成29年度内の委員会分掌資料の情報収集・蓄積の実施について 2 平成30年度計画（案）について 3 IRの分掌（現在検討されている分掌）について
4	平成30年 3月8日	1 平成30年度計画（案）及び予算について 2 本学に必要な指標の必要性について 3 IRの分掌（現在検討されている分掌）について 4 共通フォルダー保管について 平成29年度内の委員会分掌資料の情報収集・蓄積の実施について
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
・IR部会は立ち上げられたが実質的な活動は行われていない		

・自己点検・評価実施推進部会による平成29年度重点施策・改善計画実施状況調査（中間点評価，最終評価）が行われ，達成された施策が明確化された	
I	次年度の方策
・IR部会の活動によって自己点検・評価に必要なデータの収集・解析を行う	
・平成30年度重点施策の達成状況調査	

(2) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	田邊 政裕・学長
B	委員名	雄賀多 聡・学部長 西野 郁子・学生部長 千葉 総一郎・事務局長 杉本 知子・教授（看護学科） 渡邊 智子・教授（栄養学科） 高橋 伸佳・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【外部委員】 山下 洋一郎（弁護士） 有馬 和子（臨床心理士）
C	部会名と 部会員名 (相談員名)	【相談員】 小川 真・教授（看護学科） 渡邊 尚子・教授（看護学科） 川村 紀子・講師（看護学科） 渡邊 智子・教授（栄養学科） 海老原 泰代・講師（栄養学科） 榎本 輝樹・講師（歯科衛生学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 竹内 弥彦・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 太田 恵・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 山口 妙美・課長（事務局企画運営課） 小山 晃弘・主事（事務局企画運営課） 【キャンパス・ハラスメント調査委員会】 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会が推薦する者から学長が指名
D	所掌事務	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか，キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること
E	年度当初の重点課題	
・本学におけるキャンパス・ハラスメントに関する実態の把握 ・キャンパス・ハラスメントの実態に基づく啓発，防止策の企画，実施		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	11月14日	【議題】 1 ハラスメント対応について 【報告】 1 キャンパス・ハラスメント事案の結果について

		2 ハラスメントアンケート結果について 3 ハラスメント講演会について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
	平成 30 年 3 月 22 日	SD 企画講演会「ハラスメントのないキャンパスづくりのために」
H	評価（成果および改善事項）	
	・調査により本学におけるキャンパス・ハラスメントの実態が明らかとなり、調査の継続と講演会が企画された	
I	次年度の方策	
	・キャンパス・ハラスメントに関する調査及び啓発、防止を目的とする実態調査を行う ・キャンパス・ハラスメントに関する啓発、防止を目的とする講演会を開催する	

(3) 将来構想検討委員会

A	委員長名 副委員長名	田邊 政裕・学長 雄賀多 聡・学部長
B	構成員名	西野 郁子・学生部長 豊島 裕子・図書館長 石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 佐藤 まゆみ・教授（看護学科） 河部 房子・教授（看護学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 千葉 総一郎・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	【将来構想検討委員会】 1 キャンパス統合の検討に関すること 2 大学院設置の検討に関すること 3 実践研修研究センター（仮称）設置の検討に関すること 4 公立大学法人化等の検討に関すること 5 その他大学の発展・充実のための将来構想・将来計画の協議・立案に関すること 【専門部会】 キャンパス統合専門部会・大学院専門部会・実践研修研究センター専門部会はそれぞれの領域につき検討する
E	年度当初の重点課題	
	・平成 29 年度重点施策（設置計画履行状況等調査、機関別認証評価で指摘された諸課題の解決策） ・設置者より示されたロードマップの着実な実行（キャンパス内バリアフリー化、大学院設置、看護学科定員増）	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4 月 24 日	1 平成 29 年度重点施策について
2	5 月 29 日	1 平成 29 年度重点施策について 2 中長期計画及び開学 10 周年記念事業について
3	6 月 26 日	1 重点施策達成計画について
4	7 月 31 日	1 重点施策達成計画について
5	9 月 25 日	1 中期目標・計画作成部会について

6	10月30日	1 中長期ビジョンについて 2 10周年記念事業（案）について 3 千葉大学との包括的交流協定について
7	12月25日	1 重点施策の見える化について 2 千葉大学との包括的交流協定について
8	平成30年 1月29日	1 平成29年度重点施策について 2 平成28年度アニュアルレポートについて 3 千葉県立保健医療大学中長期ビジョン（案）について
9	平成30年 2月19日	1 千葉県立保健医療大学中長期ビジョン骨子（案）について 2 教職員懇談会について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度重点施策において教育、学生支援に関する施策が達成された（上記評議会の項目参照） 設置者より示されたロードマップ（キャンパス内バリアフリー化、大学院設置、看護学科定員増）については進展が見られなかった 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の達成状況を踏まえた平成30年度重点施策の策定（上記） ロードマップの着実な実行（上記） 	

(4) 入試委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 雄賀多 聡・学部長
B	委員名	石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 豊島 裕子・共通教育運営会議議長 佐藤 紀子・教授（看護学科・入試実施部会長） 井上 裕光・教授（栄養学科・入試評価部会長） 千葉 総一郎・事務局長 鈴木 由紀子・学生支援課長
C	部会名と 部会員名	【入試実施部会】別に掲載 【入試評価部会】別に掲載
D	所掌事務	1 学生の募集に関すること 2 入学者選抜試験に関する事項 3 専門部会等に関する事項 4 その他入学者選抜試験に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
	<ol style="list-style-type: none"> 公正かつ適切な入試の実施 AP（アドミッション・ポリシー）にのっとった学生の獲得のための受験生確保 入試制度の見直し 質の高い試験問題の作成と開示方法の検討 入学生の学力把握の方法の検討 	
F	会議記録（含む部会の開催）	

開催日		主な議題
1	5月29日	<p>議題</p> <p>1 入試問題の開示方法について</p> <p>2 今年度の小論文作問体制と方法について</p> <p>3 留学生の受け入れについて</p> <p>4 今後のスケジュールについて</p> <p>報告</p> <p>1 平成30年度入学者選抜要項の修正について</p>
2	9月28日	<p>議題</p> <p>1 入試問題の開示方法について</p> <p>2 本学の平成29年度（平成30年度入学者選抜）大学入試センター試験の実施について</p> <p>3 平成31年度（平成32年度入学者選抜）大学入試センター試験について</p> <p>4 平成32年度（平成33年度入学者選抜）からの入学者選抜方法について</p> <p>報告</p> <p>1 平成29年度（平成30年度入学者選抜）特別選抜・編入学試験の変更点について</p> <p>2 平成29年度（平成30年度入学者選抜）大学入試センター試験の変更点について</p> <p>3 平成32年度（平成33年度入学者選抜）からの大学入学者選抜改革について</p> <p>4 平成29年度入試委員会等開催予定について</p>
3	11月27日	<p>議題</p> <p>1 平成30年度特別選抜・3年次編入学試験の合否判定について</p> <p>2 平成30年度センター試験要配慮者及びセンター試験実施要領について</p> <p>3 平成31年度入学試験の日程、センター試験の指定科目及び配点について</p> <p>4 入学試験問題の開示方法について</p> <p>5 アドミッション・ポリシー（歯科衛生学科）の変更について</p> <p>6 推薦枠の定員増について</p> <p>7 平成32年度（平成33年度入学者選抜）からの選抜方法について</p> <p>報告</p> <p>1 平成32年度センター試験の指定科目について</p>
4	平成30年 2月5日	<p>議題</p> <p>1 平成29年度（平成30年度入学者選抜）一般選抜試験に係る第一段階選抜について</p> <p>2 平成29年度（平成30年度入学者選抜）の追加合格者の決定方針について</p> <p>3 平成30年度（平成31年度入学者選抜）入試スケジュールについて</p> <p>4 平成32年度（平成33年度入学者選抜）からの選抜方法について</p> <p>5 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）について</p>
5	平成30年 3月2日	<p>議題</p> <p>1 平成29年度（平成30年度入学者選抜）一般選抜試験合否判定について</p> <p>2 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）について</p> <p>3 平成32年度（平成33年度入学者選抜）からの選抜方法について</p>
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	11月18日	特別選抜（推薦・社会人）試験
2	11月19日	看護学科3年次編入学試験
3	平成30年 1月13日・14日	大学入試センター試験
4	平成30年 2月25日	一般選抜試験（前期日程）

H	評価（成果および改善事項）
	<p>1. 公正かつ適切な入試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試実施に大きな問題はなかったが、センター入試において教員のマニュアルの確認不足が原因と思われるトラブルがいくつか生じていた。 <p>2. AP にのっとった学生の獲得のための受験生確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学案内の充実（サークル紹介ページを増設）、オープンキャンパスの企画を見直した。全体説明会の内容も改善し、来場者の満足度は高かった（アンケート回収率もアップ）。 ・平成 29 年度実施の一般入試志願者数はすべての学科専攻において定員の 3 倍を超え（3.8 倍）、二段階選抜を実施した。また、推薦入試についても、志願者数が前年より 27.6% 増え、志願者数減の対策に一定の効果はあったといえる。 <p>3. 入試制度の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去 2 学年分の分析、各学科専攻の意向調査の結果を踏まえ、平成 32 年度以降の選抜方法として、推薦枠を 5 割まで拡大する方針を出した。 <p>4. 質の高い試験問題の作成と開示方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題作成ガイドを作成し、問題作成者への説明を徹底し、小論文として読解力、表現力や論理的思考力を測定できる問を重視した試験問題を作成することができた。 ・平成 30 年度入試問題は、3 月末に学内閲覧とHP上で公表を開始した。 <p>5. 入学予定者の入学前指導について何らかの方策が必要であるが、今のところ、受験生向けに呼びかけることが現実的かもしれない。なお、入学前指導を組織的に行っていない以上、引き続き入学者の学力把握を行う必要がある。</p>
I	次年度の方策
	<p>平成 29 年度の重点課題は次年度も継続する。平成 32 年度（平成 33 年度入学者）からの本学における入試選抜方法については、高大接続の観点から、平成 32 年度入学試験改革に向けて、千葉県内高等学校（主に推薦枠高校）との意見交換の機会も作りながら、情報収集に努め、できるだけ早い段階で公表できるように準備を進める。</p>

(5)入試実施部会

A	<p>部会長名 副部会長名</p>	<p>佐藤 紀子・教授（看護学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科）</p>
B	<p>部会員名</p>	<p>佐藤 紀子・教授、三枝 香代子・准教授（看護学科） 渡邊 智子・教授、山田 正子・准教授（栄養学科） 酒巻 裕之・教授、麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科） 高杉 潤・講師、太田 恵・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授、佐藤 大介・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 高橋 伸佳・教授、長谷川 卓志・教授（共通教育運営会議） 井上 裕光・教授（入試評価部会長） 鈴木 由紀子・学生支援課長（事務局）</p>
C	<p>所掌事務</p>	<p>1 学生募集に関する事項 (1) 学生募集要項の作成に関すること (2) オープンキャンパスの開催に関すること (3) 広報に関すること 2 入学者選抜試験の計画及び実施に関する事項 (1) 入学者選抜試験実施要領に関すること (2) 試験監督等役割分担に関すること (3) 入学者選抜試験問題の作成及び管理に関すること (4) 採点の立会い及び採点結果の集計に関すること (5) 合格者の発表に関すること 3 その他入学者選抜試験の実施に関すること</p>

D	年度当初の重点課題	
1	<p>公正かつ適切な入試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実施を踏まえ、改善すべき点を明確にし、実施マニュアル等に反映させる <p>2 AP にのっとった学生の獲得のための受験生確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学案内の充実⇒2019年版に向けて学生も含めたプロジェクトチームをつくり充実させる ・学校説明会の充実および高校訪問等の検討 ・オープンキャンパスの企画充実（各学科専攻）と全体説明会の見直し <p>3 入試制度の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編入制度の存続⇒引き続き医療整備課と調整 ・特別選抜制度の検討（AP にのっとった学生の確保かつ県内就職率を高めるための入試制度） <p>4 質の高い試験問題の作成と開示方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選抜方法ごとの出題内容の適正化 ・問題作成者への説明会の実施 ・平成 30 年度入試問題の開示に向けた準備 	
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4 月 10 日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成 29 年度の入試実施部会の目標 2 入試実施部会年間スケジュールについて 3 オープンキャンパスについて 4 大学案内について <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校説明会について 2 平成 30 年度入学者選抜要項について 3 平成 29 年度入試結果について 4 平成 29 年度入学選抜試験のアンケート結果について
2	5 月 8 日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オープンキャンパスについて 2 学生募集要項（推薦・社会人・編入学）について 3 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 4 大学案内について <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入試課題を考える WG について
3	6 月 12 日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オープンキャンパスについて 2 学生募集要項（推薦・社会人・編入学）について 3 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 4 平成 29 年度入学者選抜に関する研究会について 5 入試課題を考える WG の進捗状況
4	7 月 10 日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成 30 年度特別選抜試験実施要領について 2 平成 30 年度編入学試験実施要領について 3 平成 30 年度特別選抜・編入学スケジュールについて 4 平成 30 年度学生募集要項（一般選抜）について <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各会議について
5	9 月 11 日	<p>議題</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 1 オープンキャンパスの反省について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）及び任務分担について 3 各種監督マニュアルについて（特別選抜・編入学）について 報告 <ul style="list-style-type: none"> 1 第1回大学入試センター試験入試担当者連絡協議会について
6	10月16日	議題 <ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度オープンキャンパスの日程について 2 大学案内の作成について 3 平成30年度大学入試センター試験実施要領について 報告 <ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度大学入試センター試験の実施について
7	11月10日	議題 <ul style="list-style-type: none"> 1 大学案内について 2 平成31年度入試日程について 3 平成30, 31年度大学入試センター試験について 4 平成30年度大学入試センター試験実施要領について 5 平成30年度一般選抜実施要領について 6 平成30年度特別選抜・編入学試験（Jアラートによる情報伝達があった場合の対応）について 報告 <ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度一般選抜に係る人選の依頼について 2 特別選抜・編入学の面接方法に関する確認事項について 3 平成30年度特別選抜及び3年次編入学試験出願状況について
8	12月11日	議題 <ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度大学入試センター試験について 2 平成30年度一般選抜実施要領について 3 平成31年度入学者選抜要項について
9	平成30年 1月15日	議題 <ul style="list-style-type: none"> 1 オープンキャンパスについて 2 平成30年度一般選抜実施要領について
10	平成30年 2月13日	議題 <ul style="list-style-type: none"> 1 大学案内について 報告 <ul style="list-style-type: none"> 1 今後の入試日程について 2 オープンキャンパスについて 3 ホームページリニューアル（教員からのメッセージ）について
11	平成30年 3月12日	議題 <ul style="list-style-type: none"> 1 オープンキャンパスについて 2 大学案内について 3 ホームページ掲載案（教員からのメッセージ）について
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	7月8日・9日	オープンキャンパス
2	11月17日	特別選抜（推薦・社会人）試験
3	11月18日	看護学科3年次編入学試験
4	12月14日	センター試験全体説明会
5	平成30年	センター試験業務班別説明会

	1月5日	
6	平成30年 1月13日・ 14日	大学入試センター試験
7	平成30年 2月25日	一般選抜試験（前期日程）
8	4月14日～ 平成30年 3月24日	学校説明会・模擬授業の開催
G	評価（成果および改善事項）	
	<p>1 公正かつ適切な入試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のアンケート結果を踏まえ実施マニュアルに反映させ、入試実施に大きな問題はなかったが、センター入試において教員のマニュアルの確認不足が原因と思われるトラブルがいくつか生じていた。 <p>2 APにのっとった学生の獲得のための受験生確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試実施部会のなかに広報プロジェクトチームをつくり、大学案内の充実（サークル紹介ページを増設）、オープンキャンパスの企画を見直した。全体説明会の内容も改善し、来場者の満足度は高かった（アンケート回収率もアップ）。 ・平成29年度の大学説明会は、出席87件、資料提供35件、参加教員数：89名、参加者数（報告数）：1,762名、キャンパス見学実施数は14件で見学者数は、360名であった。結果的に、平成29年度実施の一般入試志願者数はすべての学科専攻において定員の3倍を超え（3.8倍）、二段階選抜を実施した。また、推薦入試についても、志願者数が前年より27.6%増え、志願者数減の対策に一定の効果はあったといえる。 <p>3 入試制度の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2学年分の分析、各学科専攻の意向調査の結果を踏まえ、入試委員会において平成32年度以降の選抜方法として、推薦枠を5割まで拡大する方針を出した。 <p>4 質の高い試験問題の作成と開示方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題作成ガイドを作成し、問題作成者への説明を徹底した。小論文として読解力、表現力や論理的思考力を測定できる問を重視した試験問題を作成することができた。能力の弁別性の評価は課題である。 ・平成30年度入試問題は、3月末に学内閲覧とHP上で公表を開始した。 	
H	次年度の方策	
	<p>平成29年度の重点課題は次年度も継続する。平成32年度（平成33年度入学者）からの本学における入試選抜方法については、高大接続の観点から、平成32年度入学試験改革に向けて、千葉県内高等学校（主に推薦枠高校）との意見交換の機会も作りながら、情報収集に努め、できるだけ早い段階で公表できるように、入試委員会と連動して準備を進める。</p>	

(6) 入試評価部会

A	部会長名 副部会長名	井上 裕光・教授（栄養学科） 神田 みなみ・教授（看護学科）
B	部会員名	佐藤 紀子・教授（看護学科）：職指定・入試実施部会長 東本 恭幸・教授（共通教育運営会議） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻） 鈴木 由紀子・学生支援課長（事務局）

C	所掌事務	1 入学者選抜試験問題及び入学者選抜試験結果の分析に関すること 2 入学者選抜試験実施の評価に関すること 3 入学者選抜試験に関する改善の検討に関すること 4 その他入学者選抜試験の調査及び評価に関すること
D	年度当初の重点課題	
	<p>1. 入学生の学力把握の方法を今後とも検討する。特に、新入生にとって、入学後の適切な授業選択へと活用できるための方策を考える必要がある。</p> <p>2. 平成 29 年度に実施する平成 30 年度入試について、入試が適切に実施されたかどうかについて評価分析する。なお、試験問題公開について入試実施部会で議論する。</p> <p>3. 入試実施後アンケートから、入試運営上の問題を検討する。</p> <p>4. 小論文出題内容について、引き続き学力の観点からの分析を行う。また、外注すべきかどうかについて、さらに、検討する。</p> <p>5. 認証評価のための自己点検・評価報告書で課題として挙げられた、「入学者選抜と入学後の修学状況等についての評価」について、さらに、英語についての入学直後の学力把握を検討する。また、公開した 3 つのポリシーとの関係の中で、入試をどのように位置づけていけばよいかについて検討を開始する。</p>	
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	(3-4 月)	<p>新 1 年生へ理科学力および理科数学高等学校履修状況調査を行うことに、新委員から大学としての取り組みとしては否定的な意見が出た（各授業担当者が把握すればよい旨）ため、本年は実施しない方向で決定。</p> <p>ただし、入試委員長から、組織的対応を行わないことは無責任との意見が付与されたため、入学後の調査について、急遽情報リテラシー I の枠組みで実施することになった（ただし、実施時期がずれるため、履修期間内で結果を 1 年生に返すことは困難）。</p> <p>なお、次年度以降、新課程への対応まで、どのように入学前履修状況を把握するか検討することになった。結果については入試委員会へ報告する。</p> <p>また、入試問題公開について、引き続き入試実施部会へ実施を進言する。</p>
2	6 月 26 日	<p>第 1 回 平成 29 年度の取り組みについて 議題は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入学生の学力把握について（新課程入試 3 年目の状況について） 2 今後の学力把握をどのように扱うか 3 今年度入試への提言 4 平成 29 年度重点施策への対応 <p>であり、昨年度・今年度の入学生の基礎学力および理科数学高等学校履修状況調査、および情報リテラシー I で行っている中学卒業程度の数学テストについて報告した。</p> <p>なお、重点施策では、●人材育成の中の「2. 入学試験の諸課題（推薦入学，社会人特別選抜，編入学，一般入試における志願者数減，後期入試導入等）の検証・見直し」について、(ア) 入学者の学力把握の継続的实施，および、(ウ) 偏差値，受験者数，倍率等のベンチマークを設定し，グラフ化して推移（対策の効果）をみる，が担当となっていることを報告した。この対応については，次回開催の部会で検討することとした。</p> <p>なお，新課程入試への対応が急務となっており，平成 30 年 6 月には受験生向けの告知を行う必要もあるため，入試実施部会と共同で，入試課題を考える WG を立ち上げ，高大連系の現状把握・情報の整理とともに，3 つの学力を本学 AP（アドミッション・ポリシー）へ整合させることに着手した。</p> <p>また，入学生の学力把握が入試評価部会の分掌かどうかについては，入試委員長からの指示があり，現状で担当部局がないために，引き続き入試評価部会で検討することになった。</p>
3	8 月 28 日	第 2 回入試評価部会開催

		<p>議題 平成 29 年度重点施策について</p> <p>重点施策『●人材育成 2 (ア) 入学者の学力把握の継続的实施』については、現在 4 期生と 5 期生について、入試区分ごとの GPA・退学・国家試験・就職の状況を取りまとめているので、今後も続けていく。その結果をもとに各学科・専攻にフィードバックできるとよい。『●人材育成 2 (ウ) 偏差値、受験者数、倍率等のベンチマークを設定し、グラフ化して推移をみる』については、各学科・専攻の行った対策等の効果を調べるため、アンケート調査をする予定である。また、理科履修状況調査・診断テストは学生に返却し、履修に役立ててもらっている。</p> <p>報告 入試改革について</p> <p>資料 (高大接続) に基づき、部会長から説明。高大接続改革の実施方針等について 7 月に発表があった。平成 26 年 9 月文部科学省高大接続特別部会 (第 19 回) 配布資料 1-1 のスライド 3 にあるように、において入学者に求める能力を明確化するとともに、それぞれについてどのような手段を用いて評価するのかを明らかにすることとなっている。評価方法についてはワーキンググループで原案を作成しているところである。今後、入試評価部会は、このアドミッション・ポリシーと評価方法の対応関係について評価をする役割になっていくだろう。平成 29 年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会の資料が学内フォルダ (入試実施部会) に入っているの、ぜひご参照いただきたい。</p>
4	12 月 25 日	<p>第 3 回入試評価部会開催</p> <p>議題 来年度入学者の学力把握について (平成 29 年度重点施策より)、学力把握のタイミング (新入生ガイダンス) について</p> <p>資料 (理科学習状況調査、履修状況調査、IR 部会資料) に基づき、井上部会長から説明。入学者の学力把握については、入試区分ごとに GPA・退学・国家試験・就職の状況の取りまとめを続けていく。理科学習状況調査については、全学的に実施するのではなく、必要な学科・専攻のガイダンス等において実施することとする。履修状況調査については、統計学の授業の関連で継続していく。IR 部会資料について、「5 年保管」という文言は削除したほうがよい。GPA については教務委員会の所掌と考える。等の意見があった。なお、入試委員長からの意見もあり、引き続き履修状況調査については実施していく方針。学科・専攻が何を調べればよいのか把握しているのかに問題があるため。</p> <p>今年度推薦入試について発生した問題 (今後の対応) についての検討: 回収資料 (小論文問題、採点基準、可否判定資料) に基づき、部会長から説明。入試委員会において、①小論文試験の難化により例年より平均点が低下した。入学後、小論文試験の高得点合格者と低得点合格者について、どのような差が出るのか。②小論文試験は低得点であるが面接得点が高得点であるため、合格している人がいる。科目別の最低点を設定する必要があるかどうか。栄養学科において、10 位前後の 4 名が 1 点差以内であった。採点集計方法の基準変更を検討する必要があるかもしれない。また、学科・専攻ごとの採点者の基準にずれがあった可能性も考えられる。標準偏差が 10 以上あることから、ある程度差別化できていると考える。試験問題の開示が始まるため、出題パターンが被らないよう検討していく必要がある。との意見も出た。</p> <p>なお、一般選抜のアンケート回収後に次回入試評価部会で検討する。</p>
5	平成 30 年 3 月 22 日	<p>第 4 回入試評価部会開催</p> <p>議題 一般選抜の実施状況の評価について 試験問題について、推薦入試と一般選抜では傾向がかなり異なるように感じられるが、方針はあるのか。過去問公開も始まるため、説明できるようにした方がよいという意見があった。また、入試評価部会で評価する項目は何か。ある程度分析したデータがないと評価するのが難しい、という指摘に対して、評価方法については他大学も模索している。現在の小論文や面接でアド</p>

		<p>ミッション・ポリシーに合った学生を取れているのかを評価していくことが必要だが、本学としての評価方法を検討していかななくてはならないとの議論があった。</p> <p>なお、入学後のデータ活用の承諾書について これまで入学後の同意書が整備されていなかった。4月ガイダンスには今年は間に合わないが、今後のためにも整備を行いたい。今年度は時間がないため、教授会で報告し次第、各学科・専攻の教員から説明し同意を得ていく。同意書の範囲としては、在学中の学習指導から就職まで一括して得る方向で検討していく。また、入試結果の学習指導への活用についても併せて検討する。</p>
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
G	評価（成果および改善事項）	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学者アンケートにより、今年度も特別選抜枠の入学生の多数がセンター試験を受けていることがはっきりしている。入学予定者の入学前指導について何らかの方策が必要であるが、今のところ、受験生向けに呼びかけることが現実的かもしれない。なお、入学前指導を組織的に行ってない以上、引き続き入学者の学力把握を行う必要がある（低学力者対策のためにも事前の把握が重要になる）。ただし、その担当する部署ははっきりと決まっていない。 2. 平成29年度に実施した平成30年度入試について、入試が適切に実施されたと思われる。ただし、今後のAPと3つの学力との関連について、入試問題公開を前提とした対応が必要である。 3. 入試実施後アンケートからは、入試運営上特段の問題はないと、入試委員会へ報告した。 4. 小論文出題内容については、過去の国語の説明文相当の試験になっているという指摘に対し、図表の読み取りを含めた問題が用意された。思考力の基礎となる、読み取りを重視したものであった。また、思考力を問うための要約課題導入なども行われた。 5. 「合格者の入学後の成績のフォロー」「入学生の学力把握と学年進行での成績追跡」が重要であるとの議論があった。今後の高大接続改革の動きの中で対応すべき課題となっている。 ただし、入試評価部会の分掌としては、（制度として実施した）入試を評価することであり、学力把握や入学後の成績追跡を担当可能か、マンパワーとしてもかなり難しい面がある。 6. 懸案であった、入学試験問題の公開については、検討の結果平成30年度入試より導入することになった。なお、印刷の予備を利用した、事務局前での閲覧、県立高校への配布等も検討することになった。 	
H	次年度の方策	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学生の学力把握の方法を今後とも検討する。特に、新入生にとって、入学後の適切な授業選択へと活用できるための方策を考える必要がある。 2. 平成30年度に実施する平成31年度入試について、入試が適切に実施されたかどうかについて評価分析する。 3. 入試実施後アンケートから、入試運営上の問題を検討する。 4. 小論文出題内容について、引き続き学力の観点からの分析を行う。また、外注すべきかどうかについて、さらに検討する。 5. 認証評価のための自己点検・評価報告書で課題として挙げられた、「入学者選抜と入学後の修学状況等についての評価」について、さらに、英語についての入学直後の学力把握を検討する。また、公開した3つのポリシーとの関係の中で、入試をどのように位置づけていけばよいかについてさらに検討する。 	

(7) 教員再任審査委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 雄賀多 聡・学部長
B	委員名	渡邊 尚子・教授（看護学科） 白澤 浩・千葉大学大学院医学研究院教授 千葉 総一郎・事務局長

C	部会名と 部会員名	【専門部会】 委員長の指名による
D	所掌事務	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における延長する任期に関する事項 4 その他教員の任期制に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月25日	1 審査対象者の確認について 2 審査の手順・様式について
2	5月17日	（専門部会）再任審査申請者の審査
3	5月25日	1 専門部会による業績審査の検討及び再任審査結果の決定
4	11月7日	1 再任審査に係る今後の審査方法について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> ・11名の教員（看護4名，栄養1名，歯科衛生4名，理学療法1名，作業療法1名）再任審査を行い，全員再任可と判定された。 ・来年度以降は再任審査を年2回行うこととした。 		
I	次年度の方策	
・適切な再任審査の実施		

(8) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者：田邊 政裕・学長 衛生管理者：荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 産業医：豊島 裕子・教授（栄養学科）
B	委員名	岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 山口 妙美・企画運営課長（事務局）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること 2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること 3 労働災害の原因及び再発防止対策で，衛生に係るものに関すること 4 上記に掲げるもののほか，労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	12月18日	1 巡視結果について 2 今後の予定について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし

H	評価（成果および改善事項）
	・所掌事項は概ね達成された
I	次年度の方策
	・教職員の健康実態の把握 ・ワークライフバランスにも配慮した衛生環境・管理運営体制の構築

(9) 防災対策委員会

A	委員長名	田邊 政裕・学長
B	委員名	雄賀多 聡・学部長 西野 郁子・学生部長（看護学科） 豊島 裕子・図書館長（栄養学科） 石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻 荒井 裕介・栄養学科(学長指名) 千葉 総一郎・事務局長 山口 妙美・企画運営課長(防火管理者) 鈴木 由紀子・学生支援課長
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事務	1 防災計画の作成に関する事項 2 防災設備の設置及び充実にに関する事項 3 防災教育及び防災訓練に関する事項 4 その他防災に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	・所掌事項の達成	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	6月5日	1 災害時における保健医療大学の対応等について 2 平成29年度消防関係の編成について 3 防災訓練について
2	11月2日	1 仁戸名キャンパスにおける防災訓練について 2 幕張キャンパスにおける防災訓練の結果について 3 平成30年度防災訓練について 4 全国瞬時情報システム(Jアラート)の情報受信したときの対応マニュアルについて
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	6月22日	1 防災訓練の実施（幕張キャンパス）
2	11月15日	2 防災訓練の実施（仁戸名キャンパス）
H	評価（成果および改善事項）	
	・災害時の対応周知や防災訓練の実施などにより目標は概ね達成された	
I	次年度の方策	
	・防災対策などを含む総合的なリスクマネジメントの策定	

2) 学内委員会

(1) 総務・企画委員会

A	委員長名	佐藤 まゆみ・教授(看護学科)
---	------	-----------------

B	委員名	東本 恭幸・教授(栄養学科) 大川 由一・教授(歯科衛生学科) 竹内 弥彦・准教授(リハビリテーション学科理学療法専攻) 岡村 太郎・教授(リハビリテーション学科作業療法専攻) 島田 美恵子・教授(共通教育運営会議)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学内規程に関すること 2 予算に関すること 3 教育及び研究施設の整備及び管理に関すること 4 広報に関すること 5 国際交流に関すること 6 ファカルティ・ディベロップメントに関すること 7 勤務評定(教育公務員特例法第20条)に関すること 8 教授会が付託した事項に関すること 9 他の委員会の所掌に属しないこと
E	年度当初の重点課題	
	<p>所掌事務に関する活動を行う。特に、平成28年度に策定した「当初予算要求に係るスケジュール(教育用備品、全学整備にあたる備品、修繕費)」を実際に運用し、運用結果から予算要求のプロセスをさらに整備して必要がある。一方、所掌事務6の一環として行っている授業評価アンケートについては、総務・企画委員会が所掌することが適切かどうか検討を行う。</p> <p>【平成29年度重点施策】</p> <p>①施設整備計画の実施状況の検証と修正・更新、②予算請求及び予算編成後の配分に関する大学全体としての組織的な審議・決定プロセスの構築、③事務職員の業務に見合った組織改編・能力向上(SD研修)と増員要求、④教職員の能力業績評価の導入。</p>	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	メール会議	1 委員長の互選について
2	4月25日	1 委員会スケジュールについて 2 平成29年度備品費(教育用・全学整備用)について 3 平成29年度講義室整備について 4 平成29年度研究費予備費について 5 平成30年度備品費(教育用・全学整備用)及び修繕費のとりまとめについて 6 平成28年度授業評価アンケートの公開について 7 平成29年度授業評価アンケートの実施について 8 平成29年度総務・企画委員会の活動費希望について 9 IR部会員の選出について
3	5月8日	1 年間活動計画について 2 平成29年度備品費(全学整備用)について 3 平成29年度講義室整備について 4 平成29年度研究費予備費について 5 名誉教授称号授与規定の内規について 6 平成29年度授業評価アンケートの実施について
4	6月19日	1 平成30年度備品費(教育用・全学整備用)及び修繕費について 2 名誉教授称号授与規定の内規について 3 年間活動計画の進捗状況について 4 平成29年度重点政策について

5	7月10日	1 平成29年度被服貸与について 2 平成29年度重点政策「事務職員の業務に見合った組織改編・能力向上（SD研修）と増員要求」について 3 緊急放送設備について 4 学生ホール棟第2講義室の遮光の進捗状況について
6	11月13日	1 組織再編後の各委員会の職務分掌について
7	12月11日	1 組織再編後の各委員会の職務分掌について
8	平成30年 2月19日	1 平成30年度需要費（教育用）・備品費（教育用・全学整備用）及び研究費の配分について
9	平成30年 3月22日	1 平成30年度研究費予備費について 2 平成30年度備品費（全学整備用）について 3 平成29年度授業評価アンケートの公開について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>【所掌事務1】①名誉教授称号授与規定の内規案を検討し大学運営会議に提案した。②組織編成後の委員会構成および各委員会の職務分掌内容と構成員を検討し将来構想委員会管理運営WGに提案した。</p> <p>【所掌事務2】①平成28年度に策定した「当初予算要求に係るスケジュール」に則り、平成30年度予算要求案（教育用備品費・全学整備用備品費・修繕費）をとりまとめた。また、7月に学長、学部長、総務・企画委員長、企画運営課で前述の予算要求案について検討会議を開催し決定した。10月の教授会では医療整備課に提出した予算要求を報告した（ただし教育用備品費についてのみ）。さらに2月の教授会では予算編成後の配分を教授会に提案し、承認を得た。②平成29年度研究費予備費の活用計画を立案し、教授会の承認を得た。また、平成30年度以降、引き続き研究費予備費を確保するかどうか検討し、当面の間確保することとした。</p> <p>【所掌事務3】全学整備のための備品購入計画を立案し実施した。特に、平成29年度は講義室の机と椅子を整備するための予算がついたため、まず大学全体で統一感をもって整備できるよう大学全体の講義室整備計画を立案し、そして平成29年度予算を使って教育棟Bの108教室の机と椅子を刷新した。また、3月には平成30年度全学整備のための備品購入計画を立案した。</p> <p>【所掌事務6】平成28年度授業評価アンケートの結果を公開した。また、平成29年度授業評価アンケートの実施計画を立案し実施した。授業評価アンケートの実施主体について検討した結果、授業評価アンケートは授業の改善を主目的としているため、平成30年度からは教務委員会が主体となって行うこととなった。</p> <p>【所掌事務9】被服貸与についてはこれまで当委員会のなかで検討がされてきたが、その妥当性について検討した結果、千葉県職員被服等貸与規程に則り事務局が行うこととなった。</p> <p>【平成29年度重点政策】検討の結果、「事務職員の業務に見合った組織改編・能力向上及び増員要求」については事務局が主体となり検討することとなった。また、「教職員の能力業績評価の導入」についても、標準職務遂行能力を定める要綱や千葉県立保健医療大学人事評価規程に則り事務局が行うこととなった。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>所掌事務および重点政策2項目に関する活動を行う。特に以下の2点について積極的に活動していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「当初予算要求に係るスケジュール（教育用備品、全学整備にあたる備品、修繕費）」を運用した結果、①大学から医療整備課に提出される予算要求のうち、備品費（教育用・全学整備用）と修繕費については組織的な審議・決定の機会があるが、他の費目に関しては機会がない、②医療整備課に提出した予算要求のうち、平成29年度は教育用備品費についてのみしか金額を明らかにしてもらえなかった、③県の予算編成後、大学全体の予算を経理担当者が配分しているが、配分方針が不明確であるうえ、それを組織的に審議・決定する機会がない、といった問題点が明らかになった。次年度はこれらを改善し、予算要求及び予算編成後の配分に関する大学全体としての組織的な審議・決定プロセスを構築する必要がある。 ・「千葉県立保健医療大学整備計画」の内容を医療整備課と共有するとともに、計画に沿って施設整備を行う。 	

(2) 教務委員会

A	委員長名 副委員長名	河部 房子・教授（看護学科） 神田 みなみ・教授（共通教育運営会議）
B	委員名	平尾 由美子・准教授（看護学科） 今井 宏美・講師（看護学科） 田口 智恵美・講師（看護学科） 豊島 裕子・教授（栄養学科） 金澤 匠・講師（栄養学科） 酒卷 裕之・教授（歯科衛生学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 竹内 弥彦・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 高橋 伸佳・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 越川 求・准教授（共通教育運営会議） 鈴木 由紀子・学生支援課長（事務局）
C	部会名と 部会員名	<p>【新々カリキュラム作成作業部会】</p> <p>部会長：河部 房子・教授（看護学科） 部会員：金澤 匠・講師（栄養学科） 酒卷 裕之・教授（歯科衛生学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 神田 みなみ・教授（共通教育運営会議）</p> <p>【GPA 検討部会】</p> <p>部会長：竹内 弥彦・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員：今井 宏美・講師（看護学科） 豊島 裕子・教授（栄養学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 高橋 伸佳・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 越川 求・准教授（共通教育運営会議）</p>
D	所掌事務	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程及び授業日程に関する事 2 学生の入学, 再入学, 休学, 復学, 転学, 留学, 退学及び除籍並びに卒業等に関する事 3 試験及び単位の認定に関する事 4 学生の実習に関する事 5 科目等履修生, 特別聴講学生, 聴講生, 研修生, 研究生及び外国人留学生に関する事 6 教授会が付託した事項に関する事 7 その他教務に関する事
E	年度当初の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・本学の使命を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを検証、見直す。 ・ディプロマ・ポリシーに到達するコンピテンス、コンピテンシーを作成し、それを達成する4年間一貫教育カリキュラムを構築する。4年間一貫教育カリキュラムの観点からカリキュラム・ポリシーを検証し、見直す。特に栄養学科、歯科衛生学科、リハビリテーション学科作業療法学専攻では、教育課程の編成・実施、教育内容・方法に関する基本的な考え方を提示する。 ・国家試験の高い合格率（100%）を維持すべく教育の充実と成績評価の厳格化。 ・ Semester制の弾力化についての検討。 		

・GPA の成績評価を確立し、各学科、専攻における学生評価に利用.		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
臨 1	4月7日	1 既修得単位の認定について 2 29年度前期 一般教養科目「歴史と文化」を不開講とすることについて
1	4月17日	1 学生の休学について 2 学生の公欠について 3 非常勤講師の新規任用について 4 実習施設の新規追加について 5 授業評価アンケートについて
2	5月15日	1 学生の公欠について 2 学生の休学・復学・退学・除籍について 3 非常勤講師の新規任用について
3	6月19日	1 平成29年度 後期入学科目等履修生等の募集について 2 平成29年度 前期末試験日程について 3 学生の退学について 4 特別講義について 5 次年度以降の授業評価アンケートについて
4	7月24日	1 コンピテンシー, 3つのポリシーに係る学長の説明 2 平成29年度 後期履修登録について 3 学生の復学について 4 非常勤講師の任用について 5 実習施設の新規追加について
臨 2	8月21日	1 追再試験日程について 2 学生の休学・復学・退学について 3 平成30年度学年暦について 4 非常勤講師の任用について 5 特別講義について
5	9月25日	1 平成30年度時間割について 2 学生の復学・休学について 3 非常勤講師の新規任用について 4 実習施設の新規追加について 5 特別講義について
6	10月16日	1 平成30年度時間割(案)について 2 非常勤講師の任用について 3 特別講義について
7	11月20日	1 平成30年度前期科目等履修生等の募集について 2 平成30年度学年暦(案)について 3 平成30年度時間割(案)について 4 平成30年度シラバスの作成について 5 実習施設の新規追加について 6 非常勤講師の任用について 7 学生の休学について 8 カリキュラム・ポリシー変更(案)について 9 ディプロマ・ポリシーの修正およびハンドブックへの掲載について 10 授業評価アンケートについて 11 平成30年度学生ハンドブックの確認について

8	12月18日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成29年度後期末試験日程(案)について 2 平成30年度時間割について 3 非常勤講師の新規任用について 4 実習施設の新規追加について 5 履修登録結果の修正について 6 休学学生の履修登録について 7 教育ワークショップの企画について
9	平成30年 1月15日	<ul style="list-style-type: none"> 1 IR部会についての報告と審議事項について 2 平成30年度新入生・在学生ガイダンスのスケジュールについて 3 平成30年度看護学科選択科目を一部不開講とすることについて 4 非常勤講師の新規任用について 5 学科・専攻のコンピテンシーについて
10	平成30年 2月26日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成29年度卒業判定について 2 平成29年度後期追再試験・補講の日程について 3 平成30年度 時間割変更要望について 4 非常勤講師の新規任用について 5 学生の休学・復学について 6 実習施設の新規追加について 7 GPA制度に関する規程(案)について 8 教育ワークショップの企画(案)について
11	平成30年 3月19日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度教務委員会の年間スケジュールについて 2 平成30年度前期履修登録について 3 学生の休学・退学について 4 非常勤講師の任用について 5 実習施設の新規追加について 6 成績入力の修正について 7 公欠に関する取り扱いについて 8 カリキュラム・ポリシーについて
開催日		新々カリキュラム作成作業部会の主な議題
1	8月21日	<ul style="list-style-type: none"> 1 新々カリキュラム作成のスケジュールについて 2 新カリキュラム評価結果のまとめについて
2	9月25日	<ul style="list-style-type: none"> 1 新カリキュラム評価アンケート結果の分析について 2 カリキュラム・ポリシーの検討について
3	10月16日	<ul style="list-style-type: none"> 1 カリキュラム・ポリシーの検討について 2 コースツリーおよびナンバリングについて
4	11月2日	<ul style="list-style-type: none"> 1 カリキュラム・ポリシーの検討について 2 今後の作業工程について 3 新カリキュラム評価について
5	12月5日	<ul style="list-style-type: none"> 1 今後の作業工程について 2 進級要件について
6	平成30年 1月11日	<ul style="list-style-type: none"> 1 進級要件について 2 一般教養科目の追加について 3 カリキュラム表の検討について
7	平成30年 2月19日	<ul style="list-style-type: none"> 1 進級要件について 2 カリキュラム・ポリシーの検討について 3 カリキュラム表について 4 今後の作業予定について

8	平成30年 3月29日	1 新々カリ改正の方針およびカリキュラム・マップ作成の方向性について
9	平成30年 3月29日	1 新々カリキュラム編成の方針について 2 各学科・専攻の検討状況について
開催日		GPA 検討部会の主な議題
1	10月16日	1 GPA 導入へのスケジュール 2 GPA 導入の目的と活用方法について 3 対象科目（除外科目）の選定について 他
2	11月20日	1 目的・活用方法について 2 f-GPA 導入について 3 履修取り消し制度について
3	12月18日	1 履修取り消し制度（案）について 2 特色科目における評価分布について 3 管理方法について 4 今後の作業内容、スケジュールについて
4	平成30年 1月15日	1 GPA 制度に関する規程（案）について
5	平成30年 2月26日	1 GPA 制度に関する規程（案）について 2 GPA のシミュレーション結果について
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	平成30年 3月20日	保医大教育ワークショップ（テーマ：学生による授業評価アンケート結果を活用した授業改善 対象：全教員）
H	評価（成果および改善事項）	
<p>1. 4年間一貫教育カリキュラム（新々カリキュラム）の構築に向け以下を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな学部ディプロマ・ポリシー、学科・専攻のディプロマ・ポリシーが完成し、平成30年度シラバス、学生ハンドブックに掲載した。ディプロマ・ポリシーをふまえ、学科・専攻のコンピテンス・コンピテンシーを検討し、完成させた。 ・パフォーマンスレベルとカリキュラム表を検討し、完成した。 ・新々カリキュラム検討作業部会を発足させ、現行カリキュラムの評価のまとめを行った。また、現行カリキュラムの評価結果をふまえた新々カリキュラムの修正案について、検討を進めた。 <p>2. 国家試験対策は、各学科の進路支援委員会が中心となって、模擬試験、対策講座などを実施しているが、現段階で進路支援委員会との連携は実施していない。</p> <p>3. GPA 検討作業部会を発足させ、GPA の目的や算出式、対象科目等について検討を進め、各学科・専攻にて複数の在学生についてGPA の試算を行った。これらの検討をふまえ、GPA 制度に関する規程案を作成した。</p> <p>4. 教員の教育力向上に向けた教育ワークショップを企画・実施した。</p>		
I	次年度の方策	
<p>1 4年間一貫カリキュラム（新々カリ）を完成させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学部カリキュラム・ポリシーの完成 ② 作成したディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程の編成、整備 ③ 作成したカリキュラム表に基づいた各学科・専攻のカリキュラム・マップの完成 ④ カリキュラム・マップに基づいた科目ナンバリングの検討 ⑤ カリキュラム改正の変更申請 ⑥ 短期集中授業の導入の可能性について検討 <p>2 教育ワークショップを企画し、教員の教育力の向上、教育内容の充実につなげる。</p> <p>3 進路支援委員会と連携し、国家試験の合格率を向上させる。</p> <p>4 GPA 制度導入に関して、学生・教職員へ周知し、教員対象のFDを実施する。</p>		

(3) 学生委員会

A	委員長名	西野 郁子・教授(看護学科)学生部長
B	委員名	細谷 紀子・准教授(看護学科) 高山 京子・講師(看護学科) 井上 裕光・教授(栄養学科) 阿曾 菜美・助教(栄養学科) 麻賀 多美代・教授(歯科衛生学科) 吉田 直美・教授(歯科衛生学科)(8月まで) 河野 舞・准教授(歯科衛生学科)(9月から) 大谷 拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻) 安部 能成・准教授(リハビリテーション学科作業療法専攻) 小川 真・教授(共通教育運営会議)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること 5 教授会が付託した事項に関すること 6 後援会, 同窓会に関すること 7 その他学生に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<p>所掌事務に関する活動を計画的に行う。「学生支援に関する方針」に基づき、学生支援のあり方を検討し充実を図っていく。特に、障害を有する学生への支援のあり方を早急に検討し学生・入学志願者に周知する。</p> <p>【平成29年度重点施策】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 同窓会・校友会設立へ向けての前身校OB・OG、本校卒業生との意見交換 2. 学生と学長、学部長、学生部長との懇談会を定期的に開催 3. 学生支援の方針に照らした学生支援の検証と改善 	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月24日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度委員会スケジュールについて 2 日本学生支援機構奨学生選考事務について 3 学生との懇談会について 4 学生団体の活動報告・設立について 5 学生相談件数の実態調査について 6 学生の飲酒について 7 その他 <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度健康診断等実施項目年間計画について 2 平成29年度健康診断受診状況・ワクチン接種状況について 3 平成29年度学生保険の加入状況について 4 平成28年度FDアンケート結果について 5 障害学生支援室の状況について 6 その他
2	5月15日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期授業料減免審査について 2 「学生団体と学外団体(企業等)の共同活動についての申し合わせ」について 3 平成29年度学生支援計画について 4 次年度予算の策定について

		<ul style="list-style-type: none"> 5 委員会予算について 6 生協との協力について 7 DV 予防セミナーの依頼について 8 いずみ祭における模擬店の衛生面と施設利用について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 日本学生支援機構奨学生の推薦について 2 学長・学部長と学生との懇談会日程と学生への依頼について 3 健康診断結果の集団指導計画について 4 海外留学に関する危機管理ガイドラインについて 5 学生相談件数の実態調査について 6 その他
3	6月12日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 平成29年度学生支援計画・委員会活動計画について 2 次年度予算の策定について 3 「学生団体と学外団体（企業等）の共同活動についての申し合わせ」について 4 生協との協力について 5 DV 予防セミナーについて 6 いずみ祭の企画の進行状況について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 日本学生支援機構奨学生の推薦について 2 後援会総会報告 3 健康診断結果について 4 委員会予算について 5 学長・学部長と学生（リハビリテーション学科3年生）との懇談会日程
4	7月10日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 平成29年度学園祭について 2 生協との協力について 3 DV 予防セミナーについて 4 学生団体の設立について 5 その他 <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 平成29年度学生支援計画について 2 ワクチン接種状況について 3 保証人（保護者等）への学業成績送付について
5	9月11日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度健康診断及び大学祭の日程について 2 救急対応マニュアルについて 3 障害学生支援について 4 学生登録票の変更について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 年金セミナーについて 2 DV 予防セミナーについて 3 学生サークルと学外団体の共同活動願について 4 大学祭の準備状況について 5 ワクチン接種について 6 生協について 7 IR 部会より 8 その他
6	10月10日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 後期授業料減免審査について
7	10月16日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 後期授業料減免審査について 2 平成30年度新入生・在学生ガイダンスにおける説明内容 3 学生ハンドブックの修正について 4 自己健康管理ファイルの修正について

		5 障害学生支援について 6 生協について 7 その他 報告 1 予防接種指導状況について 2 定期健康診断前に健康診断を受診する学生について 3 その他（11月の学生委員会日程調整について）
8	11月13日	議題 1 平成30年度健康診断・ワクチン接種計画について 2 自己健康管理ファイルの修正について 3 学生ハンドブックの修正について 4 平成30年度学生保険について 5 その他 報告 1 生協について 2 いずみ祭の反省について 3 その他
9	12月11日	議題 1 平成30年度健康診断等の年間計画及び実施方法について 2 学生ハンドブックの修正について 3 自己健康管理ファイルの修正について 4 卒業式について 5 生協について 6 その他 報告 1 生協アンケートについて 2 その他
10	平成30年 2月26日	議題 1 卒業式について 2 平成30年度健康診断について 3 IR部会について 4 DV予防セミナーについて 報告 1 学生保険料（Will）の払込等について 2 学長・学部長と学生との懇談会について 3 同窓会への入会に関する協力依頼
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月7日	健康診断
2	6月6日	学長等との懇談会（看護学科・栄養学科・歯科衛生学科・看護学科編入3年生）
3	6月13日	学長等との懇談会（リハビリテーション学科3年生）
4	7月18日	学長等との懇談会（1年生）
5	8月24日	若者のためのDV予防セミナー
6	10月27日	学長等との懇談会（2年生）
7	12月5日	FD & SD 障害者差別解消法について（FD委員会と合同企画）
8	12月14日	学長等との懇談会（4年生）
H	評価（成果および改善事項）	
【所掌事務1：学生の福利厚生】 ①千葉県が定めた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する千葉県職員対応要領」に基づき、「千葉県立保健医療大学における障害学生への修学支援に関する指針」を検討・作成し、大学HPで公開するとともに、H30年度学生ハンドブックへ記載した。また、FD & SD「障害者差別解消法について」（FD委員会と合同企画）を開催した。②学生から教員への相談について実態調査を行った。③「学生団体と学外団体（企業等）の共同活動についての申し合わせ」について検討した。④学生に対しDV予防セミナーを開催した。⑤平成29年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。トイレ内の荷物掛けフックを整備した。後援会から学生会に寄贈され		

た物品（自転車、湯沸しポットなど）を学生がうまく管理できるよう支援した。県庁生協幕張売店の販売品に関して学生にアンケート調査を行い、幕張売店へ結果を渡した。県庁生協による仁戸名キャンパスの無人販売の導入を検討した。⑥学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。平成30年度学生保険について検討した。⑦「平成30年度学生ハンドブック」の内容を検討した。

【所掌事務1：学生の保健衛生】①平成29年度健康診断を実施した。健康診断結果を4月中に実習施設に提出する必要のあるリハビリテーション学科4年生数名については、昨年度整備した方法により学校医のクリニックで健康診断を実施できるようにした。診断結果に基づき学生指導を行った。②平成29年度ワクチン接種計画（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。③平成30年度健康診断の実施計画について検討した。④「平成30年度自己健康管理ファイル」の内容を検討した。

【所掌事務2：学生の課外活動】①学生団体（学生サークル）設立申請を審議した。②グラウンド整備物品（草取りの道具）を整備した。③大学祭の実施を支援した。④新入生歓迎会・スポーツ大会等の学生会の活動を支援した。⑤学生会の運営について助言・支援した。

【所掌事務3：奨学金等貸与】日本学生支援機構奨学生を選考し推薦を行った。

【所掌事務4：授業料等の減免】授業料減免（前期・後期）について審議した。

【所掌事務5：教授会が付託した事項】千葉県立保健医療大学学生表彰について検討した。

【所掌事務6：後援会、同窓会】①学生支援のために後援会理事会と連携した。②後援会からの要望をうけて県庁生協幕張売店および仁戸名キャンパスでの販売において学生応援フェアの開催を支援した。③同窓会へ大学祭への支援を依頼した。④卒業生への同窓会入会に関して支援を行った。

【所掌事務7：その他】①平成29年度卒業式の運営について検討した。②自己点検・評価委員会のIR部会の検討に関して委員を選出し学生委員会としての意見を提出した。

【平成29年度重点施策】①同窓会・校友会設立へ向けての検討を行うワーキンググループの会議を行った。②学生と学長、学部長、学生部長との懇談会を年5回開催した。

I	次年度の方策
<p>所掌事務及び重点政策に関する活動、および学生支援計画に沿った活動を行う。特に、「卒業時調査」などで評価が低い項目を中心に、支援の充実をはかる必要がある。また、平成30年度も新たに整備する規定などがあれば速やかに検討し整備していく。</p>	

(4) 進路支援委員会

A	委員長名	西野 郁子・教授(看護学科)学生部長
B	委員名	杉本 知子・教授(看護学科) 山田 正子・准教授(栄養学科) 麻賀 多美代・講師(歯科衛生学科) 高杉 潤・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻) 藤田 佳男・准教授(リハビリテーション学科作業療法専攻)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 就職及び進学に関すること 2 県内就職の推進に関すること 3 教授会が付託した事項に関すること 4 その他学生の就職及び進学に関すること
E	年度当初の重点課題	
<p>学生が希望する進路に進むことができるよう、また、県内就職の推進に向けて、所掌事務に関する活動を計画的に行う。</p>		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	4月24日	議題 1 平成29年度委員会スケジュールについて

		2 平成 29 年度進路支援計画について 3 平成 29 年度委員会活動費について (研究費予備費分) 4 平成 29 年度キャリアセミナー年間計画及び第 1 回キャリアセミナーについて 報告 1 平成 28 年度就職進学状況について 2 平成 28 年度国家試験の結果について 3 平成 28 年度キャリアセミナーの結果について
2	5 月 22 日	議題 1 平成 29 年度進路支援計画について 2 平成 29 年度後援会への助成依頼について 3 平成 29 年度キャリアセミナー年間計画および第 1 回キャリアセミナーについて 4 国家試験不合格者のフォローアップについて 報告 1 平成 28 年度国家試験の結果について 2 平成 28 年度卒業時調査の結果について 3 平成 28 年度進路情報室の利用人数について (平成 28 年 10 月～29 年 3 月) 4 平成 29 年度進路支援事業予算及び平成 30 年度予算要求について 5 平成 29 年度委員会活動費 (研究費予備費分) について 6 IR 部会員について
3	6 月 26 日	議題 1 平成 29 年度第 1 回, 第 2 回キャリアセミナーについて 報告 1 平成 28 年度卒業時調査の結果について 2 平成 29 年度委員会経費について 3 平成 29 年度後援会からの助成について 4 IR 部会からの報告
4	9 月 21 日	議題 1 第 3 回キャリアセミナーについて 2 進路ガイドブックの修正について 3 平成 29 年度卒業時調査について 4 平成 29 年度進路希望調査について 報告 1 第 1 回, 第 2 回キャリアセミナーの結果について 2 進路内定状況について 3 国家試験受験手続について 4 IR 部会からの報告
5	11 月 27 日	議題 1 第 3 回キャリアセミナーについて 2 進路ガイドブックの修正について 3 学生ハンドブックの修正について 4 平成 29 年度卒業時調査について 5 平成 29 年度進路希望調査について 報告 1 第 3 回キャリアセミナーについて 2 進路内定状況について 3 国家試験受験手続の進捗状況について 4 平成 29 年度進路情報室の前期利用状況について
6	平成 30 年 1 月 22 日	議題 1 第 3 回キャリアセミナー (役割分担) 2 IR 部会におけるデータの取り扱いについて 報告 1 進路内定状況 (12 月末現在) 2 国家試験受験の手続の進捗状況
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	8 月 9 日	第 1 回キャリアセミナー 1 部 : 就活の極意! - 履歴書・エントリーシートの書き方と面接試験のポイント-

		2部：採用者はここを見る！現場の求める人材とは（学科別分科会）
2	8月25日	第2回キャリアセミナー 公務員試験の内容と対策について
3	平成30年 2月21日	第3回キャリアセミナー 私もOK! あなたもOK!の人間関係術 1部：社会人として必要なマナー 2部：就活で好感度を上げるためのマナーー電話の掛け方と面接でのマナーー
H	評価（成果および改善事項）	
<p>【所掌事務1：就職・進学支援】①学科専攻と連携を図り、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。②平成28年度キャリアセミナーの評価をふまえ、平成29年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。③進路情報室の運営を行い、利用状況の把握を行った。幕張キャンパスの進路情報室にハローワーク・ジョブサポーターの派遣（週1～2回）を依頼した。また、仁戸名キャンパスの学生が、就職相談ができるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月～11月の毎週火曜日）が実施された。学生には好評であった。④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（情報提供）もいただいた。⑤平成29年度就職進学状況についてとりまとめを行った。⑥平成30年度の「進路ガイドブック」等の内容を検討した。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。⑧平成29年度就職率は98.9%であった。</p> <p>【所掌事務1：国家試験対策】①平成28年度国家試験結果をとりまとめた。②学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が学生と連携し、助成を受けられた。④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。⑤平成29年度国家試験合格率は、保健師85.2%、助産師100%、看護師100%、管理栄養士92%、歯科衛生士100%、理学療法士100%、作業療法士90.9%であった。</p> <p>【所掌事務2：県内就職の推進】①平成29年度県内就職率は62%（前年度63.5%）であった。②進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。</p> <p>【所掌事務4：その他】平成29年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）を行い、調査を計画・実施した。</p>		
I	次年度の方策	
<p>所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいきたい。</p>		

(5) 図書・情報委員会

A	委員長名	豊島 裕子・教授（栄養学科）図書館長
B	委員名	小川 真・教授（看護学科） 石川 紀子・講師（看護学科） 長谷川 卓志・教授（栄養学科） 谷内 洋子・准教授（栄養学科） 大川 由一・教授（歯科衛生学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 植田 麻実・講師（共通教育運営会議） 榎本 輝樹・講師（共通教育運営会議） 井上 裕光・教授（学長指名）
C	部会名と 部会員名	なし

D	所掌事務	<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館の整備運営及び図書館教育に関すること 2 図書資料等の収集、購入計画及び管理に関すること 3 情報システムの整備運営に関すること 4 ホームページの管理運営に関すること 5 情報処理教育及び情報研究に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他図書館及び情報システムに関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生向け文献検索セミナーへの外部講師の招聘 ・利用促進のためのリーフレットの作成 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	6月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度図書・情報委員会議題一覧 2 平成28年度図書館利用統計について 3 平成29年度図書館関係予算について 4 平成29年度資料費予算執行について 5 平成29年度定期購入図書について 6 平成29年度定期購読雑誌の購入計画について 7 電子ジャーナル・データベースについて 8 平成29年度購入図書の推薦について 9 「文献検索セミナー」の開催について 10 平成29年度図書館だより「ぼーれぼーれ」の発行計画について 11 幕張キャンパス図書館除籍資料の選定について
2	10月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度4～9月図書館利用統計について 2 平成29年度仁戸名図書館蔵書点検結果報告 3 定期購読雑誌の購入について 4 電子ジャーナル・オンラインデータベースの更新について 5 第2回推薦図書について 6 平成29年度および次年度文献検索セミナーについて 7 幕張キャンパス図書館除籍資料の選定について
3	平成30年 3月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1 資料購入関係予算の執行状況について 2 平成30年度図書館の開館スケジュールについて 3 幕張キャンパス図書館蔵書点検結果報告 4 平成29年度文献検索セミナー実施報告 5 幕張キャンパス図書館除籍資料について 6 仁戸名キャンパス図書館除籍資料について 7 図書館利用統計について 8 電子ジャーナル・データベース及び電子書籍について 9 次年度の文献検索セミナーについて 10 幕張キャンパス図書館除籍資料の選定について 11 仁戸名キャンパス図書館除籍資料の選定について 12 新聞記事採録について 13 図書館だより「ぼーれぼーれ」の刊行について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月3日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
2	4月6日	図書館ガイダンス（新入生ガイダンス）

3	4月6日	図書館ガイダンス(幕張図書館ツアー)(看護2回,その他の学科・専攻ごとに各1回 合計6回)
4	4月10日	文献検索ガイダンス(栄養学科4年生)
5	4月12日	図書館ガイダンス(仁戸名図書館ツアー)(リハビリテーション学科の専攻ごとに各1回 合計2回)
6	5月22日	文献検索ガイダンス(リハビリテーション学科理学療法専攻3年生)
7	6月1日	図書館ガイダンス(新任教員向け)
8	6月15日	文献検索ガイダンス(リハビリテーション学科作業療法専攻3年生)
9	6月27日	文献検索ガイダンス(情報リテラシー1年生・2クラス 合計2回)
10	7月24日	文献検索ガイダンス(情報リテラシー1年生・2クラス4グループ 合計4回)
11	7月26日	第1回文献検索セミナー 根拠のある医療情報を探すには 佐藤正恵氏(千葉県済生会習志野病院総務課図書室司書)
12	7月28日	文献検索ガイダンス(情報リテラシー1年生・1クラス2グループ 合計2回)
13	8月8日	FD文献検索セミナー 文献のシステムティックレビュー 山口直人氏(東京女子医科大学医学部)
14	11月13日	第2回文献検索セミナー 文献管理ソフトEndNote活用法 吉田衣里氏(ユサコ株式会社)
15	12月7日	文献検索ガイダンス(歯科衛生学科3年生)
16	平成30年 1月26日	第3回文献検索セミナー 根拠のある医療情報を探すには 佐藤正恵氏(千葉県済生会習志野病院総務課図書室司書)
17	平成30年 2月19日	第4回文献検索セミナー 雑誌論文の調べ方
H	評価(成果および改善事項)	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生向け文献検索セミナーへの外部講師の招聘 昨年度は,教員向けの文献検索セミナーにのみ外部の講師を招き,学生向けセミナーでは,内部の職員が講師を務めたが,今年度は学生向けのセミナーにおいてもより専門的な知識を持つ外部講師を招聘した.理解しやすく実践的な内容で,学生の検索能力向上に資するセミナーとなった. ・図書館の利用促進のためのリーフレットの作成 図書館の利用促進のため,リーフレット(調べ方案内(パスファインダー)「卒業研究についての資料の探し方」)を作成し,配布した.卒業研究に関する資料を検索する際のキーワードや,「書き方」・「テーマの探し方」・「研究発表」などの項目に分けて図書館に所蔵のある資料を紹介し,卒業研究の際に図書館を活用するよう促した. 		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学生向け文献検索セミナーへ外部講師を招聘する. ・図書館に関するアンケートを実施する. ・平成31年度のシステム更改に向け,業務が滞りなく引き継げるよう準備を進める. 		

(6) 学術推進企画委員会

A	委員長名	三和 真人・教授(リハビリテーション学科理学療法専攻)
B	委員名	川城 由紀子・准教授(看護学科) 鳥田 美紀代・講師(看護学科) 細山田 康恵・教授(栄養学科) 越川 求・准教授(栄養学科) 金子 潤・准教授(歯科衛生学科) 河野 舞・准教授(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻) 吉野 智恵子・講師(リハビリテーション学科作業療法専攻) 佐藤 大介・講師(リハビリテーション学科作業療法専攻) 植田 麻実・講師(共通教育運営会議)

		梶本 輝樹・講師（共通教育運営会議）
C	部会名と 部会員名	<p>【紀要編集部会】 部会長： 細山田 康恵・教授（栄養学科） 副部会長：三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員： 小川 真・教授（看護学科） 佐藤 紀子・教授（看護学科） 谷内 洋子・准教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【共同研究部会】 部会長： 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 部会員： 細山田 康恵・教授（栄養学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 鳥田 美紀代・講師（看護学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 梶本 輝樹・講師（共通教育運営会議）</p> <p>【共同研究審査部会】 部会長： 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員： 河部 房子・准教授（看護学科） 川城 由紀子・准教授（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 山田 正子・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 東本 恭幸・教授（共通教育運営会議） 梶本 輝樹・講師（共通教育運営会議）</p>
D	所掌事務	1 大学内の学術推進に関すること 2 共同研究等の募集及び審査等に関すること 3 紀要の編集及び発行に関すること 4 大型外部資金の獲得に関すること 5 動物実験に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他学術推進に関すること
E	年度当初の重点課題	
	1. 他学科(学内), 他大学, 地域の病院, 診療所, 保健・医療・介護施設, 企業等との協働による介入研究により地域包括ケアに資する新たなエビデンスを創出あるいはエビデンスを確認する. 本年度は, 住宅整備公団と本学で提携協定を結び, “保健医療大学プログラム (通称: ほい大プログラム)” を推進する. 2. イノベーションに繋がるオンリー・ワンの研究を企画・推進する.	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月17日	1 平成28年学内共同研究の採択結果等について 2 委員会の運営経費について

		3 紀要の削除依頼（千葉県立保健医療短大紀要のCiNii から）について
2	5月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究の評価について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・紀要投稿規定について ・紀要担当員の見直しについて ・紀要8巻の送り先リストの確認について 3 イブニングセミナーについて 4 共同研究者の追加申請について 5 外部資金獲得について
3	6月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究発表会日程確認について 2 紀要編集部会 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビューについて
4	7月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究発表会について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・投稿論文の事前締め切り 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビューについて 6 紀要のJ-STAGEへの登録および学術雑誌公開支援事業の終了に伴うデータ移行について
5	8月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究発表会について 2 紀要について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビューについて
6	9月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 2 紀要編集部会 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビュー 6 平成29年度大学重点施策の一貫としてイノベーションの研究
7	10月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度共同研究の募集について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・投稿論文数について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビューについて
8	11月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の研究計画審査要領について（CITI Japan等の受講証明の必要） ・共同研究の採点方法について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・査読結果および審査結果について 3 イブニングセミナーについて

		<ul style="list-style-type: none"> 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビューについて 6 本年度内の J-STAGE 登録について <ul style="list-style-type: none"> ・説明会参加（必須）について
9	12月18日	<ul style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究募集および審査スケジュールについて 2 紀要編集部会 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビューについて
10	平成30年 1月15日	<ul style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究募集開始, 説明会を開催 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・投稿論文8件の審査終了 3 イブニングセミナーについて <ul style="list-style-type: none"> ・第3回の開催について(3月) 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビューについて <ul style="list-style-type: none"> ・最終校正について
11	平成30年 2月13日	<ul style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究審査部会報告等について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の発刊について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について
12	平成30年 3月13日	<ul style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究審査結果報告等について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・紀要第9巻発刊について 3 イブニングセミナーについて 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・J-STAGE への現紀要の移行と公開作業について(次年度へ)
開催日		紀要編集部会の主な議題
1	9月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1 紀要編集スケジュールについて 2 投稿予定論文の応募状況と担当者について 3 編集担当者・査読者の役割について 4 査読情報閲覧について 5 その他
2	10月11日	<ul style="list-style-type: none"> 1 投稿論文編集者・査読者の決定について 2 査読依頼の手続きについて
3	11月8日	<ul style="list-style-type: none"> 1 査読結果および審査結果について 2 その他
4	平成30年 1月5日	<ul style="list-style-type: none"> 1 再査読結果および審査結果について 2 その他
開催日		共同研究部会の主な議題
1	平成30年 3月9日	<ul style="list-style-type: none"> 1 意思伝達・ヒアリング担当の決定 2 その他

開催日		共同研究審査部会の主な議題
1	平成 30 年 1 月 30 日	1 審査部会長の選出について 2 共同研究募集及び審査スケジュールについて 3 その他
2	平成 30 年 2 月 21 日	1 申請書の配布について 2 審査方法の確認について
3	平成 30 年 3 月 8 日	1 審査結果について
4	平成 30 年 3 月 20 日	1 審査最終結果（ヒアリングを終了）について
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	7 月 25 日	第 1 回イブニングセミナー 研究・教育との連携事業「高大接続改革と新学習要領」越川 求・准教授, 井上 裕光・教授（千葉県立保健医療大学）
2	8 月 29 日	平成 28 年度共同研究発表会
3	8 月 31 日	第 2 回イブニングセミナー 「科研費の取得を目指した効果的なアプローチ」北川 慶子 教授（聖徳大学）
4	9 月 6 日	平成 30 年度科学研究費助成事業学内説明会
5	平成 30 年 3 月 12 日	第 3 回イブニングセミナー「国際学会でのプレゼンテーション」池田 恵 教授（順天堂大学 医療看護研究科 先任准教授）
H	評価（成果および改善事項）	
<p>【所掌事務 1：大学内の学術推進に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 共同研究発表会を開催し，教員間の研究交流を図った。 ◇ 研究の質向上をメインテーマとして，3 回のイブニングセミナーを開催し，教職員の出席率は 50%を下回ってしまった。今後，教職員が是非とも参加したいテーマを模索したい。 ◇ 地域包括ケアシステムに関する作業部会を立ち上げ，エビデンスのシステムティックレビューについて検討した。 <p>【所掌事務 2：共同研究等の募集および審査に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 平成 30 年度共同研究費募集要項ならびに審査基準を改定，公表した。 ◇ 平成 30 年度共同研究費の公募を行い，審査部会にて審査採択を行った。エフォート確保の項目については「教育」以外に，学内の管理運営を追加した。最終の採択にあたり，ヒアリングを全員に課し，申請書類の再提出をお願いするケースもあった。今後は，更に厳選な審査をして，採否を明確にすることにした。 <p>【所掌事務 3：紀要の編集，発行に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 紀要編集にあたり，編集担当者・査読者の役割について確認した。 ◇ 第 9 巻の募集を行い，査読，編集を行った。 <p>【所掌事務 4：大型外部資金の獲得に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 科研費，厚労省科研その他，研究助成金の情報収集を行い，科研費については応募に係る学内説明会を開催した。 		
I	次年度の方策	
<p>1 地域包括ケアに資する新たなエビデンスを創出あるいはエビデンスの確認のため，システムティックレビューに関する作業が終了し，紀要第 9 巻に掲載することができた。また，学内共同研究費助成による研究促進，イブニングセミナー開催をしてきたが，各回のイブニングセミナーの参加率は 50%を割り込んでいた。セミナー開催までの周知期間が短いことを考慮すると，一定の成果をあげたものの，今後一層のイブニングセミナーの参加率向上に向けた企画が求められる。</p> <p>2 研究の企画・推進に向けて，外部研究資金への応募および採択状況を検証し，申請率および採択率の向上に向け議論したい。</p>		

(7) 研究等倫理委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授 (学部長)
B	委員名	<p>—学内委員—</p> <p>植村 由美子・准教授(看護学科)</p> <p>北川 良子・准教授(看護学科)</p> <p>細山田 康恵・教授(栄養学科)</p> <p>荒井 裕介・准教授(栄養学科)</p> <p>島田 美恵子・教授(歯科衛生学科)</p> <p>鈴鹿 祐子・講師(歯科衛生学科)</p> <p>高杉 潤・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻)</p> <p>藤田 佳男・准教授(リハビリテーション学科作業療法専攻)</p> <p>千葉 総一郎・事務局長</p> <p>—学外委員—</p> <p>安村 勉・教授 (学習院大学法科大学院)</p> <p>鎌田 浩二・准教授 (千葉大学文学部国際言語学コース)</p> <p>竹内 治・弁護士 (松本・山下綜合法律事務所)</p> <p>望月 由紀・特任准教授 (千葉大学大学院看護学研究科)</p> <p>島津 実伸・特任助教 (千葉大学医学部附属病院臨床試験部)</p>
C	部会名と 部会員名	<p>—動物実験研究倫理審査部会—</p> <p>部会長：雄賀多 聡・教授 (学部長)</p> <p>部会員：細山田 康恵・教授 (栄養学科)</p> <p>山田 正子・准教授 (栄養学科)</p> <p>金澤 匠・講師 (栄養学科)</p> <p>小川 真・教授 (看護学科)</p>
D	所掌事務	人間および動物を直接対象とする研究等に対して，倫理に係る必要事項を審査する。
E	年度当初の重点課題	
	<p>・審査結果通知書の申請者への迅速な返却に加え，学内教員向けに研究等倫理委員会の審査の流れを周知し，倫理審査が原因の研究開始遅延を防ぐ。</p> <p>・研究倫理研修の実施。</p>	
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月12日	倫理審査申請案件の審査 (7件：承認1件，条件付き承認6件)
2	5月10日	倫理審査申請案件の審査 (5件：承認2件，条件付き承認3件)
3	6月14日	倫理審査申請案件の審査 (9件：承認3件，条件付き承認5件，変更の勧告1件)
4	7月12日	<p>1 倫理審査申請案件の審査 (5件：承認1件，条件付き承認1件，保留3件)</p> <p>2 研修会について</p>
5	9月13日	<p>1 倫理審査申請案件の審査 (9件：承認5件，条件付き承認4件)</p> <p>2 卒業研究倫理審査規程について</p>
6	10月11日	倫理審査申請案件の審査 (4件：承認1件，条件付き承認3件)
7	12月13日	倫理審査申請案件の審査 (3件：条件付き承認3件)
8	平成30年 1月17日	<p>1 倫理審査申請案件の審査 (1件：承認1件)</p> <p>2 科学研究費助成事業に係る内部監査の実施について</p>
9	平成30年 2月14日	倫理審査申請案件の審査 (7件：承認3件，条件付き承認2件，保留2件)
	開催日	動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	4月25日	動物実験申請案件の審査 (1件：承認1件)

2	5月11日	動物実験申請案件の審査（2件：承認2件）
3	8月4日	動物実験申請案件の審査（2件：承認2件）
4	12月5日	動物実験申請案件の審査（1件：承認1件）
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	8月9日	研究等倫理委員会研修会：①「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の平成29年2月改正について ②本学研究等倫理委員会 申請書ひな形について
2	平成30年 2月7日	平成29年度科学研究費助成事業に係る内部監査の実施
H	評価（成果および改善事項）	
人を対象とする研究の審査件数は50件（承認34%、条件付き承認54%、保留10%、変更の勧告2%）、動物実験の審査件数は6件（全て承認）であった。8月に研修会を実施し、①「倫理指針」の改正点を周知した。また、②本学の倫理申請書のひな形を作成し、本学における倫理審査の流れについて解説した。その結果、倫理審査委員および一般教員の倫理審査への認識の共通化がなされた。		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・新任教員への倫理教育を実施する。 ・研究倫理のみならず研究不正防止の研修も行う。 		

(8) 社会貢献委員会

A	委員長名	島田 美恵子・教授（歯科衛生学科 共通教育運営会議）
B	委員名	加藤 隆子・講師（看護学科） 田村 友峰子・助教（栄養学科） 山中 紗都・助教（歯科衛生学科） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科 作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 公開講座の企画及び運営に関すること。 2 教授会が付託した事項に関すること。 3 その他社会貢献活動に関すること。
E	年度当初の重点課題	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康づくり・病気予防への提案（県・地域の施策の点検・評価、見直し、提案） 2. 卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画、実施（地方創成） 3. 専門職を対象とした生涯教育の企画、実施 		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月24日	1 委員長選任 所掌事務確認 2 平成29年度公開講座について
2	6月12日	1 公開講座について 2 平成29年度重点施策への具体的な対応について
3	7月10日	1 公開講座来年度以降の計画 2 重点施策への具体的な対応について
4	9月11日	1 公開講座最終確認 2 本学の社会貢献について
5	11月13日	公開講座の振り返り・反省（天候不良など緊急時の対応）
6	平成30年 1月15日	1 公開講座来年度の計画 2 本学の社会貢献・健康福祉部意見交換会にむけて

7	平成 30 年 2 月 19 日	1 平成 30 年度公開講座テーマ決定 2 本学卒業生を対象とした卒後研修
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	10 月 8 日	公開講座「生活の質をたかめる」 講演①「県民健康栄養調査からみた千葉県民の食生活の状況」 講演②「高齢者は本当に運動神経が鈍ってしまうのか？」
2	10 月 22 日	講演①「万が一ケガや急病で救急病院を受診するときのおはなし」 講演②「定期的な歯科受診で得られるメリット」
3	平成 30 年 2 月 2 日	健康福祉部意見交換会「高齢化に伴い増加する疾患等対策」
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>【公開講座】 H29 年度の公開講座参加者は 1 回目が 72 名、2 回目が 21 名（計 93 名）であった 2 回目は台風接近時の開催であったにも関わらず 21 名の参加があり、緊急時の対応などを再考する必要がある。参加者のアンケートでは、内容についてはおおむね良い評価であった。</p> <p>【H29 年度重点施策】</p> <p>1) 「高齢化に伴い増加する疾患等対策」に関する情報交換を、県の健康福祉部との「意見交換会」で実施した。（平成 30 年度より、本学は千葉県のシンクタンクとしての役割が施策に位置付けられる見込み）</p> <p>2) ①教員の社会貢献活動について、各学科・専攻の現状をまとめた。 ②学生・教員による社会貢献活動実践を HP 上に掲載した。</p> <p>3) ①各学科・専攻における、職能団体の研修システムおよび状況をまとめた。 ②本学の教員が関わっている職能団体の役割および連携・貢献を調査した。</p>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の評価指標を検討し、大学としての地域貢献を組織的に取り組んでいく。 ・職能団体が実施している卒後研修とは異なる、本学独自の卒後研修について、学内で討議し、概念の統一を諮る必要がある。卒業生のニーズ調査を含め、社会貢献委員会のみでは実施できない課題を含んでいる。学生委員会、進路支援委員会、将来構想検討委員会など、関連する活動を担う委員会と、連携する。 ・生涯教育センター設立のロードマップを作成する。 	

(9) ネットワーク委員会

A	委員長名	井上 裕光・教授（共通教育運営会議）
B	委員名	浅井 美千代・准教授（看護学科） 西山 正恵・講師（看護学科） 長谷川 卓志・教授（栄養学科） 海老原 泰代・講師（栄養学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 太田 恵・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 佐藤 大介・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 栢本 輝樹・講師（共通教育運営会議） 陪席：山口 妙美・企画運営課長（事務局）
C	部会名と 部会員名	なし

D	所掌事務	1 情報システム（情報ネットワークシステム、教務・入試システム、図書システム）の活用等に関すること 2 教員の情報システムの活用を支援すること 3 学生の情報システムの活用等を支援すること 4 大学の情報セキュリティポリシーに関すること
E	年度当初の重点課題	
	1. 大学ホームページ改定に向けた作業を行う。情報の時点修正による update で備える。英文ホームページに関する作業も並行して準備し、改定を無事に行う。 2. 新大学ネットワークシステム更改までの安定運用を図る。とくに導入後 3 年を経過したため、ハードディスク・UPS 等消耗部品の入れ替えが予想されるため、十分な告知と業者との連携で対応する。同時に、次期システムへの情報収集を行うとともに、大学の拡張計画（大学院設置・新々カリ導入）に対応可能なシステム構築を目指す。 3. 学生 ML の更新・整備を行い、shienka アカウントによる定期的な情報発信を行う（作業を年間スケジュール化し、学生・教職員がもっと利用できるようにする）。安否システムを分掌決定後に導入し、規模想定と運用ルールを定める。教職員＋学生全体によるテスト運用を実施する。 4. 東京オリンピック決定後に急増しているサイバー攻撃（ネットワーク攻撃の高度化・精緻化・IoT 機器攻撃・日本人によるサイバーテロ）に対応するために、教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により、システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図る。ただし、セキュリティ講習会への参加者を増やす方法を検討する（どうやったら出席しやすいか）。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4 月（3 月）	メール会議（H28 引継ぎ事項確認） 1 学生向け一斉メール加除 2 学生向け一斉メールの学年別の教員参加の加除 3 学科別領域別学内フォルダへの修正等 4 学内フォルダの整理 5 授業フォルダの整理 6 卒業研究向けのゼミ用フォルダ等の整理 7 大学ホームページ改訂のための予算獲得状況を報告（予算獲得） 8 HP 用データのメンテナンス作業 9 H29 年度以降の HP 管理 以降随時メール会議 今年度の SNS 情報発信についても昨年度同様とする
2	4 月 18 日	第一回ネットワーク委員会 1 予算獲得に伴う HP 改訂手順説明 2 以後の作業内容説明（追加で、メンテナンス日程調整依頼） 3 組織変更の可能性（広報機能分離） 4 今後導入するプロジェクトについての注意 5 次年度情報ネットワークシステムへの要望聴取開始 なお今後はできるだけメール会議で議題を議論する
3	10 月	H29 重点施策の検討（メール会議）
4	11 月 13 日	第二回ネットワーク委員会 1 HP 改訂手順説明、以後の作業内容説明 2 大規模攻撃について注意 3 次年度情報ネットワークシステムへの要望の調整と注意
5	平成 30 年 1 月 17 日	学内教員アカウント乗っ取り事案発生。迷惑メール撒き散らし発生。数時間で当該アカウント停止。18 日に聞き取り開始、関係各所への報告書作成。事後対応検討。2 月 2 日

		当該アカウント廃止・新規アカウント作成・発行。なお、今後漏洩拡大を避けるため、新規学生アカウント末尾に名姓のイニシャル付与、新規教員アカウント末尾に2桁乱数付与を行う。
6	平成30年 2月-3月	ホームページ更改後の更新作業方針の検討、e-Learning システム導入の検討、県の広報との確認、今後の検討について（新入生名簿確定後に新年度対応作業についてメール発信）
		なお11月以降はHP更改作業のため、毎週メール会議を行った。また、学生・教員・事務局へのサポートは井上・榎本委員が随時行っている。 本来実施すべき情報ネットワークシステムFDについては、日程調整が難しく、HP更改作業のため、実施できなかった。
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月	SNSによる情報発信開始（榎本委員担当）学長・事務局経由ルートでメール決裁
2	6月5-9日	第一回情報処理施設メンテナンス実施（セキュリティ強化のため実施）
3	10月	第二回情報処理施設メンテナンス日程調整開始
4	12月4-8日	第二回情報処理施設メンテナンス実施（セキュリティ強化のため緊急実施）
H	評価（成果および改善事項）	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学ホームページ改定に向けた作業をなんとか実現させた。学内英語教員の協力（神田教授・植田講師）と学長裁量研究費で、英文HPを作成できた。 2. Windows7への攻撃に伴う、マイクロソフトの緊急Updateが続いたため、学内情報処理システムの緊急メンテナンスが必要になった。大学ネットワークシステム更改後のいっそうの安定運用を図ることはできた。ただし、システムの不安定要因が増している（メーカーの品質管理の問題）。Windows7Proの入手方法と2020年1月セキュリティ切れについてアナウンスを繰り返した。 3. 学生緊急ML整備を行ったが、依頼から収集完了まで1ヶ月以上かかった。今後のメンテナンス方法に課題が残る。shienkaアカウントにより運用は3年目となり発信もコンスタントに行えるようになった。 ただし、学内教員の学生メール利用の徹底も問題となっている（教員側が学生にメール利用を徹底できていない）。成績入力前後のメール確認ができない学生が出てきていることも重大な課題である。 4. これまでとは異なり、複数デバイス（情報端末）を利用している際に、誘導メールによりアカウント乗っ取りが発生した。今後のセキュリティ向上活動については、教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により、システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図り続けることが必要であるが、総務省からの方針転換（パスワード90日ルール撤廃）にみられるように、複雑性を増し、さまざまな状況でも対応可能なセキュリティ能力を身につけるための方策が必要になっている。 	
I	次年度の方策	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学ホームページ改訂に向けた維持管理作業を検討する。予算措置できない委員会であるため、事務局と協力しながら、新HPの運用方法を検討する。 2. 新大学ネットワークシステム更改までの安定運用を図る。特に導入後4年を経過したため、ハードディスク・UPS等消耗部品の入れ替えが予想されるため、十分な告知と業者との連携で対応する。同時に、次期システムへの情報収集を行うとともに、大学の拡張計画（大学院設置・新々カリ導入）に対応可能なシステム構築を目指す。 3. 学生MLの更新・整備を行い、shienkaアカウントによる定期的な情報発信を行う（作業を年間スケジュール化し、学生・教職員がもっと利用できるようにする）。 4. 東京オリンピック決定後に急増しているサイバー攻撃（ネットワーク攻撃の高度化・精緻化・IoT機器攻撃・日本人によるサイバーテロ）に対応するために、教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により、システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図る。ただし、これまでのセキュリティ講習会への参加呼びかけではなく、別の方法を検討して実質的な意識向上が必要になっている。 5. 次期情報ネットワークシステム更改のための作業が、まだ十分でない。委員会として活動できない内容（業者へのヒアリング等非常に高度な知識が必要な作業）が多いため、管理者グループ（井上委員長・榎本委員） 	

を中心に行い、学内への通知が可能になった段階で、全容についての説明とセキュリティについて告知するなど、現実的な対応を検討する。

6. 広報委員会（仮称）設置に向けて、以後の情報発信方法を事務局とともに手順化できるようにする。

(10) 特色科目委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授（学部長）
B	委員名	雨宮 有子・准教授（看護学科） 神田 みなみ・教授（看護学科，体験ゼミナール科目責任者） 河部 房子・教授（看護学科，教務委員長） 金澤 匠・講師（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科，専門職間の連携活動論科目責任者） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，共通教育運営会議） 太田 恵・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻，千葉県健康づくり科目責任者） 【陪席】鈴木 由紀子・学生支援課長（事務局）
C	部会名と部会員名	【体験ゼミナール】 部長：神田 みなみ・教授（看護学科） 部会員：浅井 美千代・准教授（看護学科） 植田 麻実・講師（看護学科） 金澤 匠・講師（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 太田 恵・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【千葉県の健康づくり】 部長：藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：雨宮 有子・准教授（看護学科） 荒井 祐介・准教授（栄養学科） 榎本 輝樹・講師（歯科衛生学科） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【専門職間の連携活動論】 部長：金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 部会員：雨宮 有子・准教授（看護学科） 東本 恭幸・教授（栄養学科） 田村 友峰子・助教（栄養学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
D	所掌事務	1 特色科目（体験ゼミナール，千葉県の健康づくり，専門職間の連携活動論）の運営に関すること 2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること 3 特色科目の評価と改善に関すること 4 特色科目の目標達成に向けた学生，教員へのFDに関すること 5 科目責任者の推薦に関すること
E	年度当初の重点課題	
・千葉大学とのIPE連携体制の構築		
F	会議記録（含む部会の開催）	

開催日		主な議題
1	7月13日	1 各科目の平成30年度当初予算確認 2 各科目の現在の進捗状況報告 3 学長より「特色科目」への要望について
2	9月21日	1 各科目の進捗状況報告 2 平成30年度時間割確認 【報告】サービス・ラーニング科目の試案について
3	12月27日	1 各科目の進捗状況報告 2 「千葉県の健康づくり」で購入した残余備蓄食品の取扱い 3 GPAについて 4 IPE アンケートについて 5 学長よりの「特色科目」への要望について
4	平成30年 2月21日	1 各科目の進捗状況報告 2 新々カリキュラムにおけるサービス・ラーニング科目の設置について 【報告】・これまでの団体訪問の実績について ・「千葉県の健康づくり」で購入した残余備蓄食品の取扱い ・IPE アンケートについて
開催日		体験ゼミナール作業部会の主な議題
1	4月6日	1 訪問団体変更の対応 2 学生振り分け 3 担当教員確定 4 実習要項製本作業
2	4月13日	同上
3	4月14日	1 学長講演「大学での学び」準備 2 配布資料確認と準備
4	4月21日	1 訪問団体と担当教員の調整 2 小川教授「感染症対策」資料 3 全体授業の準備
5	4月28日	1 教員説明会準備 2 全体授業の確認
6	5月24日	1 文具類の確認と仕分け作業 2 配布・回収方法 3 購入文具の検討
7	5月26日	1 事前学習報告会準備 2 予算案検討 3 団体との調整報告
8	6月2日	1 文具類配布準備 2 訪問学習の詳細確認
9	6月9日	1 ポスター提出時の作業確認 2 成果報告会・最終報告会の準備
10	6月30日	1 次年度予算案 2 授業準備 3 成果報告会、訪問団体との連絡
11	7月7日	1 次年度予算案 2 ポスター提出作業確認 3 成果報告会・最終報告会の準備
12	7月14日	1 学生アンケート特色科目委員会報告

13	7月21日	1 成果報告会の準備, 作業確認
14	7月28日	1 最終報告会, 教員報告会の準備, 作業確認
15	8月1日	1 学生提出物の確認, 仕分け, 運搬, 成績集計, 団体ファイル回収
16	8月7日	同上
17	9月19日	1 報告書作成の準備, ページ割, データ集計・執筆担当
18	10月16日	1 報告書の進捗状況 2 学生提出物の返却のため学科別仕分け
19	11月13日	1 報告書の進捗状況 2 次年度の訪問団体, 授業計画検討
20	12月14日	1 報告書の進捗状況 2 次年度の訪問団体, 授業計画検討
21	平成30年 1月22日	1 報告書作成 2 次年度要項検討
22	平成30年 2月13日	1 次年度訪問団体意向調査準備 2 次年度実習要項の作成
23	平成30年 3月12日	1 次年度実習要項完成 2 次年度の訪問団体検討 3 報告書印刷進捗状況
開催日		千葉県健康づくり
1	6月14日	1 外部講師調整 2 今年度運用マニュアルの検討
2	9月11日	1 講義内容および担当分担の確認
3	平成30年 1月31日	1 今年度の反省と課題 2 次年度シラバスの検討
開催日		専門職間の連携活動論
1	6月19日	1 昨年度のアンケート結果確認 2 今年度の日程・内容確認
2	7月19日	1 実施要項・教員用資料確認 2 特別講義講師の選任
3	8月23日	1 実施要項・教員用資料修正版確認 2 学生教員配置・使用教室について
4	9月27日	1 実施要項・教員用資料最終確認 2 教員説明会について
5	10月11日	1 演習当日の役割分担 2 学生・教員アンケート 3 成績評価について
6	12月15日	1 事後レポート等の仕分け 2 成績評価準備
7	平成30年 1月12日	1 事後レポート等の学生への返却準備
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
H	評価 (成果および改善事項)	
・千葉大学とのIPE連携体制の構築については進展を認めなかったが, 学生・教員アンケートや学生と学長・学部長との懇談会の意見では, 現行の学内完結型「専門職間の連携活動論」の満足度は高く, 他大学との連携を求める声は大きくない。		
I	次年度の方策	

・現在の特色科目の個別3科目体制に加え、新々カリキュラムに向けサービス・ラーニング科目の新設を検討する。

(11) FD委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授(学部長, 研究倫理委員長, 特色科目委員長)
B	委員名	佐藤 まゆみ・教授(総務・企画委員長) 河部 房子・教授(教務委員長) 西野 都子・教授(学生委員長) 豊島 裕子・教授(図書・情報委員長) 三和 真人・教授(学術推進企画委員長) 島田 美恵子・教授(社会貢献委員長) 井上 裕光・教授(ネットワーク委員長) 田邊 政裕・学長(自己点検・評価委員長) 佐藤 紀子・教授(入試実施部会長)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学内のFDの推進に関すること 2 学内のFDの連携, 調整に関すること 3 教授会が付託した事項に関すること 4 その他FDに関すること
E	年度当初の重点課題	
	・「教育ワークショップ」の定期開催化 ・入学試験作問に関するFDの開催	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	7月20日	1 FD委員会所掌内容の確認 2 各委員会の平成29年度FD開催予定報告 教育ワークショップの開催について
2	9月21日	1 ハラスメント防止に関するFDについて ①障害をもった学生への配慮に関するFDについて ②教育ワークショップについて
3	12月27日	1 ハラスメント防止に関するFDについて 2 教育ワークショップについて 3 その他 ①著作権セミナーについて ②FDの開催時間について
4	平成30年 3月28日	1 教育ワークショップについて 2 キャンパスハラスメント対策について 3 その他(来年度計画等)
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	7月25日	イブニングセミナー「高大接続改革と新学習指導要領」学術企画推進委員会
2	12月5日	FD & SD「障害者差別解消法について」
3	平成30年 3月20日	教育ワークショップ「学生による授業評価アンケート結果を活用した授業改善」
4	平成30年 3月22日	「ハラスメントのないキャンパスづくりのために」
H	評価(成果および改善事項)	

<p>・「教育ワークショップ」を平成30年3月20日に実施した。参加61名中アンケート回答者55名(90.2%)。うち、満足15名(27.3%)、やや満足31名(56.4%)、どちらでもない6名(10.9%)、やや不満足・不満足0名(0%)、回答未記入3名(5.5%)。</p> <p>・キャンパスハラスメント防止対策委員会主催SD：参加者53名(参加率44.5%)。満足度アンケート結果5件法平均値で4.1。</p> <p>・入学試験作問に関するFDの開催はできなかった。</p>	
I	次年度の方策
<p>・入学試験問題および授業資料に関する著作権セミナーの実施</p>	

(12) 国際交流委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授(学部長)
B	委員名	渡邊 尚子・教授(看護学科) 谷内 洋子・准教授(栄養学科) 荒川 真・准教授(歯科衛生学科) 三和 真人・教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 大谷 拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 佐藤 大介・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 神田 みなみ・教授(看護学科) 【陪席】千葉 総一郎・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 国際交流の基本事項に関わる方針および計画に関すること 2 学術交流協定に関すること 3 学術及び教育交流の推進に関すること 4 留学生の教育交流に関すること 5 国際交流関係機関との連携および協力に関すること 6 その他国際交流に関すること
E	年度当初の重点課題	
<p>・米国 Wisconsin 州の大学, Concordia University of Wisconsin (CUW) および Waukesha County Technical College (WCTC) との交流協定締結。</p> <p>・韓国 Inje 大学との交流実施。</p>		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月24日	1 Inje Univ. への派遣者の検討 2 Wisconsin 州の大学(特に CUW と WCTC)・Inje 大学との各学科・専攻ごとの交渉について
2	5月22日	1 Inje Univ. への派遣者 2 Inje Univ. 夏季韓国語研修プログラム 3 大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン 4 Concordia 大学
3	6月26日	1 Concordia 大学との MOU について 2 インジェ大学への教員派遣について 3 WCTC について
4	8月30日	1 CUW について 2 歯科衛生学科の交流について 【報告】①公立大学の国際交流締結状況について ②UMAP(アジア太平洋大学交流機構)日本国内委員会からの照会

5	10月23日	1 CUWからの質問及びその回答について 2 国際交流における学生の海外渡航への教員の引率について
6	平成30年 2月13日	1 トビタテ!留学 JAPAN 2 学生の海外留学に関する危機管理 【報告】①NWTCについて ②インジェ大学について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・米国 Wisconsin 州の大学・韓国 Inje 大学のいずれとも国際交流の進展は得られなかった。 ・本学学生1名よりトビタテ!留学 JAPAN への応募希望の申し入れあり。国際交流委員会として後押しするため、学内における学生の海外留学に関する危機管理体制の検討に入った。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・米国 Wisconsin 州の大学・韓国 Inje 大学との国際交流を進展させる。 ・トビタテ!留学 JAPAN 応募に向け、学内における学生の海外留学に関する危機管理体制を構築する。 	

5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

1) 看護学科

(1) 教員組織

教員は、教授9名、准教授8名、講師10名、助教11名、計38名の構成であった。

(2) 年度当初の重点課題

各委員会の新たな任期のスタートに伴い、新体制で学科内組織の中で管理運営にあたった。各委員会が前年度からの課題解決と共に、新たな課題にも着手した。

(3) 取組状況

学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、12回開催した。

学科内に下記の委員会を設置し、定期的な会議により、全学関連委員会や看護学科運営会議等との連携・調整のもと、それぞれの活動を行った。各委員会の主要な活動は、以下の通りである。

看護学科総務・企画委員会では、平成28年度の看護学科予算に関する調整を行い、特に教育用備品費については優先順位のつけ方について再検討し、緊急性のある物品購入に対応できるようになった。また、平成29年度の当初予算要求の取りまとめを行った。その他に、大学院構想の教室確保にともないB110教室の整備、看護学科の共有物品管理、看護学科運営会議の運営、文部科学省などからの調査の取りまとめを行った。

看護学科教務委員会では、看護学科教務委員会では、在校生・入学生ガイダンスの実施、時間割の調整、定期試験監督者の調整、特別講義時間数の調整、実習計画表の立案、領域別実習のグループ編成の作成、実習要項の修正、災害時マニュアルの改訂、実習オリエンテーションの実施、実習公文書依頼のとりまとめ、ポートフォリオの取り組み支援、必修科目単位未修得学生に対する個別履修計画の確認等を行った。特に平成29年度は、災害時マニュアル改定において昨今の社会情勢を鑑みJアラートに関する資料を追加し、また実習中の災害時連絡体制について見直した。

また、平成31年度カリキュラム改正に向けた検討を年度末より開始し、次年度も引き続き検討を進める予定である。

看護学科学生・進路支援委員会では、個別履修支援が必要な学生に対する指導方針の整備、進路支援ガイダンス等の工夫・改善、県内就職推進に向けた指導体制の強化を行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

看護学科入試検討委員会では、入試、オープンキャンパス、学校説明会の活動を担当した。入試に関しては、「看護学科面接試験実施要領」を作成した。全教員に公正かつ適切な入試が図れるよう看護学科面接担当者説明会において、基準点のつけ方(基準点となる受験生の状況)の周知徹底に努めた。オープンキャンパスについては、実施計画の作成、当日の運営総括、評価を行った。看護学科来場者数は、合計943名であり、学科説明、演習体験、個別相談に対応した。高校から依頼される学校説明会、大学見学、模擬授業については、教員が適切に対応できるように説明会マニュアルを作成した。昨年より参加校が増え年間55校(H28年度実績40校)の参加となった。

看護学科社会貢献委員会では、県内看護職員のスキルアップに向け、看護学科が貢献しうる内容とその具体的方法の検討を目標に取り組んだ。その結果、平成25年度に千葉県看護師等スキルアップ研修事業の一環として実施した県内看護職員の研修ニーズ調査結果を再集計し、看護・介護分野(病院、診療所、訪問看護ステーション、特養・老健)では、急変時対応、褥瘡・創傷ケア、認知症看護、化学療法と看護、周産期看護、精神看護、フィジカルアセスメント、管理業務のスキルアップ(リーダーシップ、マネジメント)に対する研修ニーズが高く、公衆衛生(保健所・市町村)では、母子保健、災害看護に対する研修ニーズが高いことを明らかにした。また、看護学科が貢献可能な専門職を対象とした研修プログラム案の作成や、千葉県が政策立案を行う際に活用できる調査計画案について検討した。

看護学科倫理審査委員会は、4年生の必修科目である看護研究において、学生が人を対象とする調査を実施する場合の倫理審査を行った。今までの倫理審査の手続きを見直し、より円滑に進められる方法に修正した。平成29年度は32件の審査を行い、より円滑に進めることができた。次年度は円滑な倫理審査の実施に加え、倫理審査結果の指摘内容から学生の研究倫理についての習得状況を検討する。

(4) 評価(成果および改善事項)

各委員会が連携を密にして円滑に活動を行い、教育用備品費の優先順位のつけ方、災害時マニュアルの更新、社会貢献事業の具現化等、昨年度から継続しの課題に取り組み成果を上げることができた。

(5) 次年度の方策

PDCAサイクルによる各委員会の活動を継続する。学科単位の社会貢献事業に着手する。

2) 栄養学科

(1) 教員組織

教員構成は教授6名、准教授4名、講師2名、助教5名の計17名であり、昨年度に比べ講師1名が削減になり、食べ物と健康分野（食品学分野）に人員配置ができなくなった。そのため、その分野の非常勤講師として前の学科長に（前期：講義2コマ、実験1コマ、後期：講義1コマ、実験1コマ）依頼した。栄養学科は他学科と異なり、学内実習が主であるため教員の削減により、学内実習での教員の負担が増加するとともに、学生への支援力も低下した。

専門科目の担当教員は15名、栄養教諭課程（選択）（兼：一般教育科目）の担当教員は2名である。産休教員（助教）の代替および対象者（助教）の代替として非常勤職員（前期：2名、後期：2名）を迎えたが代替教員は丁寧に対応してくれるものの、資格審査がないため学生への支援力の低下があった。

(2) 年度当初の重点課題等

各委員会が引き続き確実に責務を果たすとともに、連携を密にして円滑な組織運営を図る。さらに、新カリキュラムの検討を行うことを、重点課題とした。

(3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし、それぞれ5回、18回実施した。学長直属委員会・部会及び教授会学内委員会・部会には学科教員の全員がいずれかの委員会・ワーキンググループの組織に所属し、委員長・部会長・構成委員として参加した。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために、月2回の学科運営会議を実施し、教授会報告、各委員会報告、各委員会の検討事項の検討、学生教育の進捗状況、学生生活の報告、その他必要事項の検討や周知を行った。

学年別の担任・副担任制、国家試験対策会議（国家試験担当教員、学科長、担任、副担任）、臨地実習担当者会議、栄養教諭担当者会議、卒業論文担当者会議、卒業論文のための倫理審査委員会がある。それぞれ、適切に機能し各会議では学科会議で必要事項を周知した。

入試関係については、各教員が、学内見学者への対応、各高校への出張説明会等を行った。オープンキャンパスでは、教員がスタッフとして学科の紹介や参加者の誘導などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

社会活動として、文部科学省、千葉県、学術団体、栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師など、また、新聞、TV、Webを通し、臨床栄養、食育、食文化等の健康づくりに関する活動を行った。

(4) 評価（成果および改善事項）

新カリキュラムを学んだ25名の卒業生を輩出した。管理栄養士国家試験には2名が不合格であったため、合格率92%であった。管理栄養士国家試験合格者22名は管理栄養士として就職し、1名は公務員試験を来年度に受験するため受験準備を行うことを選択した。管理栄養士国家試験不合格者2名は栄養士として就職し、就職を希望した卒業生の就職率は100%であった。昨年度の国家試験合格率は、100%であったが、今年度は92%であったため、試験対策会議による学生指導および学科会議での報告による全教員への現状の周知により学科全体で、国家試験対策を成功させるよう来年度は学科全体で取り組みたい。

3分野の臨地実習については、担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により、期間内で3分野の臨地実習が終了するよう調整できた。学生募集は、全学科の平均倍率3.2に対して3.6と良好であった。

(5) 次年度の方策

各委員会が引き続き確実に責務を果たすとともに、連携を密にして円滑な組織運営を図る。新カリキュラムの検討および新カリキュラムにおいて、食品衛生監視員・食品衛生管理者の資格取得ができるよう検討する。学科会議、年2回実施する自己点検評価のための学科長と各教員との面談なども有効に活用しコミュニケーションのさらなる充実を図る。

3) 歯科衛生学科

(1) 教員組織

学科教員の構成は、教授5名、准教授3名、講師4名、助教1名である。教員のうち歯科専門職は11名（歯科医師5名、歯科衛生士6名）となっている。

(2) 年度当初の重点課題等

当学科に対応した重点課題である言語聴覚士取得コース（選択科目）導入について検討し、実現可能性や方向性を提案する。

(3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は、全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心であり、11回開催された。本学付属の歯科診療室の管理・運営体制は、歯科診療を担当する歯科医師、歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心となっており12回開催された。歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認した。大学全体の管理・運営については、学科の全教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、委員長や委員として積極的に活動を行ってきた。

入試関係については、大学説明会に積極的に参加し、高校生向けに本学ならびに当学科の紹介を実施した。7月に開催されたオープンキャンパスでは教員がスタッフとして学科の紹介や参加者の誘導などを行った。歯科衛生学科説明会への参加者は135名で、延べ16名の教員と当学科12名の学生によって学科説明、実習室での演習体験、個別相談に対応した。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

(4) 評価（成果および改善事項）

歯科衛生士に加えて言語聴覚士の資格取得が可能かどうかを教育課程（科目・単位数）等により検証した結果、歯科衛生士養成課程で修得すべき126単位のほかに、89単位（合計215単位）が必要と見込まれ、言語聴覚士取得コース（選択科目）開設は困難であるとの結論に達した。言語聴覚士取得のための代替案としては、大学院修士課程における言語聴覚士養成課程の開設がある。

(5) 次年度の方策

欠員となっている歯科衛生士教員の確保を図り、平成31年度からの新カリキュラムの導入にむけた体制づくりを進めていく。

4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

(1) 教員組織

教授2名・准教授1名・講師2名・助教2名の計7名（本年度准教授1名休職）。職種は、医師1名、理学療法士6名。

(2) 年度当初の重点課題

ワンキャンパス化、および大学院構想の事実上棚上げされた現状があり、今後教員の退職等、他大学に流出する可能性は否定できない。かつ職域の拡大が進んでいる理学療法領域を概観すると、教員組織数から考えても、最低人数（厚労省指定規則6名の専門職）で如何に専攻運営を行うかが課題である。

(3) 取組状況

幕張キャンパスで開催される教授会・運営会議や各種委員会へは仁戸名キャンパスから移動し、確実に参加している。毎週水曜午前、理学療法学専攻会議を所属の全教員で実施し、教授会・運営会議・各種委員会やワーキンググループ等の活動状況や主な取組内容の進捗状況を報告している。また、学校説明会等の学外対応の負担は一部の教員に偏りがないように配慮をしている。加えて、学生の学習・実習状況等、教員間での情報伝達と共有化を図るよう努めている。

(4) 評価（成果および改善事項）

教員数は現有7名であるが、実質6名の専門職（理学療法士）と医師1名で教授会・運営会議・各種委員会、およびリハビリテーション学科会議・学科教授会（構成員4名）・専攻会議を予定通りに開催された。

(5) 次年度の方策

本年度同様、専門職教員の充足と増員および職位の不均衡是正を求める。また、着実な管理・運営を実施していく。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 教員組織

リハビリテーション学科作業療法学専攻の教員構成は、平成29年度は教授2名、准教授3名、講師2名、助教1名、計8名であった。内訳として、医師1名、作業療法士7名の構成で運営された。

(2) 年度当初の重点課題

作業療法学専攻の運営管理上の重点課題

- ① 幕張キャンパスと仁戸名キャンパスの移動の工夫に取り組む。
- ② 実習病院、実習施設の獲得活動については、改善に取り組み徐々に成果を上げているが充分とは言えない。

- ③ 施設・設備の老朽化や不十分であるため、対応が必要である。
- ④ 作業療法学専攻への入学応募者の増加に取り組む。
- ⑤ 日本作業療法士協会の認定申請，世界作業療法士連盟認定申請する。

(3)取組状況

- ① 学生のキャンパス間の移動時間は、少なくとも往復 1 時間 30 分 800 円程度の負担があるため、受講できない科目が生じることがある。これに関して、時間割を組む時に工夫しているが限界がある。また、教員においても、教授会をはじめ、各種委員会・ワーキンググループ（部会）などへの出席のため、キャンパス間の移動が教員の負担となっており今後の課題である。1～2年生に対するオフィスアワー等も検討課題である。作業療法士としてのコンピテンシーを達成する為に、個別の指導や教育への取り組みはあるものの十分とは言えないため、今後検討したい。
- ② 実習病院、実習施設の獲得活動については、慢性的な不足状況が続いている。各教員が千葉県を中心として臨床実習に相応しい施設を恒常的に訪問し、確保に努めている。
- ③ 不具合や老朽化の備品など修繕・購入の予算請求の継続している。平成 29 年度は重点的に備品を整備の予算が付いたため、倉庫をはじめ最新の測定機器など購入ができた。
- ④ 学生募集の業務・広報活動として、SNS の利用とオープンキャンパスを実施している。専攻として SNS 等を通じた広報活動を数は少ないが実施できた。今後、作業療法学専攻としての活用が望まれる。
- ⑤ 日本作業療法士協会の認定申請，世界作業療法士連盟認定申請し，審査を受けた。

(4)評価（成果および改善事項）

- ① キャンパス間移動などの問題は解決していない。学生が受講できない科目が生じることがあり、時間割を作成時に毎年工夫をしているが限界がある。
- ② 各実習を統合する担当を設け、実習施設の臨床体験実習から評価実習，総合実習，地域作業療法学実習に至るまで総合的に管理できるよう試み、慢性的な不足状況は継続しているものの、状況把握と対策ができた。
- ③ 平成 29 年度の予算の配当により、改善している。施設の老朽化などについては、総務・企画委員会と後援会より継続した予算の配当とご援助いただき机・椅子，プロジェクターなどの改善が実施されている。
- ④ 広報に関するホームページの改善の予定が組まれている。SNS を使用し、授業等の広報活動の活用を試みた。
- ⑤ 最終判定と日本作業療法士協会及び世界作業療法士連盟（WFOT）の教育基準を満たしていると判定され 2018 年 3 月 17 日より 2022 年 12 月 31 日まで認定は有効とされた。

(5)次年度の方策

広報については SNS などの活用継続的に検討・実施する。

6. 事務局の活動

事務局は、企画運営課と学生支援課の 2 課で構成されている。

1)職員組織

平成 29 年 4 月 1 日現在、事務局長 1 名、企画運営課は課長を含め職員 9 名、嘱託 5 名の計 14 名、学生支援課は課長を含め職員 5 名、嘱託 8 名の計 13 名、合計 28 名で運営している。企画運営課は、教授会、大学運営会議、各種委員会等に係る事務、学内研究費、科学研究費補助金等の執行事務、教育用消耗品や備品等の購入事務、施設の維持管理や実習機関への委託事務等を担当し、学生支援課は、カリキュラム編成や授業時間割の調整、非常勤講師の調整、単位認定等の教育課程に関する事務、入学試験、大学入試センター試験に係る業務、学生の実習、就職支援に係る業務等を担当している。

2)SD の取り組み

(1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上。

(2) 実施状況

12 月 5 日

「障害者差別解消法について」／講師 千葉県健康福祉部障害者福祉推進課 主事 内山直翔／参加人数 48 名

3 月 22 日

「ハラスメントのないキャンパスづくりのために」／講師 千葉大学大学院看護学研究科 教授 岩崎弥生／

参加人数 53 名

その他下記の入試、科学研究費及び奨学金の関係会議や研修会等に出席した。

- ① 5月12日 大学改革支援研究会及び公立大学に関する基礎研修
- ② 6月1日 入学者選抜に関する研究会
- ③ 6月12日 大学実態調査票作成説明会及び公立大学協会担当者研修会
- ④ 7月4日 大学入試センター試験千葉地区連絡会議
- ⑤ 7月31日～8月2日 魅力ある大学づくり
- ⑥ 8月21日 大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第1回）
- ⑦ 9月5日 平成29年度末教育職員免許状の一括申請説明会
- ⑧ 11月13日 平成29年度副学長等協議会「入学者選抜分科会」
- ⑨ 12月12日 著作権セミナー
- ⑩ 12月21日 JAPAN e-Portfolioに関する勉強会

7. FDの実施状況

1) 年度当初の重点課題等

- ・「教育ワークショップ」の定期開催化
- ・入学試験作問に関するFDの開催

2) 主な活動

- ・7月25日 「高大接続改革と新学習指導要領」
- ・12月5日 FD & SD「障害者差別解消法について」
- ・平成30年3月20日 教育ワークショップ「学生による授業評アンケート結果を活用した授業改善」
- ・平成30年3月22日 SD「ハラスメントのないキャンパスづくりのために」

3) 評価(成果および改善すべき事項)

- ・「教育ワークショップ」を平成30年3月20日に実施した。参加61名中アンケート回答者55名(90.2%)。うち、満足15名(27.3%)、やや満足31名(56.4%)、どちらでもない6名(10.9%)、やや不満足・不満足0名(0%)、回答未記入3名(5.5%)。
- ・キャンパスハラスメント防止対策委員会主催SD：参加者53名(参加率44.5%)。満足度アンケート結果5件法平均値で4.1。
- ・入学試験作問に関するFDの開催はできなかった。

4) 次年度の方策

- ・入学試験問題および授業資料に関する著作権セミナーの実施

IV 教育活動

1. 共通教育

1) 教育方針

体系的な初年次教育を行い、学問や大学教育全般に対する動機付けおよび論理的思考や問題発見・解決能力の基盤を作る。

2) 年度当初の重点課題

①初年次教育を効果的に行うために教員を対象にアンケート調査を行い現状を把握する。②学問・大学教育全般に対する動機付け教育導入を検討する。③論理的思考・問題解決能力向上のための教育方法の導入を検討する。

3) 取組状況

①全教員 82 名を対象にアンケート調査を行った。結果は 3 月 20 日開催の教務委員会主催教育ワークショップおよび報告書で報告した。②グローバル教育に着目し、英語教育の充実と並行して、特別講師をお招きして多言語・多文化に関する講演を行った。③新々カリキュラムに、問題解決法教育としての統計学演習の追加を決定した。

4) 評価

年度当初の目標は達成できたと考えている。

5) 次年度の方策

学内講師による学問・大学教育全般に対する動機付け教育導入を実現したい。

2. 看護学科

1)教育方針

学生が、確かな看護実践能力や自己研鑽力を身に付けられるように、きめ細やかな教育を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用し、学生の主体的学習を促進する。

2)年度当初の重点課題

計画通りに教育活動を実施するとともに新々カリキュラム作成に向けた総括的なカリキュラム評価を行う。

3)取組状況

1 年次に、特色科目の「体験ゼミナール」、一般教養科目とともに、「薬理学Ⅰ、Ⅱ」「病理学Ⅰ、Ⅱ」等の保健医療基礎科目、「人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の専門基礎科目、「看護学入門」「看護技術論Ⅰ」「看護ふれあい体験学習」等の基礎看護科目を開講した。1 年次の前期から看護実習を開講することは、看護学を学ぶ動機付けとして高い効果が得られている。2 年次には、「医療・生活支援看護概論」「療養支援看護概論」「高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ(総論)」「健康支援看護概論」「育成支援看護概論」等の実践看護科目を開講した。後期には、実践的・専門的な知識や技術等を学ぶ実践看護科目の方法論(講義・演習科目)を開講した。また「看護キャリア発達論」「看護倫理」等を開講した。3 年次前期には、各専門領域(基礎看護、医療・生活支援看護、療養支援看護、健康支援看護、育成支援看護、発展看護)それぞれの「方法論」が、新カリキュラム科目として開講された。3 年次後期から 4 年次前期にかけて、実践看護科目の実習である成人看護学実習等が実施された。4 年次においては、通期で「看護研究」に取り組み、研究計画の立案から研究実施、論文の作成を行い、に各領域で研究発表会が実施された。また、後期には「総合実習」「専門職間の連携活動論」(特色科目)が実施され、他の専門職と自らの専門性について深く考える機会となった。また、新規開講となる「看護学統合」を実施し、4 年間の学びの統合と卒業後の自己研さんの明確化を図り、次年度に向けた評価を行った。

助産課程では、3~4 年次に「助産診断・技術学Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を開講した。

4)評価(成果および改善事項)

新カリキュラムにおけるすべての科目を滞りなく開講した。日本看護系大学協議会及び文部科学省が提示した指針を基にカリキュラム評価を行い、新々カリの作成に着手することができた。

5) 次年度の方策

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの検証評価を基に、看護学科の果たすべき使命を明確にした上で新々カリキュラムの編成を行う。

3. 栄養学科

1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧に実践する。

2) 年度当初の重点課題

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程(選択)の履修者の増加をめざす。

3) 取組状況

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程(選択)の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、学科会議により状況を全教員が共有でき取組ができ、目標を達成できた。学生の個人的相談は担任を中心としたが、オフィスアワーを学生に提示し全教員に相談可能とし成果をあげている。

3年前期の臨地実習を目標に1年次では「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要なとされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施している。前期は座学中心で、後期は実験・実習による専門的スキルやコミュニケーション能力の育成を実践した。3年次では主に専門科目と臨地実習、4年次では主に卒業研究を配当し、管理栄養士としての専門性を育成した。また、1年、3年、4年では特色科目を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学ぶ機会となった。

4) 評価(成果および改善事項)

4年生全員が卒業、1～3年生は全員進級できた。3年次の臨地実習の1科目について体調を崩し、4年次に繰り越した学生が1名いたため、体調管理についてもさらに指導したい。管理栄養士国家試験不合格者2名については、努力不足と考えられるため、次年度の管理栄養士国家試験対策としてさらに丁寧な指導を行いたい。

栄養教諭課程(選択)の履修者は1年11名、2年13名、3年15名、4年生10名であった。

文部科学省のインターンシップに2年生2名が参加し、作成したポスターが文科省のHPに掲載されている。

5) 次年度の方策

引き続き、担任、副担任、科目担当教員から積極的な履修指導を行う。また、栄養教諭課程(選択)の履修については、オリエンテーションで担任、関係の教員から、引き続き丁寧な説明を実施し、更なる増加を目指す。国家試験対策、就職支援についても引き続き丁寧に実施する。

4. 歯科衛生学科

1) 教育方針

高度な歯科医療に関する知識および技術を習得できるよう専門分野の教育を充実強化するとともに多職種と連携して地域で活躍できる人材の育成に取り組む。

2) 年度当初の重点課題

教育効果をより高めるために、オフィスアワー等の活用を通じて教員と学生とのかかわり合いを深めていきたい。

3) 取組状況

1年次、2年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2年次から3年前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。3年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している3年次後期・4年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1、2年次学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。3年次後期・4

年次前期の「継続・個別支援実習」では、千葉県職員、地域住民、学生の家族や知人の協力のもと歯周病予防のための歯石除去やブラッシング指導を実施し、4年生は125名、3年生は114名を担当した。臨地実習については、3年次後期の「歯科診療所実習」でチーム歯科医療等の実践について体験した。「発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）」で幕張西小学校1・3・6学年の児童を対象にブラッシング指導を行った。さらに袖ヶ浦特別支援学校では、担当教員から障害児童の対応を学ぶとともに、児童全員の口腔ケアを実施した。「発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）」では、千葉市内2か所の高齢者施設において、2日間にわたり施設に入所する高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに高齢者の口腔ケアを実施した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市（保健福祉センター健康課）・市原市（保健センター）・浦安市（健康センター）において地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。4年次後期の「病院実習」では病院における歯科衛生士の役割や多職種連携の重要性について理解を深めた。3年次後期から4年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、各学科教員が個別に学生の研究指導を行った。平成28年度に引き続き、千葉県立保健医療大学全学の学生を対象とした口腔健診を実施し、在学生の口腔状態の観察や健診補助を行うことで、歯科臨床への早期学習を行い、専門職教育に向けてモチベーションの向上を図った。国家試験については、卒業生24名全員が歯科衛生士国家試験に合格した。

4) 評価（成果および改善事項）

各教員のオフィスアワーならびに学年担任・副担任を通じて学生の修学支援を実施した。また、教員から学生への働きかけにより、県内ボランティア活動に学生が積極的に参加する機会が増加した。

5) 次年度の方策

平成31年度からの新カリキュラムの導入を目指し、現状の教育課程、教育内容の再構築をはかる。

5. リハビリテーション学科理学療法学専攻

1) 教育方針

全学年の学生が授業に欠席することなく、かつ実習に参加し、単位を落とさず、休学や退学をなくして最終学年を終了すること。また、毎年度継続している国家試験全員合格を目標としている。

2) 年度当初の重点課題

臨床実習での、学生の接遇（実習中の対象者や指導者とのコミュニケーション）・実践力（適応能力や対応力等）に対する評価を向上させる。また、国家試験全員合格を継続する。

3) 取組状況

前年度に引き続き、2学年以降の学生に学内で実技練習をさせたり、症例情報に基づく演習を多く取り入れたりしている。特に、3学年の学生には臨床実習を意識した授業を展開（実習前の実技試験：OSCE）している。また、各学年担任は、半期に一度、受け持ち学生と面談し、学習状況、生活状況、理学療法士へのモチベーションの有無を再確認しながら、学年振興に努めている。

4) 評価（成果および改善事項）

最終学年の臨床実習Ⅲ・Ⅳを終了して卒業にたどり着いた4学年28名は全員国家試験に合格し、開学以来の国家試験合格率は100%継続された。一方、休学中であった2名中1名は休学を継続し、他1名は退学した。また、1年次と2年次に単位を落とし、3学年の臨床実習Ⅱに到達しなかった留年生4名がおり、単位取得に向け努力している。

5) 次年度の方策

平成29年度同様に、国家試験合格率100%を目指し、実習中断となる学生がいないようにコンピテンシーに基づき、学生の評価を実施したい。

6. リハビリテーション学科作業療法学専攻

1) 教育方針

作業療法学専攻では、大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、対象者本位の作業療法の実践技術提供に資する人材を育成するため学生教育重視の実践を行った。また、国家試験の全員合格に向けて、課外活動を推し進めた。また、臨床実習に関して、学生の利便性や指導を考慮し、千葉県内での臨床実習施設の獲得等、前年通り実施した。

新しい試みとして、学部のコМПテンシーに基づき平成 28 年度から作業療法学専攻のコМПテンシーを作成し、カリキュラムの検討等をはじめ、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの再検討を行い、作成した。

2) 年度当初の重点課題

作業療法学専攻の教育活動における重点課題

知識・技術の確認と職業人としての態度の獲得を目的とし、「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の統合的として臨床実習の充実を課題とすることに変化はない。

3) 取組状況

平成 29 年度は開学 9 年目となり、昨年同様、1 年生は特色科目として「体験ゼミナール」では、健康な県民と交流を図ることで千葉県の地域の特性や千葉県で生活する人々の特徴を理解し、実習で対象となる人々を生活者としてとらえる視点を養うことが昨年と同様継続してできた。さらに、新カリキュラムにおいて、評価・治療学→演習→実習の科目の取り組む順序性には変化はない。

作業療法学専攻の専門科目として、新カリキュラムとして強化した「臨床体験実習」、「評価実習Ⅰ・Ⅱ」、「総合実習Ⅰ・Ⅱ」、「地域作業療法実習」を実施できた。「臨床体験実習」は主に千葉県内の作業療法を実施している様々な分野の病院・施設 20 か所（病院：14 施設：7）の協力を得て実施できた。また、「評価実習Ⅰ・Ⅱ」においては、身体障害分野施設数、23（Ⅰ期 15、Ⅱ期 13）〈精神障害分野施設数、11（Ⅰ期 6、Ⅱ期 5）〈老年期障害分野施設数、11（Ⅰ期 7、Ⅱ期 7）〈発達障害分野施設数、3（Ⅰ期 1、Ⅱ期 1）（県外施設の合計 4（Ⅰ期 2、Ⅱ期 2））にて実施され、作業療法評価について学習し、その前後において分野に沿った作業療法セミナーが開講された。分野は身体障害分野施設数、23（Ⅰ期 15、Ⅱ期 9）〈精神障害分野施設数 12（Ⅰ期 7、Ⅱ期 11）〈老年期障害分野施設数 1（Ⅰ期 0、Ⅱ期 1）〈発達障害分野施設数 2（Ⅰ期 2、Ⅱ期 1）（県外施設の合計 2（Ⅰ期 2、Ⅱ期 1））。ほぼ県内で実施可能であったが、学生の県外出身地域を勘案し、数か所県外の実習施設に協力を依頼した。「地域作業療法実習」は、県内 17 か所施設にて実施されうち 3 ヶ所は県外であった。

新カリキュラムにより総合実習が前期後半まで継続することになり、卒業研究、さらに国家試験などに影響が大きかった。国家試験合格は 19 名（21 名受験し 2 名不合格：合格率 90.5%）であった。

卒業論文は、各学生に対して担当教員を決め指導にあたり、発表会を実施し、卒業論文集を発行した。

4) 評価（成果および改善事項）

臨床実習については、総合実習Ⅰで 1 名本人の意思で実習を中止とし、進路について検討したい旨申し出があり、休学となった。他は大きな問題に至らなかったが、上記した実習中の進路検討については、個別的な要素が大きいが対策が必要と思われる。

5) 次年度の方策

平成 29 年度（4 月現在）において作業療法士の学校養成施設は、全国 192 施設の定員数は約 7 千 7 百人であり、平成 11 年度（4 月現在：施設数 97 施設、定員数約 3 千百人）と比べ、約 2.5 倍の増加となっている。また、高齢化の進展に伴う医療需要の増大や、地域包括ケアシステムの構築などにより、作業療法士に求められる役割や知識等が変化している。これらの社会情勢に鑑み、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」（昭和 41 年文部省・厚生省令第 3 号。以下「指定規則」という。）においてカリキュラムの改善、臨床実習の在り方、専任教員の要件などの改正が平成 32 年 4 月の入学生から適用することが考えられている。

これらの指定規則の動向も踏まえ、開学以来 3 回目の新々カリキュラムに向けて計画を立てる必要がある。また、専攻のコМПテンシーに基づき、アドミッション・ポリシー・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの作成を実施したので、これらに基づき、新しい指定規則を鑑みながら、「新々カリキュラムの平成 31 年度からの導入を目指す」こととする。

7. 学生による授業評価

FD の一環として、学生による授業評価アンケートを総務・企画委員会が担当して実施した。平成 27 年度より専任教員だけでなく非常勤講師の担当科目も対象としている。対象とした科目は前期・後期・通年で開講される講義および演習科目である。実施に際して予め担当教員にアンケート用紙を必要数配布しておき、それぞれの授業の最終日等、担当者の判断で適切な時期に実施し、学生が回収して事務局に提出した。

アンケートの対象科目は 394 科目で、履修学生数は 15,319 名であった。アンケートへの回答があった科目は 373 科目で、回答した学生数は延べ 10,561 名、回収率は 69.0%（平成 28 年度は 70.3%）であった。

回答があった 373 科目の合計の結果は表に示すとおりである。授業評価 1 について、「そう思う」「少しそう思う」を合わせた割合でみると、「復習を行った」（28 年度 44.1%・29 年度 43.8%）を除くすべての項目が 28 年度に比べ高い数値であった。項目毎でみると、「予習を行った」「復習を行った」はそれぞれ 31.9%、43.8%と低い数値であり、「この授業のシラバスは役に立った」は 66.4%とやや低い数値であった。その他の項目については、70～80%台と高い数値であった。また、授業評価 2 について、「はい」の割合は、「成績評価の方法を事前に理解していた」は 28 年度と比べるとやや低く（28 年度 93.1%・29 年度 92.7%）、「教員の話し方は聞き取りやすかった」「学生の理解度に対して配慮がされていた」はやや高い割合であったが、いずれも数値は 90%台と高かった。

以上より、回答があった 373 科目の合計の結果からは、本学学生が授業方法やその内容に概ね満足していることが推察できた。しかし、「予習を行った」「復習を行った」は例年低い数値であり、学生の主体的な取り組みを促すことに関して改善の必要がある。

なお、教員には、担当する授業科目の集計結果と学生からの自由記載によるコメントを通知した。そして、集計結果表の「教員からのコメント等欄」に、授業評価結果をふまえてのコメントを記載するよう依頼した。その記載欄を含めた全科目の集計結果表を学内において学生と教職員を対象として約 1 か月公開した。

平成 29 年度学生による授業評価 1 :実数

(人)

	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまり思わない	思わない・無回答	延回答数
授業に積極的に取り組んだ	4,859	3,921	1,529	184	70	10,560
予習を行った	1,649	1,717	2,897	1,773	2,524	10,560
復習を行った	1,998	2,634	3,052	1,390	1,486	10,560
この授業のシラバスは役に立った	3,832	3,177	2,894	386	271	10,560
授業の目標が明確に示されていた	4,935	3,474	1,801	230	120	10,560
内容がよく理解できるように準備されていた	5,421	3,401	1,366	257	115	10,560
授業内容が充実していた	5,877	3,113	1,269	194	107	10,560
教員の熱意が感じられた	6,244	2,975	1,096	163	82	10,560
教員の説明はわかりやすかった	5,696	3,131	1,336	255	142	10,560
授業方法に工夫がなされていた	5,372	3,257	1,546	267	118	10,560
全体としてこの授業を受けられてよかった	6,102	2,918	1,248	169	123	10,560

平成 29 年度学生による授業評価 1 :割合

(%)

	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまり思わない	思わない・無回答	延回答数
授業に積極的に取り組んだ	46.0	37.1	14.5	1.7	0.7	100.0
予習を行った	15.6	16.3	27.4	16.8	23.9	100.0
復習を行った	18.9	24.9	28.9	13.2	14.1	100.0
この授業のシラバスは役に立った	36.3	30.1	27.4	3.7	2.6	100.0
授業の目標が明確に示されていた	46.7	32.9	17.1	2.2	1.1	100.0
内容がよく理解できるように準備されていた	51.3	32.2	12.9	2.4	1.1	100.0
授業内容が充実していた	55.7	29.5	12.0	1.8	1.0	100.0
教員の熱意が感じられた	59.1	28.2	10.4	1.5	0.8	100.0
教員の説明はわかりやすかった	53.9	29.6	12.7	2.4	1.3	100.0
授業方法に工夫がなされていた	50.9	30.8	14.6	2.5	1.1	100.0
全体としてこの授業を受けられてよかった	57.8	27.6	11.3	1.6	1.2	100.0

平成 29 年度学生による授業評価 2 :実数

(人)

	はい	いいえ	無回答	延べ回答数
成績評価の方法を事前に理解していた	9,790	646	124	10,560
教員の話し方は聞き取りやすかった	9,787	647	126	10,560
学生の理解度に対して配慮がされていた	9,777	657	126	10,560

平成 29 年度学生による授業評価 2 :割合

(%)

	はい	いいえ	無回答	延べ回答数
成績評価の方法を事前に理解していた	92.7	6.1	1.2	100.0
教員の話し方は聞き取りやすかった	92.7	6.1	1.2	100.0
学生の理解度に対して配慮がされていた	92.6	6.2	1.2	100.0

8. 大学全体

1) 評価(成果および改善すべき事項)

平成 29 年度卒業生に対して実施した卒業時アンケート調査から、本学の教育目標への到達度をみると、多くの学生が各医療専門職としての基本的な実践力を身につけた状態で卒業していると捉えられた。しかし、「地域の健康づくりに貢献する力」について、身につけていないとする卒業生が若干多い傾向にあった。これは、今後地域包括ケアシステムが推進されていく中で、ますます重要となる能力であり、平成 31 年度導入予定の新々カリキュラムにおいて教育内容をさらに充実させていく必要がある。

また卒業時アンケート調査結果では、特色科目、一般教養科目、保健医療基礎科目、専門科目、いずれも教育に対する満足度は概ね高く、授業評価アンケート結果においても、授業全般に対する満足度は高く、学生にとっての教育内容は充実しているといえる。しかし、「予習を行った」「復習を行った」の項目は、例年同様、評価が低くなっており、時間外の自己学習を促進する方略について、教員レベルでの検討はもとより、各学科・専攻においても検討していくことが求められる。

授業評価アンケートについては、今年度、教員の教育力の向上を目的に教育ワークショップを実施した。各教員がアンケート結果をどのように活用しているかを共有し、教員個々の教育実践への取り組みに活かすことをねらいとした。また、現行の授業評価アンケートの課題や改善策についても意見交換がなされた。授業評価アンケート結果が教員の FD として機能するよう、より良い授業評価アンケートの実施に向け、今後検討を重ねていく必要がある。

さらに、平成 31 年度より導入予定の新々カリキュラムに関しては、現行カリキュラムの評価結果をまとめ、その結果を元に新々カリキュラムの方針を明確化した。ディプロマ・ポリシーの達成につながる教育課程について検討し、各学科・専攻でカリキュラムマップの作成に着手した。

2) 次年度の方策

引き続き、本学の教育目標の達成に向け、各学科・専攻で教育内容・方法を点検・評価し、改善に取り組む。毎年実施している教育ワークショップについては、教員の教育力の向上につながる企画を検討し、実施する。また、4 年一貫教育カリキュラムの構築に向け、カリキュラム・ポリシーを再検討し、新たなカリキュラム・ポリシーを確立する。新々カリキュラム策定の方針に則って、新々カリキュラムを完成させる。また、GPA 制度の導入に向けた教員の FD や学生への周知等、具体的な取り組みを進める。

V 学生の受け入れ状況

1. 学生の受け入れ方針

千葉県立保健医療大学学則において、第26条に「本学に入学することができる者」について定めており、入学選抜方法は、一般選抜、特別選抜(推薦入学及び社会人特別選抜)、編入学(3年次)となっている。また、各選抜種別に出願資格があり、「入学者選抜要項」に記載し、受験生および関係者に周知している。

本学が求める学生像については、大学ホームページ、学生募集要項に、大学および各学科・専攻のアドミッション・ポリシーを提示している。大学のアドミッション・ポリシーでは、まず大学の位置づけとして、「本学では、健康科学部の下に看護学科、栄養学科、歯科衛生学科及びリハビリテーション学科(理学療法専攻及び作業療法学専攻)を設置しています。

この1学部4学科2専攻の構成により、健康づくりなどの保健医療の高度化、専門化に対応できる人材、また、専門分野の異なる学科を単一学部とすることにより、関連する職種間の相互理解と連携の必要性・重要性を理解し、総合的なチーム支援ができる人材を育成することを教育上の理念としており、人の生命と健康に関わる保健医療系の国家試験受験資格の取得を前提目標として教育を行う」ことを述べた上で、「必要な基礎学力を有し、保健医療技術者としての適性を有する者を受け入れることを基本方針として、次のような学生を求めています。

1. 豊かな人間性や高い倫理観、生き生きとしたコミュニケーション能力を備え、温かく思いやりのある保健医療サービスを提供できる学生。
2. 責任感と柔軟性を伴う確かな実践力と新たな実践を作り出す力を生かして、多様な分野で他の専門職と協働しながら活躍できる学生。
3. 広く開かれた大学として、地域の人々との連携や交流をして、地域社会へ貢献する意識や生涯にわたる自己研さん能力を育むことができる学生。」

と定めている。

上記の大学のアドミッション・ポリシーは、入学時の能力よりも入学後に修得していく能力に重点を置いているが、各学科・選考のアドミッション・ポリシーでは、大学のアドミッション・ポリシーに則り、入学時にすでに備えている能力を表現し、提示している。平成28年度からは、大学全体のアドミッション・ポリシーを反映して、各学科専攻のアドミッション・ポリシーが学部全体として整合する方向へと整備され、より具体的な求める学生像を示すようになってきた。

(1)看護学科 医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求めます。

1. 看護を通して、社会に貢献する意欲がある人
2. 人々の生活や生き様に強い関心を持ち、相手の立場に立って考えることができる人
3. 知的好奇心が旺盛で探究心がある人
4. 幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
5. 自己を表現する力を持つ人

(2)栄養学科 栄養学科では、生命活動を分子レベルで理解することを基本とした栄養学分野を総合的に学び、豊かな人間性を備え、心身の健康に大きく貢献できる人材、人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求めます。

1. 管理栄養士の国家試験受験資格の取得を前提目標として学ぶ意欲を持つ人
2. 倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる人
3. 科学的な裏づけで得られた専門的な知識・技能を、健康づくりに貢献できる人
4. 多職種との相互理解を深めながらコミュニケーションや行動ができる人
5. 個人・家族・地域社会・他国への貢献や生涯にわたる自己研さんができる人

(3)歯科衛生学科 歯科衛生学科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心をもち、保健医療の国際化に対応できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求めます。

1. 口腔の健康に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人
 2. 豊かな人間性を備え、相手の気持ちを理解できる人
 3. 科学的な探求心を持ち、自ら意欲的に取り組もうとする人
 4. 想像力や表現力が豊かで、自分の考えや意見を論理的に説明できる人
 5. コミュニケーションを通じて人々と強調できる人
- (4)リハビリテーション学科理学療法専攻 理学療法士として社会に貢献する意思と能力を持った人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求めます。
1. 理学療法士の役割を理解し、理学療法士となる明確な目的意識を有している人
 2. 理学療法を学んでいくにあたって必要な基礎学力を有している人
 3. 自分の意見を適切な日本語で表現できる人
 4. 障害のある人に対してもない人に対しても、適切なコミュニケーション能力を有している人
 5. 保健医療福祉領域だけでなく広く社会に関心が高く、様々な問題に挑戦できる人
- (5)リハビリテーション学科作業療法専攻 豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求めます。
1. 対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることを望んでいる人
 2. 個人・家族・地域が健康的またはその人らしい生活を送るための健康づくり支援を提供したいと思っている人
 3. 人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めたいと思っている人
 4. 対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実現するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動する適性を持っている人
 5. 論理的思考による探求心を身につけ、自己研鑽に励み、倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たす適性を持っている人

なお、オープンキャンパスでの大学模擬授業・説明会や入学試験の面接において、多くの受験希望者や受験生から、本学への志望動機を語る中で、「チーム医療」「地域貢献」といった言葉が聞かれることから、本学のアドミッション・ポリシーは、受験希望者に浸透していると判断できる。

しかし、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準については、大学全体として検討されたことはなく、大学および各学科・選考としても明示されていない。大学模擬授業・説明会では受験希望者から質問を受けることがあるが、各学科・選考の教員個々の説明に任されている状況である。また、受験希望者へ求める具体的な学力を示す入学試験問題についても、開学以来公開できていないという問題がある。

なお、転入学・再入学・転学科等については、千葉県立保健医療大学学則第 31 条、32 条に定めており、申請があった場合は、規定に則り選考手続きを行っている。

2. 年度当初の重点課題

このアドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーも同様に、平成 27 年度から自己点検評価の対象となってきたものであり、これからも十分な検討が必要である。たとえば、大学のアドミッション・ポリシーと各学科のアドミッション・ポリシーとが、必ずしも整合していないなどの問題もある。

また、平成 27 年度からは、高等学校新指導要領が適用される新課程入学生を（旧課程配慮で）受け入れ、平成 28 年度からはセンター試験も新課程のみの対応となった。また、高大接続改革として、「三つのポリシー」に基づく大学教育改革の実現に向けて、文部科学省からの指示で公表に至った経緯がある。ただし、過年度卒や社会人などこれからも新・旧課程の入学生が混在した状況で、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの整合性が取れるかどうかとも検討が必要である。

さらに、平成 29 年度には、文部科学省から「各大学の入学者選抜では、『三つの方針』に基づき『学力の

3要素』を多面的・総合的に評価するものへ改善するための見直しを行います」と方向が定められ、三つのポリシーと学力の3要素との関係の中で、入学試験時の選抜評価方法を構築することが求められた。なお、「学力の3要素」とは、

- (1) 知識・技能の確実な習得
- (2) ((1)を基にした) 思考力, 判断力, 表現力
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

を示すもので、幼稚園から大学まで一貫して求められるものとなっており、教育における「学力」の再定義によって、日本における人材育成をも示すものである。さらに、この3要素によって、小・中・高の学習指導要領が再構築され、大学入学時から卒業時に至るまでの明示的な対応が求められることになった。すなわち、三つのポリシーと学力の3要素との関係を明示することが求められているのである。

また、学力の観点からは、これまでも入学者の学力把握については組織的な対応ではなく、1年次前期科目担当者による個別の対応(基礎学力テスト)やセンター試験受験科目と入学前の高等学校履修科目の調査(理科・数学等)にとどまってきた。教授会等へ報告を行っているものの、全学としての理解を得ているとは考えられず、新カリキュラムへの反映も検討に至っていない。さらに、3要素を加味した新カリキュラム構築のためには、三つのポリシーと学力の3要素との関係を、入学から卒業までの大学としての教育方針として示しつつ、今後も教育課程の整備(カリキュラム・ツリーやナンバリングによるカリキュラム構成の明示)を続けていく必要がある。

なお、入学試験における諸問題を解決するために、学内の入試実施部会・入試評価部会によるWGが設置され、三つのポリシーと学力の3要素との関係について、公開を前提とした資料作りが行われた。また、入試評価部会から申し入れを行ってきた入試問題開示の方向が入試実施委員会で議論され、平成30年度公開の方向で具体的対応措置を検討中となった。さらに、文部科学省は、高大接続改革の一環として、これまでに文部科学省へ寄せられた各質問への回答例を平成30年の6月までに公表する予定である。これは、「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直し」が平成30年の6月までに各大学に求められているためである。

ところで、平成25年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(いわゆる「障害者差別解消法」)が制定され、平成28年4月1日から施行となった。さらに、平成29年4月には、千葉県としての対応要領が公表され、あわせて大学としての対応要領も示されることになった。対応要領に基づいた実質的な対応については、組織的な行動指針が作成されたばかりで、適切な対応指針となる事例を収集している途中でもある。また、障害のある学生の受け入れについては、学生募集要項に「特別の配慮を必要とする志願者との事前相談」として、「障害を有する等、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、千葉県立保健医療大学学生支援課(表紙参照)まで連絡し、相談してください。」と記載しており、これまでどおりの事前相談を用意してきたが、今後とも「合理的配慮」についての全学的な対応が必要となる。

3. 入学者選抜状況

本学の入学定員は、看護学科80名、栄養学科25名、歯科衛生学科25名、リハビリテーション学科50名(理学療法専攻25名、作業療法専攻25名)、計180名、3年次編入学(看護学科)10名である。

選抜方法については、年度毎の入学者選抜要項、学生募集要項において明示するとともに、以下のように実施している。

<一般選抜>

前期日程で実施している。募集人員は各学科・専攻入学定員の6割である。大学入試センター試験の試験科目は、全学科、全専攻とも5教科である。平成27年度入学者選抜から、国語、地理歴史・公民、数学、外国語の4教科については、これまで通り各学科・専攻で共通した科目であるが、理科については、各学科・専攻で指定する科目が異なることとなった。平成28年度入試でも同じ対応である。

合否の判定は、大学入試センター試験及び個別学力検査等の結果と調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行っている。配点は、センター試験550点(国語、地理歴史・公民、数学、理科がそれぞれ100点、外国語が150点)、個別学力検査の小論文が150点、面接が100点である。出願者数とその学科・専攻の募集人員の3倍を超えた場合には、大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を実施し、第1段階選抜の合格者に対してのみ個別学力検査等を行う2段階選抜を実施している。

<推薦入学>

特別選抜として、推薦入学及び社会人特別選抜を行っており、募集人員は推薦入学と社会人特別選抜(若干名)を合わせて各学科・専攻入学定員の4割以内である。出願資格における評定平均値は、出願時までで3.8以上の者としている。推薦入学の可否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文と面接の試験を行い、その結果と調査書等の提出書類の内容について総合的に判定している。配点は、小論文が100点、面接が100点である。

<社会人特別選抜>

募集人員は若干名であり、推薦入学と社会人特別選抜(若干名)を合わせて各学科・専攻入学定員の4割以内である。社会人特別選抜の可否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文と面接の試験を行い、その結果と出願書類等の内容について総合的に判定して行っている。配点は、小論文が100点、面接が100点である。なお、小論文については、入学者選抜要項において、「英文読解を含む」と提示し、基礎的学力についても審査している。

<編入学(3年次)>

募集人員は看護学科10名である。編入学(3年次)の可否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文、専門科目及び面接の試験を行い、その結果と出願書類等の内容について総合的に判定して行っている。配点は、専門科目が100点、小論文が100点、面接が100点である。なお、小論文については、入学者選抜要項において、「英文読解を含む」と提示し、基礎的学力についても審査している。

以上のように、いずれの選抜においても小論文試験、面接試験を行うことで、基礎学力を含め、アドミッションポリシーに沿った選抜を行っている。

なお、平成24年度から実施されている現行高等学校学習指導要領による、平成27年度入学者選抜(一般入試)における大学入試センター試験利用科目を指定するにあたり、平成24年12月までに、学部、各学科・専攻において検討がされた。国語、地理歴史・公民、数学、外国語の4教科については、これまで通り各学科・専攻で共通した科目としたが、理科については、入学するにあたり修得しておくべき知識を検討した結果、各学科・専攻で指定する科目が異なることとなった。この検証は、今年度中に行われ、来年度入試へ反映する予定となっている。

また、平成28年度より、一般入試・特別選抜ごとの定員比率の見直し検討が開始された。さらに、看護学科編入学(3年次)についても、定員を満たしていない状況などから改廃の方向で検討が開始されている。

なお、平成29年度までの入学者選抜状況として、平成21年度開学時からの受験競争率(出願者数を合格者数で割ったもの)を示した(表1)。

表1 受験競争率の状況(出願者数/合格者数)

一般選抜

(倍)

年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
看護学科	3.9	4.0	3.4	3.9	3.5	5.0	2.8	2.7	3.7	3.4
栄養学科	4.5	3.4	4.6	4.8	5.4	6.9	3.5	4.3	4.1	4.4
歯科衛生学科	1.3	3.3	3.6	2.5	3.0	3.9	4.1	1.3	2.5	2.7
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	5.5	6.0	5.3	5.5	6.3	3.9	3.6	1.2	4.4	3.3
リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2.6	5.6	2.7	3.9	6.1	4.6	3.7	1.8	4.1	4.1

推薦入学

(倍)

年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
看護学科	1.8	2.7	2.4	2.7	3.0	2.3	2.6	3.4	2.4	2.9
栄養学科	2.8	3.9	4.0	3.4	3.4	4.4	3.1	4.4	2.7	3.9
歯科衛生学科	1.0	1.2	1.0	1.1	1.7	1.3	1.4	1.0	1.8	1.9
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2.6	4.1	3.9	4.1	2.5	3.3	3.1	2.6	2.3	3.0

リハビリテーション学 科作業療法学専攻	1.3	1.4	1.4	3.6	1.8	1.1	2.2	1.8	1.2	1.9
------------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

社会人特別選抜

(倍)

年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
看護学科	8.3	7.3	9.3	8.0	6.0	12.5	6.3	3.6	6.5	4.5
栄養学科	3.0	3.0	2.5	3.0	6.0	5.0	—	3.0	—	—
歯科衛生学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション学 科理学療法学専攻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション学 科作業療法学専攻	5.0	5.0	—	5.0	—	—	—	—	—	—

* —は、合格者がいない年度

編入学(3年次)

(倍)

年度		23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
看護学科		2.7	3.3	2.3	4.7	14.0	3.6	3.2	7.5

合格者数(辞退者の関係から定員よりも多めに取っている)に対する出願者数の割合である受験競争率は、一般選抜では、看護学科 2.7 倍～5.0 倍、栄養学科 3.4 倍～6.9 倍、歯科衛生学科 1.3 倍～4.1 倍、リハビリテーション学科理学療法学専攻 1.2 倍～6.3 倍、作業療法学専攻 1.8 倍～6.1 倍となっている。歯科衛生学科では、平成 21 年度が 1.3 倍であったが、その後 3 倍前後で推移している。理学療法学専攻はセンター試験科目変更時の落ち込みが甚だしい。作業療法学専攻については年度により倍率が変動している。他の学科・専攻については年度による変動は大きくない。この数年の変動が、センター試験科目を変更した影響による競争率の低下であるのか、科目変更以外の要因(県内の私立大学募集開始)であるのか、今年度中の検証が必要になる。あわせて、入学者の状況も勘案し、センター試験科目の変更も検討が必要になる。

推薦入学では、看護学科 1.8 倍～3.4 倍、栄養学科 2.7 倍～4.4 倍、歯科衛生学科 1.0 倍～1.9 倍、リハビリテーション学科理学療法学専攻 2.3 倍～4.1 倍、作業療法学専攻 1.1 倍～3.6 倍となっている。歯科衛生学科では、1.0 倍を維持している状況が続いており、作業療法学専攻も年度によっては 1.5 倍を下回っている。

社会人特別選抜は、看護学科、栄養学科、リハビリテーション学科作業療法学専攻については毎年受験者があり、受験競争率は、看護学科では 3.6 倍～12.5 倍、栄養学科では 3.0 倍～6.0 倍である。社会人特別選抜の募集人員は若干名であり、毎年看護学科では 2～4 名、栄養学科では年度により 1～2 名の合格者がある。作業療法学専攻は、3 名から 9 名の受験生があり、年度により 1～2 名の合格者がある。歯科衛生学科では、これまで 1 名の受験者があったが合格者は出ていない。リハビリテーション学科理学療法学専攻は受験生がなかった年度が 1 度あり、他の年度では 3 名から 10 名の受験生があったが、これまで合格者は出ていない。

看護学科の編入学(3年次)は、平成 23 年度より実施しており、2.3 倍～4.7 倍で推移しており、平成 27 年度入試が 14.0 倍、平成 30 年度入試が 7.5 倍と高倍率であった。

4. 学生募集のための取り組み

学生募集のために行っている広報活動は、以下のとおりである。

(1) 大学案内の作成・配布、ホームページへの情報掲載

入試実施部会が中心となり、大学案内を作成している。大学案内には、大学の教育理念、学部・学科の構成、カリキュラムの構成、各学科・専攻の教育内容、学生生活、初年度費用、選抜試験の日程と過去の選抜状況、就職進学状況、国家試験合格率を掲載している。大学案内は、個人での入手希望者への配布の他、オープンキャンパス・大学模擬授業・説明会・高校での模擬講義・説明会等で配布し、県内の高校へ送付している。また、平成 29 年度からは、大学入試情報誌からのダウンロードもできるようになっている。

ホームページには、大学の概要、入学者選抜要項、学生募集要項(アドミッションポリシーを含む)を掲載している。今年度中に本学ホームページの更改作業がネットワーク委員会を中心に開始され、魅力ある情報

発信が可能になる予定である。

(2) オープンキャンパスの開催

毎年、7月または8月の土日の2日間において、各日半日ずつ開催している。3回の全体説明会では、学長挨拶、大学紹介、入試説明を行い、並行して各学科・専攻で教育内容の説明、施設見学、体験学習、個別相談等を行っている。学生支援課による相談も行っている。来学者は毎年2日間で、2,000人程度(保護者等を含む)であり、平成28年度は2,184名・平成29年度は1,949名であった。来学者によるアンケートの結果から、受験希望者にとってオープンキャンパスの満足度は高いことがわかっている。また、地域の高校生からの希望を受けて、土曜日の午後・日曜日の午前という組み合わせの実施が参加しやすさを実現していると判断できる。なお、平成29年度の減少については、大学ホームページなどへの情宣の遅れが悪影響となったと考えられる。

(3) 高校での模擬講義・説明会等の実施、高校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

平成21～25年度までに大学に依頼のあった407件の高校訪問・高校からの本学訪問・大学模擬場行・説明会のうち321件について、のべ375名の教員が協力した。高校訪問・大学模擬授業・説明会の内容は、高校や指定会場での本学と各学科の説明、模擬講義等である。高校からの本学訪問については、本学と各学科の説明、模擬講義、施設見学等、高校からの依頼に合わせて随時対応している。

高校訪問・大学模擬授業・説明会等への出席件数および派遣教員数の実績は下記表2の通りである。依頼される件数が開学時より平成23年度まで年々増加し、すべての依頼に対応するには教育・研究に支障が出てきたため、平成24年度からは過去に出席した教員の意見等を踏まえた出席についての基本方針(県内優先・入学者出身高校優先・1施設1回の原則等)を定め、それに則り出席を検討して実施している。

表2 高校訪問・大学模擬・説明会への出席件数および派遣教員数

年度	依頼件数	出席件数	派遣教員数(延数)	出席者数(延数)
平成21年度	45	42	54	—
平成22年度	79	69	93	1,431
平成23年度	103	93	104	2,129
平成24年度	94	61	64	1,392
平成25年度	86	56	60	1,210
平成26年度	85	43(資料参加を含めると56)	46	1,068
平成27年度	74	43(資料参加を含めると60)	45	1,117
平成28年度	98	67(資料参加を含めると86)	73	1,538
平成29年度	134	83(資料参加を含めると117)	89	2,082

(4) 受験情報誌への情報提供

受験情報企業等からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で、学生支援課による情報提供を行っている。なお、昨今の入試改革の影響もあり、学内委員会(入試評価部会)の情報収集も加味した内容になっている。

以上のような広報活動を行う中で、本学のアドミッション・ポリシーや教育内容への理解を促し、適性のある受験生に受験の意思決定をしてもらえるようにしている。

(5) 入学者選抜の実施体制

入学者選抜の実施体制は、以下のとおりである。

入試委員会…学長直属の委員会であり、委員長は学長、所掌事務は「1.学生の募集に関すること、2.入学者選抜に関すること」である。

入試実施部会…入試委員会の部会であり、所掌事務は「1.学生の募集に関する事項、2.入試の計画及び実施に関する事項、3.その他入試の実施に関すること」である。

入試評価部会…入試委員会の部会であり、所掌事務は「1.入学者選抜試験問題及び入学者選抜試験結果の分析に関すること、2.入学者選抜試験実施の評価に関すること、3.入学者選抜試験に関する改善の検討に関すること、4.その他入学者選抜試験の調査及び評価に関すること」である。

なお、可否の判定については、入試委員会・教授会での審議を経て決定される。

(6) 入学者選抜における公正性を確保するための措置

問題作成者氏名、試験問題については、入試委員長を筆頭にした数人と問題作成者だけが知り得ている。問題作成者氏名、試験問題に関して、口頭で秘密保持を説明し、誓約書の提出は求めている。

いずれの選抜においても、校正は3回行い、引用文献の妥当性、設問と模範解答の適正、採点基準の内容と配点を吟味している。印刷作業についても、他の教職員が立ち入らない状況で、入試実施部会長他最少人数で行っている。

小論文試験の採点は、数個の採点班に分かれ、評価の視点・評価表を用いて一人の受験生について複数の教員で採点している。採点基準の説明後、採点班の責任者を中心に採点基準の相互確認を実施している。採点終了後の点数確認の際、点数差の大きい場合は採点班の全員で採点内容を確認している。採点終了後に採点班の全員で点数を確認し、後日、入試実施部会員による入力作業の際、評価点及び小計を確認しながら入力している。

面接試験に関しては、各学科・専攻毎に、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜が行えるように事前に評価基準を作成し、判断の偏りをできるだけ小さくするようにしている。

なお、教授会における可否判定の際には、受験番号のみで行っている。

(7) 入学者選抜における透明性を確保するための措置

配点については、入学者選抜要綱、学生募集要項に掲載している。すべての選抜で、試験問題や評価観点の公開、合格に関する得点の公開などはしていない。

入試の個人成績の開示については、個人の総合得点のみを開示している。平成30年度入試で開示を求めたのは53件(特別選抜35件、編入学2件、一般選抜16件)であった。

(8) 入学者選抜の検証体制

入学者選抜の検証作業は、入試評価部会が行っている。毎年、それぞれの入試の選抜結果について、小論文・面接など入試科目の得点から選抜に有効に機能する試験が行われたか、小論文試験の内容・採点時の評価指標は妥当であったかを検討し、評価している。

また、その年の入試結果の特徴や、入学後の学生の傾向から注目した点について、項目間の関連などを分析し、入試の妥当性について評価している。平成26年には1期生について、入学時(入学者選抜)の試験区分と入学後の修学状況について追跡調査を行い、入試評価を行った。平成27年からは、新課程入試対応の状況が入学試験情報そのものでは把握できないため、入学後に高等学校理科学科履修状況、センター試験科目選択状況とさらに、理科の自己診断テスト(および情報リテラシーI 授業内で、中学程度の数学チェック)を行い、具体的な特徴を捉えようとした。

それぞれの入試について、各担当教員に入試実施後のアンケートを依頼し、入試の運営について意見を得ている。平成28年度からは出題者へもアンケートを実施することにした。なお、まとめた結果は、入試評価部会から入試実施部に資料として提出し、次年度以降の入試運営に活かされている。

なお、29年度入学試験において、全国の国立大学で出題ミス・採点ミス・合格者の判定ミスが相次いだ。そのため、文部科学省は各大学へ入試におけるミス防止体制構築へ注意喚起を行った。

5. 学生の在籍状況

平成30年3月31日現在の在籍学生総数は733名であり、収容定員(740名)対比は99%である。学科・専攻別の収容定員対比は、看護学科が97.6%(在籍学生数332名、収容定員340名)、栄養学科が102%(在籍学生数102名、収容定員100名)、歯科衛生学科が97%(在籍学生数97名、収容定員100名)、リハビリテーション学科理学療法専攻が103%(在籍学生数103名、収容定員100名)、作業療法専攻が99%(在籍学生数99名、収容定員100名)である。

<退学者>

開学時から平成30年3月31日現在までの退学者総数は38名である(表3)。学科別では、看護学科10名、栄養学科7名、歯科衛生学科6名、リハビリテーション学科理学療法専攻10名、同作業療法専攻5名である。

退学した38名の退学理由のうち、多くは進路変更であり、若干名は家庭の事情(経済的理由含む)であった。退学した学年は3年次が最も多いが、ほとんどの退学者が休学期間を経てから退学しているため、

事実上は1～2年次の段階で履修を中断している。入学総数(除籍・編入学を除く)1,440名に対し、退学者は2.6%の割合であるが、退学理由の多くが進路変更であることから、受験生に対し、入学前に本学の教育内容等について理解を促すことが必要である。

表3 退学者数

2018年3月31日現在 退学者(休学後退学)数

学科等 入学年度	看護 学科	栄養 学科	歯科衛生 学科	リハビリテーション 学科 理学療法学専攻	リハビリテーション学 科 作業療法学専攻	計
平成21年度	4(3)	1(1)	0	2(2)	1(1)	8(7)
平成22年度	1(1)	1	1(1)	0	2(2)	5(4)
平成23年度	0	3(3)	1	2(2)	0	6(5)
平成24年度	0	0	0	2(2)	0	2(2)
平成25年度	1	2(2)	1(1)	2(2)	0	6(5)
平成26年度	1(1)	0	0	1(1)	0	2(2)
平成27年度	2(2)	0	1(1)	0	0	3(3)
平成28年度	0	0	1(1)	0	0	1(1)
平成29年度	1(1)	0	1	1(1)	2(2)	5(4)

6. 評価(成果および改善すべき事項)

学生の受け入れ方針を広く社会に明示しており、その方針に沿って公正かつ適切な学生募集および入学者選抜を行っている。また、入学者選抜の検証体制も整っている。開学時以降、学生収容定員と在籍学生数の比率は適切に保たれている。

(1) 効果が上がっている事項

入学者選抜状況で示したように、歯科衛生学科では推薦入学の受験倍率(合格者数/出願者数)が1.0倍を維持している状況であるが、それ以外は、各学科・専攻において一般選抜では3.0倍～6.0倍程度、推薦入学については2.0倍～4.0倍程度の受験倍率を保っている。高校での模擬講義・説明会やオープンキャンパス等において、大学の理念や教育内容が理解され、志願者数が確保されていると考えられる。

入試委員会と入試実施部会による入試の実施体制・検証体制の検討の取り組みにより、入学者選抜の手続きは公正に行われ、その検証を入試評価部会で実施している。

(2) 改善すべき事項

大学のアドミッションポリシーは受験生・社会一般に明確に提示してあるが、入学時の能力よりも入学後に修得していく能力に重点を置いている。一方で、各学科・選考のアドミッションポリシーにおいて、入学時にすでに備えている能力を表現している。大学のアドミッションポリシーについて、入学時にすでに備えている能力としての表現を検討する必要がある。また、大学のアドミッションポリシーと学科専攻との整合性も保つ必要もある。さらに、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準(いわゆる学力)については、大学全体として検討されたことはなく、大学および各学科・選考として明示もされておらず、入学後の履修を円滑に進めるために志願者への情報として明示する必要がある。

情報公開に関して、入試結果については、個人の総合得点のみを口頭開示しているほかは、試験問題や合格に関する得点の公開などはしていない。これからの入学者選抜における透明性を確保するための措置として、具体的な情報開示について検討する必要がある。

個別の入試については、社会人特別選抜は、募集人員は若干名としているため、年度により志願者数に差があることが問題であると認識されてこなかった。入学生が出ていない学科もあり、社会人特別選抜のあり方について検討が必要である。看護学科の編入学(3年次)は、受験倍率は2.3倍～4.7倍で推移しているものの、各年度の入学者は5～7名であり、入学者がいないこともあった。編入学定員に対する編入学生数比率は、0.50～0.70である。今後、定員数の検討、または試験の評価方法を検討し適切な定員充足を確保する必要がある。なお、協議結果を医療整備課の方へ提出し、回答を待っている状況である。

また、平成27年度入学生からは、センター試験入試科目が学科専攻によって異なり、また、科目数も変

更したため、受験者層自体が変化した可能性がある。入学生の学力動向については、従来から一般選抜と特別選抜（社会人入試・編入学試験含む）の学力差（一般選抜の方が高い）とだけしか想定されていないため、入学生の学力実態という本質的な問題が見えなくなっている恐れがある。今後とも入学時の学力把握を行い、卒業時まで追跡する必要がある。さらに、入学時の学力測定とカリキュラムの適正な設定など、検討すべき課題が残されている。

なお、いわゆる「障害者差別解消法」への対応については、具体的な要綱を定めた後、組織的な対応が必要となるため、今後とも組織整備が必要である。

7. 次年度の方策

アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、いわゆる三つのポリシーの適正な関係を示した上で、さらに、大学のアドミッション・ポリシーと各学科のアドミッション・ポリシーとを整合させる必要がある。さらに、高大接続システム改革会議「最終報告」平成28年3月31日に報告されている方針に則り、今後の整合性の維持、さらには三つのポリシーと学力の3要素との関係を整理したうえで、学生募集の方針と入学者の受け入れ（カリキュラム整備）を行う必要がある。

入学試験問題の公開は喫緊の課題であり、多くの県内高校からも求められてきた（県内高校への訪問時に必ず課題とされてきた）。予算的な問題（公開するために著作権処理の予算が認められない）はあるものの、公開方針の決定を受けた、具体的な方策を策定する必要がある。

平成27年度から高等学校新指導要領が適用される新課程入学生を受け入れ、3年が経過した。社会人を含め、新・旧課程の入学生が混在した状況で、学生の学修が適正に行われるかどうかを今後とも追跡する必要がある。さらに、高大接続改革でも予告されている大学に求められる学士力の担保に向けた、入学から卒業までの一貫した指導を、高校の教育課程改革を理解した上で実現する必要がある。さらに、新課程で重視される「主体性」評価については、文部科学省からの方向性がまだはっきりしていない段階であるが、今後とも情報収集を繰り返し、本学としての方針を決めて公開する必要がある。

また、いわゆる「障害者差別解消法」に対応した学生受け入れ体制を整える必要がある。文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会（第一回）」（平成28年4月）によれば、身体的ばかりでなく、いわゆる発達障害を含む学生が急増しており、組織的な教育体制を整えることも行わなければならないことが指摘されている。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/074/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2016/05/19/1370967_3.pdf

なお、（独）日本学生支援機構からは、平成27年3月に「教職員のための障害学生修学支援ガイド（平成26年度改訂版）」https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/guide_kyouzai/guide/index.html が出されており、組織的対応を促されている状態にある。

VI 学生支援

1. 年度当初の重点課題

学生部（学生委員会・進路支援委員会）は、「学生支援に関する方針」に基づき、学生支援のあり方を検討し充実を図っていく。所掌事務に関する活動を計画的に行っていく。特に、障害を有する学生への支援のあり方を早急に検討し学生・入学志願者に周知する。

平成 29 年度重点施策のうち、学生委員会が担当する「学生と学長、学部長、学生部長の懇談会」を計画的に実施していく。進路支援については、学生が希望する進路にすすむことができるよう、また、県内就職の推進に向けて、所掌事務に関する活動を計画的に行う。また、進路支援委員会を中心に「平成 29 年度卒業時調査」を実施する。各学科専攻については、学科専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

2. 活動内容

1) 学生委員会

- (1) 学生の福利厚生：①千葉県が定めた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する千葉県職員対応要領」に基づき、「千葉県立保健医療大学における障害学生への修学支援に関する指針」を検討・作成し、大学 HP で公開するとともに、H30 年度学生ハンドブックへ記載した。また、FD・SD「障害者差別解消法について」（FD 委員会と合同企画）を開催した。②学生から教員への相談について実態調査を行った。③「学生団体と学外団体（企業等）の共同活動についての申し合わせ」について検討した。④学生に対し DV 予防セミナーを開催した。⑤平成 29 年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。トイレ内の荷物掛けフックを整備した。後援会から学生会に寄贈された物品（自転車、湯沸しポットなど）を学生がうまく管理できるよう支援した。県庁生協幕張売店の販売品に関して学生にアンケート調査を行い、幕張売店へ結果を渡した。県庁生協による仁戸名キャンパスの無人販売の導入を検討した。⑥学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。平成 30 年度学生保険について検討した。⑦「平成 30 年度学生ハンドブック」の内容を検討した。
- (2) 学生の保健衛生：①平成 29 年度健康診断を実施した。健康診断結果を 4 月中に実習施設に提出する必要があるリハビリテーション学科 4 年生数名については、昨年度整備した方法により学校医のクリニックで健康診断を実施できるようにした。診断結果に基づき学生指導を行った。②平成 29 年度ワクチン接種計画（B 型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。③平成 30 年度健康診断の実施計画について検討した。④「平成 30 年度自己健康管理ファイル」の内容を検討した。
- (3) 学生の課外活動：①学生団体（学生サークル）設立申請を審議した。②グラウンド整備物品（草取りの道具）を整備した。③大学祭の実施を支援した。④新入生歓迎会・スポーツ大会等の学生会の活動を支援した。⑤学生会の運営について助言・支援した。
- (4) 奨学金等貸与：日本学生支援機構奨学生を選考し推薦を行った。
- (5) 授業料等の減免：授業料減免（前期・後期）について審議した。
- (6) 教授会が付託した事項：千葉県立保健医療大学学生表彰について検討した。
- (7) 後援会、同窓会：①学生支援のために後援会理事会と連携した。②後援会からの要望をうけて県庁生協幕張売店および仁戸名キャンパスでの販売において学生応援フェアの開催を支援した。③同窓会へ大学祭への支援を依頼した。④卒業生への同窓会入会に関して支援を行った。
- (8) その他：①平成 29 年度卒業式の運営について検討した。②自己点検・評価委員会の IR 部会の検討に関して委員を選出し学生委員会としての意見を提出した。
- (9) 平成 29 年度重点施策：①同窓会・校友会設立へ向けての検討を行うワーキンググループの会議を行った。②学生と学長、学部長、学生部長との懇談会を年 5 回開催した。

2) 進路支援委員会

- (1) 就職・進学支援：①学科専攻と連携を図り、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。②平成 28 年度キャリアセミナーの評価をふまえ、平成 29 年度第 1 回・第 2 回・第 3 回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。③進路情報室の運営を行い、利用状況の把握

を行った。幕張キャンパスの進路情報室にハローワーク・ジョブサポーターの派遣（週1～2回）を依頼した。また、仁戸名キャンパスの学生が、就職相談ができるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月～11月の毎週火曜日）が実施された。学生には好評であった。④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（情報提供）もいただいた。⑤平成29年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。⑥平成30年度の「進路ガイドブック」等の内容を検討した。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。⑧平成29年度就職率は98.9%であった。

- (2) 国家試験対策：①平成28年度国家試験結果をとりまとめた。②学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が学生と連携し、助成を受けられた。④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。⑤平成29年度国家試験合格率は、保健師85.2%、助産師100%、看護師100%、管理栄養士92%、歯科衛生士100%、理学療法士100%、作業療法士90.9%であった。
- (3) 県内就職の推進：①平成29年度県内就職率は62%（前年度63.5%）であった。②進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。
- (4) 教授会が付託した事項：平成29年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）を行い、調査を計画・実施した。

3. キャンパスハラスメント

- ①入学生に向けて、ガイダンスでキャンパスハラスメントとその対策について説明をすると共に、しおりを配布した。
- ②本学におけるキャンパスハラスメントの実態を把握し、キャンパスハラスメントの防止施策や意識改革に反映させ、本学の教育・職場環境の改善を図ることを目的として、在学する全学生および教職員を対象にアンケート調査を行った。
- ③キャンパスハラスメントの防止意識を高めるために、教職員を対象にキャンパスハラスメント防止に関する講演会を開催した。

4. 各学科・専攻の取り組み

1) 看護学科

(1) 年度当初の重点課題

個別履修支援が必要な学生に対して個々の学生の状況に応じかつ履修規定に則った適切な支援を行うこと、進路支援については学生が主体的に進路を選択できるように必要な情報提供・支援を行うこと、同時に県内就職の推進を強化することを課題とした。また、国家試験受験対策について学生が積極的かつ効果的に進められるよう支援を強化することを課題とした。

(2) 取組状況

修学・生活・進路に関する学生支援体制について、看護学科担任制マニュアルに基づき、1年生には教員8名、2年生には教員9名、3年生には教員6名、4年生には教員2名を配置した体制で担任業務を遂行した。なお、1・2年生に対しては、学生生活の状況やニーズを把握するために、年度当初と前期終了時に学生と担任との懇談会を開催し、必要時には個別面接も併せて行うこととした。また、4年生に対しては、学生生活・修学に関する支援のみならず、就職活動や国家試験受験に向けた支援を併せて行う必要があるため、看護研究の指導を担当する教員も担任業務の一部を担う支援体制を整え、学生の求めに応じて随時、相談に応じるようにした。必修科目単位未修得がある学生等に対し、適切な指導ができるように「個別支援が必要な学生に対する履修計画の指導方針」を「看護学科担任制マニュアル」に追加する形で新たに作成した。マニュアル類は共有フォルダに格納し、担任・担任リーダーによる適切な指導がなされるように整備した。

進路支援においては、就職活動が本格的に開始される3年生を対象に、進路支援ガイダンスを年2回（6月・12月）、保健師・助産師・看護師として就職を予定している4年生と話す会（12月）、および卒業生と話す会（2月）を進路支援事業として実施した。各事業において、就職活動の時期が早まっている動向や学生から相談の多い事項を踏まえて工夫・改善を加えて実施した。3年生の6月と12月および4年生の12月に就職活

動の動向を把握する調査を行い、進路支援事業の改善や後輩学生への情報提供に活用した。また、県内就職の推進については、各ガイダンスにおいて、特に特別選抜により入学している学生の自覚を促すようにアナウンスを強化した。加えて「推薦状作成に関するマニュアル」を作成し、進路支援を適切に行うとともに、県内就職についての意思の確認を明記し整備を図った。

国家試験受験対策は、学生の希望を基に、3年生は低学年模擬試験、4年生は模擬試験(看護師3回、保健師2回、助産師3回)、特別講義「国試の傾向と対策(90分)」、「疫学保健統計を中心にした保健師国家試験対策(90分)」「解剖生理学を中心とした看護師国家試験対策講座(90分)」の実施に向けて支援を行った。また、今後の適切な支援のあり方を検討するために4年生を対象に国試対策に関するアンケートを実施した。国試不合格者に対する申し合わせ事項について、卒業1年間は、卒業生の意向に沿って教員が支援を行う手順等を整理した。

(3) 評価(成果および改善事項)

学生支援においては、履修計画の指導方針を明文化したことにより円滑に支援を行うことができた。進路支援においては、就職率100%であった。引き続き、首都圏では採用試験の時期が早まっている傾向が見られており、情報提供の時期や内容の検討が必要である。国試対策においては、看護師・助産師国家試験合格率は100%であったが、保健師国家試験合格率は85.23%(全国85.6%)であった。不合格学生への支援とともに国試対策が効果的に行えるよう対策を改善することが課題である。

(4) 次年度の方策

学生生活・修学支援においては、担任の交代に際し切れ目なく支援が行われるように引き継ぎを強化し、新担任・担任リーダーが各マニュアルの内容を理解して適切に支援できるようにしていく。進路支援事業については、現行の事業を工夫・改善しながら継続し、積極的に情報提供を行っていく。また、国家試験対策アンケートの分析結果も踏まえ、国試対策の見直し・強化を行う。県内就職の推進については継続して取り組みをすすめる。

2) 栄養学科

(1) 年度当初の重点課題

これまでと同様に担任・副担任を主とした学生支援を充実させる。4年生に対しては、国家試験対策委員会を中心に管理栄養士の国家試験合格率100%を、就職支援委員会を中心に就職率100%を達成するように、学科教員全委員で支援する。就職は県内への就職を優先する。学科会議では支援すべき学生に対する共通理解を図り、共通性のある指導を行うことを心がける。

(2) 取組状況

各学年に担任・副担任を1名ずつ配置し、学生を支援し学科会議でも報告してもらい学科全体で学生支援を行った。臨地実習【臨床栄養(必修)12施設・給食経営(必修)16施設・公衆衛生(選択)24施設および栄養教育実習(選択)10校(県内7校、県外3校)は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。栄養管理臨地実習(選択)は希望者がなかった。

就職活動の支援は3年次から進路支援委員会を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩(公務員合格者)による受験対策講和や業務内容の説明会を実施した。4年次は担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、全教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動はサークル顧問、文化祭の出店支援は学生委員および給食経営管理担当教員、学習・生活指導、情報処理ガイダンスの相談などは各教員、文科省のインターンシップは学科長が担当した。ポートフォリオは全教員の対応可能時間を掲示し、いつでも対処できる体制を学生に示した。国試対策は国家試験対策会議を設置し科目担当者による国試対策講習会、6回の内・外部模擬試験を計画・実施、さらに成績不良者には、毎回の模試終了後の面接指導も実施した。

(3) 評価(成果および改善事項)

6期生(平成25年入学)は全員卒業(25名)。管理栄養士の国家試験合格率は92%、就職率は就職を希望した学生については100%、(県内就職率44%(昨年:55%))と減少した。就職者は全員希望する職場に就職でき、その内訳は病院21%、官公庁(行政、学校)25%、一般企業(管理栄養士・栄養士として食品会社、給食会社等に勤務)50%、児童福祉施設4%であった。1名は、希望する職場への就職をめざし就職準備を行っ

ている。国家試験合格率及び就職率の100%達成をめざすと共に、県内就職率の向上を図りたい。

(4)次年度の方策

国家試験合格率100%を目指し、内・外部模擬試験の成績不良学生に対するアドバイスの強化を実施する。県内就職については、県内の就職先の紹介を強化する。

3) 歯科衛生学科

(1)年度当初の重点課題

学業不振学生や学修意欲の低い学生に対する学修支援を充実させる。また、千葉県内医療機関への就職率向上に向けて関係団体との連携をはかる。

(2)取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は、教務委員会と学生委員会が中心となっていて行っているが、さらに担任・副担任制の導入により、学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には、履修ガイダンス、オフィスアワーによる学修支援、キャンパスハラスメントへの対応、健康管理に関する支援、個別学生相談への対応などである。

学修支援については、専門科目の教育において、各教員が独自の教材作成とそれを用いた講義・演習・実習を展開し、教育の質の向上をめざした。学外の臨床・臨地実習では、実習施設との事前打ち合わせや実習施設担当者による特別講義を行って連携を図り、実習が円滑に遂行できるよう体制を整えた。

進路支援については、求人状況に関する情報提供、エントリーカード・履歴書の記載方法、小論文の添削および模擬面接等の対策をハローワーク(公共職業安定所)の協力を得ながら支援した。また、卒業生と在学生(3,4年生)との交流の機会を設け、卒業生から就職した病院、歯科診療所、行政、企業等の詳細な仕事内容について情報提供と意見交換が行われた。さらに、進路が決定した4年生から3年生に向けて就職活動等の情報を提供する機会を設けた。国家試験対策については、進路支援委員会を中心に、学外模擬試験を2回実施するとともに、試験科目に対応した特別講義を実施するなど理解の強化をはかった。

(3)評価(成果および改善事項)

学修意欲の低い学生に対して、担任・副担任および教務委員が個別面談を実施し、自律的な学生生活が送れるよう支援した。国家試験合格率は開学時からの目標である100%を維持した。千葉県内への就職率向上のため、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士会、県内歯科衛生士養成校と協力して、新たに就職活動セミナーを開催するなどの対応策を実施したが、就職率は前年度の実績を下回る結果となった。

(4)次年度の方策

国家試験合格率100%を維持するとともに、千葉県歯科医師会等関係団体と連携して県内就職率向上を目指す。

4) リハビリテーション学科理学療法専攻

(1)年度当初の重点課題

前年度に引き続き、学生の臨床実習が無事に遂行できるように学内教育と実習施設との連携に心掛ける。昨年度から、臨床実習におけるメンタル不調者を出さないよう、学生の日常生活態度等の変化を見過ごさないように毎週はじめに学生から睡眠時間等を記載した日常生活記録をさせ、実習訪問の担当教員にメールで提出することにした。

(2)取組状況

前年度と同様、各学年担任による半年に一度の面接に加え、9月下旬に卒業生を囲む会を引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すように試みた。かつ理学療法士になるモチベーションをより高めさせている。メンタル不調者を早期に発見できるよう専攻会議において教員の情報共有をしている。進路支援・国家試験対策は前年度と同様に継続している。国家試験の模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生には、個別対応をしたり、会議室に集合させたりして、個人のための勉強方法は避けるように工夫をした。また、臨床実習Ⅱ(評価実習)からⅢ・Ⅳ(総合実習)まで日常生活記録を学生に記録させ、毎週はじめにメール等で提出することを義務づけ、メンタル面の異常の早期発見を試みている。

(3) 評価(成果および改善事項)

臨床実習Ⅰ(体験)とⅡ(評価実習)前に接遇やリスク管理に関する講義と演習を毎年度と同様に実施し、臨床実習に臨むことができた。臨床実習Ⅱを目前に、臨床前実技試験(OSCE)を実施し、実習に臨む学生の不安を払拭するように努力した。結果、一人の落伍者もなかった。

(4) 次年度の方策

平成29年度は、前年度と同様にメンタル不調が臨床実習中に発覚し、実習が中断としないようにした。事前にメンタル不調者を見逃さないようにし、学年担任からの早めのカウンセリング勧告を心掛ける。メンタル不調者以外で学習意欲の低い学生に対しても関わりを持って、モチベーションの確認を心掛ける。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 年度当初の重点課題

①カリキュラム上、1年生の授業は、前期は全て幕張キャンパス、後期は水曜のみ仁戸名キャンパスで行っている。2年生は火・木曜日は仁戸名、他の曜日は幕張キャンパス。3・4年生はほぼ毎日仁戸名キャンパスで学習している。1年の負担は軽くなったものの2年の移動負担が大きく課題として残る。

②作業療法士国家試験の全員合格を課題とする。

(2) 取組状況

①作業療法学専攻は担任・副担任制をとっている。学生は、臨床実習が始まり、作業療法士としての適性や就職などの問題に対して、担任や副担任が個別に対応している。他の学生支援としてサークル顧問に対応した。

学生は、学年間の交流を図るため先輩が後輩の相談などをとれるようチューター制の形式をとり、学生が自主的に1年～4年を小グループにわけ、各グループに、交流会など実施している。また、専攻としては、年に1回、卒業生を招いて千葉県の各分野の職場について紹介し交流を図っている。

教員が仁戸名キャンパスに常駐しているため、主に幕張キャンパス(1年生、2年生)に通学している学生に対しては、オフィスアワー等で対応した。一方、移動などの時間的制約があるため急遽、問題は発生した時など随時対応を行うことは難しい。作業療法学専攻の学生支援における重点課題として、問題発生に対して即時対応できる体制づくりが必要である。また、進路支援や国家試験対策に関して、専攻会議を開き、情報の共有と対策について検討実施している。

②学生が自主的に参加できるようグループを編成し、教員は学習の場の提供と模擬試験の実施、さらに学習成果がみられない学生に対して個別指導を受けるよう指導する。

(3) 評価(成果および改善事項)

①指導や卒業生の交流会など実施が行われている。千葉県への就職率は昨年同様高い。

②国家試験において21名中合格19名、不合格2名となる。

(4) 次年度の方策

卒業生と交流会の継続と国家試験への対応の継続のため、学生の各々の生活・学習の障害を把握し、その改善に向けて、環境あるいは個人への介入を実施し、国家試験の全員合格に向けて、課外活動を推し進める。

5. 平成29年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

1) 調査の概要

本学の学生支援(修学支援・生活支援・進路支援)に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②本学の教育目標への到達度、③4年間の学生生活に対する取り組みの程度、④本学の学生支援に対する満足度、⑤実施した就職・進学活動についてである。調査時期は2017年12月～2018年2月で、学科・専攻ごとに実施した。

2) 調査の結果

(1) 対象者の概要

卒業生180名中175名から回答が得られた(回収率97.2%)。所属学科は、看護学科81名(46.3%)、栄養学科25名(14.3%)、歯科衛生学科24名(13.7%)、リハビリテーション学科理学療法学専攻26名(14.9%)、リハビリテーション学科作業療法学専攻19名(10.9%)であった。

(2) 本学の教育に対する満足度

「特色科目」「一般教養科目」「保健医療基礎科目」「専門科目」「時間割」「4年間のカリキュラム」「履修ガイダンス」「シラバス」「WEB履修システム」等17項目について満足の程度を4段階で尋ねた。17項目中16項目において7割以上の者が「とても満足」「やや満足」と回答した。「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が7割を下回る項目は「学外実習：実習までの交通の便」65.3%の1項目のみであり、平成28年度より少なかった。

(3) 本学の教育目標への到達度

本学の8個の教育目標について到達の程度を4段階で尋ねた。平成28年度と同様に、すべての教育目標において8割以上の者が「十分に身についた」「ある程度身についた」と回答した。

(4) 4年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「進路・キャリアの検討」「国家試験のための学習」「サークル活動」「いずみ祭」「友人等との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア活動」等15項目について、取り組みの程度及び活動から得たものの大きさの程度を4段階で尋ねた。15項目中12項目において7割以上の学生が「とても熱心に取り組んだ」「やや熱心に取り組んだ」と回答し、得たものも「非常に大きい」「やや大きい」と回答した。特に「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習：講義」「専門科目の学習：演習等」「専門科目の学習：学外実習」は、9割以上の学生が熱心に取り組み、得たものも大きいと回答した。この結果は、平成28年度の結果と同様の項目に「保健医療基礎科目の学習」が加わったものであった。また「友人等との交流」も9割以上の学生が熱心に取り組み、得たものも大きいと回答した。一方、取り組みの程度の低かった活動は「サークル活動」44.3%、「いずみ祭」43.6%、「ボランティア活動」41.0%で、得たものも小さいと回答した。いずれも平成28年度と同様の結果であった。

(5) 本学の学生支援に対する満足度

「学生ハンドブック」「オフィスアワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「教職員の対応」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5年以上在籍する者への支援」「事務システム」「施設設備」等56項目について満足の程度を4段階で尋ねた。

結果のうち、学生支援に関して「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が5割を下回る項目は「掲示による連絡」49.1%の1項目であり、平成28年度と同様の結果であった。また、他に低い項目として「学生メールシステム」54.0%があった。

施設設備に関しては、「とても満足」「やや満足」と回答した者が5割にみたなかった項目は「講義室（仁戸名）」47.3%、「トイレ（仁戸名）」47.1%、「生協幕張売店」49.1%の3項目で、平成28年度よりも減っていた。また、他に低い項目として「トイレ（幕張）」51.4%があった。平成28年度までは幕張キャンパスと比較して仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は概して低かったが、今回は大きな違いはなかった。

「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が85.0%であり、平成28年度の結果と同様の数値であった。

(6) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「受験した進学先」等について尋ねた。

活動開始時期は「4年次前期」30.6%が最も多かった。受験した施設・企業数は「1か所」50.0%、「2か所」22.0%であった。平成28年度調査では「1か所」70.6%であり、今回は違う傾向であった。内定を得た施設・企業数は「1か所」75.2%が多かった。

実施した就職活動は「施設ごとの就職説明会」68.1%、「施設訪問・見学」66.2%、「合同就職説明会」60.4%の順であった。平成28年度調査では60.3%であった「ジョブサポーターの活用」は38.9%と減少していたが、「役に立った」と回答したのは活用した学生の91.8%であり、活用した者にとっては有効であった。また、全学および学科・専攻で実施しているキャリアセミナーや進路支援ガイダンスについては、16項目中14項目で7割以上の参加率があった。また、どの項目についても参加者の7割以上が「役に立った」と回答した。

就職にあたり重視した条件・基準は「施設・病棟の雰囲気」67.9%、次いで「給料」62.0%、「規模・機

能（高度医療を行う病院，長期療養病院等）」54.0%であり，上位は平成28年度調査の結果と同様であった。進学にあたり受験したのは2名であった。

6. 評価（成果および改善すべき事項）

学生部（学生委員会・進路支援委員会）は所掌事項に関する活動を計画的に行うことができたが，それらの活動のうち，平成29年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。

学生支援としては，①千葉県が定めた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する千葉県職員対応要領」に基づき，「千葉県立保健医療大学における障害学生への修学支援に関する指針」を検討・作成し，大学HPで公開するとともに，平成30年度学生ハンドブックへ記載した。また，FD・SD「障害者差別解消法について」（FD委員会と合同企画）を開催した。②「学生団体と学外団体（企業等）の共同活動についての申し合わせ」について検討し，申し合わせが完成した。③平成29年度学生支援計画を立案し，以下のような活動を行った。トイレ内の荷物掛けフックを整備した。後援会から学生会に寄贈された物品を学生がうまく管理できるよう支援した。県庁生協幕張売店の販売品に関して学生にアンケート調査を行い，幕張売店へ結果を渡した。

進路支援については，全学および学科・専攻によるキャリアセミナーや進路支援ガイダンスを計画的に運営することができた。平成29年度卒業時調査の結果からも学生にとって有効に活用できた。

一方，学科・専攻においては，学科・専攻全体で情報共有や連携を取りながら，担任を中心に修学上・学生生活上の相談にのったりするなどして，きめ細やかに修学支援・学生生活支援を行うことができた。その結果，平成29年度卒業時調査において「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が85.0%であり，平成28年度調査の結果と同様に高い評価が得られた。また，学科・専攻で国家試験受験対策を行い，平成29年度国家試験合格率は保健師85.2%，助産師100%，看護師100%，管理栄養士92%，歯科衛生士100%，理学療法士100%，作業療法士90.9%であった。概ね例年通りもしくは高い合格率であった。

平成29年度卒業時調査の結果では，修学支援・学生生活支援・進路支援に関して概ね高い評価を得ているが，評価の低い項目もある。それらの項目を中心に改善される必要がある。また，仁戸名キャンパスの施設・設備についても，環境整備は進んでいるとは言えないため，引き続き改善をしていく必要がある。

7. 次年度の方策

学生部としては以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①学生支援に関して，所掌事務及び重点政策に関する活動，および学生支援計画に沿った活動を行う。特に，「卒業時調査」などで評価が低い項目を中心に，支援の充実をはかる必要がある。②進路支援に関して，所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に，県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科・専攻）をめざし，学科専攻と連携を図り，大学全体として取り組んでいきたい。

また，各学科・専攻については，学科・専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

Ⅶ 社会連携・社会貢献

1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々および地域施設との連携や交流を通して、地域社会へ貢献する。

2. 年度当初の重点課題

1. 健康づくり・病気予防への提案（県・地域の施策の点検・評価，見直し，提案）
2. 卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画，実施（地方創成）
3. 専門職を対象とした生涯教育の企画，実施

3. 活動内容

1) 公開講座

平成 29 年度の公開講座は 10 月 8 日と 10 月 22 日，幕張キャンパスにて開講された。参加者は 1 回目が 72 名，2 回目が 21 名（計 93 名）であった。2 回目は台風接近時の開催であったにも関わらず 21 名の参加があり，緊急時の対応などを再考する必要があるがあった。参加者のアンケートでは，内容についてはおおむね良い評価であった。

2) 千葉県健康福祉部との連携協力

平成 29 年度は平成 30 年 2 月 2 日に「高齢化に伴い増加する疾患対策について」をテーマに意見交換会を開催した。千葉県健康福祉部健康福祉政策課，健康づくり支援課，および高齢者福祉課から，保健医療計画にもとづく千葉県の疾患等対策，高齢者保健福祉計画の概要について報告があった。保健福祉計画の第 2 編各論第 3 章にて，「保健医療大学」が項目立てされ，本学による施策の具体的展開として「県の健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化」「地域への貢献」「時代のニーズに合わせた人材育成および機能充実についての検討」の 3 点が明記された。栄養学科，歯科衛生学科，リハビリテーション学科理学療法学専攻，作業療法学専攻から，それぞれの学科ごとの「高齢化に伴う疾患対策に対する取り組み」を報告し，質疑応答を行った。

3) 共同研究等による学外組織との連携

平成 29 年 10 月，UR 都市機構と協定を締結し，学長裁量研究課題として「ほい大健康プログラム」を，UR 団地 6 カ所，計 8 日間展開した。学内共同研究採択課題として，千葉市と共催した「シニアリーダー活動調査」，千葉県の栄養士調査（東本先生課題）が実施された。

4) 各学科・専攻の活動状況

(1) 看護学科

① 地域におけるボランティア活動等：

- ・ 千葉県内：多数傷病者発生合同災害訓練，「認知症の人と家族の会」のアドバイザー，千葉県こども病院でのボランティア活動推進のための協働・調整等の 4 件であった。
- ・ 千葉県外：東京都内の NPO 法人患者団体の活動支援の 1 件であった。

② 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

千葉大学医学部附属病院腎臓内科における外来担当医指導の 1 件であった。

③ 審議会，委員会，国家試験委員等の実績：

文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員，文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員，文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)認定審査委員会委員，独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員，日本看護協会認定審査委員，千葉県ナースセンター運営委員会委員，千葉県難病審査会委員，千葉市更生医療審査会委員，台東区介護認定審査会合議体長，千葉県現任教育推進会議委員長，柏市保健衛生審議会副委員長，ちば県民保健予防財団審議会委員，千葉県准看護師試験委員等，14 件を務めた。

④職能団体委員等

千葉県看護協会副会長, 教育委員, 保健師職能委員会副委員長, 看護教員養成講習会運営会議委員等, 7件を務めた。

⑤学会, 学術団体への貢献

・所属学会・学術団体: 総数 80 学会(延べ入会学会数 215 学会)であった。5名以上の教員が会員となっている学会は, 日本看護科学学会, 千葉看護学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本老年看護学会, 日本看護管理学会, 日本地域看護学会, 日本母性衛生学会, 日本母性看護学会, 日本在宅ケア学会, 文化看護学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本小児保健協会であった。

・学会, 学術団体への貢献: 評議員・代議員 10 件, 理事 4 件, 監事 1 件, 幹事 1 件学会各種委員会(学会誌編集, 学会誌査読, 教育, 広報, 倫理審査, 等)委員 33 件, 学術集会各種委員会(企画, 実行, 査読, 等)委員 24 件を務めた。

⑥講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等: 延べ 69 回の講演会, 研修講師, 研究指導等を行った。主な講演会／研修は, 千葉県実習指導者講習会, 千葉県看護教員養成講習会, 訪問看護病院経営者講習会, 千葉県特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会, 千葉県中堅前期保健師研修会, 千葉県中堅後期保健師研修会, 千葉県勤労者医療協会研修会, 公開講座であった。研究指導は, 千葉県救急医療センター, 東京歯科大学市川総合病院, 千葉県がんセンター, 千葉県循環器病センター, 松戸健康福祉センター管内, 印旛健康福祉センター管内, 市川健康福祉センター管内, 海匝健康福祉センター管内, 香取健康福祉センター管内, 市原市保健センター, 長生村保健センター等で行った。その他, 放送大学看護師国家試験学習支援ツールの作成を行った。

(2) 栄養学科

①地域におけるボランティア活動等:

・千葉県内: 千葉食育ボランティア(ちば食育応援隊として食育・健康づくり活動(千葉市食育のつどい 2017, 千葉市幕張ベイタウン祭り, 幕張ベイタウン夏祭り 2017, きやっせ物産展での「学生サークルちば食育応援隊」の活動の支援, 千葉市食育情報誌 Vol.3 掲載のちば食育応援隊による料理開発, 小学校での親子料理教室の支援), ちば食育研究会(ちば食育応援隊: 千葉県ちば食育ボランティア登録団体)代表, NPO 法人千葉自然学校理事, 千葉県立衛生短大栄養学科卒業生有志のネットワーク(約 200 名)構築・運営(栄養情報・求人情報を提供), UR ほい大健康プログラム(千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくりプログラムの実践と評価 I, 花見川団地 2017 年 11 月 11 日, 千草台団地・あやめ台団地 2017 年 12 月 16 日, 花見川団地 2018 年 3 月 6 日, 高洲第一団地・第二団地 2018 年 2 月 17 日), 千葉県内介護施設の健康講話, 食生活向上お手伝い会, がん予防のための健康料理教室, 柏の葉料理教室。

・千葉県外: 文部科学省インターンシップ学生(本学栄養学科学生)への支援, 産後クラブ(3 カ月健診)食育講座(田中ウイメンズクリニック)。

②地域への保健医療活動(診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

食事・栄養のアドバイス・ヘルシー昼食提供(千葉食育応援隊(ほい大ごはんカフェなど): 2017 年 4 月～2018 年 3 月, 千葉県), 「お父さんのためのヘルシーメニュー, お兄さんのためのエコメニュー」イベント開催(応用栄養学実習で作成した成人期メニュー提供. 2017. 8. 7～11. 明治安田生命(株)東陽町ビル社員食堂), “食育出前教室”(食事・栄養相談, 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月, 久ヶ原スイミングクラブ)。

③審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績: 審議会, 委員会, 国家試験委員等 16 件

国: 文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会(食品成分委員会)臨時委員, 文部科学省科学技術・学術政策局 技術審査専門員, ISO/TC34 国内審議団体事務局(FAMIC 国際課)ISO/TC34/SC12 国内対策委員。

千葉県: 千葉県食育推進県民協議会委員, 平成 29 年度千葉県調理師試験委員, 地方公務員人事委員会

市町村: 千葉市食育推進協議会委員, 市川市教育振興委員会議委員, 柏市保健衛生審議会特別委員(母子保健専門分科会), 白井市地域ケア会議助言者(管理栄養士), 第 1 回美浜区多職種連携会議(管理栄養士)。

団体: 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員, 国際事業委員会書面審査員・書面評価員, 労災保険情報センター理事, 日本人間ドック学会人間ドック健診の有用性に関する大規模研究委員会委員, 日本糖

尿病・妊娠学会糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクトワーキングメンバー。

④職能団体委員等

所属職業団体: 日本栄養士会, 千葉県栄養士会, 神奈川県栄養士会, 千葉県医師会, 千葉県庁医師会。
委員会・役員等: 千葉県栄養士会研究教育協議会役員, 千葉県栄養士会研究教育部会役員。

⑤学会, 学術団体への貢献

・所属学会

栄養学科教員が所属している学会は 74 学会であり, その詳細は以下の通りである。

4 名以上所属 (日本栄養改善学会 (11 名), 日本公衆衛生学会 (6 名), 日本栄養・食糧学会 (5 名), 日本臨床栄養学会 (4 名), 日本体力医学会 (4 名), 以上 5 学会)。

3 名所属 (日本糖尿病学会, 日本老年医学会, 日本家政学会, 千葉県学校保健学会, 以上 4 学会)。

2 名所属 (日本生理学会, 日本静脈経腸栄養学会, 日本疫学会, 日本病態栄養学会, 日本生化学会, 日本食品科学工学会, 日本在宅栄養管理学会, 以上 7 学会)。

1 名所属 (日本社会医学会, 日本社会人文学会, 日本家政学会食文化研究部会, 日本口腔衛生学会, 日本きのこ学会, 儀礼文化学会, 和食文化国民会議, 更年期と加齢のヘルスケア学会, 新潟歯学会, 新潟食品技術研究会, 日本内科学会, 日本神経学会, 日本自律神経学会, 日本脳卒中学会, 日本産業衛生学会, 日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本外科代謝栄養学会, 欧州静脈経腸栄養学会 (ESPEN), 日本病態生理学会, 日本食物繊維学会, 日本在宅静脈経腸栄養研究会, 日本サルコペニア・フレイル学会, 千葉医学会, 日本心理学会, 日本教育心理学会, 日本人間工学会, 日本教育工学会, 日本発達心理学会, 日本パーソナリティ学会, 日本家庭科教育学会, 日本教師学学会, 日本官能評価学会, 日本脂質栄養学会, 日本解剖学会, 日本教育学会, 日本教師教育学会, 教育史学会, 日本教育史学会, 日本社会教育学会, 日本成人病 (生活習慣病) 学会, 日本糖尿病・妊娠学会, DOHaD 研究会, European Association for the Study of Diabetes (EASD; 欧州糖尿病学会), 日本肥満学会, NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会, The American Physiological Society, クリニカルパス学会, 日本食生活学会, 日本調理科学会, 日本災害食学会, 日本民族衛生学会, 日本食育学会, 日本衛生学会, 日本高血圧学会, 日本農芸化学会, 日本健康教育学会, 日本給食経営管理学会, 以上 58 学会)。

・学会・学術団体への貢献

評議員, 委員会委員長, 委員などとしての学会・学術団体への貢献は 29 件であり, 詳細は下記のとおりである。

日本栄養改善学会評議員 (4 名), 日本栄養改善学会栄養学雑誌編集委員, 日本栄養改善学会関東・甲信越支部幹事, 日本栄養改善学会理事候補者選挙管理委員, 日本衛生学会評議員, 日本官能評価学会司会・大会委員・常任編集委員, 日本官能評価学会査読, 日本官能評価学会常任理事 (企画・編集), 日本産業衛生学会代議員, 日本自律神経学会評議員, 日本食品科学工学会誌, 日本生理学会 The Journal of Physiological Sciences 査読者, 日本生理学会評議員, 日本静脈経腸栄養学会学術評議員, 日本調理科学会『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員 (新潟県委員), 日本調理科学会『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員 (千葉県責任者), 日本調理科学会関東支部会役員, 日本調理科学会代議員, 日本老年医学会査読委員, 日本老年医学会代議員, 社会医学査読委員, 千葉県 NST ネットワーク世話人, 千葉県学校保健学会第 21 回千葉県学校保健学会実行委員会委員, 千葉県学校保健学会評議員・ニューズレター編集委員, 千葉県学校保健学会理事, 千葉県学校保健学会理事長, 和食文化国民会議調査・研究部会幹事。

⑥講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等: 講演会, 講師・指導等 22 件

・講演会・研修会の講師等: 18 件 (千葉県内の健康福祉センター, 区市町村, 栄養士会等が主催する健康づくりに関する研修会の講師など)

・研究指導: 新潟大学歯学部大学院生 4 件

⑦対外広報活動 (ホームページへの掲載)

文部科学省, 千葉県, 農林水産省, 社団法人日本青果物輸入安全推進協会, 久ヶ原スイミングクラブのホームページへの掲載栄養学科教員が所属している学会は 74 学会である。

(3) 歯科衛生学科

① 地域におけるボランティア活動等：8 件

・千葉県内：3 件

パラスポーツ講座企画運営（千葉県立保健医療大学），障害者の口腔衛生指導（千葉県リハビリテーションセンター更生園），口腔衛生指導及び口腔ケア（千葉県リハビリテーションセンター病棟）。

② 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）：13 件

歯科診療（2017 年 4 月 3 日～2017 年 3 月 28 日，本学歯科診療室），千葉市口腔がん検診（2017 年 7 月 3 日～12 月 22 日，本学歯科診療室），診療指導（2009 年 4 月 1 日～現在に至る，日本大学松戸歯学部付属病院），手術指導（2011 年 4 月 1 日～現在に至る，総合病院国保旭中央病院），ヘルシーカムカムちば・地域住民への歯科衛生の啓発（2017 年 5 月 29 日，千葉そごう），デンタルカップちば・ミニサッカー大会での歯みがき指導（2017 年 11 月 27 日，千葉ポートアリーナ），流山市南部地域包括支援センター体力測定 4 回（2017 年 6～7 月，2018 年 1 月，流山ケアセンター），中国帰国家族の会体力測定（2018 年 3 月，高洲コミュニティセンター），鋸南町地域包括支援センター体力測定と講演（2018 年 3 月，鋸南町保健福祉課すこやか），白井市地域ケア会議（白井市地域包括支援センター）。

③ 審議会，委員会，国家試験委員等の実績：2 件

一般財団法人歯科医療振興財団歯科衛生士試験企画評価委員会委員 1 名，同歯科衛生士試験委員会委員 1 名。

④ 職能団体委員等：14 件

日本歯科衛生士会副会長，日本歯科衛生士会常務理事，千葉県歯科衛生士育成協議会役員，同運営委員，全国歯科衛生士教育協議会理事，同教育委員会理事，同教育問題検討委員会委員，同認定委員会委員，全国大学歯科衛生士教育協議会理事，同教育・研究委員会委員，同雑誌編集委員長，同雑誌編集委員，国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議担当。

⑤ 学会，学術団体への貢献

・所属学会・学術団体：総数 67 学会

日本歯周病学会，日本カウンセリング学会，日本健康教育学会，保健行動科学会，口腔病学会，日本口腔衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本歯科衛生学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科保存学会，日本補綴歯科学会，日本歯科審美学会，日本歯科色彩学会，美容口腔管理学会，日本接着歯学会，日本歯内療法学会，日本アンチエイジング歯科学会，日本口腔外科学会，日本口腔内科学会，日本歯科理工学会，International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons，Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons，日本口腔科学会，日本口腔診断学会，日本臨床口腔病理学会，日本臨床細胞診学会，日本有病者歯科医学会，日本老年歯科医学会，日本小児歯科学会，日本看護技術学会，日本医療安全学会，日本公衆衛生学会，日本顎顔面インプラント学会，日本口腔インプラント学会，日本医学教育学会，日本公衆衛生学会，国際歯科研究学会（IADR），国際歯科研究学会日本部会（JADR），日本歯科医療管理学会，社会歯科学会，日本体力医学会，日本体育学会，日本測定評価学会，日本バイオメカニクス学会，日本栄養改善学会，日本栄養・食糧学会，大学体育連合，日本疫学会，American College of Sports Medicine，日本咀嚼学会，口腔ケア学会，抗加齢歯科医学研究会，日本咀嚼学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本咀嚼学会，日本障害者歯科学会，ヘルスカウンセリング学会，日本歯科医学教育学会，日本生態学会，日本ベントス学会，応用生態工学会，日本教育工学会，日本大学口腔科学会，東京歯科大学学会，北海道歯学会，明倫短期大学学会。

・学会，学術団体への貢献：32 件

日本歯科衛生学会学会長，同学会顧問，同学会査読委員，同学会外部査読委員，日本歯科衛生教育学会常任理事，同学会評議員，同学会教育問題検討委員，同学会査読委員，同学会編集委員会事前抄録担当委員，日本歯科審美学会代議員，日本歯科色彩学会理事，美容口腔管理学会幹事，Prevensione & Assistenza Dentale，Editorial board member，日本大学口腔科学会評議員，日本口腔科学会評議員，日本口腔内科学会評議員，日本口腔外科学会代議員，日本医療安全学会理事，日本医療安全学会代議員，日本医療安全学会広報委員，口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員，日本歯科審美学会編集委員会委員，日本歯科審美学会編集委員会査読委員，日本歯科衛生教育学会編集委員会査読委員，美容口腔管理学会「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員，Journal of Oral Maxillofacial Surgery，Medicine

and Pathology 査読者, 付着生物学学会英文誌 Sessile Organisms 査読担当, Clinical and Experimental Dental Research Reviewer, Journal of Oral Biosciences 査読委員, 雑誌「理科の探検」編集委員, 日本歯科衛生教育学会第8回学術大会ポスター発表座長.

⑥講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等: 23件

千葉県立保健医療大学平成29年度公開講座講師, 千葉県歯科衛生士育成協議会「歯科衛生士の業務および教育についての説明会」講師, 東京歯科大学大学院講義講師, 千葉県歯科医師会日歯認定歯科助手講習会講師, 千葉県リハビリテーションセンター更生園施設入所者健康教育講師, 八千代市介護予防普及啓発講演会講師, 第10回美容口腔管理学会認定講習会講師, 第36回日本口腔腫瘍学会看護師歯科衛生士セッション教育講演講師, 第4回日本医療安全学会学術集会パネル討論会, 柏市シルバー大学院研究課程2年33期・生涯課程E組・生涯課程B組・研究課程2年34期・生涯課程A組・生涯課程C組・生涯課程D組「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」(7回), UR都市機構共催ほい大健康プログラム(花見川団地2回・千歳台団地・あやめ台団地・高洲第一団地・高洲第二団地)(6回), フィールドミュージアム行徳野鳥観察舎友の会講師.

⑦その他: 1件

千葉県歯科衛生士育成協議会「歯科衛生士の業務及び教育についての説明会」開催.

(4) リハビリテーション学科理学療法専攻

①地域への保健医療活動(診療・技術指導・活動期間・場所等)

- ・ロコモ度測定会. 2018年10月8-9日. 本学いずみ祭.
- ・社会福祉法人みやげ島あじさいの会. 施設利用者の理学療法評価とスタッフ教育指導. 平成29年4月1日~平成30年3月31日. 三宅島.

②審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構. 評価認定委員会評価委員. 平成26年4月~平成30年3月.
- ・千葉県介護保険関係団体協議会. 幹事. 2014年4月~現在.
- ・千葉県介護予防市町村支援検討会議. 構成員. 2014年10月~現在.
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構. 評価員. 2016年2月~現在.
- ・千葉市介護認定審査会. 予備委員. 2017年4月~現在.

③職能団体委員等

- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 機関誌「理学療法の科学と研究」編集委員長.
- ・公益社団法人日本理学療法士協会 第52回日本理学療法学会副大会長.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 学術部理事.
- ・公益社団法人日本理学療法士協会 平成29年度代議員.
- ・一般社団法人日本職業・災害医学会 評議員.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 理事.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 副会長.
- ・公益社団法人日本理学療法士協会 代議員.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 学会検討委員会委員長.
- ・公益社団法人日本理学療法士協会 介護予防・健康増進事業 都道府県コーディネーター.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 理事.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 定款検討委員会委員長.
- ・公益社団法人日本理学療法士協会 代議員.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 学術局学術誌編集部長.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会 学術局学術編集部員.

④学会, 学術団体への貢献

- ・日本リハビリテーション医学会, 日本理学療法士協会, 日本臨床神経生理学会, 日本電気生理運動学学会, 日本運動療法学会, 世界理学療法士学会, 世界電気生理運動学学会, 日本体力医学会, 全国大学理学療法教育学会, 全国大学肺理学療法研究会, 千葉医学会. 日本整形外科学会. 東日本整形

災害外科学会、関東整形災害外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本小児整形外科学会、日本職業・災害医学会、日本骨粗鬆症学会、日本腰痛学会、日本足の外科学会、日本抗加齢医学会、日本運動器科学会、日本小児股関節研究会、千葉県ロコモティブシンドローム研究会、臨床歩行分析研究会、日本人間工学会、日本生理人類学会、理学療法科学学会、バイオメカニズム学会、International Association of Physiological Anthropology、脳機能とリハビリテーション研究会、北米神経科学会、日本神経科学会、日本神経心理学会、日本高次脳機能障害学会、日本基礎理学療法学会、コ・メディカル形態機能学会、日本ヘルスプロモーション理学療法学会、臨床スポーツ医学会、日本運動疫学学会。

・日本理学療法士協会、第52回日本理学療法学会大会 抄録査読委員、日本リハビリテーション医学会、第54回日本リハビリテーション医学会学術集会 抄録査読委員、千葉県理学療法士会、第22回千葉県理学療法士学会 抄録査読委員、バイオメカニズム学会学会誌 編集委員、人間工学 論文査読、理学療法の科学と研究 論文査読委員、日本生理人類学会誌 論文査読委員、第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 抄録査読委員、第6回日本支援工学理学療法学会学術集会 抄録査読委員、第23回千葉県理学療法士学会 抄録査読委員、第5回日本地域理学療法学会学術大会 抄録査読委員、第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 一般演題座長、第23回千葉県理学療法士学会 一般演題座長、第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 抄録査読委員、脳科学とリハビリテーション 投稿論文査読、第23回千葉県理学療法士学会 抄録査読委員、第23回千葉県理学療法士学会、一般演題「基礎Ⅰ」座長、第24回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 イブニングセミナー座長、第53回日本理学療法学会大会 抄録査読委員、脳機能とリハビリテーション研究会会長、脳機能とリハビリテーション研究会学術誌 編集協力部員、千葉県理学療法士会学術誌 論文査読、日本運動器理学療法学会大会 抄録査読委員。

⑤講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：

- ・千葉県男女共同参画地域推進セミナー、千葉県男女共同参画センター、コグニサイズ、地域推進員、2017年7月7日、県男女共同参画センター。
- ・千葉県保健医療従事者等研修会、千葉県健康づくり支援課、若くてもロコモのリスク～講義と実践で学ぶロコモ予防～、保健医療従事者、2017年7月13日、千葉県教育会館。
- ・千葉県男女共同参画センターフェスティバル2017、千葉県男女共同参画センター、コグニサイズ、一般県民、2017年8月6日、県男女共同参画センター。
- ・日本理学療法士協会 地域包括・介護予防推進リーダー導入研修、千葉県理学療法士会、介護予防と理学療法士、理学療法士、2017年9月10日、千葉県立保健医療大学。
- ・いちほら市民大学専門講座、市原市教育委員会、認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～、一般市民、2017年8月25日、サンプラザ市原。
- ・世界アルツハイマーデー記念講演会、認知症の人と家族の会千葉県支部、認知症予防コグニサイズ、一般県民、2017年9月22日、千葉市文化センター。
- ・ライフプラン講習会、県総務ワークステーション、運動による認知症予防～コグニサイズの紹介～、県職員、2017年10月19日、ホテルプラザ菜の花。
- ・わくわくヘルスアップ稲毛、稲毛区保健センター、ロコモ度測定、一般住民、2017年10月22日、千葉市立園生小学校。
- ・健康体力づくり指導者研修会、県健康づくり課、足腰元気にロコモ対策、一般県民、2017年11月12日、千葉県総合スポーツセンター。
- ・多古町生涯学習文化講演会、多古町役場企画空港政策課、老若男女！コグニサイズで楽しく健康づくり、一般県民、2017年11月19日、多古町コミュニティプラザ。
- ・八千代市ふれあい大学校、八千代市長寿支援課、コグニサイズ、一般県民、2017年12月22日、八千代市福祉センター。
- ・地域包括ケアシステム講演会、印西市高齢者福祉課、運動による認知症予防コグニサイズ、一般県民、2018年2月3日、印西市文化ホール。
- ・八千代市介護予防サロン講演会、八千代市長寿支援課、運動による認知症予防～コグニサイズの紹介～、一般県民、2018年2月7日、八千代市総合生涯学習プラザ。

- ・野田市民講演会. 野田市保健福祉部. ロコモティブシンドローム～今日から始めるロコモ予防～ 一般市民. 2018年2月22日. 野田市保健センター.
- ・千葉市シニアリーダー連絡会出前講座(稲毛区). 千葉市地域包括ケア推進課. 認知症予防運動 コグニサイズ. 千葉市シニアリーダー. 2018年3月7日. 千葉市稲毛保健福祉センター.
- ・霊源山 倫勝寺 春彼岸合同供養法要講演会. ロコモを知って, ロコモに負けない! 一般住民. 2018年3月21日. 霊源山 倫勝寺.

(5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

① 地域におけるボランティア活動等:

千葉県内:

- ・認知症の人と家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動, がんカフェ, 車いすラグビー公開交流会, 車いすラグビー体験, 匝瑳市地域活性イベント.

② 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・UR とほい大プログラム参加, 葛飾区役所福祉部自立活動支援センター専門相談, 大田区西六郷小学校特別支援学級医療専門相談, 足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師, 練馬区障害児保育巡回指導.

③ 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員, 横須賀市障害程度区分等判定審査会審査委員

④ 職能団体委員等

- ・日本作業療法士協会制度対策部(運転と作業療法特設委員会, 制度対策部部員, 学術部部員, 学会演題査読委員)
- ・千葉県作業療法士会(アドバイザー委員, 機関誌査読委員, 事務局長, 代議員, 理事, 学術部発達障害委員会委員, 学術部査読委員)

⑤ 学会, 学術団体への貢献

・所属学会・団体:

日本作業療法士協会, 千葉県作業療法士会, 日本公衆衛生学会, 日本衛生学会, 日本神経学会, 日本高次脳機能障害学会, 日本神経心理学会, 日本認知症学会, 日本リハビリテーション医学会, 日本癌学会, 日本癌治療学会, 日本緩和医療学会, 日本臨床死生学会, 日本サイコオンコロジー学会, 日本がんサポーターズケア学会, 日本死の臨床研究会, 日本ホスピス・在宅ケア研究会, 多施設緩和ケア研究会, 日本ロコモケア研究会, 日本在宅ホスピス協会, 一般社団法人 全国在宅リハビリ支援推進機構, 大学病院の緩和ケアを考える会, 日本コクランセンター正会員, APHN (Asia Pacific Hospice Network), EAPC (European Association for Palliative Care), 日本義肢装具学会, 脳機能とリハビリテーション研究会, 日本作業療法研究学会, 日本臨床生理学会, 日本生理人類学会, 日本人間工学会, 日本臨床神経生理学会, 日本シーティング・コンサルタント協会, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本老年医学会, 日本老年精神医学会, 自動車技術会, 日本リハビリテーション工学協会, 運転と認知機能研究会, 運転と作業療法研究会, JDD ネットワーク多職種連携委員会, 日本安全運転・医療研究会, 日本交通心理学会, 日本認知心理学会.

・学会, 学術団体への貢献

一般社団法人作業療法士会学術部査読委員, 一般社団法人作業療法士会学会委員会演題査読委員, 千葉県立保健医療大学紀要査読委員, 日本神経心理学会理事, 日本高次脳機能障害学会評議員, 日本神経学会査読委員, 第41回日本高次脳障害学会学術総会プログラム委員, 一般演題座長, 第41回日本神経心理学会総会プログラム委員, 日本癌治療学会(ガイドライン策定委員会, 選挙管理委員会, 査読委員) 日本緩和医療学会査読委員, 日本がんサポーターズケア学会(骨と健康副部会長, 評議員), 多施設緩和ケア研究会(世話人, 司会者), 日本在宅ホスピス協会(世話人, THP 担当委員)・日本感覚統合学会効果研究委員, 日本発達系作業療法学会理事, JDD ネットワーク多職種連携委員会副委員長, 実践! 発達OTミーティング vol.9.0 in ちば実行委員, 就労支援フォーラム NIPPON2017 運営委員, 日本生理人類学会第75回大会実行委員 日本作業療法士協会涯教育制度推進委員, 脳機能とリハビリテーション研究会学術大会運営委員, 第51回日本作業療法学会演題査読委員, 運転と認知機能研究会事務局長, 運転と作業療法研究会代表, 日本安全運転・医療研究会幹事.

⑥講演会（公開講座を含む）

現職者共通研修会作業療法士を対象に「事例報告・事例検討」、奈良県作業療法士会事業部研修会高次脳機能と運転適性、政策討論会運転リハビリテーション、石川県リハビリテーションセンター研修会、自動車運転支援におけるリハビリテーション専門職の役割、運転に関する作業療法士の基本的考え方研修会運転に関する基本的考え方の概説、運転に関する作業療法士の基本的考え方研修会運転に関する基本的考え方の概説、運転と作業療法研究会運転リハビリテーション概論法制度・教習所との連携、高次脳機能相談室ゆいっと研修会高次脳機能障害と自動車運転、職員研修会有効視野と運転適性、プチ神経科学講座自動車運転に関わる認知機能院内研修、富山県リハビリテーション病院有効視野測定ソフトVFIT、運転に関する作業療法士の基本的考え方研修会運転に関する基本的考え方の概説、障害者教習指導員研修高次脳機能障害者の特性と指導法、第15回リハビリテーション部会講演会認知機能と自動車運転、高齢運転者支援士研修高次脳機能障害者の特性と指導法、第101回介護予防教室特別講座いつ？どうなったら免許は返した方が良いのか？、千葉県作業療法士会東葛ブロック研修会認知機能と自動車運転、学術部後援会自動車運転における作業療法士の役割と課題、リハ職向け研修会障害者および高齢者の自動車運転の現状と課題、第1回有効視野研究会有効視野の最近の知見、市原市教育センター主催研修会幼稚園・保育所等における発達が気になる子どもの支援及び保護者との連携、幼稚園職員研修、千葉県作業療法士会現職者研修会「実践のための作業療法研究」、千葉県作業療法士会生活行為向上マネジメント基礎研修、千葉地域リハビリテーション地域広域センターケアマネ研修会、千葉県回復期連携の会MTDLPのより良い活用について、千葉県作業療法士会千葉県ブロック・リーダー研修会、等。

5) 地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており、歯科衛生学科の教員（歯科医師・歯科衛生士）と嘱託歯科衛生士等が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している。県内を中心に患者を広く受け入れており、平成29年度の延患者数は2,693名であった。また、「千葉市口腔がん検診事業」として千葉市住民を対象に15件の個別検診を行い、口腔がんの発見に寄与した。当診療室は保険医療機関として歯科外来診療環境体制加算等の施設基準を満たし、患者にとって安心安全な歯科医療環境の提供、厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えてきた。歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生士の専門資格取得状況は、（公社）日本口腔外科学会口腔外科専門医1名、（公社）日本口腔外科学会口腔外科指導医1名、がん患者歯科医療連携登録医1名、日本糖尿病協会歯科医師登録医1名、日本歯科保存学会歯科保存治療専門医1名、日本歯科色彩学会認定医1名、日本歯科審美学会認定医1名、美容口腔管理学会指導医（Diplomate）1名、日本アンチエイジング歯科学会認定ホワイトニングエキスパート1名、国際医療リスクマネジメント学会認定臨床コミュニケーション（上級）1名、日本口腔衛生学会認定医1名、日本歯周病学会認定歯科衛生士1名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食・嚥下リハビリテーション）1名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（在宅療養指導・口腔保健管理）2名、日本咀嚼学会健康咀嚼指導士2名となっている。

6) 国際交流の推進状況

- ・千葉県と姉妹州である米国 Wisconsin 州の大学およびすでに交流協定を締結済みの韓国 Inje University(仁済大学校)との交流推進を目指していたが、日程調整・半島情勢の緊張等により、いずれの方面も国際交流の進展は得られなかった。
- ・本学学生1名より文部科学省官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」への応募希望の申し入れがあった。本学学生の海外留学を支援すると同時に、海外渡航中の危機管理（連絡）体制を構築すべく、国際交流委員会と事務局で検討に入った。

4. 評価（成果および改善すべき事項）

公開講座の企画・運営については概ね満足のいく結果が得られた。

高齢化に伴う疾病等対策について、県の健康福祉部と「意見交換会」を実施した。

5. 次年度の方策

公開講座の内容を充実させ、円滑な運営を図る。

健康福祉部との意見交換会をさらに発展させ、より具体的にシンクタンク機能を発揮すべく、学内の体制を整える。

本学主催の卒後研修・生涯教育について、全学的・横断的な「学術集会」開催に向けて検討する。

国際交流の進展を図る。学生の短期留学支援や語学研修の充実をカリキュラム化していく。

Ⅷ 教育研究等環境

1. 年度当初の重点課題

- ・施設整備計画の実施状況の検証と修正・更新

2. 施設・設備の整備状況（新規購入備品）

幕張キャンパス

- 教育棟 A106 実習室 会議用テーブル 2台
- A216 講義室 壁に設置されたモニターを可動式にするスタンド 1台
- A414 講義室 椅子 15台
- B108 机 21台・椅子 63脚
- B111 液晶モニター 2台, ワイヤレスマイク 1台
- 学生ホール棟 第1講義室 ワイヤレスマイク 1台, 書画カメラ 1台

仁戸名キャンパス

- 事務室 レポート提出ボックス 一式
- 第1講義室 プロジェクター 1台
- 学生ホール 学生用ソファ

3. 図書館の状況

1)利用者数

- 幕張 68,925人
- 仁戸名 9,474人

2)資料収集

(1)蔵書数

- 幕張 図書 72,206冊 雑誌 1,399タイトル
- 仁戸名 図書 28,961冊 雑誌 764タイトル

(2)視聴覚資料数

- 幕張 CD 30点 DVD 384点 スライド 7点
- 仁戸名 CD 8点 DVD 220点

3)開館時間および開館日数

開館時間

- 【授業期間中開館時間】(幕張)月・金曜日 8:45~21:00, 火~木曜日 8:45~20:00, 土曜日 9:00~17:00
(仁戸名)月・金曜日 9:15~21:00, 火~木曜日 9:15~20:00, 土曜日 9:00~17:00

- 【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも)月~金曜日: 9:00~17:00 (但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日開館)

開館日数(年間延べ数)

- 幕張 255日
- 仁戸名 275日

4)利用状況

- 貸出冊数 幕張 9,514冊
仁戸名 3,108冊
- 参考業務件数 幕張 3,104件
仁戸名 103件
- 複写 幕張 813件 7,744枚
仁戸名 154件 2,364枚

5)施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

- 図書館ガイダンスの実施(計11回)

文献検索ガイダンスの実施（計 12 回）

文献検索セミナーの実施（計 4 回開催（うち外部講師の招聘 3 回）、参加者のべ人数 108 名）

FD 文献検索セミナーの実施（計 1 回開催、参加者のべ人数 38 名）

図書館だより「ぼ～れば～れ」の発行 4 月（新学年ガイダンス時）、10 月（学園祭時） 計 2 回
利用促進のためのリーフレットの作成

4. 研究倫理を遵守するための措置

- ・一般財団法人 公正研究推進協会が有料化されたため、無料で行える研究倫理 e ラーニングである日本学術振興会 e ラーニングコース[eL Core]・日本医師会治験促進センター・国立がん研究センターICR 臨床研究入門事務局を学内教員に案内した。
- ・平成 29 年 8 月 9 日研究等倫理委員会研修会として、『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の平成 29 年 2 月改正について』を実施した。
- ・平成 30 年 2 月 7 日 平成 29 年度科学研究費助成事業に係る内部監査を実施した。

5. 評価（成果および改善すべき事項）

- ・開学以来の課題であった、教室内の旧式の机・椅子の更新が緒に就いた。
- ・一方で、開学時に整備したプロジェクターも、すでに更新時期となっている。

6. 次年度の方策

平成 29 年度に引き続き、学生の教育環境改善のため、順次整備を進めていく。

Ⅸ 研究活動報告

1. 看護学科

- (1) 著書：和文共著 11 件，編集 2 件，その他 5 件，総数 18 件の著書があった。
- (2) 学術論文：和文原著 28 件，その他 2 件，総数 30 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 3 件，全国学会 65 件，その他 4 件，総数 72 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：シンポジスト 2 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 41 件(内科研費 40 件)であった。学内共同は 3 件，学長裁量は 3 件であった。
- (6) 賞・特許：厚生労働大臣表彰 1 件であった。

2. 栄養学科

- (1) 著書：共著 7 件，編集 2 件，その他 13 件，総数 22 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 10 件，和文原著 19 件，その他 13，総数 42 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 8 件，全国学会 31 件，地方学会 6 件，研修・講習会 2 件，総数 47 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：招待講演 5 件，シンポジウム 1 件，総数 6 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 6 件（うち科研費 3 件），学内共同は 7 件，学長裁量は 7 件であった。
- (6) 賞・特許：0 件。

3. 歯科衛生学科

- (1) 著書：共著 3 件，総数 4 件。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 7 件，その他 2 件，総数 13 件。
- (3) 発表：国際学会 8 件，全国学会 15 件，地方学会 1 件，総数 24 件。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：招待講演 3 件，シンポジウム 3 件，総数 6 件。
第 9 回オゾン医療研究会学術大会（東京），神奈川歯科大学学会平成 29 年度第 8 回研究談話会（横須賀），第 36 回日本口腔腫瘍学会（新潟）
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究 5 件（内科研費 5 件）。学内共同研究 4 件，学長裁量研究 2 件，総数 11 件。
- (6) 賞・特許：2 件。
平成 29 年度北海道医療大学歯学会最優秀論文賞，第 12 回日本歯科衛生学会学術論文賞優秀賞。

4. リハビリテーション学科理学療法学専攻

- (1) 著書：0 件。
- (2) 学術論文：英文原著 2 件，和文原著 4 件，その他 2 件，総数 8 件。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 10 件，地方学会 5 件，総数 16 件。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：0 件。
- (5) 研究資金獲得状況：科研費 3 件，学内研究 3 件，総数 6 件。
- (6) 賞・特許：0 件。

5. リハビリテーション学科作業療法学専攻

- (1) 著書：共著 1 件，総数 1 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 6 件，その他 18 件，総数 28 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 15 件，地方学会 2 件，18 総数件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等

The 1st Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium, Usefulness of the Driving Fitness Test Type-K by the National Police Agency for the Older Drivers, Taipei Taiwan, 第 60 回作業療法全国研修会教育

講演（滋賀会場）、日本作業療法士協会「安全な交通社会に貢献する作業療法士の役割」（滋賀県）、第9回研究会障害と自動車運転に関する研究会特別講演「運転リハビリテーションの推進」（新潟県）、第4回運転と作業療法研究会「高齢運転者への医療と心理学の関わりシンポジウム」（東京都）、第60回作業療法全国研修会「教育講演」（新潟会場）、日本作業療法士協会「安全な交通社会に貢献する作業療法士の役割」（新潟県）、第30回岡山県作業療法学会特別講演「自動車運転支援における作業療法士の実践」（岡山県）千葉県作業療法士会学術部発達障害委員会「平成29年度研修会特別支援教育における作業療法（OT）の具体的活用」（千葉県立保健医療大学）、第27回日本作業行動学会学術集会教育セミナー（浜松市）、日本LD学会第26回大会「学校教育での専門職理解と連携に向けての検討－JDDnet 多職種連携委員会の活動より－」（栃木）、山形県作業療法主催研修会「学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会」（山形県立保健医療大学）、第19回千葉県作業療法学会「MTDLPの活用方法について」（君津中央病院附属看護学校）

(5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が3件（内科研費3件）であった。学内共同は4件であった。

X 内部質保証のための取り組み

1. 年度当初の課題

平成 27 年に受審した大学基準協会による機関別認証評価において以下のような改善勧告を受けた。内部質保証体制の確立が本学における喫緊の課題であり、将来構想検討委員会のもと管理・運営 WG (WG) を設置し、WG を中心に課題の明確化、組織体制の改革等に取り組んだ。

・改善勧告

内部質保証の中心的な役割を担う自己点検・評価委員会と 2 つの部会の連携・役割分担、また「大学運営会議」等の他の組織との役割分担が明確ではなく、責任主体と実態に乖離がみられるなど、内部質保証システムが十分に構築されていない。また、全学的な自己点検・評価も今回の大学評価を申請するまで実施しておらず、諸活動の定期的な検証も不十分なので、大学として責任ある内部質保証を実現するよう、是正されたい。

2. 評価（成果および改善すべき事項）

自己点検・評価実施推進部会により重点施策の実施状況調査が行われた。内部質保証体制を確立するための取り組みは（管理・運営の 5）、6）、7））が該当する。それぞれの取り組みについて改善計画、年度末進行状況、次年度への課題を列挙した。

- 5) 業務の責任主体の明確化(重要事項に関する組織的な審議・決定プロセスの明確化、自己点検・評価委員会と二つの部会との連携・役割分担、運営会議等との役割分担が不明確、責任主体と実体との乖離)(総務・企画委員会、自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会)

改善計画：教育の質保証を実現するために、管理運営部門と教育研究部門を立ち上げて運営会議、教授会、各委員会、部会の役割分担・責任体制を明確にし、自己点検・評価委員会と関係する部会との連携・役割分担を強化して内部質保証システムを構築する。

年度末進行状況：上記自己点検・評価実施推進部会が点検・評価するための教育に関するデータが十分に集計・分析されていないため、PDCA サイクルによる教育改善が実現しているのか不明である。

次年度への課題：組織改変を達成して内部質保証システムを構築して改善勧告の達成を実証する。IR 部会で教学に関するデータを集計・分析し、その結果を踏まえて自己点検・評価実施推進部会が各学科、専攻等の学修成果を点検・評価する。

- 6) 予算請求、予算編成後の配分に関し、大学全体としての組織的な審議・決定プロセスの構築(総務・企画委員会、将来構想検討委員会)

改善計画：予算請求、予算編成後の配分に関し、大学全体としての組織的な審議・決定プロセスを構築する。予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みを確立する。

年度末進行状況：1. 総務・企画委員会で検討し大学運営会議で承認された「保健医療大学当初予算要求にかかるスケジュール」を平成 29 年度予算要求から適用した。

2. (教育研究にかかわる) 予算に関することは総務・企画委員会の所掌内容であるため、上記 1 のスケジュールの運用及び予算執行(予算要求・予算編成後の再配分・執行)の評価は総務・企画委員会で行うことが大学運営会議で承認された。

3. 未着手の状態である(平成 30 年 2 月現在)。3 月の総務・企画委員会で検討する予定。

次年度への課題：「3. 予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みを確立」する。また分析・検証を行い、その結果に基づき上記 1 のスケジュール(予算要求プロセス)を修正する。また、この予算要求プロセスは、主に備品購入(教育用備品及び全学整備のための備品)と修繕費に関するものであるため、それ以外の教育研究にかかわる予算についての組織的な審議・決定プロセスを明確にしていく必要がある。併せて、個人研究費の執行についての検討していく必要がある。

- 7) 全学的な自己点検・評価と諸活動の定期的な検証を実施する体制の構築(総務・企画委員会、自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会)

改善計画：全学的な自己点検・評価、改善について PDCA サイクルを稼働させて継続的に実行する体制を構築する。

- ・ IR 部会における学内情報の集約・分析
- ・ 自己点検・評価委員会（実施推進部会）における評価・提言
- ・ 当該委員会，学科等における改善・計画・実施

年度末進行状況：IR 部会を立ち上げたが所掌事項等も策定されておらず学内情報の集約・分析は十分に行われていない，自己点検評価・実施推進部会における評価・提言は昨年度から開始されたが，評価を踏まえた当該委員会，学科等における業務の改善・計画・実施のサイクルは稼働していない。

次年度への課題：IR 部会，自己点検評価・実施推進部会の活動により諸活動の定期的な検証を実施し，内部質保証システムの実現を求める改善勧告の達成を実証する。

3. 次年度の方策

- ・ 上記重点施策の達成状況を中間期，年度末に自己点検・評価実施推進部会が中心となって検証し（C），その結果を基に PDCA サイクルを稼働させて内部質保証・改善する構想は整えたが，体制は未だ構築されておらず，体制整備に取り組む。
- ・ 達成状況をアニュアル・レポートとしてまとめ，HP 等公表する（アニュアル・レポートの累積が平成 31 年度 7 月末までに提出する改善報告書となる）。
- ・ 平成 28 年度に設立された IR 専門部会の活動により教学データを集計・解析し，評価に必要な情報を共有できるようにする。

第2部

教員の教育研究活動記録

学長

学長 田邊 政裕 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、本学における教育、研究、管理・運営、社会貢献等に関する重点施策、特に認証評価で指摘された努力課題、改善勧告に焦点をあててその達成を目指すと共に平成 31 年度以降の中長期ビジョンの策定に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・管理栄養士導入教育

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田邊政裕 (2017) 学士課程教育の三つのポリシーとアウトカム基盤型教育 医学教育 48 (4) : 237-242, 2017
- ・田邊政裕 (2017) e ポートフォリオ - 医療教育での意義と利用法 - 田邊政裕 監修 篠原出版新社, 東京 4月25日, 2017

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・田邊政裕 (ディレクター), 朝比奈真由美, 伊藤彰一 アウトカム基盤型でカリキュラムを作成する, プレコングレスワークショップ 3 第 49 回日本医学教育学会総会, 札幌, 8/17 2017

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・GP 医学教育分野別評価, 筑波大学医学群医学類, 評価委員, 2017 年 10 月 9-13 日
- ・全国医学部長病院長会議 地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会委員 2015 年 12 月 25 日～
- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会 委員 2014 年 9 月 1 日～
- ・日本医学教育認証評価機構 委員 2014 年 4 月 1 日～
- ・大学改革支援学位授与機構 評価委員 2016 年 4 月 1 日～. 京都府立医大, 評価委員, 2017 年 11 月 28, 29 日, 福島県立医大, 評価委員 (主査), 2017 年 12 月 5, 6 日
- ・公益財団法人医学教育振興財団 評議員 2016 年 6 月 15 日～

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・社団福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団 評議員 2015 年 4 月 1 日～
- ・健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員 2015 年 4 月 1 日～
- ・NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク 常任理事 2008 年 2 月 12 日～

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本医学教育学会, 日本 VR 医学会

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・日本医学教育学会 名誉会員 2016年7月～
- ・日本小児外科学会 名誉会員 2015年5月～
- ・日本 VR 医学会 監事

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

7 その他

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・自己点検・評価委員会, キャンパス・ハラスメント防止対策委員会, 将来構想検討委員会, 入試委員会, 教員再任審査委員会, 衛生委員会, 防災対策委員会

VI 評価(成果および改善すべき事項)

重点施策は評価実施推進部会によって達成状況の評価が実施された。認証評価(大学基準協会)で指摘された課題についても同様に評価され、改善項目は平成30年度以降の達成目標として位置づけられた。

VII 次年度の目標

重点政策の未達成政策を平成30年度達成目標とし教職員との協働により達成する。

看護学科

教授 兼 学科長 石井 邦子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、教育活動では、学生のレディネスや学習意欲を十分に把握し、主体的学習を促進できるように教育目標や方法の改善を行う。研究活動では、学会発表した研究成果を論文として公表するとともに、新たな研究資金を獲得して新しいテーマに着手する。大学管理運営では、与えられた役割を確実に遂行する。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・専門職間の連携活動論
 - ・看護学入門
 - ・看護ふれあい体験学習
 - ・育成支援看護概論
 - ・母性看護学方法論Ⅰ
 - ・母性看護学方法論Ⅱ
 - ・母性看護学実習
 - ・助産学概論
 - ・助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎)
 - ・助産診断・技術学Ⅱ(ライフサイクル各期)
 - ・助産診断・技術学Ⅲ(分娩期)
 - ・助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク分娩)
 - ・助産学実習Ⅰ(産婦ケア体験)
 - ・助産学実習Ⅱ(継続支援)
 - ・助産学実習Ⅲ(分娩期ケア)
 - ・総合実習
 - ・看護研究
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・特定行為実践特論 (放送大学大学院)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・森恵美, 鈴木俊治, 大月恵理子, 石井邦子, 中村康香, 前原邦江: 助産師基礎教育テキスト (2017年版) 第4巻 妊娠期の診断とケア 第5章妊娠経過に対応したケア, 第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア, 2019, 日本看護協会出版会.
- ・横尾京子, 石井邦子, 川城由紀子, 他: 助産学講座第5版8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期, 2019, 医学書院.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，大滝千智，川村紀子，鳥田美紀代：キャリア後期看護職のセカンドキャリアに関する意向と関連要因，千葉県立保健医療大学紀要，第9巻，第1号，3-10，2018.
- ・川城由紀子，石井邦子，鳥田美紀代，竹内久美子，大滝千智，川村紀子：介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の実態と雇用者側のニーズ，千葉県立保健医療大学紀要，第9巻，第1号，11-16，2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，北川良子，大滝千智，小路和子，吉村園子，浅野輝子，臼井佐紀，窪谷潔：デイケア型産後ケアサービスが母親の心理的健康状態にもたらす効果，第58回日本母性衛生学会学術集会，2017年9月.
- ・川城由紀子，石井邦子，北川良子，大滝千智，小路和子，吉村園子，浅野輝子，臼井佐紀，窪谷潔：助産師による産後2週目健診が母親の心理的健康状態にもたらす効果，第58回日本母性衛生学会学術集会，2017年9月.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），産後ケアシステムにおける看護専門職と育児支援人材のコラボレーションモデルの開発，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（B），歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質向上に対する研究，研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），模擬産婦と分娩シーンシナリオ（CTG含む）を活用した分娩介助演習の効果，研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），更年期女性のQOL向上のための日常生活に関する研究—酸化ストレスを指標にして—，研究分担者.

6 受賞・特許

- ・優良看護職員厚生労働大臣表彰，2017年11月.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・文部科学省，大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）特別委員，2017.4～2018.3.
- ・文部科学省，職業実践力育成プログラム（BP）認定審査委員会委員，2017.4～2018.3.
- ・平成30年度実習指導者講習会プロポーザル受託者選考会議，委員，2018.1～2018.3.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本看護系大学協議会，理事，2017.6～2018.3.
- ・日本看護系大学協議会，高等教育行政対策委員会委員，2017.6～2018.3.
- ・千葉県ナースセンター運営委員会委員，2017.6～2018.3.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会，日本看護科学学会，日本助産学会，日本母性衛生学会，日本生殖看護学会，千葉看護学会，千葉県母性衛生学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会，理事，編集委員，2017.4～2018.3.
- ・日本看護科学学会，代議員，2017.4～2018.3.
- ・日本助産学会，代議員，2017.4～2018.3.
- ・日本母性衛生学会，査読委員，2017.4～2018.3.
- ・日本生殖看護学会，査読委員，2017.4～2018.3.

- ・千葉看護学会. 評議員. 2017. 4～2018. 3.
- ・千葉県母性衛生学会. 理事. 2017. 4～2018. 3.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所）

- ・石川県立看護大学講演会講師. 看護コアカリキュラムとは何か? コアカリをカリキュラムに反映させるには? 大学教員対象. 2017年9月. 石川県立看護大学.
- ・研修会「子育て世代包括支援を考える」講師. 地域で支える産後ケア-育児における家族機能を誰が担うか. 柏市医師会研修会. 柏・松戸地区保健医療従事者等. 2017年11月. 窪谷産婦人科.

7 その他

- ・公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員. 2017. 4～2018. 3.
- ・公益信託 中西睦子看護学先端的研究基金運営委員. 2017. 4～2018. 3.
- ・放送大学客員教授. 2017. 4～2018. 3.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議. 教授会. 将来構想検討委員会. 入試委員会. 自己点検・評価委員会. 防災対策委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会. 看護学科運営会議. 看護学科人事評価部会

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演. ラジオ出演等＞

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、助産課程履修学生の個々のレディネスや達成度に考慮して教授方法の工夫を適宜行うことができた。研究活動では、学会発表した研究成果を論文として公表するとともに、産後ケアに関する科研費を獲得してに着手することができた。大学管理運営では、中長期計画担当者としての役割を地道に遂行したが、成果には至っていない。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を遂行するとともに、社会貢献活動を通して得た見識を学科運営や教育研究活動に役立てることもできた。

VII 次年度の目標

平成30年度は、教育活動では、新々カリへの移行に伴い、これまでの教育評価を行い、改善策を明確にする。研究活動では、研究活動では、産後ケアに関する研究を計画通りに遂行し、いち早く社会に還元していく。大学管理運営では、与えられた役割を確実に遂行する。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

教授 小川 真 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・人体の構造と機能Ⅲ
 - ・病態学Ⅰ (内科系疾病論)
 - ・病態学Ⅲ (高齢者疾病論)
 - ・臨床検査実習
 - ・内科学概論
 - ・高齢者医療論
 - ・内科学総論
 - ・内科学各論
 - ・老年科学

- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
 - ・腎臓内科学 (千葉大学医学研究院)
 - ・疾病学 (千葉大学薬学研究院)
 - ・臨床病態生理学特論 (放送大学)

II 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

若林 華恵, 小川 真, 服部 憲幸, 織田 成人, 並木 隆雄

標準組成半消化態経腸栄養剤と和漢薬の併用が栄養管理に役立った短腸症候群合併腎不全の1例
日本透析医学会雑誌 Vol. 50:295-300, 2017

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

学会発表

ISN Frontiers Meeting 2018 (Tokyo) (2/23)

Role of Kif26a in kidney development

Chiwei Lee, Lisa Fujimura, Makoto Ogawa, Masahiko Hatano

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者) なし

III 社会貢献・国際交流記録

4 (2) 地域への保健医療活動

腎臓内科外来担当医指導 (週1) 千葉大学医学部付属病院

(3) 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績:

千葉県難病審査 (腎臓病)

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本内科学会、日本腎臓学会、日本老年学会、千葉医学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本内科学会、認定医 2017年4月—2018年3月
- ・日本腎臓学会、専門医、評議員、2017年4月—2018年3月。
広報委員会 千葉県キーパーソン 2017年4月—2018年3月
- ・千葉医学会、評議員、2017年4月—平成2018年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

IV 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、学生委員会（障がいをもつ学生への支援体制を考えるWG）
- ・千葉県立保健医療大学紀要編集委員会
- ・共通教育運営委員会
- ・図書・情報委員会
- ・研究等倫理委員会動物部会
- ・教員資格審査委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科運営委員会、看護学科学生・進路支援委員会
- ・2年生担任リーダー

V まとめ

1 一年間の総括

28年4月より赴任し、2年目になる。教育活動としては昨年と同様学生への臨床医学教育を担当したが、今年度より看護学科1年の「人体の構造と機能III」も担当となった。通常のパワーポイントを使った授業に加え、看護現場での活動を含めて動画を用いて学生の理解を促した。研究活動としては慢性腎臓病患者の管理・治療についての研究を継続し、さらに認定看護師育成について放送大学の非常勤講師として番組を作成し、講師として出演、成績評価も行った。栄養学科・理学療法学科、歯科衛生の担当者とともに、UR団地の高齢化対策のフィールドワークにも参画した。

2 次年度の目標

教育活動では、臨床医学の最新の動向をふまえて教育内容の充実と刷新を図る。特に臨床薬理知識の基礎および情報収集法教育の充実を目標とする。また、放送大学にて認定看護師育成に引き続き参画する。研究活動では引き続き慢性腎臓病の治療・管理について研究を継続するとともに、糖尿病性腎症の進展阻止を目標とする千葉県の取り組みへの参加、市民への啓蒙活動にも努めたい。

教授 西野 郁子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育においては領域の教員間で連携して効果的な講義・演習を実施していきたい。研究活動については、共同研究者および筆頭研究者として継続したテーマについて、発展していきたい。大学の運営面では、学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営しながら、教職員の協力を得て学生支援の充実に取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護学入門.
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・育成支援看護概論.
 - ・小児看護学方法論 I.
 - ・小児看護学方法論 II.
 - ・小児看護学実習.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・齊藤千晶, 石川紀子, 西野郁子, 石井由美: 食物アレルギーをもつ学齢期にある小児と家族の食物除去の解除過程の体験と思い, 日本小児臨床アレルギー学会誌, 15 (3), p. 369-376, 2017.
- ・石川紀子, 西野郁子, 齊藤千晶: 食物アレルギーの子どものきょうだいが体験する生活上の影響, 小児保健研究, 77 (2), p. 192-198, 2018.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C)), 小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C)), 健康障害をもつ子どもときょうだいがいる家庭の子育て力支援ガイドラインの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働・調整. 2017年4月～2018年3月.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本看護科学学会、日本新生児看護学会、千葉看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本小児看護学会、日本小児看護学会誌、査読委員、2017年4月～2018年3月。
- ・千葉看護学会、千葉看護学会会誌、査読委員、2017年4月～2018年3月。
- ・日本小児看護学会、日本小児看護学会第28回学術集会、査読委員、2018年2月～2018年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県看護教員養成講習会における演習の講師、公益社団法人千葉県看護協会主催、研修生29名に対し、研究方法についての講義および演習を科目責任者として企画・実施した。2017年9月～12月、千葉県ナースセンター、講義2回、グループワークの指導3回。
- ・千葉県こども病院における看護師の看護研究発表会の講評、就職4年目の看護師が行った看護研究について、発表会での全体講評を実施した。2018年2月、千葉県こども病院、発表会講評1日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、大学運営会議、自己点検・評価委員会、認証評価部会、将来構想検討委員会、校友会設立部会、学生委員会（委員長）、進路支援委員会（委員長）、キャンパスハラスメント防止対策委員会、防災対策委員会、FD委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教授会、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科「看護研究」作業グループ会議、看護学科人事評価部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育においては新たに着任した教員も含め、領域内の教員間で連携して効果的な講義・演習を実施できた。研究活動については、共同研究者として論文掲載ができたが、筆頭研究者として研究を計画通りに推進することができなかった。大学の運営面では学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営し、教職員の協力を得て学生支援に取り組むことができた。また、学生会や後援会との連携も取れた。社会貢献として千葉県看護教員養成講習会で科目の責任者として貢献ができた。

VII 次年度の目標

教育においては前年度の振り返りから領域の教員間で連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。研究活動については、共同研究者および筆頭研究者として継続したテーマについて、発展していきたい。大学の運営面では、学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営しながら、教職員の協力を得て学生支援の充実に取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

教授 佐藤 まゆみ 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動、社会貢献、管理運営業務については平成29年度も引き続き積極的に取り組んでいきたい。研究面については、自身が代表をつとめる科学研究費研究に遅れが生じているため、この遅れを取り戻すとともに、これまでの研究成果の公表に取り組んでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・救命・救急の理論と実際.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・成人看護学概論.
- ・成人看護学方法論Ⅰ.
- ・成人看護学方法論Ⅱ.
- ・がん看護学.
- ・ターミナルケア論.
- ・成人看護学実習(急性期).
- ・成人看護学実習(慢性期).
- ・総合実習.
- ・看護管理学.
- ・看護管理学実習.
- ・看護研究

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・成人看護学 (放送大学)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・井関治和, 小澤秀樹, 柿崎徹, 加行淳子, 剣持功, 齋藤秀胤, 佐藤まゆみ, 高島尚美, 高橋正光, 中村威, 成毛聖夫, 西尾和三, 橋本千佳, 南川雅子, 宮澤光男, 棟久恭子, 森田南美恵, 山口千恵子: 新看護学9 成人看護1, 成人看護学総論, 呼吸器疾患患者の看護 第3章 患者の看護 F. 手術を受ける患者の看護, 2018, 医学書院.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・佐藤まゆみ, 佐藤禮子, 小澤桂子, 森文子, 高山京子, 遠藤久美: がん化学療法患者のセルフケアにおける貧血アセスメントツールを活用した症状記録の有用性, 千葉県立保健医療大学紀要, 第9巻, 第1号, 27-36, 2018.
- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 塩原由美子, 大内美穂子, 小安麻子, 比田井理恵, 管沢直美: IABP装着患者への看護実践に焦点を当てたシミュレーション教育の実施, 第9巻, 第1号, 43-48, 2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・田口智恵美，佐藤まゆみ，三枝香代子，浅井美千代，塩原由美子，大内美穂子，小安麻子，比田井理恵，管沢直美：ICU 看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価，千葉看護学会第 23 回学術集会，平成 29 年 9 月 9 日，千葉。
- ・山中紗都，佐藤まゆみ，八岡和歌子，吉田直美：頭頸部がん術後サバイバーの口腔関連の諸問題とその対処における質的研究，第 27 回一般社団法人日本有病者歯科医療学会総会・学術大会，平成 29 年 3 月 22 日～24 日，東京。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究(B)，外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，ICU 看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価，研究分担者。
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，乳がん患者の療養を支援する外来看護相談支援プログラムの構築，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本学術振興会，科学研究費委員会専門委員，2016 年 12 月 1 日～2017 年 11 月 30 日。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本がん看護学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本救急看護学会，千葉看護学会，日本看護管理学会，日本有病者歯科医療学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本がん看護学会，専任査読者，2004 年 4 月 1 日～現在に至る。
- ・日本がん看護学会，倫理委員会委員，2017 年 4 月 1 日～現在に至る。
- ・日本看護科学学会，代議員，2011 年 4 月 1 日～現在に至る。
- ・日本看護科学学会，和文誌専任査読者，2009 年 4 月 1 日～現在に至る。
- ・日本看護学教育学会，専任査読者，2009 年 4 月 1 日～現在に至る。
- ・千葉看護学会，専任査読者，2012 年 4 月 1 日～現在に至る。
- ・第 32 回日本がん看護学会学術集会，企画委員（運営委員長），2016 年 10 月 2 日～2018 年 3 月 3 日。
- ・第 32 回日本がん看護学会学術集会，パネルディスカッション 2 座長，2018 年 2 月 4 日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・平成 29 年度実習指導者講習会，千葉県看護協会，看護論，看護師，2017 年 10 月 24 日，千葉県ナースセンター
- ・千葉県がんセンター，研究指導，看護師，年 5 回，千葉県がんセンター。
- ・千葉県循環器病センター，研究指導，看護師，年 5 回，千葉県循環器病センター。
- ・東京歯科大学市川総合病院，研究指導，看護師，年 6 回，東京歯科大学市川総合病院。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，総務・企画委員会，将来構想検討委員会，FD 委員会，自己点検・評価委員会管理・運営ワーキンググループ。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会，看護学科運営会議，看護学科総務・企画委員会

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

・放送大学授業科目 成人看護学（'18）第2章 手術を受ける患者の治療過程と生活過程での援助, 第6章 消化・吸収機能障害及び栄養代謝機能障害のある成人への援助, ラジオ収録.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面, 社会貢献面, 管理運営面については, 十分な成果をあげることができた. 研究面では, 研究成果を公表（学術集会での発表・原著論文投稿）できたという点では年度当初の目標は達成できた. また, 自身が代表をつとめる科学研究費研究も研究協力施設の確保に時間を要し, 遅れを取り戻すまでには至らなかった.

VII 次年度の目標

教育活動, 社会貢献, 管理運営業務については平成30年度も引き続き積極的に取り組んでいきたい. 研究面については, 自身が代表をつとめる科学研究費研究の遅れを取り戻し成果をあげるとともに, 引き続きこれまでの研究成果の公表に取り組んでいきたい.

教授 佐藤 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、新たに導入したアクティブラーニングの効果を検証し、さらに改善する。研究については、代表を担う研究が今年度最終年度であることから、介護予防従事者向け教育プログラムを実施し成果を公表していく。今年度は、入試実施部会長として、大きな課題である入試改革に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅰ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・災害看護学.
- ・総合実習 (地域看護学).
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・佐藤紀子：第1章1 母子保健福祉活動, 最新公衆衛生看護学第2版2018年版各論1 (宮崎美砂子他編集), 2-50, 2018年2月, 日本看護協会出版会.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・石橋みゆき, 村嶋幸代, 佐藤紀子他6名：地域看護に必要な教育内容の明確化—看護学基礎教育で修得すべき地域看護の能力 (コンピテンシー)—, 日本地域看護学会誌, 20巻2号, 102-109, 2017年8月.
- ・石丸美奈, 鈴木悟子, 佐藤紀子他9名：看護系大学間連携による保健師の業務研究サポートモデルの構築—千葉県内8校の連携による取り組み—, 千葉大学大学院看護学研究科紀要 第40号, 19-26, 2018年3月.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・鶴岡章子, 石丸美奈, 佐藤紀子他12名：大学間連携による保健師業務研究サポートの成果—業務研究を経験した保健師の成長の視点から—, 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017年8月5日～6日, 別府市.
- ・鈴木美和, 石丸美奈, 佐藤紀子他12名：大学間連携による保健師業務研究サポートの成果—研究指導担当教員の研究と社会的貢献に関わる能力の変化—, 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017年8月5日～6日, 別府市.
- ・石丸美奈, 鈴木悟子, 佐藤紀子他12名：大学間連携による保健師業務研究サポートを効果的に推進するための教員側の要件, 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017年8月5日～6日, 別府市.
- ・鈴木悟子, 石丸美奈, 佐藤紀子他12名：大学間連携による保健師業務研究サポートを効果的に推進するための保健師側

の要件, 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017年8月5日~6日, 別府市.

- ・飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子他6名: 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドVer. 1の活用と課題, 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017年8月5日~6日, 別府市.
- ・細谷紀子, 宮澤早織, 雨宮有子, 佐藤紀子, 石川志麻: 災害時要配慮者を支える住民組織活動における対象者把握に関する実態と課題, 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31日~11月2日, 鹿児島市.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 石川志麻, 宮澤早織, 丸谷美紀: 保健師自身が価値を実感できる質の高い保健師活動を成し得る要因, 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31日~11月2日, 鹿児島市.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 宮澤早織, 石川志麻: 住民組織による災害時要配慮者に対する個別計画および避難訓練に関する工夫と困難, 第6回日本公衆衛生看護学会, 2018年1月6日~7日, 大阪市.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 丸谷美紀, 石川志麻, 宮澤早織: 保健師が価値を感じた活動における困難・課題 — 保健師活動の質向上のための支援方法の開発 —, 第6回日本公衆衛生看護学会, 2018年1月6日~7日, 大阪市.
- ・宮澤早織, 佐藤紀子: 子育て中の女性の飲酒問題への行政保健師の支援の実態—A県の実態—第8回共同研究発表会, 2017年8月29日, 学内.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)) H26-29, 高齢者のエンパワメントを促す介護予防事業従事者向け教育プログラムの開発, 研究代表者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) H27-30, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) H28-31, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 分担研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・文部科学省. 大学設置・学校法人審議会 (大学設置分科会) 専門委員, 2017. 11~2018. 10.
- ・独立行政法人日本学術振興会. 科学研究費委員会専門委員, 2016. 12~2017. 11.
- ・千葉県現任教員推進会議, 委員長, 2012年4月~現在.
- ・柏市保健衛生審議会, 副委員長, 2009年4月~現在.
- ・柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会, 委員長, 2009年4月~現在.
- ・柏市保健衛生審議会健康増進専門分科会, 委員, 2009年4月~現在.
- ・ちば県民保健予防財団審議会, 委員, 2012年4月~現在.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護教員養成講習会運営会議, 委員, 2017年4月~現在.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 千葉看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 日本家族看護学会. 日本公衆衛生看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本地域看護学会, 代議員, 2011年4月~現在.
- ・日本地域看護学会, 教育委員, 2012年4月~現在.
- ・日本看護科学学会, 代議員, 2011年4月~現在.
- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2005年4月~現在.
- ・日本地域看護学会, 専任査読者, 2010年4月~現在.
- ・日本公衆衛生看護学会, 専任査読者, 2015年4月~現在.

- ・日本地域看護学会第20回学術集会。座長。2017年8月5日～6日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・H29年度千葉県中堅前期保健師研修会①講師。健康福祉部健康づくり支援課。中堅保健師に求められる役割。県内健康福祉センターおよび市町村等に勤務して5～10年目の保健師。2017年6月15日。千葉県教育会館。
- ・看護教員養成講習会看護論演習講師。千葉県看護協会。看護論演習に取り組むために、グループワークの講評。県内看護職。2017年6月19日、7月12日。千葉県看護協会ナースセンター。
- ・H29年度千葉県中堅後期保健師研修会講師。健康福祉部健康づくり支援課。専門職の成長、組織の成長を促すマネジメントとリーダーシップ。県内中堅後期保健師。2017年7月19日。千葉市ビジネス支援センター。
- ・H29年度千葉県保健師現任教育推進のための担当者会議講師。千葉県健康福祉部健康づくり支援課。保健師の実践能力・組織力向上のための効果的な現任教育のあり方。県内健康福祉センターおよび市町村の現任教育責任者と担当者。2017年8月10日。千葉市文化センター。
- ・H29年度千葉県特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会（保健指導技術コース）講師。千葉県健康福祉部健康づくり支援課。行動変容を促す保健指導技術。特定保健指導に従事している者。2017年11月7日。千葉県文化会館。
- ・看護協会平成29年度実習指導者講習会講師。千葉県看護協会。保健師教育過程における実習のあり方。県内医療機関実習担当看護師。2017年11月15日。千葉県看護協会ナースセンター。
- ・H29年度千葉県中堅前期保健師研修会②③講師。健康福祉部健康づくり支援課。保健活動の評価の考え方と方法・評価を踏まえた事業計画案の作成。健康福祉センター、市町村等に勤務して5～10年目の保健師。2018年1月23～24日。千葉県教育会館。
- ・千葉市花見川地区診断学習会講師。花見川区地域包括支援センター。介護予防支援に活かす地区診断について。千葉市花見川区内地域包括支援センター職員、花見川区保健師。2018年1月25日。花見川区保健福祉センター。
- ・平成29年度香取健康福祉センター管内研修会講師。地域ケアシステム構築と保健師の役割～関係機関との連携と協働に向けて～。香取、海匠、山武健康福祉センター管内保健師。2018年3月15日。
- ・保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ。千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域。新人保健師が保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざすワークショップ。千葉県内平成27・28・29年度新規採用保健師。2017年10月21日、12月9日、2018年2月17日。千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会。入試委員会。入試実施部会（部会長）。学術推進企画委員会紀要編集部会。FD委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会。看護学科入試検討委員会（副委員長）。看護学科人事評価部会。編入3年次担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、一昨年から取り入れたフィールド演習の効果を実習の場で確認することができた。保健師の国家試験対策としては、講義で国試問題を提示したり、実習終了時に保健師資格を持つ意義について伝え、学習意欲を高める取り組みを行ったが、成果を上げることができなかった。研究活動では、研究成果を論文化するとともに、複数の分担研究にも精力的に取り組むことができた。大学管理運営では、入試実施部会長として入試問題の開示や平成32年度からの入試選抜方法の検討を中心に遂行した。社会貢献では、文部科学省や学会等から与えられた役割を確実に遂行することができた。また、県内保健師の現任教育のための研修講師を精力的に引き受けた。

VII 次年度の目標

平成 30 年度は、教育活動では、新々カリキュラムの移行に向けて現行を見直し、改善に向けた検討を領域内で進める。研究活動では、エンパワメントに着目した介護予防実践を発展させる研究計画を考案する。大学管理運営では、平成 32 年度からの入試選抜に向けて、情報収集・検討を重ね AP にそった選抜方法を明確にする。社会貢献では、文科省や学会等から与えられた役割を確実に遂行するとともに、県立大としての貢献の在り方を模索しつつ研修講師や自治体の審議会委員等を積極的に引き受けていく。

教授 河部 房子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

新任教員を迎え新たな教育体制となることから、引き続き、看護専門職者としての基本的な思考・判断能力、実践能力を育成する効果的な授業の展開に向け、教育内容の精選と展開について、領域内の教員間で共有しながら、教員間の連携体制を構築する。授業リフレクションを通して、各教員の教育力向上につなげる。研究活動は、前年度に着手したフィジカルアセスメント教育に関する研究を継続すると共に、代表者となっている研究課題に関する研究成果の論文化に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・看護学入門.
 - ・看護倫理.
 - ・看護技術論Ⅰ(生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ(共通基本技術).
 - ・看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント).
 - ・看護技術論Ⅳ(検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅴ(看護過程展開技術).
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・河部房子，今井宏美，椿祥子，植村由美子，石田陽子，鈴木恵子，小高亜由美：臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関わる経験，千葉県立保健医療大学紀要，9巻，1号，17-25，2017.
- ・椿祥子，河部房子，今井宏美，石田陽子：看護現場におけるフィジカルアセスメント技術活用状況に関する実態調査，千葉県立保健医療大学紀要，9巻，1号，55-61，2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・河部房子，和住淑子，錢淑君：自己の看護実践体験に対する看護学生のリフレクションの特徴，日本看護学教育学会第27回学術集会講演集，172，2017.
- ・今井宏美，河部房子，椿祥子：看護現場におけるフィジカルアセスメント技術活用状況に関する実態調査，日本看護学教育学会第27回学術集会講演集，159，2017.
- ・丸山香織，片桐智子，錢淑君，山岸仁美，戸田肇，高橋幸子，河部房子，斉藤しのぶ，前田隆：統合実習の評価基準構築に向けた統合実習に関する文献の動向，日本看護学教育学会第27回学術集会講演集，196，2017.
- ・片桐智子，丸山香織，錢淑君，山岸仁美，戸田肇，高橋幸子，河部房子，斉藤しのぶ，前田隆：「看護基礎教育課程における統合実習」実践事例その1：看護のアート&サイエンスの育成を目指して，日本看護学教育学会第27回学術集会講演集，197，2017.

- ・ 錢淑君, 片桐智子, 丸山香織, 山岸仁美, 戸田肇, 高橋幸子, 河部房子, 齊藤しのぶ, 前田隆:「看護基礎教育課程における統合実習」実践事例その2: ナースサイエンティストの育成を目指して, 日本看護学教育学会第27回学術集会講演集, 197, 2017.
- ・ 高橋幸子, 片桐智子, 錢淑君, 山岸仁美, 戸田肇, 河部房子, 齊藤しのぶ, 前田隆, 嘉手苺英子:「看護基礎教育課程における統合実習」実践事例その3: 看護のアート&サイエンスの実現を目指して, 日本看護学教育学会第27回学術集会講演集, 198, 2017.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 科学研究費補助金基盤研究(C), 質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証, 研究分担者.
- ・ 科学研究費補助金基盤研究(B), 看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護管理学会, 日本看護歴史学会, 千葉看護学会, 日本看護学会, ナイチンゲール研究学会, 日本良導絡自律神経学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 千葉看護学会, 査読委員, 2013年4月1日～現在に至る.
- ・ 千葉看護学会, 評議員, 2015年4月1日～現在に至る.
- ・ 千葉看護学会, 編集委員, 2015年4月1日～現在に至る.
- ・ 千葉看護学会第24回学術集会, 企画委員, 2018年2月6日～11月30日

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・ 平成29年度 実習指導者連絡会特別講義, 帝京大学福岡医療技術学部主催, 看護系大学の教員と臨地実習指導者の連携, 2017年7月29日, 帝京大学.
- ・ 平成29年度 看護学教育指導者研修, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催, 自組織の現状をふまえた指導過程のリフレクション, 臨地実習指導看護師, 2017年8月24日～25日, 千葉大学.
- ・ 平成29年度 教育担当者研修会, 新人看護師の基礎教育の状況, 教育担当看護職者, 2017年8月30日, 千葉県ナースセンター.
- ・ 平成29年度 実習指導者講習会, 看護論, 臨地実習指導看護師, 2017年10月11日, 千葉県ナースセンター.
- ・ 平成29年 看護教員養成講習会, 研究方法(演習), 2017年11月20日, 29日, 12月18日, 千葉県ナースセンター.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

大学教授会, 教務委員会(委員長), 新々カリ作成部会(部会長), FD委員会, 将来構想検討委員会, 特色科目委員会, 教員資格審査委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

看護学科教授会, 看護学科教務委員会, 看護学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

新任教員 3 人を迎えたことにより、基礎看護学領域における教育活動の基本的な考え方や進め方等をできるだけ言語化して共有できるよう、意識的に取り組んだ。研究活動では、科学研究費補助金による共同研究の成果、および昨年度より取り組んでいる領域での共同研究の成果についての学会発表および論文投稿を行うことができた。大学の管理運営では、教務委員長としてカリキュラム改正に向けた検討を着実に進め、役割を果たした。

VII 次年度の目標

引き続き、看護専門職者としての基本的な思考・判断能力、実践能力を育成する効果的な授業の展開に向け、教育内容の精選と展開について、領域内の教員間で共有しながら、教員間の連携体制を強化する。授業リフレクションを通して、授業改善をはかりつつ、各教員の教育力向上を支援する。研究活動では、前年度の研究成果を元にさらに発展させる。また、既に終了し未投稿となっている研究成果の論文化に取り組む。

教授 杉本 知子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、大学の管理運営業務に対して主体的に取り組むことを目標とした。加えて、教育活動については、授業評価の結果を踏まえながら講義や演習を見直し、学習効果が高まるような授業のあり方を継続的に検討していきたいと考えた。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール
- ・看護ふれあい体験学習
- ・看護学入門
- ・療養支援看護概論
- ・高齢者・在宅看護学方法論 I
- ・高齢者・在宅看護学方法論 II
- ・高齢者看護学実習
- ・総合実習
- ・看護研究
- ・看護学統合

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・認知症看護援助方法論 II (生活・療養環境づくり)。聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程認知症看護コース
- ・認知症看護援助方法論 III (ケアマネジメント)。聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程認知症看護コース
- ・チーム医療。一般社団法人日本精神科看護協会、京都研修センター認定看護師教育課程

III 研究記録

1 著書 (著者 本人下線 : 著書, 発行年, 発行所, 発行場)

- ・杉本知子：転倒、転落を生じた認知症高齢者へのチーム医療の事例，亀井智子編集，認知症高齢者のチーム医療と看護-グッドプラクティスのために-，2017年，中央法規出版，東京。
- ・杉本知子：高齢者看護の質保証 第3章リスクマネジメント，第4章サービス担当者会議の展開，亀井智子他編集，高齢者看護学第3版，2018年，中央法規出版，東京。

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・鳥田美紀代, 齊藤理代, 大嶋淳子, 石橋祐子, 久保木修子, 石橋晴美, 菅原みち子, 成毛美由起, 小林英子, 杉本知子, 佐伯恭子, 濱手和子, 大坂美穂：高齢者ケアの質向上のための看護管理者と大学教員とのユニフィケーション～副師長会を中心とした現場の実践力の向上を目指した取り組み～, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, pp37-41, 2018年。
- ・高柳千賀子, 杉本知子, 鳥田美紀代, 上野佳代, 成玉恵：ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生予防に向けた取り組みの現状-特別養護老人ホームに勤務する介護職員へのインタビュー調査から-, 東京情報大学研究論集, 21巻, 2号, pp 87-95, 2018年。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・杉本知子，亀井智子，新野直明，入江由香子：地域在住高齢者の転倒に関連する要因の検討，聖路加看護学会学術大会，2017年9月16日，聖路加看護大学。
- ・高柳千賀子，杉本知子，鳥田美紀代，上野佳代，成玉恵：特別養護老人ホームにおけるノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生子防の現状-介護職員へのインタビュー調査からの一考察-，日本感染看護学会学術集会，2017年8月25-26日，東京。
- ・鳥田美紀代，杉本知子，佐伯恭子，谷本真理子，高柳千賀子：要介護高齢者の主体的な療養生活の場の移行に関連する要因，37回日本看護科学学会学術集会，2017年12月16-17日，仙台国際センター。
- ・杉本知子，森一恵，鳥田美紀代，佐伯恭子，高柳千賀子：国内文献のレビューに基づくがん高齢者の地域生活への移行や移行後の生活の継続に影響を与える要因の検討，37回日本看護科学学会学術集会，2017年12月16-17日，仙台国際センター。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・平成26-29年度科学研究費補助金基盤研究(B)，高齢者のエンパワメントを促す介護予防事業従事者向け教育プログラムの開発，研究分担者。
- ・平成27-29年度科学研究費補助金基盤研究(C)，在宅療養強化型老健における要介護者主体の在宅移行のための看護実践モデルの開発，研究分担者。
- ・平成28-30年度科学研究費補助金基盤研究(C)，がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築，研究代表者。
- ・平成28-31年度科学研究費補助金基盤研究(C)，高齢がん患者と家族の療養移行期に関する意思決定支援の評価，研究分担者。
- ・平成28-29年度学内共同研究(萌芽)，高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の予防：通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態調査，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ベータタウンかふえアドバイザー，2017年4月～2019年3月。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・東京都台東区介護認定審査会，合議体長，2017年4月～2019年3月迄。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県看護協会，教育委員，2015年4月～2018年3月迄。

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本老年看護学会，日本糖尿病教育・看護学会，日本老年社会科学会，聖路加看護学会，日本在宅ケア学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・日本老年看護学会，「老年看護学」査読委員，2015年4月～2018年5月迄。
 - ・第22回聖路加看護学会学術大会，ポスターセッション座長，2017年9月16日。
 - ・第22回聖路加看護学会学術大会，運営委員，2017年9月16日。
 - ・全国自治体病院学会，看護・看護教育分科会特別講演I座長，2017年10月19日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・平成 29 年度実習指導者講習会 講師、千葉県看護協会、千葉県看護協会に入会中の看護師。
- ・平成 29 年度看護教員養成講習会看護研究 講師、千葉県看護協会、千葉県看護協会に入会中の看護師。
- ・看護師 II（介護・福祉関係施設・在宅等領域）領域研修会 講師、千葉県看護協会、介護・福祉関係施設、在宅等における看取りを取り巻く状況、2017 年 12 月 18 日、千葉県内の高齢者ケア施設、訪問看護ステーション等に勤務する看護師。
- ・千葉県立佐原病院看護師研修会 講師、千葉県立佐原病院看護局、高齢者倫理、千葉県立佐原病院の看護師。
- ・医療安全推進フォーラム（京都）シンポジスト、日本精神科看護協会、高齢者施設における転倒事故防止、2017 年 11 月 23 日、日本精神科看護協会に入会中の看護師。

7 その他

- ・ベイトウンかふえの活動を朝日新聞厚生文化事業団が主催するフォーラム「認知症カフェからの出発」において発表した。2018 年 2 月 3 日、浜離宮朝日ホール。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・進路支援委員会、ハラスメント防止対策委員、自己点検・評価実施推進部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生・進路支援委員会、社会貢献委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

大学の管理運営業務には主体的に取り組むことができた。加えて教育活動に関しては、新たな取り組みを導入することにより、看護学生の認知症高齢者に対する理解を深めることができた。その一方で、社会貢献活動と研究活動には十分に取り組むことができず、特に研究成果の論文化には至らなかった。

VII 次年度の目標

平成 30 年度は、これまで十分に取り組むことができていなかった社会貢献活動に対して積極的に関わっていきたいと考える。加えて、研究活動については、研究成果をまとめて論文化できるよう努めていく。また、教育活動については、従来実施してきた講義・演習を見直しつつ、効果的な授業を行っていきけるようする。

教授 神田 みなみ 修士 (文学), Master of Arts (TESOL)

対象期間 : 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、特に「体験ゼミナール」の科目責任者として作業部会、担当教員とともに順調な科目運営をめざす。図書館の英語図書を利用した課外英語学習につなげる英語授業、図書館での英語学習支援を行う。また本学の英語カリキュラム充実をめざし、共通英語テストの導入を検討する。研究に関しては、国際学会での英語多読に関する学会発表をめざすことと、最終年になる科研費研究をまとめることを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・英語 I (基礎講読)
 - ・英語 II (基礎英会話)
 - ・英語 III (講読・記述)
 - ・英語 V (保健医療英語) 看護学科
 - ・英語 V (保健医療英語) 歯科衛生学科
 - ・英語 VI (応用英語)

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Ueda, M. & Kanda, M. : Japanese university students' attitudes toward the usage of social media in autonomous English study. 『異文化研究』(国際異文化学会), Vol. 13, pp. 45-58, 2017.
- ・神田みなみ : 快読快聴ライブラリ解説 Seed Mix, 『多聴多読マガジン』, Vol. 64, p. 39, 2017.
- ・神田みなみ : 快読快聴ライブラリ解説 Clifford Saves the Whales, 『多聴多読マガジン』, Vol. 67, p. 61, 2018.
- ・神田みなみ : 特集 ゼロからの英語多読 日本語に訳さずに読むって一体?, 『多聴多読マガジン』, Vol. 67, pp. 18-21, 2018.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Kanda, M. : Using Smartphones in the EFL Extensive Reading Class, The Fourth World Congress on Extensive Reading, 平成 29 年 8 月 5 日, 東洋学園大学.
- ・神田みなみ : ノンフィクションのリーダーシリーズを用いた英語多読の可能性, The Fourth World Congress on Extensive Reading (日本語部門・日本多読学会), 平成 29 年 8 月 6 日, 東洋学園大学.
- ・Kanda, M. : ER and ESP: Nonfiction Readers for Health Sciences Majors, The Fourth World Congress on Extensive Reading, 平成 29 年 8 月 7 日, 東洋学園大学.
- ・Kanda, M. : Smartphones as Learning and Assessment Tools in EFL Extensive Reading, TESOL 2018 International Convention, 平成 30 年 3 月 28 日, 米国シカゴ.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・平成 26～29 年度科学研究費補助金基盤研究(C), 英語多読における形成的評価の活用研究, 研究代表者.
- ・学内共同研究, 本学学生を対象とした英語 VELC Test の検証—熟達度診断およびプレイスメントテストとしてのパイロ

ットスタディ, 研究代表者.

- ・学内共同研究, 医療英語 ESP (English for Specific Purposes)―学習者の視点からのニーズ・アナリシス, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, ホームページ上の大学情報発信を英語でも行う方法の開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本多読学会, 日本英文学会, 大学英語教育学会(JACET), 全国語学教育学会(JALT), American Association of Applied Linguistics (AAAL:アメリカ応用言語学会), TESOL International Association (第二言語としての英語教育学会), 映画英語教育学会, 日英・英語教育学会, 外国語教育メディア学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本多読学会, 事務局長, 平成29年4月～平成30年3月.
- ・日本多読学会, 学会誌編集委員会, 平成29年10月～平成30年3月.
- ・国際異文化学会, 理事, 平成29年4月～平成30年3月.
- ・全国語学教育学会(JALT) 日本語教育研究部会(JSL SIG), 会計担当役員(Treasurer), 平成29年4月～11月.

7 その他

- ・TOEIC 試験対策講座, 外部講師による TOEIC スコアアップのための対策講座の企画開催(後援会補助), 平成29年8月24日, 千葉県立保健医療大学.
- ・TOEIC IP 試験の企画・実施・試験監督等(後援会補助), 平成29年9月30日, 千葉県立保健医療大学.
- ・TOEIC 試験対策講座, 外部講師による TOEFL ITP 対策およびアカデミック英語講座の企画開催(後援会補助), 平成29年10月25日, 千葉県立保健医療大学.
- ・TOEFL ITP 試験の企画, 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 共通教育運営会議, 教務委員会, 入試評価部会, 特色科目委員会, 教員資格審査委員会, 国際交流委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教授会, 看護学科入試検討委員会, 看護学科学生・進路支援委員会, 看護学科1年担任リーダー, 看護学科人事評価部会.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

「体験ゼミナール」は概ね順調な科目運営を行うことができた。本学の英語カリキュラム充実をめざし、共通英語テストのパイロットスタディを一部の1年生対象に実施し、次年度の全学実施に向けて予算要求を行った。図書館の英語図書の補充を行ったが、これは今後とも継続したい。大学ホームページ更新において英語ページの作成を行うことが出来た。研究に関しては、最終年になる科研費研究の成果を2つの国際学会で発表した。本年が学会事務局長として国際学会との共催に協力することとなり、図書館での英語学習支援は行うことが出来なかった。

VII 次年度の目標

平成30年度の教育活動では、新々カリキュラムの英語科目改善に向けた検討を進める。また2年目となる「体験ゼミナール」の順調な運営に努める。研究活動としては、英語多読の教育・研究テーマを発展させることに努める。大学の運営として、委員会活動に貢献していきたい。

教授 渡辺 尚子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

すでに領域内教員の欠員が予定されているが、着任3年目ということで教育の維持・向上はもちろんのこと、大学組織への貢献と共に、研究・社会貢献活動にもう少し時間を費やしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・看護学入門
 - ・看護ふれあい体験学習
 - ・療養支援看護概論
 - ・心の健康
 - ・こころの健康と看護
 - ・精神看護学方法論
 - ・精神看護学実習
 - ・総合実習
 - ・看護学統合
 - ・看護研究
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・「精神看護学概論」(千葉労災看護専門学校)

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・渡辺尚子, 中村博文, 阿部準子, 有井菊美: 地域で生活する統合失調症患者の Resilience 尺度の開発, 千葉県立保健医療大学紀要, 9 (1), 70, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・中村博文, 渡辺尚子, 阿部準子: 精神看護学実習前後における臨床判断能力の変化, 第27回日本精神保健看護学会学術集会, 2017.
- ・中村博文, 渡辺尚子: 地域で生活する統合失調症患者の Resilience と QOL, 自己効力感との関係, 第37回日本看護科学学会学術集会, 2017,
- ・Hirofumi Nakamura, Naoko watanabe: Structural equation model of factors related to quality of life for community-dwelling Schizophrenic patient in japan. International Nursing Research Conference 2017.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成事業(基盤研究B), 地域で生活する統合失調症患者の Resilience 尺度の開発とその強化要因の研究 (研究分担者)

- ・学内共同研究, 精神科受療行動からみた青年期にある患者のメンタルヘルスに関する探索的研究(研究分担者)

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本精神保健看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本社会精神医学会, 北日本看護学会, 日本公衆衛生看護学会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本精神科看護協会査読委員(2017年4月～現在に至る)
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会第23回学術集会 実行委員 (2017年9月)
- ・日本精神科看護専門学術集会査読委員 (2017年4月～2018年3月)
- ・日本看護科学学会学術集会査読委員 (2017年6月～2018年3月)
- ・日本看護学会ヘルスプロモーション論文選考委員 (2017年10月～2018年3月)

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・同和会千葉病院看護師対象研修会講師 看護研究の意義と方法, 2017年5月27日, 同和会千葉病院
- ・精神看護認定看護師チームアプローチ論講師, 2017年7月26日, 日本精神科看護協会.
- ・千葉県看護協会実習指導者講習会(看護論), 看護職対象, 2017年10月25日, 千葉県ナースセンター

7 その他

- ・放送大学, 看護師国家試験学習支援ツールの作成, 2017年

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・国際交流委員会, 自己点検・評価委員会 (実施推進部会), キャンパスハラスメント相談員, 教員再任審査委員会, 教員資格審査委員会

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会, 看護学科総務・企画委員会, 看護学科人事評価部会, 担任(看護学科3年生), 総合実習作業部会

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

この1年も領域内教員の欠員があったものの, 無事に年間計画が終了した。

VII 次年度の目標

2018年3月にて退職

准教授 浅井 美千代 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、研究活動では、前年度の成果を基に次の段階の研究を計画し、データ収集・分析を行い研究成果をまとめる。教育活動では、学生にとって理解しやすい授業内容や指導内容となるよう工夫する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール
- ・成人看護学概論
- ・成人看護学方法論II
- ・成人看護学実習(慢性期)
- ・総合実習
- ・看護研究
- ・看護学統合
- ・看護ふれあい体験学習

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・浅井美千代：概念分析を基にした関節リウマチ患者のセルフマネジメント尺度の開発とその活用可能性の検討, 順天堂大学大学院看護学研究科, 71頁, 2018.
- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 塩原由美子, 大内美穂子, 子安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美：IABP装着患者への看護実践に焦点を当てたシミュレーション教育の実践, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 43-48.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 塩原由美子, 大内美穂子, 子安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美：ICU看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価, 第23回千葉看護学会学術集会(千葉), 2017年9月.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2014～2018年度科学研究費補助金基盤研究(C)「ICU看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価」研究分担者.
- ・2015～2018年度科学研究費補助金基盤研究(C)「関節リウマチ患者の関節負荷防止のためのセルフケア技術獲得を促進する看護モデル開発」研究代表者.

7 その他

- ・高校訪問, 千葉県立千城台高等学校, 模擬授業, 12月19日.
- ・放送大学, 看護師国家試験学習支援ツールの作成, 2017.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護教育学会、日本がん看護学会、日本介護福祉学会、日本老年行動科学学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本リハビリテーション看護学会、日本慢性看護学会、北日本看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・院内事例検討、千葉県救急医療センター主催・事例検討指導、2017年5月31日・8月7日・9月15日・11月16日、千葉県救急医療センター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ネットワーク委員会、体験ゼミナール作業部会、10周年記念行事实行委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科社会貢献委員会、総合実習作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は、研究成果を博士論文としてまとめることができた。今回の研究では初めて本格的な量的研究に取り組み、研究の視点や方法の幅を広げることができた。教育活動については、学生のフィードバックから、臨床実習において学習に関する情報提供を積極的に行うことが個々の学生の学習支援につながるということがわかり、自分なりの新たな教育方法を見出すことができた。社会貢献については、県内看護職のスキルアップに向け、既存の調査結果を再分析してニーズを明らかにし、学科が貢献しうる内容について検討した。

VII 次年度の目標

研究活動では、前年度の研究成果の精度を高め、看護関連学会での発表及び学会誌への投稿を行う。教育活動では、学生にとって理解しやすい授業内容となるよう、また実習指導では学生の個別性に即した学習支援ができるよう工夫する。

准教授 雨宮 有子 博士 (スポーツ健康科学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育に関しては、地区活動計画立案に関する講義・演習の内容を改善し、それに連動させた実習展開を意図し、教育効果を上げる。保健師に関心を持つ学生を増やすとともに保健師国家試験合格率を改善する。研究に関しては、代表者を担う研究の順調な推進・研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献に関しては、県内保健師の現任教育の向上に貢献する。管理・運営に関しては、明瞭な予算管理システムを整えていく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論Ⅱ.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・地域看護学総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・専門職間連携活動論.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・2018年版保健師国家試験問題 解答と解説, 成人保健指導・高齢書保健指導, 2017, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・石橋みゆき, 吉田千文, 雨宮有子, 木暮みどり, 樋口キエ子: 退院支援過程において退院調整看護師とソーシャルワーカーの用いる技術の特徴, 保健医療福祉連携, 10巻, 1号, 19-28, 2017.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 松尾真輔, 三宅理江子, 保坂誠, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中沙都, 雄賀多聡, 雨宮有子, 中島悠介, 中島一郎: 軽度認知症害が疑われる地域在住高齢者の「日常役割機能一身体」, 千葉県立保健医療大学紀要, 第8巻, 第1号, 35-40, 2017.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・雨宮有子, 共著者: 石橋みゆき, 角川由香, 吉田千文, 諏訪部高江, 丸谷美紀: 超高齢構想区域にある地域中核病院での地域ケアシステム構築に繋がる退院支援看護技術, 日本地域看護学会 第20回学術集会, 平成29年8月5-6日, 別府.
- ・石丸美奈, 鈴木悟子, 飯野理恵, 宮崎美砂子, 杉田由加里, 雨宮有子, 佐藤紀子, 原田静香, 櫻井しのぶ, 鶴岡章子, 安藤智子, 鈴木明子, 岡田由美子, 藤井広美, 鈴木美和: 大学間連携による保健師業務研究サポートを効果的に推進するための教員側の要件, 日本地域看護学会 第20回学術集会, 平成29年8月5-6日, 別府.
- ・鈴木悟子, 石丸美奈, 飯野理恵, 宮崎美砂子, 杉田由加里, 雨宮有子, 佐藤紀子, 原田静香, 櫻井しのぶ, 鶴岡章子, 安藤智子, 鈴木明子, 岡田由美子, 藤井広美, 鈴木美和: 大学間連携による保健師業務研究サポートを効果的に推進す

るための保健師側の要件, 日本地域看護学会 第20回学術集会, 平成29年8月5-6日, 別府.

- ・鶴岡章子, 石丸美奈, 鈴木美和, 鈴木悟子, 雨宮有子, 安藤智子, 鈴木明子, 岡田由美子, 藤井広美, 原田静香, 櫻井しのぶ, 佐藤紀子, 飯野理恵, 杉田由加里, 宮崎美砂子: 大学間連携による保健師業務研究サポートの成果—業務研究を経験した保健師の成長の視点から—, 日本地域看護学会 第20回学術集会, 平成29年8月5-6日, 別府.
- ・鈴木美和, 石丸美奈, 杉田由加里, 鈴木悟子, 飯野理恵, 雨宮有子, 原田静香, 鶴岡章子, 藤井広美, 鈴木明子, 岡田由美子, 安藤智子, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 櫻井しのぶ: 大学間連携による保健師業務研究サポートの成果—業務研究指導を担当した教員の研究および社会的貢献に関わる能力の変化—, 日本地域看護学会 第20回学術集会, 平成29年8月5-6日, 別府.
- ・樋口キエ子, 諏訪部高江, 石橋みゆき, 吉田千文, 雨宮有子, 伊藤隆子, 神谷明美, 丸谷美紀: 在宅移行時における患者と家族の希望のズレへの介入プロセスにおける退院支援看護技術: 日本家族看護学会第24回学術集会, 平成29年9月2-3日, 千葉
- ・木暮みどり, 石橋みゆき, 大藤沙紀, 雨宮有子, 伊藤隆子, 樋口キエ子, 林弥生, 角川由香, 諏訪部高江, 神谷明美, 平野和恵, 丸谷美紀: 看護をつなぐための人材育成—退院支援部門の院内留学研修制度—, 千葉看護学会第23回学術集会・交流集会, 平成29年9月9日, 千葉
- ・伊藤隆子, 平野和恵, 林弥生, 石橋みゆき, 雨宮有子, 神谷明美, 木暮みどり, 諏訪部高江, 樋口キエ子, 丸谷美紀, 吉田千文: 自組織の看護師の退院支援スキル向上にむけた人材養成に関わる意図と行為, 千葉看護学会第23回学術集会・交流集会, 平成29年9月9日, 千葉
- ・雨宮有子, 共著者: 佐藤紀子, 細谷紀子, 丸谷美紀, 石川志麻, 宮澤早織: 保健師自身が価値を実感できる質の高い保健師活動を成し得る要因, 第76回日本公衆衛生学会総会, 平成29年10月31日~11月2日, 鹿児島.
- ・細谷紀子, 宮澤早織, 雨宮有子, 佐藤紀子, 石川志麻: 災害時要配慮者を支える住民組織活動における対象者把握に関する実態と課題, 第76回日本公衆衛生学会総会, 平成29年10月31日~11月2日, 鹿児島.
- ・雨宮有子, 共著者: 佐藤紀子, 細谷紀子, 丸谷美紀, 石川志麻, 宮澤早織: 保健師が価値を感じた活動における困難・課題, 第6回日本公衆衛生看護学会, 平成30年1月6-7日, 大阪.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 宮澤早織, 石川志麻: 住民組織による災害時要配慮者に対する個別計画および避難訓練に関する工夫と困難, 第6回日本公衆衛生看護学会, 平成30年1月6-7日, 大阪.
- ・雨宮有子, 石川志麻, 佐藤紀子, 細谷紀子, 宮澤早織: 新人保健師がリフレクションを通じて実践能力を向上するOff-JTの方法とリフレクティブな実践能力評価指標試案の開発, 千葉県立保健医療大学紀要, 第9巻, 第1号, 85頁, 千葉.
- ・伊藤隆子, 雨宮有子, 吉田千文, 辻村真由子, 島村敦子, 亀井縁, 石垣和子: ケアマネジャーの経験するモラルディストレスにはどのような倫理的ビリーフが影響するのか, 日本臨床倫理学会第6回年次大会, 平成30年3月17-18日, 東京.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C))H28-31, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(B))H26-30, 高齢者のエンパワメントを促す介護予防事業従事者向け教育プログラムの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C))H27-30, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C))H27-30, 地域包括的視点に基づく看護管理方法論の探求, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C))H27-29, 療養の場の移行支援構築に向けた退院支援に係る看護技術の体系化, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C))H27-29, 在宅療養の場における倫理的ビリーフの解明とケアマネジメント能力育成プログラムの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県准看護師試験委員会. 千葉県准看護師試験委員会. 2016年5月1日~2018年4月30日.

4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・千葉県看護教会 保健師職能委員会、副委員長、2017年6月20日～2019年6月。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会、日本公衆衛生看護学会、日本公衆衛生学会、日本難病看護学会、日本家族看護学会、日本在宅看護学会、日本在宅ケア学会、日本看護管理学会、日本看護科学学会、文化看護学会、千葉看護学会、日本保健医療福祉連携教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・千葉看護学会、専任査読者、2018年4月1日～2021年3月31日。
- ・日本家族看護学会、専任査読者、2016年8月1日～2019年7月31日。

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

- ・平成29年度第1回千葉県松戸健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会、千葉県松戸健康福祉センター、保健活動業務研究指導、松戸健康福祉センター管内の保健師、2017年8月28日、松戸健康福祉センター。
- ・平成29年度第2回千葉県松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会(新任期)、千葉県松戸健康福祉センター、保健師業務の基本を学ぶ、松戸健康福祉センター管内の新任保健師、2017年9月5日、松戸健康福祉センター。
- ・平成29年度第3回千葉県松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会(中堅前期)、千葉県松戸健康福祉センター、評価を踏まえた保健活動・事業計画、松戸健康福祉センター管内の中堅前期保健師、2017年10月16日、流山市保健センター。
- ・平成29年度千葉県印旛保健所管内保健活動業務研究の検討会、千葉県印旛健康福祉センター、保健活動業務研究指導、印旛健康福祉センターの保健師、2017年11月10日、千葉県印旛健康福祉センター。
- ・平成29年度第3回千葉県市川健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会、千葉県市川健康福祉センター、保健活動業務研究指導、市川健康福祉センター管内の保健師、2017年11月20日、市川健康福祉センター。
- ・平成29年度第2回千葉県松戸健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会、千葉県松戸健康福祉センター、保健活動業務研究指導、松戸健康福祉センター管内の保健師、2017年11月21日、松戸健康福祉センター。
- ・平成29年度第3回千葉県海匝健康福祉センター管内保健師業務連絡研究会、千葉県海匝保健所管内保健衛生連絡協議会、保健活動業務研究指導、海匝健康福祉センター管内の保健師、2017年11月24日、八日市場地域保健センター。
- ・平成29年度千葉県香取健康福祉センター保健活動業務研究検討会、千葉県香取健康福祉センター、保健活動業務研究指導、香取健康福祉センター管内の保健師、2017年5月～2018年3月、松戸健康福祉センター。
- ・平成29年度市原市保健活動業務研究検討会、市原市保健センター、保健活動業務研究指導、市原市保健センターの保健師、2017年5月～2018年3月。
- ・平成29年度長生村保健活動業務研究検討会、長生村保健センター、保健活動業務研究指導、長生村保健センターの保健師、2017年5月～2018年3月。
- ・平成29年度第5回千葉県松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会、千葉県松戸健康福祉センター、保健師に求められる能力、松戸健康福祉センター管内の保健師、2018年1月5日、松戸市小金保健福祉センター。
- ・平成29年度千葉県保健活動業務研究発表会、千葉県健康福祉部健康づくり支援課健康づくり班、保健師業務研究への助言、千葉県内保健師、平成30年3月6日、千葉県教育会館。
- ・保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ、千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域、新人保健師が保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得を目指すワークショップ、千葉県内および近県の平成27・28・29年度採用保健師、2017年10月21日、12月9日、2月17日、千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・特色科目委員会. IPE 部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科総務・企画委員会. 看護学科担任. 総合実習作業部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、地区活動計画立案に関する講義内容を精練した。研究に関しては、研究代表者として学会発表3本、共同研究者として11本出せたが、筆頭で論文執筆はできなかった。社会貢献として、「新人保健師の現任教育としてのワークショップ」の改良・継続実施ならびに5健康福祉センター管内と2自治体および千葉県の保健師現任教育に貢献した。管理・運営に関しては、欠員状況の中、IPE部会員として科目運営を維持できた。看護学科総務企画の所掌事務を現状に即して改定した。

VII 次年度の目標

教育に関しては、これまでの取組を継続し地区活動計画立案に関する講義・演習の内容を精練し、それに連動させた実習展開を意図し、教育効果を上げる。保健師に関心を持つ学生を増やすとともに保健師国家試験合格率を改善する。研究に関しては、代表者を担う研究の順調な推進・研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献に関しては、県内保健師の現任教育の向上に貢献する。管理・運営に関しては、明瞭な予算管理システムを整えていく。

准教授 三枝 香代子 修士 (教育学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、教育活動では、より効果的な学習となるように講義内容を洗練させるとともに、演習や実習を充実させていく。研究活動では、現在取り組んでいる研究のデータ収集・分析を進め成果をまとめる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・救命・救急の理論と実際.
 - ・成人看護学概論.
 - ・成人看護学方法論Ⅰ.
 - ・成人看護学方法論Ⅱ.
 - ・ターミナルケア論.
 - ・成人看護学実習(急性期).
 - ・総合実習(成人看護学領域).
 - ・看護学統合.
 - ・看護研究.
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他(著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 塩原由美子, 大内美穂子, 小安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美: IABP 装着患者への看護実践に焦点を当てたシミュレーション教育の実施, 千葉県立保健医療大学紀要, 第9巻, 第1号, 43-48, 2018.

3 発表(発表者：発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 塩原由美子, 大内美穂子, 小安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美: ICU 看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価, 千葉看護学会第23回学術集会, 2017年9月. (千葉市)
- ・鈴木沙織, 山中美幸, 横土由美子, 三枝香代子: 先天性心疾患患児の手術前の親の思い, 第48回日本看護学会急性期看護学術集会, 2017年9月. (岐阜 長良川国際会議場)
- ・長谷川絵里, 池座陽子, 鈴木由加, 三枝香代子: ICU 看護師の口腔ケア方法の選択に対する実態調査, 第48回日本看護学会急性期看護学術集会, 2017年9月. (岐阜 長良川国際会議場)
- ・穴澤悠, 岩永薫, 三枝香代子: 突然の下肢切断患者の告知前後の関わり, 第56回全国自治体病院学会学術集会, 2017年10月. (千葉市 幕張メッセ)

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金(基盤研究(C)), ICU 看護師の臨床判断能力を育成・開発するためのシミュレーション教育方法開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・多数傷病者発生合同災害訓練（千葉県救急医療センター・千葉市立海浜病院・千葉市美浜消防署合同）、2017年10月7日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本クリティカルケア看護学会、日本看護学教育学会、千葉看護学会、日本看護科学学会、日本外傷学会、日本看護研究学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県立保健医療大学公開講座、「万が一、ケガや急病で救急外来を受診するときのお話し ～日頃からの備え～」、県民対象、平成29年10月22日（日）、千葉県立保健医療大学大講義室。
- ・千葉県救急医療センター院内研修、看護師の事例検討指導および発表会講評、年5回（5月18日・7月25日・9月12日・11月6日・2月20日）千葉県救急医療センター。
- ・千葉県循環器病センター看護研究、看護師の看護研究指導および発表会講評、年4回（8月18日・11月8日・12月15日・1月16日）千葉県循環器病センター。
- ・平成29年度千葉県看護教員養成講習会、看護論演習の講師、7月3日・7月10日、千葉県看護協会。

7 その他

- ・高校訪問、千葉県立佐原高等学校、模擬授業、7月12日。
- ・高校訪問、千葉県立船橋東高等学校、模擬授業11月1日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施部会委員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試検討委員、看護学科運営会議、医療・生活支援領域会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、わかりやすい授業を工夫するように努力した。研究活動では、分析にとりかかることができたが成果をまとめることができなかった。社会貢献活動では、千葉県立保健医療大学公開講座をはじめ、県内の看護師のニーズに応えるよう努力することができた。

VII 次年度の目標

平成30年度は、教育活動では、学生が理解しやすい授業内容となるように工夫し、臨地実習も同様に指導内容を工夫する。研究活動では、研究成果をまとめ学会発表や論文投稿をする。

准教授 細谷 紀子 修士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、担当科目においてアクティブ・ラーニングを増やし、学生の主体的な学修を強化する。研究については、代表者を担う課題を計画的に遂行させ着実に成果を発表していく。分担者を務める研究課題についても精力的に取り組む。社会貢献および大学の管理運営についても、引き続き責任をもって役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・地域看護学概論
 - ・地域看護学方法論Ⅱ
 - ・地域看護学方法論Ⅲ
 - ・地域看護学実習
 - ・災害看護学
 - ・総合実習
 - ・看護研究
 - ・看護学統合
 - ・専門職間の連携活動論

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子: 発災時において地域住民との関係が発達障がい児と家族にもたらす影響, 千葉看護学会誌, 第23巻, 1号, pp21-31, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・細谷紀子, 宮澤早織, 雨宮有子, 佐藤紀子, 石川志麻: 災害時要配慮者を支える住民組織活動における対象者把握に関する実態と課題, 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31日～11月2日, 鹿児島市.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 石川志麻, 宮澤早織, 丸谷美紀: 保健師自身が価値を実感できる質の高い保健師活動を成し得る要因, 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31日～11月2日, 鹿児島市.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 宮澤早織, 石川志麻: 住民組織による災害時要配慮者に対する個別計画および避難訓練に関する工夫と困難, 第6回日本公衆衛生看護学会, 2018年1月6日～7日, 大阪市.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 丸谷美紀, 石川志麻, 宮澤早織: 保健師が価値を感じた活動における困難・課題 — 保健師活動の質向上のための支援方法の開発 —, 第6回日本公衆衛生看護学会, 2018年1月6日～7日, 大阪市.
- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Misa Shiomi, Takafumi Katayama, Noriko Hosoya: Clarifying an effective educational program for Japanese public health nurses focusing on health service development, TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017, 20-22 October, 2017, Bangkok.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・平成27～30年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究代表者.

- ・平成26～29年度科学研究費助成事業（基盤研究（B）），高齢者のエンパワメントを促す介護予防従事者向けプログラムの開発，分担研究者。
- ・平成28～30年度科学研究費助成事業（基盤研究（B）），地域ニーズに基づく施策化を展開するための中堅保健師向け教育プログラムの開発，分担研究者。
- ・平成28～31年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C）），保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発，分担研究者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会，千葉看護学会，日本公衆衛生学会，日本看護科学学会，文化看護学会，日本公衆衛生看護学会，日本ルーラルナーシング学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉看護学会，査読委員，2015年4月より現在に至る。
- ・平成29年度（第56回）千葉県公衆衛生学会，一般口演座長，2018年2月1日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・業務研究に関する指導，千葉市緑保健福祉センター，妊婦支援における業務研究に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言，千葉市緑区健康課職員，2017年8月～2017年11月，千葉市緑保健福祉センター。
- ・平成29年度第4回山武保健所管内保健師業務連絡研究会，講演「業務研究の意義とレポート作成のポイント」および保健活動研究発表の助言・指導，山武健康福祉センター保健師及び管内市町の保健師，2017年11月8日，千葉県山武健康福祉センター。
- ・平成29年度第3回習志野保健所管内保健師業務連絡研究会，講演「保健師が行う業務研究の意義」および提出演題への指導・助言，習志野健康福祉センター保健師及び管内市の保健師，2017年11月20日，千葉県習志野健康福祉センター。
- ・平成29年度第3回安房保健所管内保健師業務連絡研究会，講演「事業を効果的に進めるためのPDCAサイクルを回す方法～評価の視点について～」，安房健康福祉センター保健師及び管内市町の保健師，2017年12月19日，千葉県安房健康福祉センター。
- ・保健師活動の必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ，千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域，新人保健師が保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざすワークショップ，千葉県内平成27・28・29年度新規採用保健師，2017年10月21日，12月9日，2018年2月17日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会，看護学科看護研究ワーキンググループ。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については，災害看護学において教材「クロスロード」を用いた「災害対応意思決定演習」の導入により，学生は多角的な視点や実践的な学びを得ていることが確認でき，学習効果を高めることができた。研究については，論文の採択と学会発表により成果を公表することができた。社会貢献については県内の保健師への研究指導・研修講師の役割等を担った。

大学の管理運営については、看護学科学生・進路支援委員長として学生への指導方針等の整備を図り効果的な運営に努めた。

VII 次年度の目標

教育については、保健師国家試験に対する早期からの学習の意識づけを図り学生が効果的に学習できるようにする。研究については、代表者を担う課題について引き続き計画的に遂行させ着実に成果を発表していく。分担者を務める研究課題についても精力的に取り組む。社会貢献については、県内の保健師資質向上や保健活動の改善のために役割を果たせるよう努める。大学の管理運営については、全学学生委員および看護学科学生・進路支援委員長として責任をもって役割を遂行する。

准教授 平尾 由美子 修士（看護学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、授業内容および実習内容と指導方法の更なる充実を目指し検討を継続する。研究活動においては、学内共同研究を確実に遂行し成果を発表すること、それらと社会貢献活動との有機的な充実を図っていくことを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門
- ・看護ふれあい体験学習
- ・療養支援看護概論
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ
- ・ターミナルケア論
- ・リスクマネジメント論
- ・在宅看護学実習
- ・総合実習
- ・看護研究
- ・看護学統合

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

・鈴木裕子，原田光子，平尾由美子：共生社会を紡ぐ“地域カフェ活動”，地域ケアリング 12 臨時増刊号，第 19 巻 13 号，96-99，2017 年。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鈴木裕子，原田光子，平尾由美子：安房地域のセルフケア力に繋がるカフェ活動— 南房総市「おたがい茶間」鴨川市「青空カフェ」館山市「つむぎ」—，第 32 回日本保健医療行動科学会学術大会，2017 年 6 月 17 日，18 日，鴨川市。
- ・平尾由美子，小笠原祐子：在宅療養高齢者に対する訪問看護師によるフットケアの実態と意識調査，第 22 回日本在宅ケア学会学術集会，2017 年 7 月 15 日～16 日，札幌市。
- ・平尾由美子，成玉恵：国際生活機能分類（ICF）を取り入れた在宅看護過程展開から学生が捉えた ICF 活用の意義と困難，日本看護学教育学会第 27 回学術集会，2017 年 8 月 17 日～18 日，沖縄県。
- ・小笠原祐子，平尾由美子：訪問看護師がフットケアを要すると感じる高齢者の状態像—実態調査の記述分析より—，第 16 回日本フットケア学会年次学術集会，2018 年 2 月 9 日～11 日，福岡市。
- ・平尾由美子，小笠原祐子：訪問看護師が高齢者のフットケアについて感じていること—実態調査の記述分析より—，第 16 回日本フットケア学会年次学術集会，2018 年 2 月 9 日～11 日，福岡市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，在宅医療における管理栄養士のニーズに関する研究，研究分担者
- ・学長裁量研究，地域包括ケアシステム構築に向けた在宅看護資源の現状と課題－千葉県における在宅看護に関わる団体の調査から－，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護学会，日本老年看護学会，日本老年社会科学会，日本在宅ケア学会，日本看護学教育学会，北日本看護学会，日本フットケア学会，千葉看護学会，日本保健医療行動科学会，日本保健医療社会学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本看護学教育学会，評議員，2016年2月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・平成29年度実習指導者講習会，千葉県，看護論演習，看護職対象，平成29年10月26日，千葉県ナースセンター。
- ・訪問看護病院経営者講習会，公益社団法人千葉県看護協会（千葉县委託事業），地域の医療・介護の提供体制改革を見据えてこれからの病院の在り方－病院看護を変える『地域に打って出る看護』，県内の病院経営者，看護管理者，事務長等，11月30日，船橋中央病院附属看護専門学校 大講義室。
- ・千葉県勤労者医療協会研修会，高齢者の看護，当該団体の看護奨学生対象，平成29年12月2日，生活福祉センターからたち。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては，授業内容の検討により講義，演習方法を工夫し，改善を図ることができた。研究活動においては，研究を計画的に遂行し，概ね予定通りに進めることができた。社会貢献活動は，教育・研究活動とリンクさせながら，活動の機会を意識的にとらえ，積極的に取り組んできた。

VII 次年度の目標

研究課題としてきた在宅看護・訪問看護に関して，実践の場において，より現状に即した調査・研究を行っていく。

准教授 川城 由紀子 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、特に現在取り組んでいる研究を計画通りに遂行する。昨年度までに調査が終わっている研究の成果について、学会発表及び論文として投稿する。教育については、講義・演習・実習の連動を強化し、より効果的な学習となるよう授業内容や方法について充実させる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・母性看護学方法論 I
 - ・母性看護学方法論 II
 - ・母性看護学実習
 - ・助産学概論
 - ・助産診断・技術学 I (実践基礎)
 - ・助産診断・技術学 II (ライフサイクル各期)
 - ・助産診断・技術学 III (分娩期)
 - ・助産診断・技術学 IV (ハイリスク分娩)
 - ・助産学実習 I (産婦ケア体験)
 - ・助産学実習 II (継続支援)
 - ・助産学実習 III (分娩期ケア)
 - ・総合実習
 - ・看護学研究
 - ・看護学統合

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・川城由紀子, 石井邦子, 鳥田美紀代, 竹内久美子, 大滝千智, 川村紀子: 介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の実態と雇用者側のニーズ, 千葉県立保健医療大学紀要, 9 巻, 1 号, 11-16, 2018.
- ・石井邦子, 川城由紀子, 大滝千智, 川村紀子, 鳥田美紀代: キャリア後期看護職のセカンドキャリアに関する意向と関連要因, 千葉県立保健医療大学紀要, 9 巻, 1 号, 3-10, 2018.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・川城由紀子, 石井邦子, 北川良子, 大滝千智, 小路和子, 吉村園子, 浅野輝子, 臼井佐紀, 窪谷潔: 産後ケアプログラムの効果検証, 平成 28 年度千葉県立保健医療大学共同研究発表会, 平成 29 年 8 月 29 日, 千葉.
- ・川城由紀子, 石井邦子, 北川良子, 大滝千智, 小路和子, 吉村園子, 浅野輝子, 臼井佐紀, 窪谷潔: 助産師による産後 2 週目健診が母親の心理的健康状態にもたらす効果, 第 58 回日本母性衛生学術集会, 平成 29 年 10 月 7 日, 神戸.
- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 大滝千智, 小路和子, 吉村園子, 浅野輝子, 臼井佐紀, 窪谷潔: デイケア型産後ケアサービスが母親の心理的健康状態にもたらす効果, 第 58 回日本母性衛生学術集会, 平成 29 年 10 月 7 日, 神戸.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，更年期女性のQOL向上のための日常生活に関する研究—酸化ストレスを指標にして—，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，産後ケアシステムにおける看護専門職と育成支援人材のコラボレーションモデルの開発，研究分担者。
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，模擬産婦と分娩シーンシナリオ(CTG含む)を活用した分娩介助演習の効果，連携協力者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本母性看護学会，日本母性衛生学会，日本解剖学会，日本内分泌学会，日本衛生学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会，査読委員，2014年4月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・看護教員養成講習会，看護論，看護教員，2017年6月，千葉県看護協会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自己点検・評価委員会実施推進部会，学術推進企画委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科倫理審査委員会，看護学科総務・企画委員会，看護学科1年生担任。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。（<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>）

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動では，前年度までに調査が終了している研究成果について，学会発表と論文にて発表することができた。他の遂行中の研究についてもそれぞれ進めることができたため，目標は達成できたと評価する。教育活動では，学生の理解度を確認しながら授業展開を行うことができ目標は達成したと評価する。また同領域内の新任教員が実習指導を円滑に担当できるように，現場での指導・調整を行うことができた。

VII 次年度の目標

教育活動では，学生が主体的に学習することを目指した授業展開を工夫する。研究活動では，現在進行中の研究の計画的な遂行と調査が終了している研究の成果を公表する。

准教授 北川 良子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、教育に関しては、母性看護学ならびに助産学においてより効果的かつ現場に即した学習内容となるよう講義・演習内容を精選し充実させていく。また助産学実習の総括者として4施設の状況をふまえ、施設担当者との連携を図り効果的な教育を円滑に遂行する。研究活動においては、学会発表に留まっている論文執筆を進めていくことを課題とする。また平成 29 年度から新たに科研費を獲得することができたのでライフワークになっている助産師のキャリア支援に関する研究を遂行する。委員会活動においては昨年度から所属委員会が変わり、看護学科教務委員会のカリキュラム実施部会として仕事の内容を十分理解した上で委員長と連絡を密にして責務を果たす。社会貢献では、学術集会の企画委員を引き受けているため8月の学会が成功するように責務を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護ふれあい体験学習
 - ・母性看護学方法論Ⅰ
 - ・母性看護学方法論Ⅱ
 - ・母性看護学実習
 - ・助産学概論
 - ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)
 - ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)
 - ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)
 - ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩)
 - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)
 - ・助産学実習Ⅱ (継続支援)
 - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)
 - ・総合実習
 - ・看護研究
 - ・看護学統合
 - ・専門職間の連携活動論

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・石井邦子, 北川良子, 林ひろみ, 鈴木幸子, 山本英子, 森美紀, 青柳優子, 岡津愛子: 分娩助産演習における「学生の気づきを促す模擬産婦フィードバックマニュアル」の評価と改良, 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017.
- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 大滝千智, 助産師による産後2週目健診が母親の心理的健康状態にもたらす効果, 第58回日本母性衛生学術集会, 神戸, 2017.
- ・川城由紀子, 石井邦子, 北川良子, 大滝千智, 他: デイケア型産後ケアサービスが母親の心理的健康状態にもたらす効果, 第58回日本母性衛生学術集会, 神戸, 2017.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・日本家族看護学会第24回学術集会，フロントランナーズシンポジウム，育成期家族を地域で支える一子どもと家族が笑顔で共に生きるために一座長，2017年9月2日，幕張。
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）「CLoCMiP レベルⅢ認証前の若手助産師キャリア支援プログラムの開発と検証」研究代表者。
 - ・科学研究費補助金基盤研究（C）「産後ケアシステムにおける看護専門職と育児支援人材のコラボレーションモデルの開発」研究分担者。
 - ・科学研究費補助金基盤研究（C）「模擬産婦と分娩シーンシナリオ（CTG含む）を活用した分娩介助演習の効果」連携協力者。

IV 社会貢献・国際交流記録

- 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）
- ・千葉県看護協会，看護教員養成講習会，11～12月。
- 5 学会，学術団体への貢献
- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本母性衛生学会，日本母性看護学会，日本助産学会，日本看護科学学会，千葉看護学会，千葉県母性衛生学会，日本助産師会
 - 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・日本家族看護学会第24回学術集会，企画委員，（H29.4.1～H29.10.1）
 - ・日本母性看護学会，査読委員，2017年4月～現在に至る。
 - ・千葉看護学会，査読委員，2017年8月～現在に至る。
- 7 その他
- ・高校訪問，千葉県立千葉西高等学校，6月。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・研究等倫理委員会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科教務委員会，看護学科運営会議
- 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞
 - ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学
（<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>）

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動は，講義演習において前年度の教育内容を再検討し，効果的な学習となるよう改善できた。助産学実習の主担当として，新規実習施設の開拓をすることができた。実習において，学内で学習した内容を踏まえ，かつ個々の学生のレディネスに応じた実習支援に取り組み，担当した学生は全員実習目標を達成することができた。研究活動において新たに科学研究費を獲得したが，職位の変更に伴い教育に多くの時間を費やしたため，十分な研究活動を行うことができなかった。委員

会活動においては、与えられた役割の責務を果たすことができた。

VII 次年度の目標

研究活動を充実させ、現在行っている研究の遂行に努める。また学会発表にとどまっている研究の論文執筆に取り組む。教育活動においては、内容をアップデートしさらなる改善に努める。看護学科教務委員会委員長を拝命したため、円滑な委員会運営に努める。また新々カリ WG のメンバーとして役割を果たす。

准教授 植村 由美子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

本学の教育活動と管理運営に力を入れる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護技術論 I (日常生活援助技術).
- ・看護技術論 II (共通技術).
- ・看護技術論 III (フィジカルアセスメント技術).
- ・看護技術論 IV (検査治療技術).
- ・看護技術論 V (看護過程展開技術).
- ・基礎看護学実習.
- ・看護学統合.
- ・看護研究.
- ・看護倫理.

III 研究記録

- ・河部房子, 今井宏美, 椿祥子, 植村由美子, 石田陽子, 鈴木恵子, 小高亜由美: 臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関わる経験, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 17-25, 2017.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本看護教育学学会. 日本看護倫理学会. ホリスティックナーシング研究会.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・平成 29 年度 実習指導者講習会. 臨床指導の倫理的基盤. 臨地実習指導看護師. 2017 年 11 月 6 日. 千葉県ナースセンター.
- ・倫理教育ワークショップ. 金沢医科大学 医学教育センター 倫理教育委員会. 実習教育で看護教員が倫理的ジレンマと捉えた課題と対処の実際. 金沢医科大学看護学部教員. 2018 年 2 月 24 日. 金沢医科大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究等倫理委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当する講義・演習科目においては、国家試験の出題傾向等を踏まえ、授業資料を作成するようにした。講義・演習の終了後に学生が記載するレスポンスシートのコメントを踏まえ、学生が学習意欲が継続できるような授業構成を考え、それを実践するよう努めた。

研究活動は、データ収集まで実施した。

VII 次年度の目標

教育活動については、学生の基本的な思考力、判断力、実践力を育成し、看護職者として成長できるよう、授業等を見直す。研究活動については、前年度に収集したデータをまとめる。大学の管理運営については、責任感を持って職務を遂行する。

講師 植田 麻実 Ph. D. (第二言語習得)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、特に、看護学科の教員として学科において与えられた職務を果たしつつ、共通教育運営会議のメンバーとしても、すべての学科の学生にとって英語教育や体験ゼミなどを通して積極的にその職務を果たし、本学の学生のために貢献する事。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・英語II (基礎英会話) .
 - ・英語III (講読・記述) .
 - ・英語V (保健医療英語) 看護学科.
 - ・英語V (保健医療英語) 栄養学科.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名. 大学名)
 - ・(日本語. 防衛大学校) .

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線 : 著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・Ueda, M. & Kanda, M. : Japanese university students' attitudes toward the usage of social media in autonomous English study. In Kanda, M., Ota, N., Ishituki, M., Iwamoto, N., and Takeguchi, M. (Eds.), *The Cross-CutlruaI Review Vol. 13* (pp. 45-58), 2017, 文化書房白文社, 東京.

2 学術論文・その他 (著者 : 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・荒井春生, 植田麻実, 園田和子, 小畑匡子, 連記成史: 被災地で働く単科精神科病院の看護師を対象にしたアロマテラピー・トリートメント実施後における気分変化の検討, アロマテラピー学雑誌, 18巻, 2号, 8-16, 2017.
- ・Emika, A., Ueda, M., & Sugino, T. : A small enjoyment gives a big leap to learners' motivation. Proceedings and Abstracts of the 29th Japan-U.S. Teacher Education Consortium, 52, 2017.
- ・Ueda, M., Abe, E., & Sugino, T. : Role of English in Japan' s multicultural multilingual society, *Selected Papers from the Twenty-sixth International Symposium on English Teaching*, (236-245), 2017.

3 発表 (発表者 : 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・植田麻実: The Antholopology of Childhood(109-119), JACET 学会言語政策研究会, 2017年4月22日, 東京大学.
- ・植田麻実, 荒井春生, 久松美佐子: がんを合併した統合失調症患者の転帰をめぐる課題, 日本緩和医療学会, 2017年6月23日, パシフィコ横浜.
- ・久松美佐子, 荒井春生, 植田麻実: 単科精神科病院でがんを合併した統合失調症患者の病状の説明と治療の選択, 日本緩和医療学会, 2017年6月23日, パシフィコ横浜.
- ・荒井春生, 久松美佐子, 植田麻実: 単科精神科病院における緩和ケアの必要性, 日本緩和医療学会, 2017年6月23日, パシフィコ横浜.

- Abe, E., Ueda, M.: A small enjoyment gives a big leap to learners' motivation, Japan-U.S. Teacher Education Consortium, Sep., 16th, 2017, University of Hawaii, Manoa, Hawaii, The United States of America.
- Ueda, M., Abe, E., & Sugino, T.: Roles of English in Japan's multicultural multilingual society, ETA-ROC, Nov., 11th, 2017, Chien Tan Overseas Youth Activity Center, Taipei, Taiwan.
- 植田麻実, 福岡悦子: English for specific purposes (ESP)のニーズと学習者への動機づけ, 日本実用英語学会, 2018年1月20日, 早稲田大学.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 平成 29 年度学内共同研究費, 医療英語 ESP (English for Specific Purposes) — 学習者の視点からのニーズ・アナリシス, 研究代表者.
- 平成 29 年度学内共同研究費, 本学学生を対象とした英語 VELC Test の検証—熟達度診断およびプレイスメントテストとしてのパイロットスタディ, 研究分担者.
- 平成 29 年度学長裁量研究費, ホームページ上の大学情報発信を英語でも行う方法の開発, 研究分担者.
- 2017 年度笹川記念保健協力財団ホスピス緩和ケア研究助成, がんを合併した統合失調症患者の看護における現状と課題, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

2) 千葉県外

- ミュゼ・スワロー, 2012～現在. 仮設住宅, 老人ホーム等. (2017 年 9 月 24 日東京都新宿区リアンレーブ高田馬場にて活動).

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本実用英語学会, The Japan Association for Language Teaching, 日本緩和医療学会, JACET 言語政策研究会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- The Japan Association for Language Teaching, 日本語投稿論文査読・翻訳委員, 2016 年～現在.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- 図書・情報委員会, 学術推進企画会議, 共通教育運営会議.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- 看護学科運営会議, 看護学科教務委員会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

共通教育運営会議主催の講演会の準備や初年次教育に関する教員アンケートに携わる事ができ, 共通教育に携わる教員として一定の成果をあげる事ができた. 英語や体験ゼミの授業に関しては, 学生のニーズを活かし, 異なった学科同士の学生の学びの機会をより活性化させるために今後も授業を改善していく.

VII 次年度の目標

3 月に行われた FD では, 授業評価をいかに授業へ活かすかが議論された. 特に 1 年生を対象としている英語の授業に関して, その目的や内容を学生のニーズへより近づける事を次年度の目標とする.

講師 西山 正恵 修士（医療保健学情報学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

1年間の大学の様々な取り組みを理解し取り組んでいく。2年生の担当の10名の学生と、ゼミの3名の学生に関しては学生が目標を達成できるよう責任を持って指導する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・基礎看護学実習
- ・体験ゼミ
- ・看護倫理
- ・看護キャリア発達論
- ・感染看護学
- ・リスクマネジメント論
- ・専門職間の連携活動論
- ・看護政策論
- ・看護管理学実習
- ・総合実習
- ・看護学統合

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・西山正恵：看護管理，2017，医学書院，東京。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・医療マネジメント学会，日本看護管理学会，日本看護科学学会，日本看護教育学会，日本看護評価学会，日本臨床医学リスクマネジメント学会

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・船橋市中央生活学校（市民団体）「毎日を楽しくーこころのおはなしー」平成29年10月23日 船橋市中央公民館

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ネットワーク委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科・教務委員会, 看護学科総務・企画委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・准教授の退職により看護管理学領域の講義・実習を学内・学外の教員の支援を受けて終えることができた. 退職に向けて次年度の実習の準備をおこなったが学生への支障がないようできたかは課題である. 時間の調整ができず, 研究を進めることができなかつたことも課題である.

講師 今井 宏美 修士 (保健学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は口腔ケア修得を促進する顎モデルの開発をテーマに科研費の獲得を課題とする。教育活動では領域内教員の密な意思疎通を図り、学生の自律的学習の支援を継続する。併せて、教育・研究時間の確保を行いつつも、社会貢献活動を充実させたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・看護技術論Ⅰ (生活援助技術)
 - ・看護技術論Ⅱ (看護共通技術)
 - ・看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)
 - ・看護技術論Ⅳ (検査治療技術)
 - ・看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)
 - ・基礎看護学実習
 - ・看護研究
 - ・看護学統合

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・尾崎哲則, 藤井一維, 武井典子, 吉田直美編, 今井宏美他: 多職種連携で活用! ポケット版歯科衛生士のための医療用語・福祉用語, 2017. 8, 医歯薬出版, 東京.
- ・村井千賀, 大瀧雅世, 小林毅, 小林隆, 清野敏秀, 宮里直美, 今井宏美他: 作業療法マニュアル55 摂食嚥下障害と作業療法 吸引の基礎知識を含めて, P77-83, 2018. 3, 日本作業療法士会, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・河部房子, 今井宏美, 椿祥子, 植村由美子, 石田陽子, 鈴木恵子, 小高亜由美: 臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関わる経験, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 17-25, 2017.
- ・椿祥子, 河部房子, 今井宏美, 石田陽子: 看護現場におけるフィジカルアセスメント技術活用状況に関する実態調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 55-61, 2017.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・今井宏美, 河部房子, 椿祥子: 看護現場におけるフィジカルアセスメント技術活用状況に関する実態調査, 日本看護学教育学会第27回学術集会講演集, 159, 2017. 8. 17-18. 沖縄コンベンションセンター.
- ・今井宏美, 麻賀多美代, 三澤哲夫: 携帯可能な口腔ケアシミュレータの開発に向けた基礎調査, 産業保健人間工学会第22回大会抄録集, 37-38, 2017. 9. 4-5. 千歳科学大学.
- ・酒巻裕之, 金子潤, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴木祐子, 山中紗都, 今井宏美, 吉田直美: 自習におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster” 動画教材の有用性に関する検討, 日本歯科衛生教育学会第8回学会総会・学術大会抄録号, 96, 2017. 11. 25-26, 関西女子短期大学・関西福祉科学大学.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会，日本環境感染学会，日本看護教育学会，日本看護技術学会，日本看護科学学会
お茶の水看護学研究会，口腔保健協会学会，口腔衛生学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科衛生教育学会

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・平成 29 年度 看護研究研究指導，千葉市海浜病院，2016 年 4 月～2017 年 3 月。
- ・平成 29 年度 実習指導者講習会，看護教育課程（看護過程の展開），臨地実習指導看護師，2017 年 11 月 2 日，千葉県ナースセンター。
- ・平成 29 年度 看護教員養成講習会，研究方法（演習），2017 年 11 月 20 日，29 日，12 月 18 日，千葉県ナースセンター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会，看護学科総務・企画委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

科研費の取得により，口腔シミュレータの試作を作製し，その学習効果についてのデータ収集を行った。教育活動では新たに着任した教員との意思疎通をできるだけ図ったうえで，授業を展開した。また，学生に対しては専門職としての自己の態度の振り返りを促し，自己分析の向上を図りつつ，看護技術修得へ向けての意欲向上を図った。加えて他学科での講義，他のコマディカル等との共同研究を実施し，本学科教育に還元した。今年度から新たに担った全学の教務委員会では GPA 検討作業部会を担い役割を遂行した。

VII 次年度の目標

平成 30 年度は引き続き，モバイルシミュレータの開発研究を遂行し，その成果をまとめ，論文投稿を行っていく。教育活動においては，領域内教員との連携を図りながら共働していくことで，教授内容の質を保証していく。併せて，全学および学科内委員会等における役割を遂行していく。

講師 成 玉恵 修士 (政治学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育に関しては、引き続き講義・演習・実習の質の向上をはかり、系統的に実施する。また、実習施設との連携を強化し、学生指導に生かすよう努める。学科運営に関しては、各種委員会の業務を円滑に遂行し理解を深める。研究に関しては、学内共同研究の研究分担者として調査・研究を進める。また、研究資金の獲得に努める。社会貢献活動に関しては、訪問看護師の研究活動に貢献する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・高齢者・在宅看護学方法論 I
 - ・高齢者・在宅看護学方法論 II
 - ・在宅看護学実習
 - ・総合実習
 - ・看護研究

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・保健医療福祉行政論、淑徳大学看護学部

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・高柳千賀子, 杉本知子, 鳥田美紀代, 上野佳代, 成玉恵: 特別養護老人ホームにおけるノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生予防の現状—介護職員へのインタビュー調査からの一考察—, 東京情報大学研究論集, Vol. 21 No. 2, P87-95, 2018年.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等、本人下線)

- ・高柳千賀子, 杉本知子, 鳥田美紀代, 上野佳代, 成玉恵: 特別養護老人ホームにおけるノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生予防の現状—介護職員へのインタビュー調査からの一考察—, 第17回日本感染看護学会学術集会, 2017年8月, 東京.
- ・平尾由美子, 成玉恵: 国際生活機能分類 (ICF) を取り入れた在宅看護過程展開から学生が捉えたICF活用の意義と困難, 第27回日本看護学教育学会, 2017年8月, 沖縄.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究費, 地域包括ケアシステム構築に向けた在宅看護資源の現状と課題—千葉県における在宅看護に関わる団体の調査から—, 研究代表者.
- ・学内共同研究, 高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸性の集団発生予防: 通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態調査, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本在宅ケア学会、日本地域看護学科、行政学会、日本感染看護学科、日本公衆衛生看護学科、日本保健医療社会学会、日本看護学教育学会

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、運営スタッフ、2017年9月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・平成29年度千葉県看護教員養成講習会、千葉県看護協会、看護論演習、看護職対象、平成29年7月、千葉県ナースセンター。

7 その他

- ・看護研究勉強会、事例検討会、ふたわ訪問看護ステーション、2017年9月～10月3回開催。
- ・放送大学、看護師国家試験学習支援ツールの作成、2017。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自己点検・評価委員会報告書等作成部会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会、4年生担任、国家試験担当、看護学科入試検討委員会、看護学科「総合実習」作業グループ。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、講義・演習・実習の質の向上をはかり、系統的に実施した。講義では、学生の感想を参考に授業資料の改定に力を入れた。その中で、講義資料に国試の過去問題を使用する工夫を今年度も引き続き実施し、学生の評価を得た。また、毎回、学生からの質問を丁寧に返すことで、学生にわかりやすい授業となるよう努力した。実習に関しては施設との調整、実習準備、指導等、滞りなく実施した。今年度初めて実習施設を対象に看護研究の勉強会と事例検討会を行った。実習指導者の方々とコミュニケーションを取る機会にもなり、その後の実習に生かすことができた。大学の管理運営に関しては、国家試験担当として模擬試験・特別講義をサポートし、看護師国家試験の合格率アップに寄与した。その他、4年生担任として過年度学生への対応や学位記授与式の準備、進行の役割を果たした。研究に関しては、2件の学会発表と1件の論文発表をすることができた。特に今年度は学内の競争資金を得て、研究代表者として調査・研究を行うことができた。以上から、年度当初の目標は達成したと評価する。

VII 次年度の目標

教育に関しては、引き続き講義・演習・実習の質の向上をはかり、充実した内容にする。特に、在宅看護の需要が高まっていることから、実践的な内容を取り入れた学習を検討したい。研究に関しては、予定されている学会発表2件を滞りなく行う。また、調査・研究を進め、論文投稿に取り組むことを目標とする。

講師 石川 紀子 修士（看護学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、領域の教員間で連携を図りながら、講義・演習を行うとともに、臨床側と連携を図りながら実習運営に努める。研究活動では、研究代表者として取り組んだ研究の成果の公表や、計画に沿って必要な活動を推進していく。委員会活動では、新たな委員会での活動となるため、円滑に役割や業務を果たしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・芦田慶子，有川量崇，石川志麻，石川紀子，他 42 名著：多職種連携で活用！ポケット版 歯科衛生士のための医療用語・福祉用語，2017 年，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・齊藤千晶，石川紀子，西野郁子，石井由美：食物アレルギーをもつ学齢期にある小児と家族の食物除去の解除過程の体験と思い，日本小児臨床アレルギー学会誌，15 巻，3 号，p. 369-376，2017 年.
- ・石川紀子，西野郁子，齊藤千晶：食物アレルギーの子どものかょうだい体験する生活上の影響，小児保健研究，第 77 巻，第 2 号，p. 192-198，2018 年.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），健康障害をもつ子どもときょうだいがいる家庭の子育て力支援ガイドラインの開発，研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいの遊び活動」の推進のための協働と調整. 2017 年 4 月～2018 年 3 月.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本家族看護学会、日本小児がん看護学会、日本看護科学学会、千葉看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本小児看護学会、日本小児看護学会誌、査読委員、2017年4月～2018年3月。
- ・日本小児看護学会、日本小児看護学会第28回学術集会、査読委員、2018年2月～3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県実習指導者講習会 講師、千葉県看護協会、看護過程の展開第2回目、看護職対象、2017年11月8日、千葉県ナースセンター

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書・情報委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科総務・企画委員会、看護学科「総合実習」作業グループ会議、看護学科運営会議、看護学科小児看護学領域会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、前年度の学生からのアンケート調査から改善すべき点を意識して、講義や演習を実施することができた。また実習では臨床側と密にコミュニケーションを図ることで、安全に進めることができた。研究活動では、研究代表者として関わっている研究の成果の公表や、計画に沿って調査を進めることができた。委員会活動では、与えられた役割や業務を滞りなく進めていくことができた。

VII 次年度の目標

教育活動では、引き続き領域の教員間で連携を図りながら、講義・演習・実習に取り組んでいく。研究活動では、研究代表者として取り組んでいる研究の最終年度にあたるため、計画に沿って必要な活動を推進していく。委員会活動では、与えられた役割を確実に遂行していく。

講師 鳥田 美紀代 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、学生が主体的に学習できる事を目指した効果的な教授方法の工夫を前年度に引き続き行くと共に、社会貢献活動の充実を目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・ターミナルケア論
 - ・高齢者・在宅看護学方法論 I
 - ・高齢者・在宅看護学方法論 II
 - ・高齢者看護学実習
 - ・総合実習
 - ・看護研究
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・看護実践研究方法論 (東京医療保健大学大学院)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・「多職種連携で活用！ポケット版 歯科衛生士のための医療用語・福祉用語」医歯薬出版 2017年8月。

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・石井邦子, 川城由紀子, 大滝千智, 川村紀子, 鳥田美紀代：キャリア後期看護職のセカンドキャリアに関する意向と関連要因, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 3-10, 2018.
- ・川城由紀子, 石井邦子, 鳥田美紀代, 竹内久美子, 大滝千智, 川村紀子：介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の実態と雇用者側のニーズ, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 11-16, 2018.
- ・鳥田美紀代, 斉藤理代, 大嶋淳子, 石橋祐子, 久保木修子, 石橋晴美, 菅原みち子, 成毛美由紀, 小林英子, 杉本知子, 佐伯恭子, 濱手和子, 大坂美穂：高齢者ケアの向上のための看護師管理者と大学教員とのユニフィケーション～副師長会を中心とした、現場の実践力の向上を目指した取り組み～, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 37-41, 2018.
- ・高柳千賀子, 杉本知子, 鳥田美紀代, 上野佳代, 成玉恵：ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生予防に向けた取り組みの現状－特別養護老人ホームに勤務する介護職員のインタビュー調査から－, 東京情報大学研究論文集, 第21巻, 2号, 87-95, 2018.

2 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・上野佳代, 杉本知子, 鳥田美紀代, 佐伯恭子, 荻野玲子：血液透析室実習での学びに関する文献からの考察, 日本老年看護学会第22回学術集会, 2017年6月, 名古屋.
- ・高柳千賀子, 杉本知子, 鳥田美紀代, 上野佳代, 成玉恵：特別養護老人ホームにおけるノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生予防の現状, 第17回日本感染看護学会学術集会, 2017年8月, 東京.

- ・杉本知子, 森一恵, 鳥田美紀代, 佐伯恭子, 高柳千賀子: がん高齢者の地域生活への移行や移行後の生活の継続に影響する要因の検討, 第37回日本看護科学学会学術集会, 2017年12月, 仙台.
- ・鳥田美紀代, 杉本知子, 高柳千賀子, 谷本真理子, 佐伯恭子: 要介護高齢者の主体的な療養生活の場の移行に関連する要因, 第37回日本看護科学学会学術集会, 2017年12月, 仙台.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・平成 27-29 年度 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 在宅強化型老健における要介護者主体の在宅移行のための看護実践モデルの開発, 研究代表者.
- ・平成 28-30 年度 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築, 研究分担者.
- ・平成 28-29 年度 学内共同研究 (萌芽), 高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の予防: 通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・認知症の人と家族の会 (千葉県支部) ホームページ更新ボランティア. 2014年4月～継続.
 - ・うたせ認知症を考える会 (ベイタウン認知症かふえ ボランティア兼アドバイザー). 2016年6月～不定期. うたせ地域連携センター等.

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会. ・日本老年看護学会. ・千葉看護学会. ・文化看護学会.
 - ・日本認知症ケア学会. ・日本在宅ケア学会. ・日本感染看護学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本老年看護学会. 査読委員. 2015年8月22日～現在に至る.
 - ・千葉看護学会会誌専任査読者. 2015年4月1日～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県生涯大学校 京葉学園 講師. 千葉県生涯大学校. 高齢期の健康管理②(1) (生活習慣病). 地域活動過程2年次生. 2017年7月4・6・29日. 京葉学園 (千葉市中央区).
- ・一般社団法人日本精神科看護協会. チーム医療研修 (演習サポート) (チームアプローチ論 2). 精神科認定看護師資格取得を目指す者. 2017年7月21日 (東京品川)・8月3日 (京都).
- ・介護老人保健施設 総和苑. 感染症に関する施設内研修会 講師, 2017年9月22日. 介護老人保健施設 総和苑 (千葉市緑区).
- ・千葉県立佐原病院. 高齢者倫理研修. 同病院看護師. 2018年2月15日. 千葉県立佐原病院 (千葉県香取市).
- ・東京歯科大学市川総合病院. 研究指導. 年3回程度. 看護師. 東京歯科大学市川総合病院.

7 その他

- ・事例検討会の企画・運営に関するサポート・参加. 千葉県立佐原病院. 高齢者看護に関する事例検討. 同病院副看護師長. 2016年7月～月1回程度. 千葉県立佐原病院 (千葉県香取市).

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議. ・看護学科教務委員会. ・看護学科総務・企画委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学生の主体的な学習をできるように支援するという点については、「レスポンスシートを学生に返却する」、「必要に応じて学生個々にコメントを付して返却する」という取り組みを行い、学生が自分の学習を振り返るための一助とした。数量的な評価は行っていないが、返却をしていなかった時期よりも学生からの質問の記載が増えた印象がある。

研究活動については、県立病院看護局との協働的取り組みについて研究成果を公表できた。しかし、科研の研究成果の論文投稿を年度内に終えることが出来なかったため、次年度中に公表できるように努める。

VII 次年度の目標

助成を受けている科研が今年度で終了したため、引き続き、得られた知見の公表準備をすすめる。また、この数年取り組んでいる社会貢献活動を基盤として、新たな研究課題の検討に着手したい。加えて、学生を巻き込んだ社会貢献活動について検討していきたい。

講師 田口 智恵美 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、教育、社会貢献、大学の管理運営に積極的に取り組む。研究については、計画的に実施して成果を公表する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・救命・救急の理論と実際.
 - ・成人看護学方法論 I.
 - ・成人看護学実習 (急性期).
 - ・総合実習 (成人看護学領域).
 - ・看護学統合.
 - ・看護研究.
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 塩原由美子, 大内美穂子, 小安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美: IABP 装着患者への看護実践に焦点を当てたシミュレーション教育の実施, 千葉県立保健医療大学紀要, 第9巻, 第1号, 43-48, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 塩原由美子, 大内美穂子, 小安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美: ICU 看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価, 千葉看護学会第23回学術集会, 2017年9月. (千葉市)

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 (基盤研究 (C)), ICU 看護師の臨床判断能力を育成・開発するためのシミュレーション教育方法開発, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会. 日本クリティカルケア看護学会. 日本循環器看護学会. 日本看護学教育学会. 千葉看護学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本クリティカルケア看護学会. 倫理委員会委員, 2016年5月～現在.
 - ・日本クリティカルケア看護学会. 査読委員, 2004年～現在.
 - ・日本循環器看護学会. 査読委員, 2013年2月～現在.
 - ・千葉看護学会. 第23回学術集会. 企画委員, 2016年12月～2017年9月.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県救急医療センター院内研修、看護師の事例検討指導および発表会講評、年5回（5月18日・7月25日・9月12日・11月6日・2月20日） 千葉県救急医療センター。
- ・平成29年度千葉県看護教員養成講習会、7月3日、千葉県看護協会。

7 その他

- ・高校訪問、千葉黎明高校、模擬授業、4月21日。
- ・高校訪問、千葉県立検見川高校、模擬授業、12月19日。
- ・高校訪問、千葉県立船橋啓明高校、模擬授業、1月24日
- ・放送大学、看護師国家試験学習支援ツールの作成、2017

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会委員、教務委員会新々カリキュラム検討部会、看護学科運営会議

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、教務委員会実習検討部会、医療・生活支援領域会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、実習および国家試験を視野に入れ、役に立つ授業となるよう努力した。大学運営では、新々カリキュラム作成に向けた活動に参加した。社会貢献では、実習協力施設や職能団体における臨床看護師への研修講師として貢献した。また、看護系学会の査読や学術集会企画に関わった。研究活動では、研究代表者として学会での発表や紀要への投稿により研究成果を公表した。

VII 次年度の目標

平成30年度は、教育活動では、より実践的な内容を学生が理解できるよう授業を工夫し、臨地実習の効果が高まるようにする。大学運営では、新々カリキュラムを平成32年度から開始できるように検討部会での役割を果たす。研究活動では、研究成果を論文にまとめて公表する。

講師 加藤 隆子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、精神看護学方法論の講義や演習、実習をにおいて、学生が主体的に学び、質の高い教育が提供できるよう計画していきたい。看護学科や全学の委員会に所属し、組織運営について理解し、確実に役割を遂行したい。また、研究活動においては研究の競争的資金を獲得し、研究テーマを発展させることが課題である。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・精神看護学方法論.
 - ・精神看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
 - ・体験ゼミナール.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・尾崎哲則, 藤井 一維, 武井 典子, 吉田 直美他, 加藤隆子: ポケット版 歯科衛生士のための歯科衛生士のための医療用語・福祉用語, 2017, 医歯薬出版, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・加藤隆子: 解離・転換症状を伴う患者の対人関係における困難—20歳代女性の体験に焦点をあてて—
日本精神科看護学術集会誌 59 (2), p392-396, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・加藤隆子: 自傷行為を繰り返す転換性障害患者の感情活用, 日本精神保健看護学会, 平成29年6月, 札幌.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・平成29年度学内共同研究, 精神科受診行動からみた青年期にある患者のメンタルヘルスに関する探索的研究, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会, 日本精神保健看護学会, 日本保健医療行動科学学会, 日本精神科看護協会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・第32回日本保健医療行動科学学会, 実行委員, 2017年6月.

- ・第32回日本保健医療行動科学学会. 口演座長. 2017年6月.
- ・第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会. 実行委員. 2017年9月.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所）

- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会. チーム医療 チームアプローチ論. 精神科認定看護師資格取得を目指す者. 2017年7月. 東京.
- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会. チーム医療 チームアプローチ論. 精神科認定看護師資格取得を目指す者. 2017年8月. 京都.

7 その他

- ・放送大学. 看護師国家試験学習支援ツールの作成. 2017.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・社会貢献委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会. 看護学科倫理審査委員会. 看護学科運営会議. 看護学科看護研究作業部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

講義の演習や実習, 看護研究を中心に指導を行ってきた. 実習では指導者と連携を図りながら実習体制を整えることができた. 社会貢献では職能団体での研修会や学会の実行委員や座長を務めることができた. 学内での委員会活動は初年度ということもあり, 指導・助言を受けながら役割を果たすことができた. 助教欠員のため, 研究に従事する時間が少なかった. 次年度は, 研究においても計画的に進めたい.

VII 次年度の目標

教授欠員ではあるが, 新しく着任した助教とともに領域の運営を着実に進めたい. 具体的には担当科目, 実習などは科目責任者と相談のもと, 教育の質が維持できるよう計画, 実施していきたい. 委員会活動においては, 責任を果たす場面が多くなるため, 報告相談を密にしながら役割を果たしたい. また, 研究においては設定した研究課題が次年度の外部資金獲得につながるよう計画的に進めていきたい.

講師 川村 紀子 修士（保健学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、学生の学習効果が向上するよう指導内容を工夫・検討し、学生指導の質を高める。保健医療に貢献できる研究活動に取り組み活動の幅を広げる。大学運営における円滑な委員会運営となるよう業務を遂行し、社会貢献活動に積極的に参加する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，大滝千智，川村紀子，鳥田美紀代：キャリア後期看護職のセカンドキャリアに関する意向と関連要因，千葉県立保健医療大学紀要，9，1，3-10，2018.
- ・川城由紀子，石井邦子，鳥田美紀代，竹内久美子，大滝千智，川村紀子：介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の実態と雇用者側のニーズ，千葉県立保健医療大学紀要，9，1，11-16，2018.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・平成29年度学長裁量研究，周産期看護における医療事故・ヒヤリハット事例収集のための報告フォーマットの作成，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本母性看護学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本母性衛生学会、千葉看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本母性看護学会誌、編集幹事、2015年7月24日～現在に至る。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学

(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学生の教育目標を達成できるように講義・演習・実習における一貫性のある内容により理解が深まるように工夫した。また学習状況に応じた個別的な指導を行った。研究活動は、長期的に取り組む研究の具体的な研究計画を検討・立案した。大学の教員としての役割を遂行するため大学運営および社会貢献に積極的に取り組んだ。

VII 次年度の目標

学生の学習効果が向上するよう指導内容を工夫・検討し、学生指導の質を高める。保健医療に貢献できる研究活動への幅を広げながら、立案した研究計画に基づき実施を進める。大学運営における円滑な委員会運営となるよう業務を遂行し、社会貢献活動に積極的に参加する。

講師 高山 京子 博士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動について、担当する講義・実習科目の準備をしっかりと行い、学生にとってわかりやすい授業になるよう努める。また、大学の管理運営については、着任年度であるため所属する委員会メンバーの一員として役割の理解と実施を確実にできるように努める。研究活動については、これまで取り組んできた研究の成果を学術雑誌に投稿する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・成人看護学方法論Ⅰ
 - ・成人看護学方法論Ⅱ
 - ・がん看護学
 - ・成人看護学実習 (慢性期)
 - ・総合実習
 - ・看護研究
 - ・看護学統合
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・がん看護学特論Ⅲ (福井大学大学院)
 - ・臨床薬理学 (聖隷クリストファー大学大学院)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・高山京子・佐藤禮子：呼吸器がん 事例7 抗がん剤治療中に胸椎転移で突然下半身麻痺となったCさんの危機，小島操子 佐藤禮子編集，危機状況にある患者・家族の危機の分析と看護介入事例集，64-71，2017年，第2版，金芳堂，京都。

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・佐藤まゆみ，佐藤禮子，小澤桂子，森文子，高山京子，遠藤久美：がん化学療法患者のセルフケアにおける貧血アセスメントツールを活用した症状記録の有用性，千葉県立保健医療大学紀要，第9巻，第1号，27-36，2018。

3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・高山京子，小島操子：骨転移に対する放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護介入プログラムの開発，第32回日本がん看護学会学術集会，2018年2月3日，千葉。
- ・高山京子，小島操子：骨転移に対する放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護介入プログラムの検証，第32回日本がん看護学会学術集会，2018年2月3日，千葉。

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費補助金基盤研究（B），外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本がん看護学会，日本看護科学学会，日本看護管理学会，千葉看護学会，せいれい看護学会，日本臨床腫瘍学会，日本がんサポーターブケア学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本がん看護学会，編集委員会委員，2017年4月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県がんセンター，研究指導，看護師，年4回，千葉県がんセンター。
- ・実習指導者講習会，千葉県看護協会，看護過程展開の演習指導，看護師，11月17日，千葉県ナースセンター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，IR 専門部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生・進路支援委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当した講義科目については，事前に臨床現場に出て研修を行うなどできる準備をして臨み，学生の学びの記述から概ね理解を得られた内容であったと考えられる。しかし，疾患や治療法の説明等については，わかりやすい教授方法を検討する必要があるなど課題も見つかった。大学の管理運営については，一通りの役割や実施を体験し理解することができた。研究については，成果を学術集会で発表したところまでしか到達できなかったため，引き続き論文の投稿に努める。

VII 次年度の目標

担当する講義・実習科目は，より学生の理解が深まるような教授方法を検討・工夫する。大学の管理運営は，所属する委員会において積極的にできることを実施し円滑に事業が進むよう努める。研究活動は，まだ投稿できていない論文を仕上げ，学術雑誌に投稿し，さらに継続研究に取り組む。

助教 上野 佳代 修士（老年学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、特に、教育活動では、今年度に引き続き、高齢者看護学実習、総合実習における実習指導では、当学生に対して、学習効果のある指導方法の工夫を行う。加えて担当する授業内容の検討と精選に努める。

大学における運営活動においては積極的に責務を果たせるように取り組む。計画的に進め終了した調査における成果を投稿することを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ
 - ・高齢者看護学実習
 - ・総合実習（高齢者）
 - ・体験ゼミ
 - ・看護学統合

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・尾崎哲則，藤井一雄，武井典子編集（一部執筆：上野佳代）：多職種連携で活用歯科衛生士のための医療用語・福祉用語，医歯薬出版(株)，2017

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・上野佳代，菊池和美，長田久雄：国内文献にみる高齢者の居場所に関する研究—エイジング・イン・プレイスにむけて—，老年学雑誌，第8号，p33-49，2018
- ・高柳千賀子，杉本知子，鳥田美紀代，上野佳代，成玉恵：ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生予防に向けた取り組みの現状—特別養護老人ホームに勤務する介護職員のインタビュー調査から—，東京情報大学研究論集 Vol. 21 No. 2 p. 87-95，2018

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・上野佳代，杉本知子，鳥田美紀代，佐伯恭子，荻野玲子：血液透析室実習での学びに関する文献からの考察—A 大学における「高齢者看護学実習」での学習効果をめざして—，第22回日本老年看護学学会(示説)，2017
- ・上野佳代，菊池和美，澤岡詩野，長田久雄，中村桃美：エイジング・イン・プレイス実現のためのインフォーマルな場所の意味：まちの暮らしの保健室における保健医療福祉専門職へのインタビュー調査から，第12回日本応用老年学会(口演)，2017
- ・杉本知子，高柳千賀子，鳥田美紀代，成玉恵，上野佳代，佐伯恭子：ノロウイルス感染症のアウトブレイクの予防に取り組む看護職員が直面している困難：高齢者介護施設における実態調査から，千葉県立保健医療大学紀要，第9巻，第1号，p78，2018
- ・高柳千賀子，杉本知子，鳥田美紀代，上野佳代，成玉恵：特別養護老人ホームにおけるノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生予防の現状—介護職員へのインタビュー調査からの一考察—第17回日本感染看護学会学術集会（口演），

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・平成28-29年度 学内共同研究（萌芽）、高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の予防：通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態、研究分担者）

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

2) 千葉県外

- ・まちの暮らしの保健室において、ボランティア看護職として月に1回土曜日に健康に関する講義、企業連携をした健康に関する講義を企画運営、健康相談。荻窪暮らしの保健室（東京都杉並区）

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本老年看護学会、日本老年社会科学会、日本応用老年学会、日本看護科学学会、日本看護診断学会、日本感染看護学会・桜美林大学加齢・発達研究所

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・桜美林大学加齢・発達研究所連携研究員（2008年～2018年3月）

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・板橋中央総合病院 看護師への看護研究指導、2017年全6回（東京都板橋区）
- ・我孫子ロイヤルケアセンター。介護福祉士、社会福祉士への看護研究指導、2017年全3回（千葉県我孫子市）
- ・神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 非常勤講師（グループワークアドバイザー）。「看護教育課程演習（各看護別）」、教員・教育担当者養成課程 看護コースの学生、2017年 全4回（横浜市旭区）

7 その他

- ・放送大学。看護師国家試験学習支援ツールの作成、2015年

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議・看護学科入試検討委員会・看護学科総務・企画委員会・看護学科3年担任

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、高齢者看護学実習における学内演習講義及び、看護学方法論Ⅱの講義について根拠づけを大切に説明を行い、学生が臨地実習に活かせるように努めた。加えて、高齢者における看護の興味関心や研究関心につなげるようにしたところ一定の成果を得た。研究活動では、看護系と多領域における学際的な学会において、ポスター発表や、シンポジウムへの参加し、最新の看護事情を把握することで、学生指導に活かすことができた。研究については、文献研究の投稿を行い採択された。昨年課題であった研究においては成果発表にとどまり、投稿はできておらず課題である。引き続き計画的な遂行の努力が必要である。

VII 次年度の目標

記載教育活動では、今年度に引き続き、高齢者看護学実習、総合実習における実習指導では、より高齢者の看護を深めるために学習効果のある指導方法の工夫を行う。実習施設との連絡調整を密に行い指導環境を整え実習指導に臨む。加えて新たに加わる演習講義等授業内容の検討と精選に努める。更に、大学における管理・運営活動においては教職員と連絡調整を十分行いながら積極的に責務を果たせるように務める。今年度課題となった研究活動については、成果を投稿できるように務め、研究資金の獲得をめざしたい。

助教 佐伯 恭子 修士 (人間科学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、教育活動では担当講義および演習が各1つ増えるため、質を保つことができるよう科目責任者の指導を受けながら準備する。臨地実習では、知識と実践のつながりを意識した指導を心がける。研究については、成果を発信できるよう、自律的かつ計画的に取り組む。大学管理運営については、学科での所属委員会が変わるため、年間スケジュールや業務内容を確認しながら他の委員とも協力して取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・高齢者・在宅看護学方法論 I
 - ・高齢者・在宅看護学方法論 II
 - ・高齢者看護学実習
 - ・総合実習
 - ・看護学統合

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・鳥田美紀代, 齊藤理代, 大嶋淳子, 石橋祐子, 久保木修子, 石橋晴美, 菅原みち子, 成毛美由紀, 小林英子, 杉本知子, 佐伯恭子, 濱手和子, 大坂美穂: 高齢者ケアの向上のための看護師管理者と大学教員とのユニフィケーション～副師長会を中心とした, 現場の実践力の向上を目指した取り組み～, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 37-41, 2018.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・上野佳代, 杉本知子, 鳥田美紀代, 佐伯恭子, 荻野玲子: 血液透析室実習での学びに関する文献からの考察, 日本老年看護学会第22回学術集会, 2017年6月, 名古屋.
- ・Kyoko Saeki, Sayuri Suwa: Difficulties of Nurses Involved with Families Making Proxy Decisions on AHN at Elderly Care Facilities, 18th Nursing Ethics Conference & 3rd International Ethics in Care Conference, 2018 Sep. 15-16, Belgium.
- ・佐伯恭子, 諏訪さゆり: 認知症の人を対象とした Randomized Controlled Trial による研究の倫理的配慮に関する文献研究 - 日本国内の研究論文を中心に -, 第29回日本生命倫理学会年次大会, 2017年12月, 宮崎.
- ・杉本知子, 森一恵, 鳥田美紀代, 佐伯恭子, 高柳千賀子: がん高齢者の地域生活への移行や移行後の生活の継続に影響する要因の検討, 第37回日本看護科学学会学術集会, 2017年12月, 仙台.
- ・鳥田美紀代, 杉本知子, 高柳千賀子, 谷本真理子, 佐伯恭子: 要介護高齢者の主体的な療養生活の場の移行に関連する要因, 第37回日本看護科学学会学術集会, 2017年12月, 仙台.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 在宅療養強化型老健における要介護者主体の在宅移行のための看護実践モデルの開発, 平成27年度～平成29年度, 連携研究者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築, 平成28年度～平成30年度, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本生命倫理学会、日本医学哲学・倫理学会、日本看護科学学会、日本看護倫理学会、日本老年看護学会、千葉看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本看護倫理学会、監事、平成27年6月～平成30年5月迄。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・チーム医療（東京、京都）、演習補助、一般社団法人日本精神科看護協会、チームアプローチ論 2、精神科認定看護師資格取得を目指す者、平成29年7月21日（東京）、平成29年8月3日（京都）。
- ・高齢者看護倫理研修、千葉県立佐原病院看護師、平成30年2月15日、千葉県立佐原病院（千葉）。

7 その他

- ・放送大学、看護師国家試験学習支援ツールの作成、2017年

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科1年生担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、講義と演習は時間的な余裕を持ってない状況での取り組みとなったが、領域内で協力し、質を保つことができた。研究活動については、目標としていた論文投稿はできなかったが、国際学会で初めて発表することができた。社会貢献については、ほぼ前年度までと同様の取り組みにとどまった。大学運営については、業務の意図や目的を考えながら取り組み、自身の役割を遂行することができた。

VII 次年度の目標

次年度は講師となるため、担当する講義が増え、大学運営にかかわる機会も増えると考えられる。研究活動については研究成果を学術論文として公表することを、社会貢献については継続した活動に取り組むだけでなく活動を広げる足掛かりを作っていくことを目指して、教育活動や大学運営活動における責任も果たせるよう、時間配分を考えながら計画的に取り組んでいきたい。

助教 宮澤 早織 修士（看護学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、特に地域看護学実習において、実習プログラムがより充実したものとなるよう、各実習施設の担当者との連携をさらに強化することで、学生の学習意欲を高めていきたい。研究活動では、共同研究者として、それぞれの研究への貢献度を高める。自らの研究については、前年度の研究成果を社会に還元すると共に、新たに研究費を獲得し、これまでの研究で得た知見をさらに深めていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・地域看護学方法論Ⅲ
 - ・地域看護学実習

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、千葉看護学会、日本アルコール関連問題学会、日本公衆衛生看護学会

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

地域看護学実習では、実習プログラムがより充実したものとなるよう、昨年度よりさらに各実習施設の担当者との連携を強化したことにより、学生の「地域看護学」および「保健師活動」への関心を高めることができた。体調不良のため、研究活動は休止した。

VII 次年度の目標

2018年9月末で退職予定のため、特になし。

助教 大内 美穂子 修士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、科目責任者の指導の下、実習内容の評価と改善を図る。研究については新しいテーマで研究に取り組み、科学研究費補助金を獲得できるよう申請するとともに、研究を遂行していく。委員会では、業務が円滑に進むように他教員に相談して、自分の役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・専門職間の連携活動論
 - ・総合実習 (成人看護学)
 - ・成人看護学実習 (急性期・慢性期)
 - ・看護学統合

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・佐藤まゆみ, 大内美穂子, 豊島裕子, 塩原由美子, 笠谷美保, 小宮山日登美, 小坂美智代: 終末期がん患者への食事/栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難: 千葉県立保健医療大学紀要, 第8巻, 第1号, 9-17, 2017

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 大内美穂子, 子安麻子, 比田井理恵, 菅原直美: ICU 看護師の臨床判断の応力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価, 千葉看護学会, 平成29年9月9日, 千葉大学大学院看護学研究科 (玄鼻キャンパス内).
- ・笹森光江, 大内美穂子, 石島詩保, 柳沢由香理: 消化器外科病棟における尿量測定期間の適正化に向けた取り組み～看護師へのアセスメントシート活用前後のアンケートによる意識調査～, 全国病院自治体学会, 平成29年10月19日～20日, 幕張メッセ.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成事業基盤研究 (C), ICU 看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業基盤研究 (B), 外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・多数傷病者発生合同災害訓練, 平成29年10月7日, 千葉県救急医療センター・千葉市立海浜病院.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護学教育学会、千葉看護学会、日本遠隔医療学会、日本看護管理学会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科運営会議、看護学科医療生活支援領域会議、看護学科学生進路支援委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

後期より復職したことで、活動期間が短くなったこともあり、当初目標について達成はやや不十分であった。研究活動としては研究分担者として役割遂行できたが、科研申請したものの、それ以外に自分の研究は学習の範囲にとどまり、あまりすすめられなかったので来年度の課題とする。復職後は委員会の業務については自分の役割を遂行できた。

VII 次年度の目標

研究活動を充実し、成果を得られるような年度としたい。新しいテーマに取り組んでいるので、まずは倫理審査を通して、データ収集していく。教育に関しては科目責任者の指導を得ながら、講義にも新しい知識を取り入れて講義の技術を向上させていく。実習施設と協働しながら社会貢献できるような取り組みをしていきたい。

助教 椿 祥子 修士 (看護学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、保育園における障害児への看護支援についての事例報告の発表が課題である。教育活動では、本学の物品購入システムを理解し、教育目標に沿った授業が行えるよう授業や演習の準備を行うとともに、学生が効果的な自己学習ができるよう実習室環境を整備することが課題である。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護技術論Ⅰ (生活援助技術)
 - ・看護技術論Ⅱ (看護共通技術)
 - ・看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)
 - ・看護技術論Ⅳ (検査治療技術)
 - ・看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)
 - ・基礎看護学実習
 - ・看護学統合

III 研究記録

1 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・河部房子, 今井宏美, 椿祥子, 植村由美子, 石田陽子, 鈴木恵子, 小高亜由美: 臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関わる経験, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 17-25, 2017.
- ・椿祥子, 河部房子, 今井宏美, 石田陽子: 看護現場におけるフィジカルアセスメント技術活用状況に関する実態調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 9巻, 1号, 55-61, 2017.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・今井宏美, 河部房子, 椿祥子: 看護現場におけるフィジカルアセスメント技術活用状況に関する実態調査, 日本看護学教育学会第27回学術集会講演集, 159, 2017. 8. 17-18. 沖縄コンベンションセンター.

4 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金若手研究 (B), 乳幼児期の重症心身障がい児の家族のヘルスリテラシーの様相の解明, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本小児保健協会, 日本看護科学学会, 日本看護教育学会, ナイチンゲール学会, 千葉看護学会, 文化看護学会

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科教務委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動では、科研費を取得し、重症心身障がい児の家族へのインタビュー調査を実施した。また、領域の共同研究について、学会発表や論文投稿をした。教育では、新任の教員とのコミュニケーションを取りながら、教育目標に沿った授業が行えるよう授業準備や演習準備を行なった。学生が効果的な自己学習ができるよう実習室環境を一部実施することができた。また、委員会活動では、看護学会の教務委員会として、実習ローテーション表の作成などに携わった。

VII 次年度の目標

科研費を取得している重症心身障害児の家族のヘルスリテラシーについての研究において、インタビュー調査した内容をデータ化し、個別分析を行なうことが課題である。教育活動では、他教員とコミュニケーションを取りながら、教育目標に沿った授業が行えるよう授業や演習の準備を行うとともに、学生が効果的な自己学習ができるよう実習室環境の整備が完了するよう継続していく。

助教 坂本 明子 修士（看護学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は講義方法や指導方法について学び、よりよい方法での指導を実践すること、研究に関しては過去の研究発表を学術論文としてまとめ社会に還元していくとともに、本年度から採択された研究課題についても進めていくこと、大学運営における円滑な委員会運営となるよう業務を遂行すること、また幅広い視野を持ち社会貢献活動に積極的に参加することを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール
 - ・成人看護学方法論Ⅰ
 - ・成人看護学方法論Ⅱ
 - ・成人看護学実習（慢性期）
 - ・総合実習
 - ・看護学統合

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・尾崎 哲則，藤井 一維，武井 典子，吉田 直美（編集）：多職種連携で活用！ポケット版 歯科衛生士のための医療用語・福祉用語」2017年9月，医歯薬出版。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・大原 裕子，河井 伸子，正木 治恵，坂本 明子，黒田 久美子，石井 優香：高齢者ケアの継続・連携に関するチーム医療を促進する看護師が行っているコーディネート機能，37回日本看護科学学会学術集会，2017年12月16日，宮城県仙台市 仙台国際センター

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業 若手研究B「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：ケア移行の判断基準およびケア内容の究明」，研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本循環器看護学会，日本慢性看護学会，日本老年看護学会，千葉看護学会，看護質的統合法研究会，日本アロマコーディネーター協会

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・平成 29 年度看護研究研究指導、東京歯科大学市川総合病院、平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月、東京歯科大学市川総合病院

7 その他

- ・放送大学、看護師国家試験学習支援ツールの作成、2017

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教務委員会、看護学科入試検討委員会、看護学科医療生活支援領域会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

平成 29 年度は、科目責任者の助言の下、心機能障害（心不全）をかかえた患者の看護について講義を行った。心不全の病態・症状・予防のためのセルフケア方法・患者のセルフマネジメントを支える看護について、伝えたい内容を視覚で理解できるよう、図や写真を多用して説明しかつ自身が経験した患者とのやりとりなどをまじえることで、学生がイメージしにくい部分を伝えられた。その学年の実習も担当した際、講義内容の学生への定着度を実感できたため、来年の授業案に生かしていきたいと考える。科研費の研究活動は本年度から開始であり、文献レビューを実施した結果、学術的文献の少なさと当該研究の必要性について再確認できた。整理できた内容をインタビューガイドに盛り込み、来年度から調査を行っていく。

VII 次年度の目標

平成 30 年度は、領域の先生方から講義や研究方法について学び、学生の学習効果が向上するよう、講義の技術を向上を目指して自己研鑽をつむこと。自分の研究能力の向上を図るとともに、2 年目となる科学研究の遂行を授業や実習との両立をはかり、計画通り進めていく。未だ公表できていない成果があるので、学術論文として公表する。

助教 鈴木 恵子 修士（看護学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、特に教育活動においては基礎看護領域での各授業構成を理解し、講義環境の調整、演習環境の調整、学生指導における自身の役割の理解に努め、相談、実施することができる。研究活動においては投稿論文の査読への対応により日本看護研究学会誌への採用を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・看護学入門
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）
 - ・看護技術論Ⅱ（看護共通技術）
 - ・看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント技術）
 - ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）
 - ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）
 - ・体験ゼミナール
 - ・基礎看護学実習
 - ・看護学統合

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・河部房子，今井宏美，椿祥子，植村由美子，石田陽子，鈴木恵子，小高亜由美：臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関わる経験，千葉県立保健医療大学紀要，9巻，1号，17-25，2017.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 2) 千葉県外
 - ・NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会.H30年2月～3月. 高輪区民センター.

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護研究学会. 日本母性衛生学会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自衛消防隊

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科学生・進路支援委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、基礎看護領域での各授業での資料の配布準備や返却等で授業構成の理解不足から、当初授業開始前に混乱を来すことがあった。授業者の意図と理解がずれていることに気づかないことがあるため、不明な点だけでなく理解している内容を言語化することにより上席の教員に不足部分を確認できるようになった。学生指導の場面では、指導内容を事前確認し実施したが、実施中に疑問や不足部分に気づくことがあった。日本看護研究学会誌への論文は研究報告としての採用が決定した。

VII 次年度の目標

初年度より進歩した教育活動となるよう具体的な指導場면을相談できるよう準備し、効果的な指導につなげる。主体的に率先して授業準備ができるよう事前の自己学習に時間が取れるよう計画的に業務を行う。採択された共同研究を実施する。

助教 妻倉 恵 助産修士（専門職）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、教育では学生自身が自己の目標を達成できるよう支援すること、また授業・演習補助を通じて教員としての役割を学び、学生支援を行うこと。研究に関しては、上司の研究補助を通じて研究を学ぶこと。社会貢献は会計幹事として役割を遂行すること。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・母性看護学方法論Ⅰ
 - ・母性看護学方法論Ⅱ
 - ・母性看護学実習
 - ・助産診断・技術学Ⅱ
 - ・助産診断・技術学Ⅲ
 - ・助産診断・技術学Ⅳ
 - ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）
 - ・助産学実習Ⅱ（継続支援）
 - ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）
 - ・総合実習
 - ・専門職間の連携活動論

III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
 - ・平成 29 年度文部科学研究所 基盤研究 (C)、効果的な分娩介助実習のための模擬産婦のフィードバックに関する能力開発と評価、連携研究者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護協会、千葉県看護協会、日本母性看護学会、日本助産学会、千葉県母性衛生学会。
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・千葉県母性衛生学会、幹事、2017年4月1日～2018年3月31日。

7 その他

- ・授業科目「特定行為実践特論」のオンライン教育補助者

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会、看護学科運営会議、看護学科3年生担任。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、学生自身が主体的に学習に取り組めるように実習指導者と調整を行い、自己の学習過程を客観的に評価できるように指導を行った。研究に関しては、研究会議に参加し、資料作成や逐語録の確認を上司の指示のもと補助的な研究活動を行った。社会貢献としては、学会の会計幹事として正確な会計収支となるように役割を遂行することができた。

VII 次年度の目標

2018年3月末で退職予定のため、特になし。

助教 杉本 亜矢子 修士（看護学）

対象期間：2017年6月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

母性看護学実習・助産学実習で担当する施設において、適時の判断と適切な報告を意識し、学生の実習が円滑にすすむよう粘り強く調整を行う。また、実習指導を行う上で誠実な態度で取り組み、学生の手本となるよう努めるとともに学生の学習目標到達度が上がるように指導を行う。助教としての役割を意識し、学内演習の企画や実習室の整備など学生の学習効果が高まるよう学内の環境を調整する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ.
 - ・助産診断・技術学Ⅱ.
 - ・助産診断・技術学Ⅲ.
 - ・助産診断・技術学Ⅳ.
 - ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
 - ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
 - ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・杉本亜矢子：系統別看護師国家試験問題集 第106回看護師国家試験 解答と解説2018年版，2018，医学書院，東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）「産後ケアシステムにおける看護専門職と育児支援人材のコラボレーションモデルの開発」研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・千葉県母性衛生学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会. 看護学科運営会議.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等>

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

助産学実習においては、3名の学生を担当し実習内容の調整や、生の助産計画に対して指導を行った。また、上席教員から助言を得ながら、各学生のレディネスを意識して指導方法を工夫し、実習期間を通して学生が成長した点については肯定的にフィードバックを行うことで学習意欲を継続できるように努めた。担当した学生は実習目標を達成することができた。助産技術の演習を企画・実施し、学習効果が高まるように工夫したが、演習方法や時間配分など改善すべき課題も明らかになった。研究活動において、7月に設定した研究テーマについて実行可能な計画を立てることができなかった。

VII 次年度の目標

地域社会や保健医療に貢献できる研究テーマの設定と、実現可能な研究計画の立案、それに基づいた遂行。教育活動においては昨年度明らかになった技術演習の課題を改善し、学習内容の充実と学習効果を高める工夫をする。今年度は母性看護学実習と助産学実習を同時期に担当するため、学生の安全に配慮し、どちらの実習も円滑にすすむように調整を行い、学習目標が達成できるよう努める。

助教 木村 亜由美 修士（看護学）

対象期間：2017年7月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、7月からの着任であった。教育に関しては、講義や演習の準備・補助を行いながら、基礎看護領域で行われている教育内容を理解し、学生への指導へ生かしていく。また、基礎看護学実習では、先生方の指導を仰ぎながら、学生へ安全で質の高い実習となるような指導を心がける。また、大学のシステムを理解し、委員会などの大学運営に関わっていく。研究に関しては、修士での研究成果を論文として学会に投稿する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・看護技術論Ⅱ（看護共通技術）
 - ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）
 - ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）
 - ・基礎看護学実習

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護技術学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試検討委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、領域の先生方の指示を仰ぎながら、物品の購入や準備、演習の補助などを行うことができた。講義や演習に関わる中で、基礎看護領域の教育内容について学ぶことができた。基礎看護学実習では、先生方とともに、事故なく、2クルの実習を終了できた。大学運営に関しては、入試検討委員会の1員として、入試に関わる業務を遂行することができた。研究に関しては、論文を学会に投稿し、採用まで年度内に遂行できた。

VII 次年度の目標

29年度は、初年度であり、領域の先生方の指示を仰ぎながらの行動が多かったが、次年度は主体的に考え、より質の高い講義・演習となるよう準備や補助を行っていく。また、大学運営にもさらにかかわっていく。研究では、採用された論文の推敲を行い、掲載されるようにしていく。また、注射針の先端変形に関する実験研究を行っていきたい。

助教 中山 静和 修士（看護学）

対象期間：2017年10月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、小児看護学実習では、実習施設側との連携に努め、学生が学習目標に沿った実習ができるよう指導内容を工夫・検討する。委員会では、他教員に相談しながら自分の役割を遂行し、業務が円滑に進むように努める。研究活動では、進行中の研究について、共同研究者として研究への貢献に努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・小児看護学方法論Ⅱ
 - ・小児看護学実習
 - ・総合実習（小児看護学領域）
 - ・看護学統合

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・中山静和：慢性疾患を抱える子どもが保育所生活に馴染むための保育所看護職の関わり，小児保健研究，第76巻，5号，420-427，2017.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本小児看護学会，日本小児保健協会，日本新生児看護学会，日本看護科学学会，日本保育保健協議会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試検討委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

領域での教育内容や方法を理解し，学生が実習目標を達成できるように実習指導者との調整を行った。また，学生の学習への意欲が維持できるよう，学生個々の学習の過程や思考を整理し，自己の学びを客観的に捉えられるよう指導した。受け持ち児の選定について苦慮したこともあった。実習環境の中で，どのような場面や看護の現象が教材となりうるかについて検討することを課題としたい。研究に関しては，研究成果を発信することができた。

VII 次年度の目標

教育活動では、次年度は講義を行うことを予定している。学生に分かりやすく、臨地実習等の学びにつながる講義の展開に努めたい。臨地実習では、根拠のある知識と技術を意識した指導を心がける。また、領域の教員との連携を十分に行い、よりスムーズな教育活動に努める。研究については、領域の教員との研究について研究分担者として貢献する。また、自らの保育所看護職における役割に関する研究において学内共同研究費を獲得し、これまでの研究の知見を深めていきたい。

栄養学科

教授 兼 学科長 渡邊 智子 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度の年度の総括を踏まえ、教育、研究、大学の運営、学科の運営、社会貢献などにベストを尽くしたい。昨年度と同様に、それぞれに関わる方々と連携・共働し努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・千葉県の健康づくり (特別講義 I)
 - ・体験ゼミナール
 - ・食育論 I
 - ・食育論 II
 - ・食事設計と栄養
 - ・調理実習
 - ・食事設計と調理実習
 - ・調理科学実験
 - ・食生活教育論
 - ・学校栄養教育論
 - ・教職実践演習
 - ・卒業論文
 - ・総合演習
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・新潟大学医歯学総合研究科口腔健康学講座 (大学院生 (博士課程栄養分野) 4名の博士論文のための研究指導)
 - ・食育論 (東京歯科短期大学)
 - ・女子栄養大学大学院特別講義 (セミナー)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・医歯薬出版編集部, 渡邊智子他：日本食品成分表 2017 七訂 (担当部分：日本食品標準成分表 2015 年版追補 2016 年について改訂のポイント), 平成 29 年 12 月, 医歯薬出版, 東京
- ・文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会 (安井明美, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆他) 編：日本食品標準成分表 2015 年版 (七訂) 追補 2017 年, 平成 29 年 12 月, 全国官報販売協同組合, 東京
- ・渡邊智子, 鈴木夕帆：自分の食事を自分でデザインしよう！～自分にあった食事の内容と量を知ろう～, 平成 30 年, 千葉県教育委員会, 千葉県

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・木村秀喜, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆, 岩崎正則, 葭原明弘, 小川祐司, 宮崎秀夫：現在歯数 20 本以上の 75 歳高齢者は「健康な食事パターン」を満たしているか?, 口腔衛生学会雑誌, 第 65 巻, 第 3 号, p172-p179, 平成 29 年
- ・小田島祐美子, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆, 犬塚晶子：学校給食の有無が児童の食習慣に及ぼす影響, 千葉県学校保健研究

Vol8-1, p. 16-31, 平成 30 年

- ・小田島祐美子, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆, 犬塚晶子: 学校給食の有無が生徒の食習慣に及ぼす影響, 千葉県学校保健研究 Vol8-1, p. 34-52, 平成 30 年月
- ・Watanabe T, Kawai R: Advances in Food Composition Tables in Japan –Standard Tables of Food Composition in Japan – 2015 – (Seventh Revised Edition), Food Chemistry, Volume 238, 1, Pages 16-21, 平成 30 年
- ・渡邊智子: 食肉と日本食品標準成分表-改訂に伴う変遷と調理による成分変化率の算定と適用, 食肉の科学, Vol. 58, NO. 2 (2017) 165-170, 平成 29 年
- ・渡邊智子: 和食と日本食品標準成分表, 日本調理科学会誌 Vol. 50 No. 5(2017) 38-41, 平成 29 年
- ・渡邊智子: 「利用可能炭水化物」算出方法と糖尿病食事指導への活用, 医療スタッフのプラクティス, 2017, Vol. 34No. 4, p418, 平成 29 年
- ・渡邊智子: ちょっと肩のちからをぬいて朝ごはんを楽しく食べましょう, コープみらいちばインフォメーション 2017 年 11 月 6 日号, 平成 29 年
- ・Tomoko Watanabe, Takahiro Ota: The history and latest status of the Food Composition Table in Japan, 12th International Food Data Conference, 平成 29 年

3 発表(発表者: 発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・渡邊智子, 柳沢幸江, 今井悦子, 石井克枝, 大竹由美, 梶谷節子, 鈴木亜夕帆, 中路和子: 別企画 1 「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」 千葉県の家庭料理 おやつの特徴 -豊かな自然とのかかわり-, 日本調理科学会 平成 29 年度大会, 平成 29 年 8 月 31 日, 9 月 1 日, 東京
- ・佐藤恵美子, 山口智子, 伊藤知子, 伊藤直子, 太田有子, 小谷スミ子, 立山千草, 玉木有子, 長谷川千賀子, 松田トミ子, 山田チヨ, 渡邊智子: 特別企画 1 「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」 新潟県の家庭料理 -おやつにみる食文化の特徴, 日本調理科学会 平成 29 年度大会, 平成 29 年 8 月 31 日, 9 月 1 日, 東京
- ・Tomoko Watanabe, Takahiro Ota: The history and latest status of the Food Composition Table in Japan, 12th International Food Data Conference, 平成 29 年 10 月 12 日, Buenos Aires, Argentina,
- ・岡田亜紀子, 海老原泰代, 渡邊智子: 千葉県における栄養教諭・学校栄養職員の職務および食育の現状について, 第 21 千葉県学校保健学会, 平成 29 年 12 月 2 日, 千葉市
- ・犬塚晶子, 渡邊智子, 御園京子: 健康の保持増進・成長を重視できる児童の育成～食生活の学習をとおして～, 第 21 千葉県学校保健学会, 平成 29 年 12 月 2 日, 千葉市

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本家政学会食文化研究部会第 30 回食文化研究会 講演, 和食と食品成分表, 平成 29 年 11 月 26 日, 実践女子大学渋谷キャンパス

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究費, 大学生が行う地域のための健康づくり活動の実施と評価 I, 研究代表者
- ・日本調理科学会特別研究費, 次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理 千葉県, 研究代表者
- ・日本調理科学会特別研究費, 次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理 新潟県, 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・ちば食育応援隊として食育・健康づくり活動(千葉市食育のつどい 2017, 千葉市幕張ベイタウン祭り, 幕張ベイタウン夏祭り 2017, きやっせ物産展での「学生サークルちば食育応援隊」の活動の支援).
- ・食育・健康づくり活動(千葉市食育情報誌 Vol. 3 掲載のちば食育応援隊による料理開発, 小学校での親子料理教室の支援).
- ・ちば食育研究会(ちば食育応援隊: 千葉県ちば食育ボランティア登録団体)代表. 地域の食育活動の実践, 2006 年～現在, 千葉市.

- ・NPO 法人千葉自然学校 理事。2009 年～現在、千葉市。
- ・千葉県立衛生短大栄養学科卒業生有志のネットワーク（約 200 名）構築・運営、栄養情報求人情報を提供、2006 年～現在。
- ・ほい大健康プログラムチームとしてUR と連携してUR 団地の健康づくりの推進。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・文部科学省インターンシップ学生（本学栄養学科学生）への支援。

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・文部科学省、科学技術・学術審議会資源調査分科会（食品成分委員会）臨時委員。2015 年～現在。
- ・文部科学省、科学技術・学術政策局 技術審査専門員 2013 年～現在。
- ・千葉県食育推進県民協議会委員。2008 年～現在。
- ・平成 29 年度千葉県調理師試験委員。2016 年。
- ・千葉市食育推進協議会委員。2008 年～現在。
- ・市川市教育振興委員会議委員。2009 年～現在。
- ・柏市保健衛生審議会特別委員（母子保健専門分科会）委員 2015 年～現在。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県栄養士会研究教育協議会役員。2008 年～2018 年 5 月。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本食生活学会、日本家政学会、日本家政学会食文化研究部会、日本調理科学会、日本口腔衛生学会、日本災害食学会、日本食品科学工学会、日本公衆衛生学会、日本民族衛生学会、日本きのこ学会、日本体力医学会、日本食育学会、儀礼文化学会、和食文化国民会議、更年期と加齢のヘルスケア学会、千葉県学校保健学会、新潟歯学会、新潟食品技術研究会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県学校保健学会、理事長。2017 年～現在。
- ・日本栄養改善学会、評議員。2003 年～現在。
- ・日本調理科学会、代議員。2014 年～現在。
- ・日本調理科学会、関東支部会役員。2015 年～現在。
- ・日本調理科学会、『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員（千葉県責任者）。2013 年 4 月～現在。
- ・日本調理科学会、『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員（新潟県委員）。2013 年 4 月～現在。
- ・和食文化国民会議、調査・研究部会幹事。2015 年～現在。
- ・千葉県学校保健学会、第 21 回千葉県学校保健学会実行委員会委員。2017 年 6 月～2017 年 12 月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・平成 29 年度特定給食施設等従事者講習会、神奈川県、「日本食品標準成分表の 2015 年度版（七訂）と追補 2016 年の改訂のポイントとその活用法」、管理栄養士・栄養士、平成 29 年 6 月 1 日、藤沢市。
- ・平成 29 年度主任保育士研修会、千葉県自治研修センター、「食育と保育所の役割」、保育士、保育所管理者、平成 29 年 6 月 13 日、千葉市。
- ・平成 29 年度主任保育士研修会、千葉県自治研修センター、「食育と保育所の役割」、保育士、保育所管理者、平成 29 年 6 月 14 日、千葉市。
- ・平成 29 年度学校栄養職員等研修会 「食品成分表 2015 の概要と食教育への活用について」、都内の栄養教諭・学校栄養職員、食育関係者、平成 29 年 8 月 10 日、東京。
- ・平成 29 年度栄養教諭 5 年経験者研修第 3 回校外研修、「今後の栄養教諭・学校栄養職員の役割について」、学校栄養職員

5・10年経験者，栄養教諭初任・5・10年経験者，千葉県教育庁，平成29年9月15日，千葉市。

- ・船橋市学校栄養士会研修会，「日本食品成分表2015年版（七訂）について」，船橋市内栄養教諭・学校栄養職員，船橋市学校栄養士会，平成29年8月22日，船橋市。
- ・八街市PTA連絡協議会合同研修会 記念講演「食育の推進について」，八街市の小学校保護者と教職員，教育委員会・PTA連絡協議会，平成29年11月16日，八街市。
- ・平成29年度消費生活協同組合役員研修会，「第3次千葉県食育推進計画について」，千葉県内の消費生活協同組合幹部役員，組合員理事，組合員リーダー，千葉県生活協同組合連合会，平成29年7月13日，千葉市。
- ・平成29年度千葉県食生活改善協議会中央研修会，「楽しく伝えたい！実践・元気にくらすための食事―千葉県のグー・パー食生活―」，千葉県食生活改善推進委員及び市町村並びに健康福祉センター担当者，千葉県食生活改善協議会，平成29年11月8日，千葉市。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，管理運営委員会，管理運営ワーキング委員会，入試委員会，入試作業部会，自己点検・自己評価委員会，ハラスメント委員会，将来構想委員会，10周年祝賀委員会，教員資格審査委員会，健康診断時の食事調査，推薦入学試験業務，センター入学試験業務。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科会議座長，栄養学科教授会座長，オープンキャンパス業務，大学説明会業務，国家試験対策委員会，自己点検・評価に関する面接・評価。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・文部科学省 日本食品標準成分表の取り組み
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gi_jyutu/gi_jyutu3/shiryo/attach/1287215.htm
- ・千葉県 ちば型食生活食事実践ガイドブック <http://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokuiku/guide-book>
- ・千葉県 親子で楽しむ！はじめてドキドキおさかなレシピ合併号
<http://www.pref.chiba.lg.jp/suisan/sakana/hajimetedokidokiosakanaresipi>
- ・千葉県 介護予防リーフレットについて（栄養関係）
<https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/kaigoyobou/kaigoyobou.html>
- ・社団法人日本青果物輸入安全推進協会 果物と栄養教育 <http://www.fruit-safety.com/education/>
- ・(独) 農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/vegetea/pamph/010749.html
- ・千葉県 高等学校における食育の推進
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/kyuushoku/syokunikansurusidou/kokorleaflet.html>

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科長として，円滑な学科運営を行うように努めました。教育，研究，大学の運営，社会貢献などに，それぞれに関わる方々と連携し共働し精一杯，工夫し努力しある程度の目標達成ができました。アルゼンチンで学会に参加し，多くの学びがありました。国家試験受験が全員合格ではなかったため，次年度は栄養学科として対応を検討し工夫したいと思います。

また，URとの連携協定が凍結し，全学で行う「まい大健康プログラム」が実施できたことは有意義であり大きな学びとなりました。

VII 次年度の目標

今年度の総括を踏まえ，教育，研究，大学の運営，学科の運営，社会貢献などにベストを尽くし，今後も，それぞれに関わる方々と連携・共働し努力したいと思います。

教授 長谷川 卓志 博士 (医学 医師)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度の目標：教育では分かりやすい講義，教材の作成，改良など，研究では，地域包括医療体制に関する基礎的研究，管理栄養士のニーズ調査を行う．その他学生募集，入試対策などにおける貢献．

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール
- ・健康論
- ・公衆衛生 I
- ・公衆衛生 II
- ・疫学統計 I
- ・疫学統計 II
- ・保健医療福祉論 II
- ・総合演習

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・長谷川卓志：保健所と地域保健法，社会人文学会，15，xx-xx，2018

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・学内共同・在宅医療における食事・栄養管理のニーズについて～千葉県内の訪問看護事業所へのアンケート調査から，代表 / 東本恭幸/長谷川卓志，平尾由美子，岡田亜紀子

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称，活動期間，場所等)

- 1) 千葉県内介護施設の健康講話.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等，活動期間，場所等)

- ・地域保健所との学術交流を進めた．通年

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績 (活動団体名称，委員名称，活動期間)

- ・地方公務員人事委員会 29. 4. 1-30. 3. 31.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本老年医学会，日本糖尿病学会，日本公衆衛生学会，日本公衆衛生学会，日本社会医学学会

日本栄養改善学会, 日本社会人文学会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本老年医学会代議員 通年
- ・日本老年医学会査読委員 通年
- ・社会医学査読委員 通年

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 教員資格審査委員会, 共通教育運営会議, 図書情報委員会, ネットワーク委員会

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科教授会, 栄養学科運営委員会, 入試委員

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・オープンキャンパス相談員, 大学説明会 (千葉工科大学)

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育, 研究の充実, 国家試験対策, 就職活動の充実

VII 次年度の目標

教育: 教材開発, 国試対策, 就職, 公務員試験対策, 実践力の育成

研究: 管理栄養士のニーズ調査, 保健所の広域的ありかた検討

教授 井上 裕光 修士 (教育学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、提供する教育の質をさらに向上させる。また、自習用教材をもっと充実させ、エクセルファイルでも用意する。次の新学習指導要領を視野に入れ、現行課程の入学生の対応のため、習熟度別学習体制(統計学)を含め、初学者教育の充実を図る。さらに、今後の学修に対応できるよう、統計学・実践統計学の科目変更の準備を行う。

できるだけ研究するだけの時間を確保する。

可能な限り官能評価の普及活動を行う。

学内情報システム更改の準備を開始する。セキュリティの一層の向上を図るため、定期的にセキュリティ講習会を開き、情報漏洩などの事故を未然に防ぐ体制づくりを行う。Windows Vista・Office 2007の延長サポートが切れる年度であり、危険性がますます高まることに備える。学生のみならず教員への啓発活動を十分に行う。学内学生用端末・ゼミ用PCを安全に運用する。

大学ホームページ刷新のために、対応できる体制を作る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・体験ゼミナール
- ・統計学
- ・情報リテラシー I
- ・情報リテラシー II
- ・情報倫理
- ・教育の方法と技術
- ・事前指導
- ・総合演習
- ・卒業研究

III 研究記録

1 著書(著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・井上裕光 : 保健情報統計学, 2017, 医歯薬出版, 東京。

2 学術論文・その他(著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・二宮克美・山本ちか・氏家達夫・五十嵐敦・井上裕光 : 「父親・母親が中学生に対してどのようなしつけ行動をしているか」に関する縦断的検討, 総合政策研究, 20(1), 1-16, 2017.
- ・井上裕光 : 第2章 授業をこの手に取り戻す, 藤沢市教育文化センター 教育実践臨床研究「授業の本質を問う」—教師として受け継ぐもの, 143-148, 2017.
- ・井上裕光 : 第1章 授業の流れをつくるもの, 藤沢市教育文化センター 教育実践臨床研究「目の前の子どもと向き合う」—教師として欠かせないもの, 21-26, 2017.

3 発表(発表者: 発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・五十嵐敦, 氏家達夫, 二宮克美, 井上裕光, 山本ちか : 中学生の社会的行動についての研究(109) — 移行期の時間的展望の変化の様相—, 日本教育心理学会第59回総会, 2017-10, 名古屋国際会議場.

- ・山本ちか, 氏家達夫, 二宮克美, 五十嵐敦, 井上裕光: 中学生の社会的行動についての研究(110)—自殺念慮の変化と, 家庭および友だちの要因の関連—, 日本教育心理学会第59回総会, 2017-10, 名古屋国際会議場.
- ・二宮克美, 氏家達夫, 五十嵐敦, 井上裕光, 山本ちか: 中学生の社会的行動についての研究(111)—「父親・母親が中学生に対してどのようなしつけ行動をしている」に関する縦断的検討—, 日本発達心理学会第28回大会, 2018-3, 東北大学.
- ・山本ちか, 氏家達夫, 二宮克美, 五十嵐敦, 井上裕光: 中学生の社会的行動についての研究(112)—2年間で一貫して全体的自己価値が高かった中学生の行動上の特徴—, 日本発達心理学会第28回大会, 2018-3, 東北大学.
- ・井上裕光, 氏家達夫, 二宮克美, 五十嵐敦, 山本ちか: 中学生の社会的行動についての研究(113)—自分がどのようにみられているかの2時点での変化—, 日本発達心理学会第28回大会, 2018-3, 東北大学.
- ・Naotsune Hosono, Hiromitsu Inoue, Yutaka Tomita: Co-creation Learning Procedures: Comparing Interactive Language Lessons for Deaf and Hearing Students, The 2017 AAATE Congress, 2017-9, Sheffield, UK.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本教育心理学会第59回総会 シンポジウム, 縦断的研究の難しさ—中学生の社会的行動の研究を通して得たこと, 2017-10, 名古屋国際会議場. 企画・司会: 二宮克美(愛知学院大学), 企画・指定討論: 氏家達夫(名古屋大学), 話題提供: 五十嵐敦(福島大学), 話題提供: 井上裕光(千葉県立保健医療大学), 話題提供: 山本ちか(名古屋文理大学短期大学部)

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・共-30年度第1号, 行動観察による商品評価手法の開発, 研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ISO/TC34 国内審議団体事務局(FAMIC 国際課). ISO/TC34/SC12 国内対策委員. 2004~現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本心理学会. 日本教育心理学会. 日本人間工学会. 日本教育工学会. 日本発達心理学会. 日本パーソナリティ学会. 日本家政学会. 日本家庭科教育学会. 日本教師学学会. 日本官能評価学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本官能評価学会. 常任理事(企画・編集). 1996~現在に至る.
- ・日本官能評価学会. 査読. 2017-2018.
- ・日本食品科学工学会誌. 査読. 2017
- ・日本官能評価学会. 学会司会, 大会委員, 常任編集委員.
- ・(一財)日本科学技術連盟. 官能評価セミナー委員長.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・日本官能評価学会, 基礎統計講習会, 日本官能評価学会, 学会員, 2017-8, 日本獣医生命科学大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試評価部会(部会長), 入試実施部会, 入試委員会, 図書・情報委員会(情報部会長), ネットワーク委員会(委員長), 学生委員会, 共通教育運営会議, 認証評価部会, 自己点検実施推進部会, 将来構想検討委員会, FD委員会.
- ・学内情報システムガイダンス・学生支援課サポート, 学内情報システム・企画運営課サポート, 学内ネットワーク運

- ・ 菅保守 教員サポート、学生サポート、JMP 講習会（図書・情報委員会FD）、情報ネットワーク・ゼミ用PC 更改、レセコン設置サポート。
- ・ 学内EV：「高大接続改革と新学習指導要領～本学入試制度との関連」講師

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育の質の向上については、自習用教材の追加、エクセルファイルの配布等予定通りに行うことができた。なお、初学者教育対策として、榎本講師とともに、情報リテラシー用のレポート作成の手引きを作成し、講義の中で活用した。なお、新学習指導要領の概要がはっきりし、しかし、指導要録が見えない状況の中で、高大連携が進んでしまっているため、学内への周知を兼ねて、越川准教授とともに学内EVを行った。とくに大学における「教育評価」（授業改善の基礎・基本）についての文部科学省による新しい位置づけと意味について今後の入学試験との関連を示した。科目の充実については、基礎系の数学的な科目についての追加はできなかつたが、統計学Ⅱ（実践統計学）の設置を進めた。

研究する時間はほとんど確保できなかった。しかし、共同研究を行い、その成果を共同研究先へ提示できた。

官能評価の普及活動については、普及活動用の資料を見直し、さらに間口を広げることを試みた。

学内情報ネットワークシステムの安全性を維持することについては、モバイルデバイスへの対応がうまくいかず、情報漏えいを起こしてしまった（しかし、できるだけ短期間に終息させた）。WindowsVista・Office2007の延長サポート切れに対しては、十分な学内周知を行い、利用することの危険性について理解を求めた。また、身代金ウイルス（ランサムウェア）対策へ学内への情報提供を続け、学生と教員への啓発活動を十分に行った。学内学生用端末・ゼミ用PCを安全に運用することはとりあえず実行できた。

大学ホームページ刷新のために、対応できる体制を作り、予算を獲得でき、その後の設計へと進むことができた。しかし、技術的な内容を平易に学内へ伝えることには困難が伴い、なかなか更改後のイメージが伝えきれなかつた。あわせて、この公開後のHPを運営する母体となる「広報委員会」の設置を進言したが、実行にはまだ至っていない。

学内情報ネットワークシステムの更改に向けて、事務局へ情報提供を行って、情報システム課・医療整備課へ協議をしてもらうはずだったが、予定通りには進まなかつた。

VII 次年度の目標

平成30年度は、教育の質をさらに向上させる。また、自習用教材をもっと充実させ、エクセルファイル・JMPファイルでも用意する。今後の新学習指導要領を視野に入れ、現行課程の入学生の対応と習熟度別学習体制（統計学Ⅰ・実践統計学）を含め、初学者教育の充実を図る。さらに、今後の学修に対応できるよう、統計学・実践統計学の科目設定を行う。

できるだけ研究するだけの時間を確保する。

可能な限り官能評価の普及活動を行う。

学内情報システム更改のために、情報システム課との協議・医療整備課健康福祉部への申請など、現在のセキュリティレベルに合わせた、新システム導入を図る。同時に、情報漏洩などの事故を未然に防ぐ体制づくりとして、学籍番号に暗号を付与したメールアドレス・教員氏名に暗号を付与したメールアドレスを導入する。Windows7・Office2010の延長サポートが2020年1月に切れるため、新システム更改と並行して、学内の古いOS対策を進め、安全対策を周知する。学生のみならず教員への啓発活動を十分に行う。学内学生用端末・ゼミ用PCを安全に運用する。

新大学ホームページ運用のために、対応できる体制を作る。

教授 豊島 裕子 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、平成28年度に続き、研究面では受理される論文作成と目指す。また、教育面では、①社会環境の多様性に対応できる管理栄養士の育成 ②国家試験合格率の維持を目標とした教育 に努めたいと考えている。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・応用栄養学Ⅰ
 - ・応用栄養学Ⅱ
 - ・応用栄養学Ⅲ
 - ・運動生理学総論
 - ・応用栄養学実習
 - ・総合演習 (ストレスと自律神経)
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・生理学実習, 東京慈恵会医科大学
 - ・臨床医学特論D (神経系の基礎と病態・内科学), 上智大学大学院

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・豊島裕子, 加藤則子, 橋本晴菜, 他: 糖尿病神経障害および足病変の管理における Cardio Ankle Vascular Index (CAVI) の有用性, 臨床栄養 39 巻, 1 号, 40-48, 2017.
- ・豊島裕子: 心理的ストレスと自律神経 ストレスの客観的評価—就労中のストレスを自律神経機能で測る—, 自律神経 54 巻, 2 号, 82-87, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Hiroko Toshima: Circadian rhythm of autonomic function and sleep patterns in the elderly, The International Society for Autonomic Neuroscience 2017, 2017.8.30, Nagoya.
- ・豊島裕子, 野村倫子: 応用栄養学実習における「健康経営」教育, 第64回日本栄養改善学会学術総会, 2017.9.15, 徳島.
- ・大城戸真喜子, 豊島裕子: ロービジョンという視点からの管理栄養士養成教育, 第64回日本栄養改善学会学術総会, 2017.9.15, 徳島.
- ・菊池夏希, 吉野愛弓, 畠中晴菜, 豊島裕子: 胃電図・自律神経機能のサーカディアンリズムを用いた消化機能評価の試み, 第39回日本臨床栄養学会総会, 2017.10.14, 千葉.
- ・吉野愛弓, 菊池夏希, 畠中晴菜, 豊島裕子: 頸部4チャンネル表面筋電図による嚥下機能評価の試み, 第39回日本臨床栄養学会総会, 2017.10.15, 千葉.
- ・豊島裕子, 加藤則子, 加藤光敏: Cardio Ankle Vascular Index (CAVI) を用いた, 糖尿病自律神経障害のスクリーニング, 第58回日本脈管学会総会, 2017.10.19, 名古屋.
- ・Natuki Kikuchi, Joichiro Togashi, Hideaki Seki, and Hiroko Toshima: Rhythm of Electro-gastrograms, The 95th annual Meeting of the Physiological Society of Japan, 2018March29, Takamatsu.

- Ayumi Yoshino, Takumi Aoki, Hideaki Seki, and Hiroko Toshima: Evaluation of swallow- ing function by cervical 4 channel surface electromyogram, The 95th annual Meeting of the Physiol- ogical Society of Japan, 2018March29, Takamatsu.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- 平成 28 年度千葉県立保健医療大学 学長裁量研究, 高齢者の生理機能に関する包括的研究, 研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等, 活動期間, 場所等）

- 「お父さんのためのヘルシーメニュー, お兄さんのためのエコメニュー」イベント開催（応用栄養学実習で作成した成人期メニュー提供）. 2017. 8. 7～11. 明治安田生命（株）東陽町ビル社員食堂

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績（活動団体名称, 委員名称, 活動期間）

- 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員, 国際事業委員会書面審査員・書面評価員. 2016. 4～2018. 3
- 労災保険情報センター, 理事, 2006～現在

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本内科学会, 日本神経学会, 日本自律神経学会, 日本脳卒中学会, 日本糖尿病学会, 日本老年医学会, 日本産業衛生学会, 日本衛生学会, 日本公衆衛生学会, 日本生理学会, 日本体力医学会, 日本臨床栄養学会, 日本栄養改善学会.

2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）

- 日本生理学会, 評議員.
- 日本自律神経学会, 評議員.
- 日本衛生学会, 評議員.
- 日本産業衛生学会, 代議員.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

図書館長, 共通教育運営会議議長, 自己点検・評価部会 報告書作成部会長, 本学産業医, 大学運営会議 自己点検・評価委員会, 将来構想検討委員会, 入試委員会, 防災委員会, 教務委員会, FD 委員会.

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等＞

- NHK テレビ BS プレミアム 美と若さの新常識～カラダのヒミツ「怒りは美の大敵！イライラ解消術」 2017 年 5 月 18 日出演.
- NHK テレビ BS プレミアム 偉人たちの健康診断「豊臣秀吉」. 2018 年 1 月 31 日出演.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育においては, 立てた目標に沿った教育を施すために, 対外的折衝, 情報収集など積極的に行った. この結果, 学生には様々な情報, 経験を提供でき, 国家試験合格にも寄与できたと考えている. 千葉県に赴任してから着手した研究がようやく形を成してきたと感じている. 大学の管理運営においては, 複数の委員会の長を同時進行でお引き受けし, また多数の委員会の委員として委員会に出席し, 大変多忙な 1 年間であった. 特に共通教育運営会議議長は, 本学の重点施策に関わる部分を多く有し, 力を注いで取り組んだ.

VII 次年度の目標

研究者として、業績を残すよう頑張りたいと考えている.

教授 東本 恭幸 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、教育では学生がさらに主体的に学びを深められるように双方向授業を工夫し、研究では地域包括ケアの中でも特に医療的側面にテーマを設定し、今後管理栄養士が在宅医療分野で活躍するための方策について研究を行うことを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・解剖学総論
- ・生理学総論
- ・解剖学実験
- ・生理学実験
- ・疾病論
- ・人体の構造と機能 I
- ・人体の構造と機能 II
- ・リスクマネジメント論
- ・臨床検査学
- ・総合演習
- ・専門職間の連携活動論
- ・卒業研究

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・臨床病態生理学特論 (放送大学大学院)
- ・病態生理学 (北陸学園)
- ・解剖生理学実習 (北陸学園)

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・Saito T, Sakamoto A, Hatano M, Iwai J, Higashimoto Y, Yoshida H: Systemic and local cytokine profile in biliary atresia, Eur J Pediatr Surg, 27, 3, 280-287, 2017.
- ・Mitsnaga T, Higashimoto Y, Saito T, Iwai J: Usefulness of ^{99m}Tc-DTPA galactosyl human serum albumin liver scintigraphy for evaluating hepatic functional reserve after Kasai procedure, J Pediatr Surg, 52, 12, 1925-1929, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・光永哲也, 笈田 諭, 勝俣善夫, 照井エレナ, 四本克己, 東本恭幸, 岩井 潤: 腹膜炎に合併した胆道閉鎖症, 第43回日本胆道閉鎖研究会, 2016年11月19日, 新潟市.
- ・Mitsnaga T, Oita S, Katsumata Y, Higashimoto Y, Saito T, Iwai J: Usefulness of ^{99m}Tc-DTPA galactosyl human serum albumin liver scintigraphy for evaluating hepatic functional reserve after Kasai procedure, PAPS (Pacific

Association of Pediatric Surgeons) 50th Annual Scientific Meeting, 2017. 5. 30, Seattle.

- ・光永哲也, 大野幸恵, 吉澤比呂子, 東本恭幸, 岩井 潤: 99mTc-GSA シンチグラフィーを用いた胆道閉鎖症術後の分肝機能評価の試み, 第1368回千葉医学会例会, 2017年12月2日, 千葉市.
- ・光永哲也, 太田康子, 福原麻后, 糸賀康博, 藤岡直子, 東本恭幸, 山出晶子: 側弯を合併した症例に対する胃瘻造設術の適応評価とピットフォール, 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 2018年2月23日, 横浜市.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究 (一般), 在宅医療における管理栄養士業務のニーズに関する研究, 研究代表者.
- ・学長裁量研究, 千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくりプログラムの実践と評価 I, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム, 2017年11月11日, 花見川団地.
- ・ほい大健康プログラム, 2017年12月16日, 千草台団地, あやめ台団地.
- ・ほい大健康プログラム, 2018年3月6日, 花見川団地.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本外科代謝栄養学会, 日本静脈経腸栄養学会, 欧州静脈経腸栄養学会 (ESPEN), 日本病態生理学会, 日本食物繊維学会, 日本在宅静脈経腸栄養研究会, 日本サルコペニア・フレイル学会, 日本老年医学会, 千葉県医師会, 千葉県庁医師会, 千葉医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本静脈経腸栄養学会, 学術評議員, 2014年2月～現在に至る
- ・千葉県NST ネットワーク, 世話人, 2015年5月～現在に至る

7 その他

- ・大学説明会, 2017年5月24日, 昭和学園高等学校 (市川市).
- ・平成29年度大学入試センター試験千葉県立保健医療大学試験会場監督班員, 2018年1月13～14日

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 総務・企画委員会, 共通教育運営会議, 入試評価部会, 教員資格審査委員会 (看護学科・助教) 2017年4～5月, 教員資格審査委員会 (看護学科・准教授) 2017年6～8月, 教員資格審査委員会 (看護学科・講師) 2018年1～2月, 学内共同研究評価委員, 大学紀要査読委員.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科教授会, 栄養学科運営会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育では, 科目責任者となった科目が3科目増えて8科目となり, すべての学生が興味をもって学習を進められるように教材や授業展開の工夫を心がけた. 解剖学実験で反転授業を導入したところ, 学生同士の主体的な学びを促進する成果が得られた. 研究では, 在宅医療における食事・栄養管理の潜在的ニーズに関する調査研究が学内共同研究に採択されて研究を完遂することができ, 年度明けに学会発表を行い論文投稿の予定である.

VII 次年度の目標

教育ではさらに双方向授業を工夫して、学生が主体的に知識や技術を修得し今後の応用力の基盤となるような指導を心がける。研究では今年度の学内共同研究の発表と論文化を進め、在宅医療における栄養管理のテーマをさらに掘り下げて外部資金を獲得できるような研究に発展させたい。

教授 細山田 康恵 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育では、最新の情報を提供し、授業内容に興味をもてるように心がけたい。研究では、学内・学外で共同研究を行い、成果発表ができるようにしたい。大学運営には、積極的に取り組むように努めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・生化学総論
- ・生化学
- ・栄養生化学
- ・臨床検査学
- ・生化学実験
- ・解剖学総論
- ・解剖学実験
- ・臨床検査実習
- ・卒業研究
- ・総合演習
- ・体験ゼミナール
- ・専門職間の連携活動論

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・山田正子, 佐野紗和子, 千田美奈子, 古谷友利恵, 森まどか, 細山田康恵: 塩素系漂白剤の保管条件による有効塩素濃度への影響, 日本給食経営管理学会誌, 11巻1号, 19-26, 2017.
- ・山田正子, 細山田康恵: 市販および家庭で使用されている塩素系漂白剤の有効塩素濃度, 日本食生活学会誌, 28巻3号, 211-215, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・細山田康恵, 山田正子: 脂肪酸組成の異なる油脂投与ラットにおける肝間質の微細構造について, 平成28年度共同研究発表会, 2017年8月29日, 千葉県立保健医療大学.
- ・山田正子, 細山田康恵: 給食施設の献立を前提とした加熱条件の違いによるビタミン損耗率の測定, 平成28年度共同研究発表会, 2017年8月29日, 千葉県立保健医療大学.
- ・細山田康恵, 山田正子: カカオエキスとエゴマ油摂取がラットの脂肪蓄積量とアディポネクチン濃度に及ぼす影響, 第71回日本栄養・食糧学会大会, 2017年5月20日, 沖縄コンベンションセンター.
- ・細山田康恵, 山田正子: 脂肪酸組成の異なる油脂摂取ラットの肝間質における脂肪的分布, 第64回日本栄養改善学会学術総会, 2017年9月14日アスティとくしま.
- ・山田正子, 細山田康恵: 食中毒予防を目的とした加熱条件による野菜のβ-カロテン, ビタミンB₁, ビタミンB₂, ビタミンCの損耗率, 第13回日本給食経営管理学会学術総会, 2017年11月26日, 藤女子大学.
- ・細山田康恵, 川崎優人, 宮木貴之, 角田宗一郎, 市村浩一郎, 坂井建雄: 糸球体内皮細胞の超微立体構造, 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2018年3月29日, 日本医科大学武蔵境校舎・日本獣医生命科学大学.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム, 2018年2月17日, 高洲第一団地・第二団地
- ・ほい大健康プログラム, 2018年3月7日, 花見川団地

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養食糧学会、日本栄養改善学会、日本脂質栄養学会、日本解剖学会、日本生化学会、日本家政学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本栄養改善学会、評議員、2003年4月から現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究等倫理審査委員会、学術推進企画委員会、入試評価部会、動物実験研究倫理審査部会、紀要編集部会、学内共同研究審査部会、入試課題を考えるWG。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、新しい知見をとりいれながら、授業内容の理解を深めることができた。研究では、学内共同研究の成果を学会発表し、論文に投稿することができた。学外共同研究の成果は、学会発表できたが、論文にできるよう心がけたい。社会貢献は、ほい大健康プログラムに参加し、高齢者の方とコミュニケーションをとることができた。大学運営に関しては、紀要編集部会長として、責任を果たすことができた。今後、研究の時間がとれるように改善していきたい。

VII 次年度の目標

教育では、わかりやすい授業をこころがけたい。研究面では、学内・学外で共同して進められるように工夫していきたい。社会貢献では、ほい大健康プログラムに参加し、地域の高齢者の方の生活の向上につなげるようにしたい。大学運営では、担当している委員会や部会で積極的に活動するように努める。

准教授 山田 正子 博士（農学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

時間の調整をすることで、もう少し研究および論文投稿に時間を費やしたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・管理栄養士導入教育.
- ・食品衛生学.
- ・食品衛生学実験.
- ・給食経営管理論Ⅰ.
- ・給食経営管理論Ⅱ.
- ・給食経営管理実習.
- ・臨地実習事前指導.
- ・臨地実習事後指導.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・体験ゼミナール.

2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）

- ・栄養学（千葉市青葉看護専門学校）.
- ・栄養学（共立女子大学看護学部）.

准教授 越川 求 博士 (教育学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、栄養教諭養成課程の1年生から4年生まで全学年を担当するので、引き続き健やかな成長と学習目標が達成できるよう努力したい。研究活動においては、学会発表と論文掲載・著作発行を重点的に絞り込み、学術的な貢献を果たしたい。学校運営・社会貢献・国際交流活動についても、責任を果たしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール
 - ・教職論
 - ・カリキュラム論
 - ・道德教育・特別活動論
 - ・教育学概論
 - ・教育制度論
 - ・生徒指導論
 - ・教職実践演習

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・寺崎昌男・斉藤利彦・越川求編『海後宗臣 教育改革論集』東京書籍, 2018年2月.
- ・越川求「戦後カリキュラム論の出発-総説-海後宗臣のカリキュラム論形成過程」pp. 488-507, 同上.
- ・越川求「戦後カリキュラム論の出発-解題」pp. 508-536, 同上.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 発行所, 本人下線)

- ・越川求「長野県教員赤化事件(「二・四事件」)に関する研究-長野県会と信濃教育会の動きに焦点をあてて-」『立教大学教育学科研究年報』第61号, 2018年2月.
- ・越川求「[解説] 河村卓公判速記『1930年代「教員赤化(「二・四事件」)の研究-「裁判記録」を通して-』課題番号:15 K04254 平成27～29年度科学研究費補助金・基盤研究(C)研究成果報告書(研究代表者 前田一男), pp. 153-165.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・越川求「海後宗臣の社会教育論-〈民衆教育へ〉の展望-」日本社会教育学会第64回大会, 2017年9月, 埼玉大学.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本教育学会, 日本教師教育学会, 教育史学会, 日本教育史学会, 日本社会教育学会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県立保健医療大学第一回イブニングセミナー講師「高大接続改革と新学習指導要領」2017年7月

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育運営会議、教務委員会、学術推進委員会、教職課程カリキュラム委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

大学の教育活動や研究、運営にも充実したとりくみが見えた。29年度においては、栄養教諭養成課程のカリキュラムの充実・改善をはかり、再課程認定の準備をおこなった。体験ゼミナール・教職論・カリキュラム論・道徳教育・特別活動論・教育学概論・教育制度論・生徒指導論・教職実践演習とそれぞれの授業の改善をはかり効果をあげた。科研の研究協力者、教育調査の研究会、研究所での研究会に参加し、調査や報告をし論文作成等を行った。学会発表を9月に行い著作の編者や科研報告書の執筆も担当し、学術的な貢献ができた。教務委員会での協議、学術推進委員会での協議・実務、入試等の学校管理運営活動についても貢献していった。

VII 次年度の目標

教育活動においては、栄養教諭養成課程の1年生から4年生まで全学年を担当するので、引き続き健やかな成長と学習目標が達成できるよう努力したい。研究活動においては、学会発表と科研（B）研究分担者、科研（C）研究協力者の二つの調査研究を進展させ、学術的な貢献を果たしたい。学科での教育活動及び学校運営・社会貢献・国際交流活動についても、責任を果たしていきたい。

准教授 谷内 洋子 博士 (学術)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は講義・実習において、身体や栄養に関する専門的知識・技能の修得に加え、対象の身体・心理・環境の側面に対して、健康問題を総合的に捉える能力を養えるよう、演習での症例検討等を通して臨床栄養学に関する理解を深める授業の工夫に取り組む。また、学外臨地実習への事前事後指導とサポート体制を充実させる。研究面では、科研費の研究代表者として取り組んでいる、“日本人妊婦における栄養摂取量および身体活動量が母児の健康に及ぼす影響の検証”に関する研究を進め、その成果を国内外の学会発表や英語原著論文執筆、国際誌への投稿に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床栄養学Ⅰ
- ・臨床栄養学Ⅱ
- ・総合演習
- ・管理栄養士導入教育
- ・臨床栄養学実習
- ・栄養ケアマネジメント論実習
- ・栄養ケアマネジメント論演習
- ・事前・事後指導 (臨地実習)
- ・臨床栄養臨地実習
- ・栄養管理臨地実習
- ・専門職間の連携活動論
- ・千葉県の健康づくり

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・臨床栄養学実践演習 (日本女子大学)
- ・血液・内分泌・代謝内科学分野 新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・谷内洋子：糖尿病の最新食事療法のなぜに答える【基礎編】 ver.2, 2017, 医歯薬出版
- ・谷内洋子：若年女性のやせ願望の現状と健康障害, メディックスジャーナル vol.4, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：若年女性のやせ過ぎの弊害①, メディックスジャーナル vol.5, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：若年女性のやせ過ぎの弊害②, メディックスジャーナル vol.6, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：若い女性の食生活の現状, メディックスジャーナル vol.7, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：若年女性の食生活と耐糖能異常, メディックスジャーナル vol.8, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：妊娠前からの葉酸摂取, メディックスジャーナル vol.9, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：望ましい食生活—妊娠中, メディックスジャーナル vol.10, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：妊娠中の食生活と児の健康, メディックスジャーナル vol.11, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.

- ・谷内洋子：望ましい食生活—出産後，メディックスジャーナル vol.12, 2017, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：望ましい食生活—たんぱく質，メディックスジャーナル vol.1, 2018, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：次世代の健康を守るために，メディックスジャーナル vol.2, 2018, 日本マタニティフィットネス協会.
- ・谷内洋子：女性の美しさと健康，メディックスジャーナル vol.3, 2018, 日本マタニティフィットネス協会.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Tajima R, Yachi Y, Tanaka Y, Kawasaki YA, Nishibata I, Hirose AS, Horikawa C, Kodama S, Iida K, Sone H. : Carbohydrate intake during early pregnancy is inversely associated with abnormal glucose challenge test results in Japanese pregnant women. Diabetes Metab Res Rev. 33(6), 2017. (査読あり)
- ・Kodama S, Fujihara K, Ishiguro H, Horikawa C, Ohara N, Yachi Y, Tanaka S, Shimano H, Kato K, Hanyu O, Sone H. Unstable bodyweight and incident type 2 diabetes mellitus: A meta-analysis. J Diabetes Investig. 8(4):501-509, 2017. (査読あり)

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・浅井彩矢香，田中康弘，小倉秋乃，春原華歩，西端泉，広瀬歩美，曾根博仁，谷内洋子：妊娠中の食事および出産前後の体重歴とやせ願望との関連の検討，第71回日本栄養・食糧学会大会，平成29年5月，武庫川女子大学
- ・小倉秋乃，浅井彩矢香，田中康弘，春原華歩，西端泉，広瀬歩美，曾根博仁，谷内洋子：妊娠中の栄養摂取状況および体重増加量と低出生体重児出産との関連の検討：平成22年国民健康・栄養調査の解析，第64回日本栄養改善学会学術総会，平成29年9月，アステイ徳島
- ・谷内洋子，田中康弘，広瀬歩美，伊部陽子，藤原和哉，曾根博仁：妊娠糖尿病発症予測能の検討(Tanaka Women's Clinic Study)，第39回日本臨床栄養学会，平成29年10月，幕張メッセ

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・一般社団法人日本マタニティフィットネス協会主催，マタニティーベビーフェスタ2017，将来にわたって健やかで美しいカラダを維持しよう！—今日からできる食生活改善のポイント（特別基調講演），2017年4月，パシフィコ横浜
- ・平成29年度千葉県特定健診・特定保健指導に関する人材育成研修，食生活（アルコールを含む）に関する保健指導について，2017年6月，千葉県文化会館
- ・平成29年度千葉県特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会，食生活に関する保健指導について—症例検討，2017年9月，千葉県文化会館
- ・健康・体力づくり指導者研修会(千葉県健康づくり支援課主催，健康・体力づくり指導者研修会，食生活でロコモ予防，2017年11月，千葉県総合スポーツセンター

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・平成29年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究（B）），日本人妊婦における栄養摂取量および身体活動量が母児の健康に及ぼす影響の検証，研究代表者。
- ・平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（B）），地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

2) 千葉県外

- ・“食育出前教室”，2017年9月，久ヶ原スポーツクラブ
- ・“産後クラブ（3カ月健診）食育講座”，2017年7月～12月，田中ウイメンズクリニック

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・食事・栄養相談，平成29年4月～平成30年3月，久ヶ原スイミングクラブ。

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本人間ドック学会人間ドック健診の有用性に関する大規模研究委員会 委員, 平成29年4月～平成30年3月
- ・日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー, 平成29年4月～平成30年3月

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会
- ・日本臨床栄養学会
- ・日本病態栄養学会
- ・日本成人病 (生活習慣病) 学会
- ・日本栄養・食糧学会
- ・日本糖尿病・妊娠学会
- ・DOHaD 研究会
- ・日本疫学会
- ・European Association for the Study of Diabetes (EASD ; 欧州糖尿病学会)
- ・千葉県栄養士会
- ・日本栄養士会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本栄養・食糧学会 参与, 平成29年4月～平成30年3月
- ・日本栄養改善学会 評議員, 平成29年4月～平成30年3月
- ・日本病態栄養学会 評議員, 平成29年4月～平成30年3月
- ・日本糖尿病妊娠学会 評議員, 平成29年4月～平成30年3月

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・図書情報委員会.
- ・国際交流委員会.
- ・紀要部会員.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・久ヶ原スイミングクラブ

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20170501.html>, <http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20170804.html>

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20171107.html>, <http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20180213.html>

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教科書レベルの基本的な知識に加え, 最新の研究成果や臨床現場での取り組みについて, 各学年の授業内で紹介し, 知識と実践を結びつけて理解が深まるよう工夫することができた。また, 決められた時間内に課題に取り組み発表するグループワーク演習を通して, 自ら考え, 人前で発表する力と, 周囲と協調する力を養えるように工夫をした。今後とも, 高度な専門的知識を基に, 保健医療現場でリーダーシップを発揮し得る人材育成を念頭に学生指導に取り組みたい。研究活動については, 複数の取り組みを同時並行で進行していることから, 作業効率も考慮しながら, 研究成果を社会に還元・貢献できるよう取り組みたい。

Ⅶ 次年度の目標

画一的な指導ではなく、学生個人個人の資質や学年ごとの特性を理解した上での指導を行うとともに、学生の取り組みを見守り、時に経緯やプロセスを含めて、結果に至るまでの過程について、主体的な取り組みができるような授業運営を目指したい。研究活動については、現在取り組んでいる研究課題の成果を学会発表および論文執筆を通して、社会に還元・貢献したい。また、現職の管理栄養士向けの研修会講師の依頼も増えてきたことから、専門職としての責任の下、今後も研修会や市民シンポジウムなどを通じて啓蒙活動を行い、望ましく実践可能な食生活の在り方の発信、健康寿命の延伸を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。

准教授 荒井 裕介 博士（農芸化学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、講義・実習を実施する。研究面では昨年度に引き続き共同研究に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・公衆栄養学Ⅰ.
- ・公衆栄養学Ⅱ.
- ・公衆栄養学実習.
- ・公衆栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・卒業研究.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・公衆衛生学（金沢医科大学）.
- ・公衆栄養学（大阪市立大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・高橋佳子, 高松まり子, 荒井裕介他：公衆栄養概論（エスカベリック）（第6版），2017年4月，同文書院，東京.
- ・荒井裕介, 稲山貴代, 今井具子他：管理栄養士課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 公衆栄養学2018年版，2018年2月，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Nagahata T, Nakamura M, Ojima T, Kondo I, Ninomiya T, Yoshita K, Arai Y, Ohkubo T, Murakami K, Nishi N, Murakami Y, Takashima N, Okuda N, Kadota A, Miyagawa N, Kondo K, Okamura T, Ueshima H, Okayama A, Miura K: Relationships among Food Group Intakes, Household Expenditure, and Education Attainment in a General Japanese Population: NIPPON DATA2010, J Epidemiol. 28(Supplement_III), S23-S28.
- ・Goryoda S, Nishi N, Hozawa A, Yoshita K, Arai Y, Kondo K, Miyagawa N, Hayakawa T, Fujiyoshi A, Kadota A, Ohkubo T, Okamura T, Okuda N, Ueshima H, Okayama A, Miura K: Differences in Lifestyle Improvements With the Intention to Prevent Cardiovascular Diseases by Socioeconomic Status in a Representative Japanese Population: NIPPON DATA2010, J Epidemiol. 28(Supplement_III), S35-S39.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・小山達也，荒井裕介，由田克士：自立高齢者におけるナトリウムカリウム比と食品群別ナトリウム・カリウム摂取量との関連，日本栄養改善学会第3回東北支部学術総会，2017年6月，秋田市。
- ・五領田小百合，西信雄，寶澤篤，由田克士，荒井裕介，近藤慶子，宮川尚子，早川岳人，藤吉朗，門田文，大久保孝義，岡村智教，奥田奈賀子，上島弘嗣，岡山明，三浦克之：生活習慣病の予防・改善の取り組みと社会的要因の関連：NIPPON DATA 2010，第53回日本循環器病予防学会学術集会，2017年6月，京都市。
- ・五領田小百合，西信雄，寶澤篤，由田克士，荒井裕介，近藤慶子，宮川尚子，早川岳人，藤吉朗，門田文，大久保孝義，岡村智教，奥田奈賀子，上島弘嗣，岡山明，三浦克之：Differences in healthy eating attitudes by social factors in Japanese adults：NIPPON DATA 2010，第21回国際疫学会総会，2017年8月，さいたま市。
- ・西田有里，福原都奏，宮地香奈，小山達也，荒井裕介，由田克士：自立高齢者のBMIや身体計測値と栄養素摂取状況の関係，第64回日本栄養改善学会学術総会，2017年9月，徳島市。
- ・小山達也，荒井裕介，由田克士：自立高齢者における主菜の種類と栄養素等摂取量との関連，第64回日本栄養改善学会学術総会，2017年9月，徳島市。
- ・中川夕美，由田克士，岩橋明子，荒井裕介，尾島俊之，藤吉朗，中川秀昭，大久保孝義，西信雄，門田文，岡村智教，上島弘嗣，岡山明，三浦克之，NIPPON DATA2010 研究グループ：高 non-HDL コレステロール者の血圧と生活習慣：NIPPON DATA 2010，第76回日本公衆衛生学会，2017年10月，鹿児島市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2017年度学長裁量研究費，千葉県民における習慣的な栄養素摂取量推定と評価に関する研究，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会，日本公衆衛生学会，日本高血圧学会，日本疫学会。
- ・日本栄養士会，神奈川県栄養士会

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，評議員，2006年11月～現在に至る。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，栄養学雑誌編集委員，2015年11月～現在に至る。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，理事候補者選挙管理委員，2016年12月～2017年9月。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，関東・甲信越支部幹事，2018年2月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・第1回現場で活躍する管理栄養士・栄養士のための実践栄養学研究セミナー初級編，日本栄養改善学会関東・甲信越支部，抄録の書き方，支部会会員等，2017年6月10日，女子栄養大学駒込キャンパス。
- ・千葉市健康づくり研修会，千葉市保健所，栄養施策の動向と給食施設の役割～国民健康・栄養調査等から見える千葉市の特徴～，千葉市保健所管内特定給食施設管理栄養士等，2017年6月29日，千葉市保健所。
- ・2017年度管内行政栄養士業務連絡会研修会，香取健康福祉センター，地域診断・計画策定・評価に向けた分析の基本，管内市町行政栄養士，2017年8月31日，2018年1月30日，香取健康福祉センター。
- ・公開講座，千葉県立保健医療大学，県民健康・栄養調査の結果からみた千葉県の食生活の状況について，一般住民，2017年10月8日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究等倫理委員会，防災対策委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・新々カリキュラム検討チーム。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう、講義・実習では各回ワークシートを作成した。研究面では共同研究の代表者として関係機関の協力を得て実施した。

VII 次年度の目標

教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、講義・実習を実施する。研究面では共同研究の解析をすすめて論文化に取り組む。

講師 金澤 匠 博士 (農学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、研究の推進及び研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。また、授業や実習の内容の更なる充実を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・化学.
 - ・栄養学Ⅰ（基礎）.
 - ・栄養学Ⅱ（応用）.
 - ・食品学各論.
 - ・食品学実験.
 - ・食品加工学.
 - ・基礎栄養学.
 - ・基礎栄養学実習.
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・いのちと生活Ⅰ（栄養学）（千葉科学大学）

III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
 - ・学内共同研究、卵巣摘出ラットで生じる肝オートファジー抑制に関する調節因子の探索、研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

- 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）
 - ・千葉県調理師試験委員、2017年

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本農芸化学会、日本生化学会、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食品科学工学会
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・日本栄養改善学会、評議員、2016年11月1日～現在に至る

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・教務委員会. 特色科目委員会. 動物実験研究倫理審査部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究に関しては、学内共同研究費を獲得し、現在まで続けている「卵巣摘出によるオートファジーの変化の解明」というテーマをさらに推進することが出来た。ただし、結果の公表までは至らなかった。研究成果の公表については来年度の課題と考える。講義や実験・実習については、学生の理解度が向上するようスライドやプリントの内容、実験の内容について工夫を心掛け実践できた。今後も引き続き授業内容の見直し等を行っていきたい。

VII 次年度の目標

平成 30 年度は、研究費を獲得し、研究の推進及び研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を引き続き目指す。また、授業や実習の内容の見直しを行い、更なる工夫や充実を図る。

講師 海老原 泰代 博士 (生活環境学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、教育面では科目責任者として2年目を向かえるので、より積極的に教育活動に励みたい。学生の学びを推進するよう授業内容について工夫を重ね、学内外の関係者との連携を深めることにより、さらなる教育効果の向上に努める。研究面では、引き続き千葉県における健康課題に取り組んでいくとともに、共同研究の成果をまとめ論文文化を進めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・管理栄養士導入教育.
 - ・栄養教育論Ⅰ.
 - ・栄養教育論Ⅱ.
 - ・栄養教育手法論.
 - ・栄養教育論実習.
 - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
 - ・栄養教諭教育実習.
 - ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・海老原泰代, 岡田亜紀子: 小児生活習慣病予防検診結果からみた学童の肥満と小児生活習慣行の現状, 千葉学校保健研究, 9巻1号, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Yoshiko Kudo, Yasuyo Ebihara, Jonathan P. Guevarra, Nobuyoshi Watahiki, Nina G. Gloriani, Nobuyuki Hyoui: Essential clinical examinations related to NCDs prevention and control in the primary healthcare facilities, National Capital Region, Philippines, AAMLS, September 22~24, 2017, Korea.
- ・海老原泰代, 豊島裕子: 児童のMets予防における食事の摂り方についての考察～小児生活習慣病予防検診結果から, 第38回日本肥満学会, 2017年10月7日, 大阪.
- ・途上地域のNCDs予防対策における市保健局所属栄養士の役割に関する質的調査: 海老原泰代, 工藤芳子, 綿引信義, 他, 第76回日本公衆衛生学会, 2017年10月31日, 鹿児島.
- ・千葉県における栄養教諭・学校栄養職員の職務および食育の現状について: 岡田亜紀子, 海老原泰代, 渡邊智子, 第21回千葉県学校保健学会年次大会, 2017年12月2日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構, 平成29年度女子大生等を学習者とした「3・1・2弁当箱法」体験セミナー事業, 事業主担当者.
- ・学内共同研究, 特定健診・特定保健指導における, ライフスタイル教育プログラムの開発や介入に関する調査, 研究代表者.

- ・学長裁量研究, 学生が行う地域のための健康づくり活動の実施と評価 I, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・UR はい大健康プログラム (千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくりプログラムの実践と評価 I). 2017年9月1日～現在に至る.
- ・食生活向上お手伝い会. 2017年7月24日～7月31日. 千葉県館山市.
- ・がん予防のための健康料理教室. 2018年3月8日. さわやかちば県民プラザ.
- ・柏の葉料理教室. 2018年3月28日. 柏の葉ららぽーと柏の葉.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県栄養士会. 研究教育部会役員. 2016年4月1日～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会. 日本健康教育学会. 日本臨床栄養協会. 日本肥満学会. NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会. 日本糖尿病学会. 千葉県学校保健学会. 日本栄養改善学会.
- ・日本栄養士会. 千葉県栄養士会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県学校保健学会. 理事. 2017年4月1日～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・保育所給食施設食育研修会. 千葉縣市原健康福祉センター(保健所). 食育の取り組みについて. 管内給食施設(保育所 保育士, 栄養士等). 2017年9月28日. 千葉縣市原健康福祉センター(市原保健所).

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ネットワーク委員会. 栄養教諭教職課程運営委員会. キャンパス・ハラスメント防止委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営会議. 管理栄養士国家試験対策委員.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

本年度は, リフレクションペーパーを用いるなど, 授業の工夫をして学生の理解を確認しながら進めることで教育効果の向上に努めた. また, 研究面ではこれまで取り組んできた千葉県内の子どもの健康課題について, 5年間の取り組みをまとめて論文として報告することができ, 一定の成果を発表した.

VII 次年度の目標

次年度は, 特に学生の教育において, 模擬体験や学外での活動の機会を広げることで, 教育効果の向上をはかり, より積極的な教育活動に励みたい. また研究面においても, 学内外の関係者との連携を深めることで, 千葉県の健康課題に取り組みたい.

助教 阿曾 菜美 博士 (人間環境学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、育児休業から復帰後の初年度となる。そこで、まずは基本となる教育活動に専念する。研究活動については、これまでの成果の発表や今後の研究計画の立案に力を入れる。時間配分を工夫し、子育て休暇等を活用することで、ワークライフバランスを意識した無理のない活動を続けていく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・ 専門職間の連携活動論
 - ・ 解剖学実験
 - ・ 生理学実験
 - ・ 生化学実験
 - ・ 基礎栄養学実習
 - ・ 応用栄養学実習

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・ Nami Aso-Someya, Kimiya Narikiyo, Akira Masuda, Shuji Aou: The functional link between tail-pinch-induced food intake and emotionality and its possible role in stress coping in rats, *Journal of Physiological Sciences*, doi: 10.1007/s12576-018-0596-6, 2018.
- ・ Hideaki Kashima, Kohei Eguchi, Kanae Miyamoto, Masaki Fujimoto, Masako Yamaoka Endo, Nami Aso-Someya, Toshio Kobayashi, Naoyuki Hayashi, Yoshiyuki Fukuba: Suppression of Oral Sweet Taste Sensation with *Gymnema sylvestre* Affects Postprandial Gastrointestinal Blood Flow and Gastric Emptying in Humans, *Chemical Senses*, 42(4), 295-302, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ Nami Aso-Someya: Oral perceptions and preferences to sweet taste and fat stimuli are modulated by mood rather than Body Mass Index or daily eating behavior in young females. 第95回日本生理学会大会, 平成30年3月28日～3月30日, 高松.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 文部科学省・科学研究費補助金 (若手B), 痩せ願望に起因する食行動が食事に関連する感覚入力の感受性に与える影響, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・ ぽい大健康プログラム. 平成29年11月～現在. 千葉市内のUR団地.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本生理学会、日本体力医学会、The American Physiological Society.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本生理学会、The Journal of Physiological Sciences, 査読者、2016年.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議、4年生副担任、管理栄養士国家試験対策委員.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

平成29年度前半は、主に担当補助科目の教育活動に専念した。後半からは、学会発表や論文執筆などの研究活動にも力を入れた。国際誌に投稿論文が受理されたことは大きな成果であると考え。また、これまで活動の少なかった社会貢献活動についても新たにスタートし、地域住民の健康増進のために力を入れることができた。育児休業のため勤務時間を短くしたり、休暇を取得することも多くあったが、限られた時間の中でスケジュール管理を心がけ、充実した1年となった。

VII 次年度の目標

引き続き、ワークライフバランスを意識しながら、研究・教育およびその他の活動に力を入れていきたい。特に研究活動では、新たな研究テーマでのデータ収集を開始するとともに、これまで得られた研究成果の論文化を行うことを目標とする。

助教 田村 友峰子 修士（生命科学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

論文投稿できるように研究の時間を有効活用する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・食品加工実習.
 - ・食品衛生学実験.
 - ・給食経営管理実習.
 - ・総合演習.
 - ・給食経営管理臨地実習.
 - ・事前指導.
 - ・事後指導.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・小島佐紀子，田村友峰子，奥裕乃，松月弘恵，：抗菌加工まな板を用いた調理時の衛生管理，第13回日本給食経営管理学会学術総会，平成29年11月25日，札幌市.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ちば食育研究会（ちば食育応援隊：千葉県ちば食育ボランティア登録団体），保医大ごほんカフェ，千葉県立保健医療大学.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本栄養士会，日本栄養改善学会，日本給食経営管理学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・専門職間の連携活動論作業部会，社会貢献委員会，栄養学科3年生副担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究面では、学位取得のため日本女子大学食経営管理学研究室の研究生となったが、研究のための時間を有効活用することができず、論文投稿まで着手することができなかった。社会貢献活動も学内にとどまっているため、今後はもっと活動範囲を広げたい。

VII 次年度の目標

年内に学会発表を行い、論文の投稿を目指す。

助教 三宅 理江子 博士 (生活科学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は育児休業のため積極的に研究教育活動を行うことは難しいが、復帰後の業務が円滑に進むよう、臨床栄養分野の担当教員をはじめとする教職員との情報共有や連携に努めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・臨床栄養学実習
 - ・栄養ケアマネジメント論演習
 - ・事後指導
 - ・臨床栄養臨地実習

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・島田美恵子, 岡村太郎, 三宅理江子, 雄賀多聡, 中島一郎: 地域健康教室に参加する高齢者における Body Mass Index の加齢変化について, 平成29年度 (第56回) 千葉県公衆衛生学会, 2018年2月1日, 千葉

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・一般社団法人 日本体力医学会, 公益社団法人 日本栄養・食糧学会, 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会, 日本公衆衛生学会, 一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会, 一般社団法人 在宅栄養管理学会, 一般社団法人 日本病態栄養学会

V 管理・運営記録

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営会議, 2年生副担任 (1月から)

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

1月に育児休業より復帰した。育児休業中は臨床栄養分野の担当教員をはじめとする教員との情報共有や連携を行い、実習に支障がないように努めた。復帰後は教育活動を優先的に行ったため、全学委員会活動や社会貢献を行う事ができなかった。

VII 次年度の目標

教育活動を優先的にを行いながら、全学委員会活動や社会貢献に携わる機会をつくるように努める。研究活動はこれまでの成果の発表と次年度以降の研究計画の立案を行う。

助教 岡田 亜紀子 修士（学術）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、昨年度担当した授業や学科内業務に関し、効率化、円滑化を図る。また、前年度に研究分担者として収集したデータの整理・分析を実施し、学会発表および論文作成にあたる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・公衆栄養学実習.
 - ・公衆栄養臨地実習.
 - ・事前指導.
 - ・事後指導.
 - ・栄養教育論実習.
 - ・栄養教諭教育実習.
 - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・発達歯科衛生学II.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・臨床栄養代謝学II （神奈川県立衛生看護専門学校）

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・長浜幸子, 岡田亜紀子, 佐々木美穂, 松崎政三：クリニカルパスの利用状況と栄養管理・食事指導の記録法との関連について, 日本クリニカルパス学会誌, 19, 2, 101-106, 2017.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・岡田亜紀子, 海老原泰代, 渡邊智子：千葉県における栄養教諭・学校栄養職員の職務および食育の現状について, 第21回千葉県学校保健学会年次大会, 2017年12月, 千葉市.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究, 特定健診・特定保健指導における, ライフスタイル教育プログラムの開発や介入に関する調査, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 地域包括ケアシステム 介護予防の実態調査—千葉市内地区別比較—, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくりプログラムの実践と評価I, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 在宅医療における管理栄養士病無のニーズに関する研究, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県白井市、地域ケア会議助言者（管理栄養士）、2017年6月～2018年3月。
- ・第1回美浜区多職種連携会議（管理栄養士）、2017年9月13日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会、クリニカルパス学会、日本臨床栄養協会、千葉県学校保健学会、日本在宅栄養管理学会。
- ・日本栄養士会、千葉県栄養士会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県学校保健学会、評議員、ニューズレター編集委員、2017年4月1日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・高齢者向け食育講座、幸手市立図書館、「夏場の体作りで秋冬を乗り越える！食事のコツ①②」、一般住民、2017年8月27日、9月10日、幸手市立図書館視聴覚室。
- ・「いきいき情報教室」（うち、栄養講座）、白井市高齢者福祉課、「健康長寿のためのシンプル栄養学①②」、一般住民、2017年8月8日、2018年1月30日、白井駅前センター、白井市保健福祉センター。
- ・成田市生涯大学院教養講座、成田市教育委員会生涯学習課、「楽しむ食生活のすすめ」、一般住民、2018年2月5日、2月7日、成田市生涯大校。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営委員、管理栄養士国家試験対策委員、栄養学科1年生副担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、学びの環境をよりよいものにするため、科目担当ならびに関係する教員と学生の様子をできるだけ観察し、授業内で使用するワークシート等の整備や改良をおこなった。研究活動では、原著論文が作成できなかったことが悔やまれる。大学の運営、社会貢献活動では、大学、県職員の一員として、貢献先の依頼に応えられるよう努力した。

VII 次年度の目標

県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、教育活動関連科目に関連する分野の原著論文を1報作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。主任研究者として、研究資金を獲得する。

齒科衛生學科

教授 兼 学科長 大川 由一 博士 (歯学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、教育活動で新たに臨地実習3科目を担当することになったため、臨地実習施設との連携を深め、学生実習が充実したものとなるよう努める。研究活動については、少ないエフォートながら他の学内外の研究者と共同研究に取り組み、成果を残すことを目標とする。社会貢献活動および学内の管理運営においても精力的に対応していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・口腔衛生学.
 - ・チーム歯科医療論.
 - ・地域歯科衛生学.
 - ・歯科衛生統計学.
 - ・演習V (地域歯科衛生).
 - ・総合演習.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・発達歯科衛生実習 I (小児).
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
 - ・歯科医療管理学 (東京歯科大学).
 - ・衛生学・公衆衛生学 (アポロ歯科衛生士専門学校).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会編集, 眞木吉信, 池田理恵, 犬飼順子, 大川由一, 遠藤圭子, 福島正義, 升井一朗, 近藤健次, 白鳥たかみ, 高坂利美, 山田小枝子, 合場千佳子, 石井実和子, 松田裕子, 畠中能子: 歯科衛生学教育コア・カリキュラム —教育内容ガイドライン— 2018年度改訂版, 11~28, 2018.3.
- ・日下和代, 大川由一, 鈴鹿祐子, 三和真人, 雄賀多 聡: 筆記具・言語聴覚士における口腔ケアの実態調査 (平成28年度学長裁量研究抄録), 千葉県立保健医療大学紀要, 9, 1, 89, 2018.3.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・麻賀多美代, 麻生智子, 吉田直美, 大川由一: 高齢者における口腔マッサージの生理的・主観的効果に関する研究, 2016年9月17日, きゅりあん (品川区立総合区民会館), 品川区.

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本歯科衛生学会 第12回学術大会「周術期患者や介護高齢者を対象とした口腔衛生管理」に関する研究討論会, 2016年9月18日, きゅりあん (品川区立総合区民会館), 品川区.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費補助金 基盤研究 (C)，徒手マッサージにおける口腔機能の賦活とリラクゼーション効果に関する実証的研究，研究分担者。
 - ・学内共同研究（一般），千葉県立保健医療大学地域貢献についての研究 ―千葉市内地区別比較からみえるもの―，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）
- ・歯科診療，2009～現在に至る，本学歯科診療室。
- 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）
- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，役員，2017年4月1日～現在に至る。
 - ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，会計担当理事，2014年4月1日～現在に至る。
 - ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育委員会委員，2014年4月1日～現在に至る。
 - ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育問題検討委員会委員，2014年4月1日～現在に至る。
 - ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，歯科衛生学教育コア・カリキュラム（改訂版）小委員会委員，2017年9月1日～2018年3月31日。
 - ・全国大学歯科衛生士教育協議会，理事，2015年4月1日～現在に至る。
 - ・全国大学歯科衛生士教育協議会，教育・研究委員会委員，2015年4月1日～現在に至る。
 - ・国立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当学会議担当者。

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
- ・日本口腔衛生学会，日本公衆衛生学会，国際歯科研究学会（IADR），国際歯科研究学会日本部会（JADR），日本老年歯科医学会，日本歯科医療管理学会，日本歯科医学教育学会，社会歯科学会，日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔ケア学会，東京歯科大学学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2013年4月1日～現在に至る。
 - ・日本歯科衛生学会，顧問，2015年7月1日～現在に至る。
 - ・日本歯科衛生学会，外部査読委員，2013年5月1日～現在に至る。
 - ・日本歯科衛生教育学会，編集委員会査読委員，2013年4月1日～現在に至る。
 - ・全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，編集委員，2017年4月1日～現在に至る。
 - ・日本口腔衛生学会，歯科衛生士委員会委員，2017年5月31日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・平成29年度東京歯科大学大学院講義，臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について，東京歯科大学大学院生，2017年9月6～7日，東京歯科大学水道橋校舎南館，千代田区。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，自己点検・評価委員会，将来構想検討委員会，入試委員会，防災対策委員会（自衛消防隊長），総務・企画委員会，図書情報委員会，管理運営ワーキング会議，教員資格審査委員会（栄養・助教）2017.5.15～，教員資格審査委員会（看護管理学・准教授）2017.6.27～，教員資格審査委員会（在宅看護学領域・教授）2017.10.25～，教員資格審査委員会（歯科・教授）2017.11.27～。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科長（2015年4月1日～現在に至る）. 歯科診療室長（2015年4月1日～現在に至る）. 歯科診療室医療安全管理者（2015年4月1日～現在に至る）.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

平成29年度に歯科衛生学科教員（教授）の欠員に伴い担当した臨地実習3科目について、臨地実習施設との連携により充実した内容を展開することができた。平成29年度重点施策にかかわる課題である言語聴覚士取得コース（選択科目）導入について、修得単位、施設整備等の条件を検討し、重点施策・改善計画実施状況最終報告書として提出した。歯科衛生学科カリキュラムポリシーの見直し、入学志願者（県内）の確保、国家試験100%合格等を達成した。

VII 次年度の目標

平成30年度は、昨年度に引き続き教員欠員に伴い担当している臨地実習3科目について、臨地実習施設担当者と連携をとり実習をより充実したものとなるよう努める。研究では、学内外の研究者との共同研究に参加し、研究成果の公表を目標とする。社会貢献活動および学内の管理運営においても積極的に貢献する。

教授 吉田 直美 博士 (歯学)

対象期間：2017年4月1日～2017年8月31日まで

I 年度当初の目標

学生の自学自習のための支援ならびに卒後に継続学習ができるように継続して支援を行う。更年期研究で収集したデータ解析を実施し、研究成果を公表するための準備を行うとともに、がん患者のための歯科衛生アセスメントツールを開発するための基礎資料を収集する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・歯科衛生アセスメント論.
 - ・歯科保健指導・健康教育論.
 - ・演習IV(歯科保健指導・カウンセリング).
 - ・国際歯科衛生学.
 - ・卒業研究.
 - ・総合演習.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Yoshida N, Sugimoto K, Suzuki T, Kudo H: Changes in oral health status associated with menopause in Japanese dental hygienists. International Journal of Dental Hygiene, DOI:10.1111/idh.12282, 2017. (IF: 0.791)
- ・鳥山佳則, 石井拓男, 武井典子, 金澤紀子, 吉田直美編: 歯科衛生士のための歯科診療報酬入門. 医歯薬出版, 東京, 2017年5月17日.
- ・尾崎哲則・藤井一維・武井典子・吉田直美編: 多職種連携で活用! ポケット版歯科衛生士のための医療用語・福祉用語医歯薬出版, 東京, 2017年8月25日.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省研究費補助金 基盤研究C: 女性更年期における口腔症状改善のための介入プログラムの構築と評価. 2015～2017年度, 代表.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 2) 千葉県外
 - ・NPO法人ピース・ビルダーズ. 事業担当理事, 2012年4月～現在に至る.
 - ・アザレア(東京医科歯科大学同窓会有志) 公開講座. 2017年度 東京医科歯科大学.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般財団法人歯科医療振興財団. 歯科衛生士試験企画評価委員会委員. 2013年4月～現在に至る.
- ・一般社団法人歯科医療振興財団. 評議員. 2017年6月～現在に至る.

- ・公益社団法人富徳会. 2017年6月～現在に至る.

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本歯科衛生士会. 副会長. 2017年6月～現在に至る.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯周病学会. 日本カウンセリング学会. 日本健康教育学会. 保健行動科学会. 口腔病学会. 口腔衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科医学教育学会. 日本口腔ケア学会. 日本老年歯科学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・Prevensione & Assistenza Dentale. Editorial board member. 2011年1月～現在に至る.
- ・日本歯科衛生士会. 常務理事(学会担当). 2013年6月～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会. 学会長. 2015年6月～現在に至る.
- ・口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員 2015年～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 研究等倫理審査委員会. 教員資格審査委員会. 報告書作成等部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、学生の自学自習のための支援をより重視して、キャリアカウンセリングをより重視して働きかけた。研究では、更年期女性を対象とした介入研究についての分析を行い、9月に発表を行った。歯科衛生士の人材確保のためのプロジェクトに加わり、歯科衛生士の新人技術支援ガイドラインおよび復職支援ガイドラインを作成し、研修指導者・臨地実習指導者研修を運営した。大学運営、社会貢献について積極的に取り組み、日本歯科衛生士会の運営、日本歯科衛生学会の開催、学術雑誌の発行などに貢献した。

VII 次年度の目標

なし。

教授 酒巻 裕之 博士 (歯学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、特に教育面では、学年に応じて、学生自ら考えて学ぶ内容をより多く取り入れるように工夫する。歯科診療室業務について歯科診療の充実とともに、TeamSTEPS®を取り入れた医療安全の向上を図り、その効果について共同研究で検討する。学生の歯科診療室における臨床実習に貢献する。研究について、歯科診療における教育に関わる研究として、歯科衛生学科用 Snap shot の有用性等の共同研究を進める。大学の管理・運営について、入試実施副部長として、入学試験が円滑にできるよう所掌事項を遂行する。また平成32年度入学試験改革に向けて、入学者選抜要綱や入学試験実施要領の改変に携わる。社会貢献について、歯科診療室での歯科診療と千葉市口腔がん検診（個別検診）において、地域住民に貢献する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・口腔病理学.
- ・歯科感染予防学.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・臨床実習Ⅲ (病院実習).
- ・歯科診療室総合実習 (3年生).
- ・歯科診療室総合実習 (4年生).
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②. 口腔外科学 (診療の基本-②) (日本大学松戸歯学部 兼任講師).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・久山佳代, 二谷悦子, 浮ヶ谷匡恭, 松本 敬, 森川美雪, 末光正昌, 斉藤隆明, 宇都宮忠彦, 酒巻裕之, 大村光浩: 口腔扁平上皮癌擦過細胞診における細胞量, 細胞所見および正診性に関する従来法と液状化検体細胞診 (SurePath 法) の比較検討, 日本臨床細胞診学会雑誌, 56(5), 210-217, 2018.
- ・Kazuhiro Hasegawa, Hiroyuki Sakamaki, Masahiro Higuchi, Masaaki Suemitsu, Chieko Taguchi, Ko Ito, Miyuki Morikawa, Tadahiko Utsunomiya, Toshirou Kondoh, Kayo Kuyama: Comparative histomorphometric study of intraepithelial papillary capillaries on leukoplakia with/without different dysplastic grading and squamous cell carcinoma of the oral mucosa, Oral Cancer, Publish online: 12 March 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・酒巻裕之, 河島 睦, 久山佳代, 末光正昌, 福本雅彦, 金子 潤, 麻賀多美代, 近藤壽郎: 免疫細胞化学染色による口腔粘膜病変の検出に関する検討, 第71回日本口科学会学術集会, 平成29年4月, 松山.

- ・末光正昌, 山本 泰, 酒巻裕之, 小宮正道, 近藤壽郎, 久山佳代: 口腔粘膜擦過細胞診: 殊に舌縁部擦過細胞診における深層型扁平上皮細胞について, 第 71 回日本口腔科学会学術集会, 平成 29 年 4 月, 松山.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 金子 潤, 荒川 真, 大川由一: 臨床実習を実施する歯科診療室の医療安全における TeamSTEPS®導入に関する研究, 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 平成 29 年 7 月, 松本.
- ・酒巻裕之, 金子 潤, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 今井宏美, 吉田直美: 自習におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関する検討, 第 8 回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 平成 29 年 11 月, 大阪.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第 4 回日本医療安全学会学術集会, パネル討論会, 歯科医療者の医療安全 —医療者の立ち位置—, 深山治久, 酒巻裕之 (歯科医師として), 茂木美保 (歯科衛生士), 松原 恒 (歯科技工士), 東京. 歯科医師の立場として, 歯科治療の特徴ならびにリスク, その対応について多職種連携を行いながら実施することを講演した.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費 基盤研究 (C), 平成 27-29 年, 女性更年期における口腔症状改善のための介入プログラムの構築と評価, 研究分担者.
- ・平成 29 年度学内共同研究費, 萌芽, 事前学習や講義, 実習に Cyber- Coaster 動画教材を用いた教育効果に関する検討, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療 平成 21 年 4 月から現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本口腔外科学会専門医 1996 年 10 月 1 日～現在に至る.
- ・日本口腔外科学会指導医 2001 年 10 月 1 日～現在に至る.
- ・千葉市口腔がん検診 2017 年 7 月 1 日 ～12 月 22 日 検診数 15 件 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医 2013 年 9 月 1 日～現在に至る 糖尿病患者の歯科診療に当たる.
- ・がん患者歯科医療連携登録医 2013 年 10 月 3 日～現在に至る 2015 年 2 月 16 日全国に名簿が公表される.
- ・日本大学松戸歯学部付属病院 診療指導, 2009 年 4 月 1 日～現在に至る.
- ・総合病院国保旭中央病院 手術指導, 2011 年 4 月 1 日～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, 日本口腔外科学会, 日本口腔科学会, 日本口腔内科学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本口腔診断学会, 日本臨床口腔病理学会, 日本臨床細胞診学会, 日本有病者歯科医学会, 日本老年歯科医学会, 日本小児歯科学会, 日本大学口腔科学会, 日本看護技術学会, 日本医療安全学会, 日本口腔ケア学会, 日本公衆衛生学会, 日本顎顔面インプラント学会, 日本医学教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本大学口腔科学会, 評議員, 2007 年 4 月 1 日～現在に至る.
- ・日本口腔科学会, 評議員, 2009 年 4 月 1 日～現在に至る.
- ・日本口腔内科学会, 評議員, 2009 年 6 月 1 日～現在に至る.
- ・日本口腔外科学会, 代議員, 2012 年 9 月 2 日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会, 代議員, 2014 年 4 月 1 日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会, 理事, 2018 年 3 月 21 日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会, 広報委員, 2016 年 4 月 1 日～現在に至る.

- ・日本歯科衛生学会雑誌. 外部査読員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・Journal of Oral Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology. 査読者. 2013年4月1日～現在に至る.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・教授会. 教務委員会. 入試実施部会.
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・教務委員会. 入試実施部会. 4年生担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

平成29年度は、特に教育面では、授業内容を振り返るために、授業終了時に学生が、その日の授業内容に関する問題と解答を作成した。また歯科診療室における臨床実習で、臨床現場における学習評価（WBA）として形成的評価に歯科衛生学科用の評価票を作成し歯科診療後とフィードバックの際に評価を行った。また今後、授業評価アンケートで、予習と復習を行っている学生が少ないので、予習・復習を行うような授業を進める必要があると考えられた。

VII 次年度の目標

平成30年度は、特に教育面では、学生が予習・復習を行うように授業を進める。臨床実習では、技能評価を行う必要があると考えられ、OSCEによるパフォーマンス評価を構築して検討する。学生の歯科診療室における臨床実習に貢献する。大学の管理・運営について、入試実施副部長として、入学試験が円滑にできるよう所掌事項を遂行する。教務委員として、新々カリキュラムの検討を行う。社会貢献について、歯科診療室での歯科診療と千葉市口腔がん検診（個別検診）において、地域住民に貢献する。

教授 島田 美恵子 博士 (体育学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

学内共同研究費をいただき、過去5年間、地域に出向いての健康づくり活動を通じた研究を継続してきた。2017年度に社会貢献委員会委員長を担うにあたり、この経験を大学としての社会・地域貢献に活かしていく。具体的に、①地域のニーズをくみ取り（アンケート調査 学内共同研究課題）、②地域との連絡体制の組織化、③評価（成果）を学内・地域とで共有、④地域での活動を教育カリキュラムに反映させる試みを想定している（学長裁量研究課題）。引き続き、学生の教養教育の充実に尽力する。学外研究助成を2017年度中に1件は採択を目指す。既に査読中の論文含め、筆頭で3件の論文掲載を目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・千葉県の健康づくり。
 - ・健康スポーツ科学。
 - ・生涯身体運動科学。
 - ・健康と運動。
 - ・生理学実験。
 - ・卒業研究。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ Iwasaki M, Yoshihara A, Sato M, Minagawa K, Shimada M, Nishimuta M, Ansai T, Yoshitake Y, Miyazaki H: Dentition status and frailty in community-dwelling older adults: A 5-year prospective cohort study. *Geriatr Gerontol Int*. 2017 Sep 24.
- ・ M. Iwasaki, A. Yoshihara, N. Sato, M. Sato, K. Minagawa, M. Shimada, M. Nishimuta, T. Ansai, Y. Yoshitake, T. Ono, H. Miyazaki: A 5-year longitudinal study of association of maximum bite force with development of frailty in community-dwelling older adults. *J Oral Rehabil*. 2018;45:17-24.
- ・ 雄賀多聡, 三和真人, 竹内弥彦, 島田美恵子: 介護予防教室に自発的に参加した千葉県内在住高齢者の介入前口コモ度. *日本運動器科学会誌* 28(1), 35-39, 2017.
- ・ M. Nishimuta, N. Kodama, M. Shimada, Y. Yoshitake., Dietary Salt (sodium chloride) Requirement and Adverse Effects of Salt Restriction in Humans, *Journal of Nutritional Science and Vitaminology* 64 (2), 83-89, 2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ Mieko Shimada, Nobuko Hongu, Mamoru Nishimuta et al: Physical Fitness Changes In 80-year Old Japanese Adults With No-Medication Use Over 10 Years. 64th *Medicine & Science in Sports & Exercise*. 2017.05, Denver USA.
- ・ Naofumi Yamamoto, Hideo Miyazaki, Hiroshi Nagayama, Mieko Shimada et al: Change In Knee Extensor Strength And All-cause Mortality In Japanese Elderly Individuals. 64th *Medicine & Science in Sports & Exercise*. 201705, Denver USA.
- ・ Nobuko Hongu, Mieko Shimada, Rieko Miyake et al. Effects of Stair Climbing on Leg Muscle Strength in Older Adults

Attending Physical Activity Programs. 64th Medicine & Science in Sports & Exercise. 2017, 05, Denver USA.

- Y. Kimura, M. Hisatomi, K. Ohki, T. Ikegami, N. Nakagawa, M. Shimada, S. Yamazaki: High intensity interval training (hiit) improves, 22nd Annual European College of Sport Science Congress, 2017, 07, Feldblumenweg Germany.
- 島田美恵子, 岡村太郎, 本宮暢子: 高齢者における主観的健康感と体力の経年変化について, 第 72 回日本体力医学会, 2017, 09, 愛媛.
- 芹澤菜穂, 西牟田守, 児玉直子, 島田美恵子, 吉武裕, 渡邊智子, 土橋昇: 低たんぱく食摂取時のミネラル (Na, K, Ca, Mg, P, Zn, Fe, Cu, Mn) 代謝について, 第 72 回日本体力医学会, 2017, 09, 愛媛.
- Y. Kimura, K. Ohki, M. Hisatomi, N. Nakagawa, M. Shimada: Factors association with balance ability in elderly population who regularly performed physical activity, Canadian Society for exercise physiology, Annual conference, 2017. 10, Toronto Canada.
- N Serizawa, M Nishimuta, N Kodama, M. Shimada, Y Yoshitake: Second voided early morning urine minerals changed significantly with or without sodium restriction in humans, 10th Asia Pacific Conference on Clinical Nutrition Adelaide, 2017. 12, Australia.
- 島田美恵子, 岡村太郎, 三宅理江, 雄賀多聡, 榎本輝樹, 大川由一, 中島一郎: 地域健康教室に参加する高齢者における Body Mass Index の加齢変化について, 第 56 回千葉県公衆衛生学会, 2018, 02, 千葉

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- 第 76 回日本公衆衛生学会 シンポジウム, 「70 歳高齢者の 10 年後の生命予後と体力の関連」 (シンポジスト), 2017, 10. 31, 鹿児島.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 平成 29 年度学内共同研究, 千葉県立保健医療大学地域貢献についての研究 — 千葉市内地区別比較からみえるもの —, 研究代表者.
- 平成 29 年度学長裁量研究, 多学科連携によるサービスラーニングプログラムの試作, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- パラスポーツ講座 企画運営 開催 2017. 12. 02 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- 流山市南部地域包括支援センター 体力測定と講演 4 回 2017. 6・7 2018. 01 流山ケアセンター.
- 中国帰国家族の会 体力測定と運動指導 2018. 03 高洲コミュニティセンター.
- 鋸南町地域包括支援センター 体力測定と講演 2018. 03 鋸南町保健福祉課 すこやか.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本体力医学, 日本体育学会, 日本測定評価学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 日本口腔衛生学会, 日本公衆衛生学会, 大学体育連合, 日本疫学会, American College of Sports Medicine.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- 第 72 回日本体力医学会 教育講演 座長 2017. 09.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉市社会福祉協議会 千葉市社会福祉セミナー 老後を考える「健康寿命と運動 姿勢チェックとマイペース歩行のすすめ」 2018年2月15日、ハーモニープラザ。
- ・柏市シルバー大学院研究課程2年33期「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」2017.04.27, 柏市中央公民館。
- ・柏市シルバー大学院 生涯課程E組「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」2017.07.18, 柏市中央公民館。
- ・柏市シルバー大学院 生涯課程B組 「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」2017.10.03, 柏商工会議所。
- ・柏市シルバー大学院 研究課程2年34期 健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」2018.1.22, 柏商工会議所。
- ・柏市シルバー大学院 生涯課程A組「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」2018.02.08, 野村証券 柏支店。
- ・柏市シルバー大学院 生涯課程C組 「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」2018.02.13, 野村証券 柏支店。
- ・柏市シルバー大学院 生涯課程D組「健康寿命と運動」2018.03.19, 麗澤大学 生涯学習センター。
- ・UR都市機構共催 ほい大健康プログラム 2017.10.13, 花見川団地。
- ・UR都市機構共催 ほい大健康プログラム 2017.12.16, 千歳台団地 あやめ台団地。
- ・UR都市機構共催 ほい大健康プログラム 2018.2.17, 高洲第一 第二団地。
- ・UR都市機構共催 ほい大健康プログラム 2018.03.06 花見川団地。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、総務・企画委員会、特色科目委員会、将来構想検討委員会、研究等倫理委員会、教員資格審査委員会、共通教育運営会議副議長、入試問題作成。
- ・管理運営ワーキンググループ。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・平成29年度 歯科衛生学科2年次生チューター。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・高校説明会 2017.04.26 幕張メッセ。
- ・高校説明会 2017.10.03 柏市商工会議所。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

社会貢献活動を意識して、例年の地域の健康度測定に加え、依頼された講演等はすべて引き受けた。日本体力医学会教育講演座長のテーマも「地域を繋ぐ」であった。学長裁量・学内共同研究のテーマも「サービラーニング」、「地域貢献」であり、社会貢献委員会委員長・特色科目委員会委員として尽力した。年内に申請した外部研究助成4件は不採択であったが、その反省を活かした平成30年度の科研費は採択された。論文作成の遅れは、執行手順の見通しの悪さと思っている。

VII 次年度の目標

- ①平成29年度までに蓄積したデータを論文発表する（100歳高齢者 サービスラーニング 活動量計 BMI 地域貢献）。
- ②研究代表者、共同研究者として、質の高い研究にするための協働の在り方を模索する。
- ③学生が自分のデータを適切に評価でき、活用して学習し、行動変容できるような授業内容を組み立てる。

教授 麻賀 多美代 修士 (学術)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、学生の理解度・技術の習熟度を高められるよう教育方法の工夫や修正を加える。科研費研究では最終年度となるため、研究成果を発表、論文投稿できるように努める。大学運営、社会貢献については、引き続き積極的に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・ 歯科衛生基礎演習.
 - ・ 発達歯科衛生学Ⅱ (成人・高齢者).
 - ・ 顎口腔機能リハビリテーション論.
 - ・ 演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助).
 - ・ 演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション).
 - ・ 歯科診療室基礎実習.
 - ・ 総合演習.
 - ・ 発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者).
 - ・ 歯科診療室総合実習.
 - ・ 継続・個別支援実習.
 - ・ 看護技術論Ⅱ (生活援助技術).
 - ・ 卒業研究.
 - ・ 千葉県の健康づくり.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・ 山中紗都, 金子 潤, 鈴鹿 祐子, 麻生 智子, 麻賀 多美代, 吉田 直美: 周術期口腔機能管理に必要な歯科衛生士の卒前教育について, 日本歯科衛生学会雑誌, 第12巻 (2), 36-45, 2018. 2.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ 麻賀多美代, 三澤哲夫: 筆記具の把持方法の違いがスケーラーの把持動作に及ぼす影響, 産業保健人間工学会第22回大会, 平成29年9月4日, 千歳科学技術大学.
- ・ 今井宏美, 麻賀多美代, 三澤哲夫: 携行可能な口腔ケアシミュレータの開発に向けた基礎調査, 産業保健人間工学会第22回大会, 平成29年9月4日, 千歳科学技術大学.
- ・ 麻賀多美代, 麻生智子, 吉田直美, 大川由一: 高齢者における口腔マッサージの生理的・主観的效果に関する研究, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 平成29年9月17日, きゅりあん (品川区立総合区民会館).
- ・ 岡澤絵里香, 麻賀多美代, 日下和代, 吉田直美: 歯科診療補助業務における疲労回復のためのストレッチ体操の有効性について, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 平成29年9月17日, きゅりあん (品川区立総合区民会館).
- ・ 宮内春花, 吉田直美, 麻賀多美代, 島田美恵子: 高校吹奏楽部生徒における口腔周囲筋と唾液分泌量に関する研究, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 平成29年9月17日, きゅりあん (品川区立総合区民会館).

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金 基盤研究（C），徒手マッサージにおける口腔機能の賦活とリラクゼーション効果に関する実証的研究，研修代表者。
- ・科学研究費補助金 基盤研究（C），質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証，研究分担者。
- ・学内共同研究，筆記具・スケーラーにおける把持・動作に関する研究，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・障害者の口腔衛生指導，2017年4月～2018年3月の第3木曜日午前，千葉県リハビリテーションセンター更生園。
- ・リハビリテーション病院での口腔衛生指導及び口腔ケア，2017年4月～2017年8月の第3木曜日午後，千葉県リハビリテーションセンター病棟。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療，2017年4月～2018年3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・白井市地域ケア会議，2017年2月，白井市地域包括支援センター。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本医療振興財団，歯科衛生士試験委員会幹事委員，2017年7月～現在に至る。
- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，運営委員，2017年4月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生士会，千葉県歯科衛生士会，日本歯周病学会，日本口腔ケア学会，日本咀嚼学会，日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本歯科医学教育学会，日本口腔衛生学会，日本介護歯科衛生士養成協会，日本口腔内科学会，日本口腔外科学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・更生施設入所者健康教育の講師，千葉県リハビリテーションセンター更生園，歯は全身の健康の原点，更生園入所者，2017年9月21日，10月5日，千葉県リハビリテーションセンター更生園。
- ・八街市介護予防普及啓発講演会の講師，口からはじまる認知症予防，八街市在住高齢者，2018年2月20日，八街市役所。

7 その他

- ・大学説明会，2017年6月19日，千葉敬愛高校。
- ・千葉県立保健医療大学紀要（第9巻）の査読，2017年10月。
- ・平成29年度国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議，2017年11月10日，九州歯科大学。
- ・第12回千葉県立保健医療大学保健福祉部意見交換会，高齢者の口腔機能の維持・向上による誤嚥性肺炎の予防・啓発と在宅歯科診療に携わる歯科衛生士の資質向上，2018年2月2日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，進路支援委員会，入試実施部会，中期目標・計画検討作業部会，教員資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科3年チューター。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・夢ナビライブ2017、歯と口の健康をサポートする歯科衛生士、東京ビックサイト、2017年7月22日（2017.7～2018.3までホームページ上で公開）

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、教育目標を達成できるように指導内容を工夫し学生の学習意欲や学習効果が向上するよう取り組んだ。研究については担当科目と関連する内容を研究テーマとして研究を行い、成果については学会発表を行った。大学及び歯科衛生学科の入学志願者が増えるようオープンキャンパス、高校説明会などに積極的に協力するよう努めた。社会貢献として、口腔機能管理が必要な障害者や要介護高齢者に対して口腔ケアを通して支援を行った。

VII 次年度の目標

教育においては、教育目標を達成できるよう、より充実した講義、実習になるように工夫し、学生が主体的に取り組めるよう指導を行う。研究については地域包括ケアに関連した研究に取り組み、昨年度に行った研究については学会発表や論文投稿を行い、研究成果を発信できるよう努める。積極的に社会貢献活動に参加する。

准教授 金子 潤 博士 (歯学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

「専門職間の連携活動論」の科目責任者として、充実した IPE となるよう取り組む。研究面では、平成 28 年度の学内共同研究の成果を学会発表するとともに、過去 2 年間で得た研究成果を論文にまとめる。歯科診療に関して、日曜日などに開催される講演会やセミナーなどに積極的に参加して臨床技能の向上を心がける。学術団体への貢献として、理事・幹事などの役員を引き受けている学会では運営業務を着実にこなし、指導医となっている学会については認定医および認定歯科衛生士の指導・育成に努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・歯科治療学 I (保存修復学・歯内療法学).
 - ・歯科診断学.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・病院実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・歯科審美学 (北原学院歯科衛生専門学校).
 - ・歯科審美学 (仙台保健福祉専門学校).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・山中紗都, 金子 潤, 鈴鹿祐子, 麻生智子, 麻賀多美代, 吉田直美: 周術期口腔機能管理に必要な歯科衛生士の卒前教育について, 日本歯科衛生学会雑誌, 第 12 巻, 第 2 号, 36-45, 2018.
- ・榎本輝樹, 川城由紀子, 鳥田美紀代, 荒井裕介, 金子 潤, 河野 舞, 大谷拓哉, 佐藤大介, 吉野智佳子, 三和真人: 地域包括ケアシステムにかかわるシステムティックレビューの試みー各学科専攻からの視点ー, 千葉県立保健医療大学紀要, 第 9 巻, 第 1 号, 91-98, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等、本人下線)

- ・酒巻裕之, 河島 睦, 久山佳代, 末光正昌, 福本雅彦, 金子 潤, 麻賀多美代, 近藤壽郎: 免疫細胞化学染色による口腔粘膜病変の検出に関する検討, 第 71 回日本口腔科学会学術集会, 平成 29 年 4 月 26-28 日, 松山.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 金子 潤, 荒川 真, 大川由一: 臨床実習を実施する歯科診療室の医療安全における Team STEPPS 導入に関する研究, 第 36 回日本歯科医学教育学会学術大会, 平成 29 年 7 月 28-29 日, 松本.
- ・Kaneko J, Yamanaka S, Ohshita T, Kawano H, Arakawa M, Miyahara H, and Okino A: A Basic Study on Application of Atmospheric-pressure Low-temperature Plasma to Dental Whitening ; Bleaching Effect of Multi-gas Plasma Jet with Various Gas Species, 10th World Congress of the International Federation of Esthetic Dentistry, September

14-16, 2017, Toyama (Japan).

- ・渡辺旬華, 金子 潤, 荒川 真, 吉田直美: 常温重合レジン硬化時の外的温度干渉が硬化に及ぼす影響, 第12回日本歯科衛生学会学術大会, 平成29年9月16-18日, 東京.
- ・金子 潤, 山中紗都, 川野浩明, 荒川 真, 宮原秀一, 沖野晃俊: 大気圧低温プラズマの歯科ホワイトニングへの応用に関する基礎的研究—プラズマへの水分供給方法の検討—. 第147回日本歯科保存学会学術大会, 平成29年10月26-27日, 盛岡.
- ・荒川 真, 金子 潤: 「う蝕」と「味覚の敏感さ」の相関. 第147回日本歯科保存学会学術大会, 平成29年10月26-27日, 盛岡.
- ・酒巻裕之, 金子 潤, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 今井宏美, 吉田直美: 自習におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster” 動画教材の有用性に関する検討, 第8回日本歯科衛生教育学会学術大会, 平成29年11月25-26日, 柏原.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第9回オゾン医療研究会学術大会, 歯科ホワイトニングの過去, 現在, そして未来(特別講演), 平成29年10月29日, 東京.
- ・神奈川歯科大学学会平成29年度第8回研究談話会, 歯科ホワイトニングに関する基礎的研究と臨床エビデンス(招待講演), 平成30年2月14日, 横須賀.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究(萌芽), 歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究—学生評価と教員評価の活用—, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 地域包括ケアシステムに関するエビデンスの系統的レビュー—各専門職領域からの検証—, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療. 2013年8月1日～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本歯科保存学会歯科保存治療専門医. 2004年7月1日～現在に至る.
- ・日本歯科審美学会認定医. 2016年9月15日～現在に至る.
- ・日本歯科色彩学会認定医. 2002年7月14日～現在に至る.
- ・美容口腔管理学会指導医(Diplomate). 2005年10月23日～現在に至る.
- ・日本アンチエイジング歯科学会認定ホワイトニングエキスパート. 2017年1月1日～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会. 日本歯科審美学会. 日本歯科色彩学会. 美容口腔管理学会. 日本接着歯学会. 日本歯内療法学会. 日本歯科医学教育学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本アンチエイジング歯科学会. 北海道歯学会. 明倫短期大学学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科審美学会. 理事. 編集委員会委員, 「歯科審美」査読委員. 漂白治療の特商法適応に対するワーキンググループ. 2012年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科色彩学会. 常任理事, ニュースレター編集委員会委員長, 「歯科の色彩」編集委員会委員. 2004年4月1日～現在に至る.
- ・美容口腔管理学会. 幹事, 「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員. 2003年1月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会. 「日本歯科衛生学会雑誌」外部査読委員. 2014年5月1日～現在に至る.
- ・「Clinical and Experimental Dental Research」Reviewer. 2018年2月28日～現在に至る.

- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）
- ・第10回美容口腔管理学会認定講習会、歯科衛生士が主導するホワイトニングの手法、歯科医師・歯科衛生士、2017年6月4日、大阪大学中之島センター。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・学術推進企画委員会、紀要編集部会、特色科目委員会、専門職間の連携活動論作業部会、自己点検・評価実施推進部会、認証評価部会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では、特色科目「専門職間の連携活動論」と学科の「卒業研究」の科目責任者として演習の円滑な実施に努め、報告書や論文集の発行まで行うことができた。研究面では、過去2年間の学内共同研究の成果を国際学会および国内学会で1題ずつ発表することができた。しかし、論文発表にまでは至らなかった。特別講演と招待講演を1回ずつ行ったことと学会の認定講習会講師を務めたことは、今年度の収穫であった。学会の常任理事およびニュースレター編集委員長として、年間2本のニュースレターを編集・発行し、学会員への情報発信の役割を担うことができた。

VII 次年度の目標

教育面では、「専門職間の連携活動論」の科目責任者が2年目をむかえるため、昨年度以上に充実した演習となるよう準備・運営面で努力する。研究面では、学内共同研究の過去2年間で得た研究成果を論文にまとめ、投稿する。歯科診療に関しては、患者数を増やせるよう努めるとともに、歯周治療により踏み込めるよう心掛けたい。学術団体への貢献として、学会が発行を予定している専門書の分担執筆を着実に完成させる。

准教授 荒川 真 博士 (歯学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は着任2年目となることから、教育、研究および診療の三面において、初年度以上の成果を出していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・歯科治療学Ⅱ (歯周治療).
 - ・歯科材料学.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・卒業研究.
 - ・継続個別支援実習.
 - ・発達歯科衛生実習Ⅰ (小児).

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 金子潤, 荒川真, 大川由一: 臨床実習を実施する歯科診療室の医療安全における Team STEPPS 導入に関する研究, 第36回日本歯科医学教育学会, 2017年7月28日, 松本.
- ・KANEKO Jun, YAMANAKA Sato, OHSHITA Takaya, KAWANO Hiroaki, ARAKAWA Makoto, MIYAHARA Hidekazu, OKINO Akitoshi : A Basic Study on Application of Atmospheric-pressure Low-temperature Plasma to Dental Whitening: Bleaching Effect of Multi-gas Plasma Jet with Various Gas Species, 10th World Congress of the International Federation of Esthetic Dentistry, September 14-16, 2017, Toyama (Japan).
- ・渡辺旬華, 金子潤, 荒川真, 吉田直美: 常温重合レジン硬化時の外的温度干渉が硬化に及ぼす影響, 第12回日本歯科衛生学会学術大会, 2017年9月16-18日, 東京.
- ・荒川真, 金子潤: 「う蝕」と「味覚の感受性」の相関, 日本歯科保存学会2017年度秋季学術大会, 2017年10月26, 27日, 盛岡.
- ・金子潤, 山中紗都, 川野浩明, 荒川真, 宮原秀一, 沖野晃俊: 大気圧低温プラズマの歯科ホワイトニングへの応用に関する基礎的研究 —プラズマへの水分供給方法の検討—, 日本歯科保存学会2017年度秋季学術大会, 2017年10月26-27日, 盛岡.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・歯科診療 2017年4月～2018年3月 於: 学内歯科診療室.

4 職能団体委員等 (職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会・理事・編集委員長 2017年4月～2018年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本歯科保存学会, 日本歯周病学会, 歯科理工学会, 日本歯科医学教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

・Journal of Oral Biosciences 査読委員 2017年4月~2018年3月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

・平成29年度千葉県立保健医療大学公開講座講師 2017年10月22日 講演テーマ: 「定期的な歯科受診で得られるメリット」 対象: 市民の皆様 2017年10月22日 於: 千葉県立保健医療大学大講義室.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・ネットワーク委員会, 国際交流委員会, 衛生委員会, 開学10周年記念事業実行委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科1年次チューター.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

《ネットワーク委員会》

年2回の学内PCメンテナンスの補助を行った.

《衛生委員会》

歯科診療室における「エチレンオキサイドガス滅菌器」管理のため, 「特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者」資格を取得.

《国際交流委員会》

NWCT (Northeast Wisconsin Technical College) との交流協定を締結するべく, 交渉を担当.

《歯科診療室》

本学歯科診療室にて, 夏休み期間中や学生実習が無い期間も, 基本的には週4日9:30から16:00の間診療を継続してきた.

VII 次年度の目標

まずは引き続き各種業務を着実に継続, 発展させたい. 特に外部資金の獲得を目指したい.

准教授 河野 舞 博士 (歯学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度の教育活動の目標は、学生の学習意欲を喚起する授業を行うことと、担当科目以外の年間授業計画の理解に努める。研究活動では次年度以降の論文執筆へ繋がるよう引き続きデータの収集に努める。また、歯科診療室での歯科診療および大学運営に貢献できるよう努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名).
 - ・体験ゼミナール.
 - ・歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学).
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・卒業研究.
 - ・専門職間の連携活動論.

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・臨床実習Ⅰ、Ⅱ (北海道医療大学歯学部).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・川西克弥、會田英紀、河野 舞、佐々木みづほ、朝廣賢哉、中本雅久、山崎真郎、菅 悠希、中村健二郎、松原国男、豊下祥史、伊東由紀夫、越野 寿：部分床義歯補綴学基礎実習の小テストで抽出した3つの自己評価領域の比較～形成的評価と総括的評価との関連性～、北海道医療大学歯学会雑誌、36(2)、91-100、2017.
- ・白井 要、伊藤修一、中塚侑子、清水伸太郎、河野 舞、斎藤隆史、長澤敏行、古市保志：S-PRG フィラー含有根管貼薬剤に関する in vitro での検討、日歯保存誌、60(2)、69-77、2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・豊下祥史、川西克弥、佐々木みづほ、河野 舞、會田英紀、守屋信吾、越野 寿：軽度認知機能障害と高齢義歯装着者の口腔機能の関連について、日本老年歯科医学会第28回学術大会、2017年6月14-15日、名古屋.
- ・河野 舞、白井 要、村田幸枝、松岡紘史、長澤敏行：臨床実習における歯学部学生のストレス状況と遂行状況との関連、第36回日本歯科医学教育学会学術大会、2017年7月28-29日、松本.
- ・煙山修平、會田英紀、河野 舞、坂田美幸、舞田健夫、遠藤一彦、越野 寿：光機能化処理によって増強された骨インプラント結合強度は長期間安定している、第47回日本口腔インプラント学会学術大会、2017年9月22-24日、仙台.
- ・河野 舞、白井 要、村田幸枝、松岡紘史、長澤敏行：臨床実習における歯学部学生のストレス状況と遂行状況との関連、北海道医療大学歯学会第36回学術大会、2018年3月10日、札幌.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名、研究テーマ、研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省研究費補助金 (基盤研究C)、光機能化二酸化チタンとオゾン水の併用による安全で効果的な漂白方法の開発研究代表者.

6 受賞・特許

- ・平成29年度北海道医療大学歯学会 最優秀論文賞。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療。2017年4月から現在に至る。千葉県立保健医療大学歯科診療室。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本補綴歯科学会、日本歯科医学教育学会、日本口腔インプラント学会、日本歯科理工学会、日本歯科審美学会、日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、ネットワーク委員会、入試評価部会、学術推進企画委員会、紀要編集部会、学内共同研究審査部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科2年副チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面については、担当科目の位置づけを理解するとともに、本学における特色科目を経験し、概ね理解できたと考えている。研究活動ではデータの収集に努めることができたが、論文として公表するまでには至らず、次年度以降の目標とする。また、社会貢献では歯科診療室における歯科診療を通じ、地域住民の方々に貢献できたと考えている。

VII 次年度の目標

教育面では学生の自発的な学びを支援できるような授業を目指して、授業の改善に努める。研究活動では、現在までの研究データのとりまとめを行い論文投稿を行うことと、学外研究助成につなげるための新規研究にも取り組みたいと考える。大学運営に関しても、引き続き委員会活動を理解し、役割を遂行する。

講師 麻生 智子 学士 (教養)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、特に担当科目の教育内容の充実を図ることを目標とした。講義科目では学生の予習者を増加させること、演習・実習科目については、手技の理解が学生によって幅があることから、復習を行う学生には可能な限り、個別指導を行う。症例報告では、卒業後の学会発表にいかすためにポスター発表形式とする。研究でも実習の自己成長を記録できる実習記録を導入し、その教育効果を検討することとする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・ 歯科衛生基礎演習.
 - ・ 演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
 - ・ 演習 II (歯科予防処置).
 - ・ 演習 IV (歯科保健指導・カウンセリング).
 - ・ 演習 V (地域歯科衛生).
 - ・ 総合演習.
 - ・ 継続・個別支援実習.
 - ・ 発達歯科衛生実習 I (小児).
 - ・ 地域歯科衛生実習.
 - ・ 卒業研究.
 - ・ 栄養ケアマネジメント論実習.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.)

- ・ 麻賀多美代，麻生智子，遠藤圭子，及川智香子，多田美穂子，玉木裕子，田村清美，西岡千賀子，原久美子，増田美恵子，松田裕子，山崎忍，山田小夜子，吉田好江：オーラルヘルスケア事典 (第2版)，2018年，学健書院，東京。

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・ 岡田 忍，西尾淳子，森 恵美，石井邦子，日下和代，麻生智子，大滝千智，伊藤眞知子，新居直実：福祉の現場から歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質に関する研究第2報 - 訪問看護ステーションにおける口腔ケアの現状，訪問看護利用者の口腔の状態，地域ケアリング，第19巻，第8号，90-94頁，2017。
- ・ 山中紗都，金子潤，鈴鹿祐子，麻生智子，麻賀多美代，吉田直美：周術期口腔機能管理に必要な歯科衛生士の卒前教育について，日本歯科衛生学会雑誌，第12巻，第2号，36-45，2018。

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・ 麻賀多美代，麻生智子，吉田直美，大川由一：高齢者における口腔マッサージの生理的・主観的効果に関する研究，日本歯科衛生学会第12回学術大会，2017年9月17・18日，きゅりあん (品川区立総合区民会館)。
- ・ 酒巻裕之，金子潤，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，山中紗都，今井宏美，吉田直美：自習におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster” 動画教材の有用性に関する検討，日本歯科衛生教育学会第8回学術大会，2017年11月25・26日，関西女子大学。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・外部資金，科学研究費補助金基盤研究 C，徒手マッサージにおける口腔機能の賦活とリラクゼーション効果に関する実証的研究，麻賀多美代／麻生智子，大川由一，吉田直美。
- ・外部資金，科学研究費補助金基盤研究 B，歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質の向上に関する研究，岡田 忍／森 恵美，石井邦子，日下和代，麻生智子，大滝千智

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・「[まい大健康プログラム]」として栄養・理学・運動・歯科の健康プログラムを実施。2017年12月16日・2018年2月17日・3月6日。UR 千草台団地・UR あやめ台団地・UR 高洲第1団地・UR 高洲第2団地・UR 花見川団地。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療補助の実施。2017年8-9月・2018年3月。千葉県立保健医療大学歯科診療室。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯周病学会，日本咀嚼学会，日本歯科衛生学会，日本歯科医学教育学会，日本口腔内科学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔衛生学会，日本口腔ケア学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会第8回学術大会，ポスター発表座長。2017年11月25日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・日歯認定歯科助手講習会，千葉県歯科医師会主催「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」，歯科助手。2017年10月1日。千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，GPA 作業部会，IR 部会，キャンパスハラスメント相談員。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

2016年から担当科目の学生の予習者を増加させるために予習シートを導入しているが，本年度も授業評価から80%を超える学生が予習に取り組んだことが確認できた。他の演習・実習科目についても見直しや修正を加えて教育効果が向上するために努力した。特に「継続・個別支援実習」では，症例報告をポスター発表に変更し実施した。それぞれレイアウトなどに工夫が見られ，卒業後の学会発表にいかすことができると考える。研究では担当科目「継続・個別支援実習」の実習記録をポートフォリオの手法を取り入れた記録に変更したことから，その教育的効果について2018年度に報告する予定である。また，他の研究でも研究分担者として研究を行った。委員会，部会，学科会議には，必ず出席し，積極的に大学・学科の業務を遂行した。時間的に難しい時期もあるが，歯科衛生士として臨床での患者との関わりは，学生への指導に生かすことができるのでできるだけもっと増やしていきたい。また，平成29年度に大学とUR都市機構が協定を結び，「[まい大健康プログラム]」として地域高齢者の健康づくりを目的に栄養学科，理学療法学科，一般教養（運動），歯科衛生学科のプログラムを実施した。主な担当は，歯科のプログラムであったが，教員だけでなく，学生も一緒に参加して実施できたことは大変有意義であった。

VII 次年度の目標

次年度は、担当科目については、さらに充実した学びとなるように講義内容、演習・実習内容を改善、充実させたいと考えている。研究では、実習記録の教育的効果について結果をまとめ、学会発表、論文作成を行いたいと考えている。研究、ボランティア両方の側面を持つ「ほい大健康プログラム」についても、高齢者の口腔機能を維持、向上させるために内容を工夫し、2018年度も継続して実施していく予定である。

講師 榎本 輝樹 修士 (理学・学術)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、学術論文の投稿等で研究のアウトカムを充実させることと、科学教育に関してはNPO等の環境教育に協力するなど、今後とも積極的な活動を行うことを目標としていた。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・情報リテラシー1.
 - ・情報リテラシー2.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・環境変化と生態.
 - ・事前指導 (栄養学科, 1時限分演習を担当).
 - ・卒業研究.

- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
 - ・生物学 (亀田医療大学).
 - ・情報科学 (亀田医療大学).
 - ・人間環境科学 (川崎看護専門学校).

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・左巻健夫編著 (分担著, 榎本輝樹 他), 身近にあふれる「科学」が3時間でわかる本, 2017, 明日香出版社, 東京.
- ・左巻健夫編著 (分担著, 榎本輝樹 他), 「健康にいい」ものばかり食べると早死にします, 2017, カンゼン, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・千葉県立保健医療大学学術推進企画委員会 (執筆: 榎本輝樹 他 とりまとめおよび部会代表を担当): 地域包括ケアシステムにかかわるシステムティックレビューの試み, 千葉県立保健医療大学紀要, Vol. 9, No. 1, 91-98, 2018, 千葉県立保健医療大学, 千葉.
- ・榎本輝樹: 携帯電話で医療機器が止まるの?, 理科の探検, 2017年6月号, 55, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 暗いところで本を読むと視力が落ちるの?, 理科の探検, 2017年6月号, 56, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 扇風機に当たったままで寝ると死ぬの?, 理科の探検, 2017年6月号, 57, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 筋肉にたまる乳酸は疲労物質なの?, 理科の探検, 2017年6月号, 68, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: ウンチは食べ物の残りカスなの?, 理科の探検, 2017年6月号, 69, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 牧場で見える消化管のひみつ, 理科の探検, 2017年8月号, 46-47, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 動物園で見えるからだのひみつ, 理科の探検, 2017年8月号, 48-49, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 身近な外来種をみつけよう, 理科の探検, 2017年8月号, 52-53, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 科学と宗教, そしてオカルト, 理科の探検, 2017年10月号, 72-77, 2017, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 災害に備えて用意しておくといふ物たち, 理科の探検, 2017年12月号, 57-59, 2017, 文理, 東京.

- ・榎本輝樹：小中理科：顕微鏡で何を学ぶか？，理科の探検，2018年2月号，34-37，2018，文理，東京。
- ・榎本輝樹：小学校理科で生命と向き合う教育を，理科の探検，2018年2月号，78-80，2018，文理，東京。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称・活動期間・場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉市消防局応急手当インストラクター，2017年3月-2018年4月，千葉市。

2) 千葉県外

- ・雑誌「理科の探検」編集委員，2017年3月-2018年4月。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本生態学科，日本ベントス学会，応用生態工学会，日本教育工学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称・主催 団体名称・講演テーマ等・対象・開催日・時場所）

- ・フィールドミュージアム，行徳野鳥観察舎友の会，カニの巣穴を見よう，市民対象，講師 2017年10月8日，行徳自然保護区。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称・活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書・情報委員会，ネットワーク委員会，学術推進企画委員会，IR 部会，共通教育運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

科学教育の普及活動として，引き続き雑誌「理科の探検」の編集委員を担当し，複数回記事を執筆した。また，千葉市消防局応急手当インストラクターとして地域の救急救命講習の実施に協力するほか，県内自然保護団体の講座講師を担当するなどの社会貢献活動を行い，分担執筆者として複数の書籍の執筆を行った。学術的な論文および貢献の割合を増やしていきたいと考える。

VII 次年度の目標

普及活動としての執筆のほか，講演会講師等の担当や学術論文の投稿などを行っていきたい。

講師 鈴鹿 祐子 修士 (学術)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、教育については、特に新たに担当する科目について学生が理解しやすい授業、実習ができるように工夫し、心がける。また、研究については、研究に費やす時間を確保するために、他の業務との兼ね合いを調整、工夫をし、新たな課題に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科感染予防学.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・リスクマネジメント論.
- ・演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
- ・演習 II (歯科予防処置).
- ・総合演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・専門職間の連携活動論.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・山中 紗都, 金子 潤, 鈴鹿 祐子, 麻生 智子, 麻賀 多美代, 吉田 直美 : 周術期口腔機能管理に必要な歯科衛生士の卒前教育について, 日本歯科衛生学会雑誌, 12 巻, 2 号, 36-45, 2018.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・本大学歯科衛生学科, 歯科診療室.
- ・ヘルシーカムカム 2017, 2017. 5. 29, (千葉そごう).
- ・「歯みがき&でんたるカップミニサッカー大会」, 2017. 11. 27 (千葉ポートアリーナ).
- ・保医大健康プログラム, 2017. 12. 16, (千葉市内 UR) 2018. 3. 6, (千葉市内 UR).

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本障害者歯科学会、ヘルスカウンセリング学会、日本歯周病学会、日本歯科衛生学会、日本咀嚼学会、日本歯科医学教育学会、日本口腔内科学会、日本歯科衛生教育学会、日本口腔ケア学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本歯科衛生教育学会・評議員、編集委員会事前抄録担当委員、2017年4月～2018年3月。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・研究等倫理委員会、図書・情報委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・学科会議、歯科診療室会議。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

・歯科衛生士の業務及び教育についての説明会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

新たに担当した講義については、学生が理解しやすい授業ができるように資料作り等、工夫した。また、実習は学生にとって有意義ものになるように、医療安全の配慮をしながら努めた。

研究においては、論文投稿まで至らなかった。

VII 次年度の目標

教育については、引き続き学生が理解しやすい授業、実習ができるよう心がける。

研究については、他の業務との兼ね合いを調整し、時間を確保し、新しい課題に着手したい。

教育、研究、臨床の業務をバランスよく行いたい。

助教 山中 紗都 修士 (障害科学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

歯科診療室を学生の実習の場として相応しい環境にしていくことと、受診者にとっても心地良い診療室をつくり、地域貢献の一助となるように努める。研究面では、論文投稿および昨年度取り組んだ研究についての発表に取り組む。大学運営に関しても、引き続き委員会活動を通して貢献したい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・継続・個別支援実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・病院実習.
 - ・発達歯科衛生実習 I (小児).
 - ・演習IV.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・部分執筆：多職種連携で活用！ポケット版 歯科衛生士のための医療用語・福祉用語, 2017年, 医歯薬出版株式会社, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Kaneko J, Yamanaka S, Ohshita T, Kawano H, Arakawa M, Miyahara H, and Okino A: A Basic Study on Application of Atmospheric-pressure Low-temperature Plasma to Dental Whitening ; Bleaching Effect of Multi-gas Plasma Jet with Various Gas Species, 10th World Congress of the International Federation of Esthetic Dentistry, September 14-16, 2017, Toyama (Japan).
- ・山中紗都, 金子潤, 鈴鹿祐子, 麻生智子, 麻賀多美代: 周術期口腔機能管理に必要な歯科衛生士の卒前教育について, 日本歯科衛生学会雑誌, 12巻2号, 36-45, 2018-2.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 金子潤, 荒川真, 大川由一: 臨床実習を実施する歯科診療室の医療安全における Team STEPPS 導入に関する研究, 第36回日本歯科医学教育学会, 2018-7, 長野.
- ・Kaneko Jun, Yamanaka Sato, Ohshita Takaya, Kawano Hiroaki, Arakawa Makoto, Miyahara Hidekazu, Okino Akitoshi : A Basic Study on Atmospheric-pressure Low-temperature Plasma to Dental Whitening : Bleaching Effect of Multi-gas Plasma Jet with Various Gas Species, 10th, IFED, 2018-9, 富山.
- ・Naomi Yoshida, Kumiko Sugimoto, Sato Yamanaka, Hiroyuki Sakamaki, Yoko Yamazaki, Yasunari Miyazaki, Yoshimi Sakurai,

Kaori Okayasu : Effectiveness of Oral Health Education Program for Women around Menopause, 48th, CED-IADR, 2018 - 9, Vienna, Austria.

- ・金子 潤, 山中紗都, 川野浩明, 荒川 真, 宮原秀一, 沖野晃俊 : 大気圧低温プラズマの歯科ホワイトニングへの応用に関する基礎的研究—プラズマへの水分供給方法の検討—, 第 147 回日本歯科保存学会学術大会, 2018 - 10, 盛岡.
 - ・酒巻裕之, 金子 潤, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 今井宏美, 吉田直美 : 自習におけるインタラクティブ映像インターフェース” CyberCoaster” 動画教材の有用性に関する検討, 第 8 回日本歯科衛生教育学会学術大会, 2018, 11, 柏原.
 - ・山中紗都, 佐藤まゆみ, 八岡和歌子, 吉田直美 : 頭頸部がん術後サバイバーの口腔関連の諸問題とその対処における質的研究, 第 27 回日本有病者歯科医療学会学術大会, 2018 - 3, 船堀.
- 4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)
- ・第 36 回日本口腔腫瘍学会, 看護師歯科衛生士セッション (教育講演), 2018 年 1 月 26 日, 新潟.
- 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)
- ・文部科学省研究費補助金 基盤研究 C : 女性更年期における口腔症状改善のための介入プログラムの構築と評価, 2015 ~2017 年度, 研究分担者.
- 6 受賞・特許
- ・第 12 回日本歯科衛生学会学術論文賞 優秀賞受賞 (2017 年 9 月).

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

2) 千葉県外

- ・アザレア (東京医科歯科大学同窓会有志) 公開講座, 2017 年度 東京医科歯科大学.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・千葉県立保健医療大学歯科診療室, 2013 年 10 月~現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本歯周病学会, 日本有病者歯科医療学会, 日本審美歯科学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科衛生学会第 12 回学術大会, 口演発表座長, 2017 年 9 月 18 日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・社会貢献委員会, 報告書作成部会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科 4 年副チューター.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・大学説明会 (二松学舎大学附属柏高等学校), 平成 29 年 4 月 15 日.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

歯科診療室の運営は通年で実施することができ、長期休業期間においても学生の自主学習を受け入れるなどして教育の場として提供することができた。研究面では、論文を発表することができたことと、昨年度着手した研究が学会発表に加え、教育講演を行う事ができた事が、自身にとっても良い経験となった。大学運営については社会貢献委員会、報告書作成部会に所属し、積極的に活動できたと考える。

VII 次年度の目標

引き続き、歯科診療室の運営に取り組むと共に、歯科診療室を教育、臨床の現場として相応しい場が提供出来る様に努める。併せて、自身が担当する科目については分かりやすい授業を心がけ、学生教育により一層力をいれていきたいと考える。研究面では新規研究に着手することと、発表した研究をまとめて論文投稿をする。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

教授 兼 健康科学部長 雄賀多 聡 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は学部長として、大学全体の管理・運営に注力しつつ、教育研究活動のレベルを維持する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール
- ・専門職間の連携活動論
- ・リハビリテーション概論
- ・人体の構造 I (骨・関節・筋)
- ・人体の構造実習
- ・医学総論
- ・整形外科学総論
- ・整形外科学各論
- ・理学療法測定学
- ・臨床実習 II
- ・臨床実習 III
- ・臨床実習 IV
- ・卒業研究
- ・病態学 II

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・雄賀多 聡, 三和 真人, 竹内 弥彦, 島田 美恵子: 介護予防教室に自発的に参加した千葉県内在住高齢者の介入前ロコモ度, 運動器リハビリテーション, 28, 1, 35-39, 2017.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 千葉県立保健医療大学地域貢献についての研究 —千葉県内地区別比較からみえるもの—, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 高齢者の転倒予測のシステム化—6分間歩行のフラクタル解析より—, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・ロコモ度測定会. 2017年10月8-9日. 本学いずみ祭.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・千葉医学会. 日本整形外科学会. 東日本整形災害外科学会. 関東整形災害外科学会. 日本脊椎脊髄病学会. 日本小児整形外科学会. 日本職業・災害医学会. 日本骨粗鬆症学会. 日本腰痛学会. 日本足の外科学会. 日本抗加齢医学会.

日本リハビリテーション医学会、日本運動器科学会、日本小児股関節研究会、千葉県ロコモティブシンドローム研究会。

- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
・日本職業・災害医学会 評議員、2017年4月～2018年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・霊源山 倫勝寺 春彼岸合同供養法要講演会、ロコモを知って、ロコモに負けない！ 一般住民、2018年3月21日、
霊源山 倫勝寺。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、自己点検・評価委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会、将来構想検討委員会、管理・運営ワーキンググループ、入試委員会、教員再任審査委員会、防災対策委員会、教授会、研究等倫理委員会、研究等倫理委員会動物部会、共通教育運営会議、特色科目委員会、FD委員会、国際交流委員会、教員資格審査委員会（高齢者看護・講師）、教員資格審査委員会（看護管理学；准教授）、教員資格審査委員会（公衆衛生看護学・講師）、教員資格審査委員会（歯科・教授）、教員資格審査委員会（精神看護・助教）、教員資格審査委員会（高齢者看護・助教）、教員資格審査委員会（歯科・教授）、教員資格審査委員会（看護管理学・講師）、教員資格審査委員会（理学・助教）、教員資格審査委員会（栄養・准教授）、教員資格審査委員会（公衆衛生看護・助教）。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

健康科学部長として全学的管理・運営に注力したが、認証評価の努力課題・改善勧告に沿う学内組織の改編は未到達。ロコモアドバイザーとしてロコモティブシンドロームの認知率上昇を目指した広報・教育活動の一環として、いずみ祭において千葉県ロコモティブシンドローム研究会活動の一環としてロコモ度測定会を開催した。

VII 次年度の目標

健康科学部長として、全学的管理・運営に引き続き注力するとともに、実現性のある組織改編案を作成し、認証評価の努力課題・改善勧告への報告書（平成31年7月提出期限）作成に取り掛かる。ロコモアドバイザーの活動も継続する。

教授 兼 リハビリテーション学科理学療法学専攻長 三和 真人 博士 (障害科学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、大学各委員会の参加は勿論、教授会での発展的な意見をのべることを心掛けた。平成28年度に「国際交流委員会」と組織上で格上げでき、今後も国際交流事業を進めることに協力したい。一方、本年度から学術推進企画委員長に就任し、本学の学術推進事業である「イブニングセミナー」と「大学共同研究助成」を堅持したい。しかしながら、小規模の大学ではありながらも、国際学会等での発表や参加が極めて少なく、将来にわたって海外での研究発表や参加が積極的に行われることを期待したい。個人的には、研究データをまとめて学会発表等に結びつけてきたが、今年度も論文の掲載にまで至らず、努力不足を痛感したところである。今後は、研究者であり、大学教員として研究論文を作成していく予定である。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・理学療法概論
- ・人体の機能実習
- ・運動学実習
- ・機能解剖学
- ・理学療法臨床測定学
- ・日常生活活動学
- ・日常生活活動学演習
- ・物理療法学
- ・理学療法研究方法論
- ・運動器障害理学療法学特論
- ・神経系障害理学療法学特論
- ・老年期障害理学療法学
- ・生体機能計測学
- ・理学療法発展領域論
- ・理学療法技術論
- ・臨床実習Ⅰ (体験実習)
- ・臨床実習Ⅱ (評価実習)
- ・臨床実習Ⅲ (総合実習)
- ・臨床実習Ⅳ (総合実習)

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・リハビリテーション論 (東邦大学看護専門学校)

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・雄賀多 聡, 三和 真人, 竹内 弥彦, 島田 美恵子: 介護予防教室に自発的に参加した千葉県内在住高齢者の介入前ロコモ度, 運動器リハビリテーション, 28, 1, 35-39, 2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・三和真人，雄賀多 聡，大谷拓哉，小川真司：低強度の神経筋電気刺激による生体内機能変化—筋線維伝導と深部温より—。第52回日本理学療法学会大会，5月12日～14日，千葉。
- ・三和真人，雄賀多 聡，小川真司：運動単位発火に欠損がみられた高齢者の1症例。第54回日本リハビリテーション医学会学会集會，6月8日～10日，岡山。
- ・阿部 怜奈，齋藤 百合子，小申 健志，藤田 聡行，三和 真人：健常者に歩行神経電気刺激装置ウォークエイドを使用し歩行の各関節角度への影響。第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会，9月23日～24日，長野。
- ・三和真人，雄賀多 聡，小川真司，高橋宣成：何故，橈骨神経は正中神経，尺骨神経より速いのか—感覚神経を通して—。第23回千葉県理学療法士学会，3月18日，千葉。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・平成29年度学内共同研究助成，高齢者の転倒予測のシステム化—6分間歩行のフラクタル解析より—，三和真人，雄賀多 聡，竹内弥彦，大谷拓哉，藤尾公哉，小川真司，真壁 寿

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・社会福祉法人みやけ島あじさいの会。施設利用者の理学療法評価とスタッフ教育指導。平成29年4月1日～平成30年3月31日。三宅島。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構。評価認定委員会評価委員。平成29年4月1日～平成30年3月31日。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・一般社団法人千葉県理学療法士会。機関誌「理学療法の科学と研究」編集委員長。平成27年7月1日～平成29年6月30日。
- ・公益社団法人日本理学療法士協会。第52回日本理学療法学会副大会長。平成29年4月1日～平成30年3月31日。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会。学術部理事。平成29年7月1日～平成30年3月31日。
- ・公益社団法人日本理学療法士協会。平成29年度代議員。平成30年3月15日～平成31年3月31日。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本リハビリテーション医学会，日本理学療法士協会，日本臨床神経生理学会，日本電気生理運動学学会，日本運動療法学会，世界理学療法士学会，世界電気生理運動学学会，日本体力医学会，全国大学理学療法学会，全国大学肺理学療法研究会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本理学療法士協会。第52回日本理学療法学会大会の学会抄録査読委員。平成元年～平成29年3月31日。
- ・日本リハビリテーション医学会。第54回日本リハビリテーション医学会学会集會抄録査読委員。平成29年10月～平成30年3月31日。
- ・千葉県理学療法士会。第22回千葉県理学療法士学会抄録査読委員。平成23年8月～平成30年3月31日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，運営会議，FD委員会，将来構想検討委員会，自己評価委員会，入試委員会，学術推進企画委員会，国際交流委員会。
- ・新々カリキュラム検討部会。

- ・教員資格審査委員会（歯科衛生学科 教授）平成28年12月～平成29年6月．教員資格審査委員会（看護学科 助教）平成28年12月～平成29年7月．教員資格審査委員会（栄養学科 助教）平成29年2月～5月．教員資格審査委員会（看護学科 教授）平成29年6月～12月．教員資格審査委員会（看護学科 准教授）平成29年6月応募なし．教員資格審査委員会（栄養学科 助教）平成29年6月～11月．教員資格審査委員会（歯科衛生学科 講師）平成29年8月～平成30年1月．教員資格審査委員会（看護学科 教授）平成29年10月～平成30年1月．教員資格審査委員会（栄養学科 准教授）平成29年11月～平成30年1月．教員資格審査委員会（看護学科 助教）平成29年11月～平成30年3月．

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・理学療法学専攻長、リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

平成28年度をもって一端学部長を退き、学部を治めていた4年間を振り返る少し時間が持てるかとも考えたが、大学認証評価での組織運営体制などについて勧告や改善指示が残存しており、本年度も本学教員は翻弄されてきたように思う。加えて、本学教員がこぞって望んでいる“大学院設置”もかなり後退したかのようにも見えてしまい、如何に大学教員のモチベーションを維持していくかが問われるところと考える。今後の執行部に期待するところであり、微力ながらも協力をしていきたい。

今後に積み残した自己の課題は、本年度を含む2年間で3人もの教員が退職し、現在専門職5名、医系教員1名の6人体制で運営している専攻の教員整備を早急に進めたい。小人数で相互に協力あって、本学の数多くある委員会や部会をいくつも掛け持ちしているが、人間にも限界があると思う。とにかく、早々に教員組織を整理して、本専攻の強固な基盤を築き、教育・研究（残念ながら臨床がない）に傾注できる環境を設けたい。

VII 次年度の目標

今年度から、研究データの積み残しを整理するように心掛けたい。空いた時間を有効に使い、研究論文を作成するこ目標にする。最低2本以上の原著論文、勿論医学系の雑誌に投稿し、掲載されるように努力する。

大学設置から今年度までに全く進まなかった大学院設置の取り組みを進めたい（失われた10年間）。本専攻の教員募集の基準を高く設定し、いつでも、教員の誰もが大学院教育指導ができる体制を早く整えたい。

もう1点、目標があるとすれば、平成30年度のリハビリテーション評価機構の認証審査（受講が義務化されたため）を受けることが不可能であるが、平成31年度について、教員を整えて認証審査を受けられるように環境整備に取り組みたいと考える。

准教授 竹内 弥彦 博士 (工学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

本年度作成のコンピテンシーを意識した教育が実践できるよう努力する。研究活動においては、社会へ有用な情報発信ができるよう論文執筆を行う。社会貢献活動においては、職能団体の役員として、県内のリハ専門職が活躍できる場を多く提供できるよう行政とも連携しながら、地域リハビリテーション活動事業を推進していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・運動学 I.
- ・運動学 II.
- ・臨床運動学.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・生体機能計測学.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・理学療法研究方法論.
- ・理学療法概論.
- ・臨床実習 I (体験実習).
- ・臨床実習 II (評価実習).
- ・臨床実習 III (総合実習).
- ・臨床実習 IV (総合実習).
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・雄賀多聡, 三和真人, 竹内弥彦, 島田美恵子：介護予防教室に自発的に参加した千葉県内在住高齢者の介入前ロコモ度, 運動器リハビリテーション, 28巻, 1号, 35-39, 2017.
- ・Yahiko Takeuchi: A successful backward step correlates with hip flexion moment of supporting limb in elderly people, PLOS ONE, 13(1), e0190797, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・竹内弥彦, 雄賀多聡, 田邊政裕：住民主体で運営する運動教室の継続が脊柱可動域と動的バランス能力に及ぼす影響, 第52回日本理学療法学会大会, 2017年5月13日, 千葉.
- ・青木康介, 竹内弥彦, 山口真衣：地域在住女性高齢者における体幹前傾角度と歩行時の体幹動揺量との関連性, 第52回日本理学療法学会大会, 2017年5月14日, 千葉.
- ・竹内弥彦：高齢者の快適歩行時における足圧中心移動速度と歩行速度との関連性, 日本生理人類学会75回大会, 2017年

6月24日, 千葉.

- 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 補償的バランス反応における頭部制御能の加齢変化と脊柱形態・可動域との関連性, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県介護保険関係団体協議会. 幹事. 2014年4月～現在.
- ・千葉県介護予防市町村支援検討会議. 構成員. 2014年10月～現在.
- ・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構. 評価員. 2016年2月～現在.
- ・千葉市介護認定審査会. 予備委員. 2017年4月～現在.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 理事. 2011年6月～現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 副会長. 2013年6月～現在.
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会. 代議員. 2014年6月～現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 学会検討委員会委員長. 2017年6月～現在.
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会. 介護予防・健康増進事業 都道府県コーディネーター. 2018年2月～現在.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会, 臨床歩行分析研究会, 日本人間工学会, 日本生理人類学会, 理学療法科学学会, バイオメカニズム学会, International Association of Physiological Anthropology.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・バイオメカニズム学会. 学会誌編集委員. 2017年4月～.
- ・人間工学. 論文査読. 2017年4月.
- ・理学療法の科学と研究. 論文査読. 2017年11月.
- ・日本生理人類学会誌. 論文査読. 2018年2月.
- ・第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 演題抄録査読. 2017年5月.
- ・第6回日本支援工学理学療法学会学術集会. 演題抄録査読. 2017年8月.
- ・第23回千葉県理学療法士学会. 演題抄録査読. 2017年11月.
- ・第5回日本地域理学療法学会学術大会. 演題抄録査読. 2018年3月.
- ・第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 一般演題座長. 2017年9月.
- ・第23回千葉県理学療法士学会. 一般演題座長. 2018年3月.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県男女共同参画地域推進セミナー. 千葉県男女共同参画センター. コグニサイズ. 地域推進員. 2017年7月7日. 県男女共同参画センター.
- ・千葉県保健医療従事者等研修会. 千葉県健康づくり支援課. 若くてもロコモのリスク～講義と実践で学ぶロコモ予防～. 保健医療従事者. 2017年7月13日. 千葉県教育会館.
- ・千葉県男女共同参画センターフェスティバル2017. 千葉県男女共同参画センター. コグニサイズ. 一般県民. 2017年8月6日. 県男女共同参画センター.
- ・日本理学療法士協会 地域包括・介護予防推進リーダー導入研修. 千葉県理学療法士会. 介護予防と理学療法士. 理学療法士. 2017年9月10日. 千葉県立保健医療大学.

- ・いちほら市民大学専門講座. 市原市教育委員会. 認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～. 一般市民. 2017年8月25日. サンプラザ市原.
- ・世界アルツハイマーデー記念講演会. 認知症の人と家族の会千葉県支部. 認知症予防コグニサイズ. 一般県民. 2017年9月22日. 千葉市文化センター.
- ・ライブプラン講習会. 県総務ワークステーション. 運動による認知症予防～コグニサイズの紹介～. 県職員. 2017年10月19日. ホテルプラザ菜の花.
- ・わくわくヘルスアップ稲毛. 稲毛区保健センター. ロコモ度測定. 一般住民. 2017年10月22日. 千葉市立園生小学校.
- ・健康体力づくり指導者研修会. 県健康づくり課. 足腰元気にロコモ対策. 一般県民. 2017年11月12日. 千葉県総合スポーツセンター.
- ・多古町生涯学習文化講演会. 多古町役場企画空港政策課. 老若男女！コグニサイズで楽しく健康づくり. 一般県民. 2017年11月19日. 多古町コミュニティプラザ.
- ・八千代市ふれあい大学校. 八千代市長寿支援課. コグニサイズ. 一般県民. 2017年12月22日. 八千代市福祉センター.
- ・地域包括ケアシステム講演会. 印西市高齢者福祉課. 運動による認知症予防コグニサイズ. 一般県民. 2018年2月3日. 印西市文化ホール.
- ・八千代市介護予防サロン講演会. 八千代市長寿支援課. 運動による認知症予防～コグニサイズの紹介～. 一般県民. 2018年2月7日. 八千代市総合生涯学習プラザ.
- ・野田市民講演会. 野田市保健福祉部. ロコモティブシンドローム～今日から始めるロコモ予防～. 一般市民. 2018年2月22日. 野田市保健センター.
- ・千葉市シニアリーダー連絡会出前講座(稲毛区). 千葉市地域包括ケア推進課. 認知症予防運動 コグニサイズ. 千葉市シニアリーダー. 2018年3月7日. 千葉市稲毛保健福祉センター.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・総務・企画委員会. 教務委員会. GPA 作業部会(部会長). リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

授業内容を工夫した効果については、学生による授業評価アンケートも参考にし今後には検証を行う。研究活動については、データの解析および論文執筆の時間が捻出できずに、筆頭者としての論文掲載が1編のみであったことは反省したい。社会貢献活動においては、一般県民を対象に「運動による認知症予防」や「ロコモティブシンドローム予防」をテーマにした講演を多く実施できたことは評価したい。

VII 次年度の目標

ディプロマ・ポリシーを意識し、積み上げ式の学習効果が得られるよう、授業内容を工夫する。研究活動においては、社会へ有用な情報発信ができるよう科研費研究で得たデータを解析し、論文を執筆・投稿する。社会貢献活動においては、自身の専門性を県民に還元しつつ、職能団体の役員として県民の介護予防・健康増進に貢献できる専門職育成事業を推進する。

講師 高杉 潤 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、教育活動を基本とし、研究活動、学術活動に従事し、学生の教育および後進の育成を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・千葉県の健康づくり
- ・理学療法測定学
- ・理学療法臨床測定学
- ・神経系障害評価学
- ・神経系障害理学療法学
- ・神経系障害理学療法学演習
- ・神経系障害理学療法学特論
- ・老年期障害理学療法学
- ・運動療法学
- ・臨床運動学
- ・理学療法研究方法論
- ・生体機能計測学
- ・臨床実習Ⅰ(体験実習)
- ・臨床実習Ⅱ(評価実習)
- ・臨床実習Ⅲ(総合実習)
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習)
- ・卒業研究

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・加藤将暉, 大賀辰秀, 植木亜希, 山田史恵, 足立真理, 後藤恭子, 井田雅祥, 高杉潤: 重度の夜尿症と覚醒障害を呈した右大脳半球深部白質梗塞例, 脳科学とリハビリテーション, 17巻1号, 21-29, 2017.
- ・内田武正, 若旅正弘, 高杉潤: 注意障害を伴う重度地理的障害例の症候学的分析とリハビリテーションの考察—語的手がかりではなくランドマークの設置が有効であった症例—, 脳科学とリハビリテーション, 17巻1号, 31-37, 2017.
- ・藤本修平, 大高洋平, 高杉潤, 小向佳奈子, 中山健夫: 千葉県の理学療法士における診療ガイドラインの利用および重要性の認識に関連する因子—質問紙調査法を用いた横断研究—, 理学療法学, 45巻1号, 38-47, 2018.
- ・高杉潤: 論文を書きましょう—採択される論文投稿を目指して—Vol. 2, 千葉県理学療法士会 NEWS 第192号, 11-12, 2017.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・加藤将暉, 高杉潤, 足立真理, 後藤恭子, 大賀辰秀, 井田雅祥: Opalski 症候群を呈した症例の理学療法経過—酷似する梗塞巣を有した Wallenberg 症候群例との比較—, 第52回日本理学療法学会大会, 2017年5月14日 (千葉)
- ・杉山聡, 高杉潤: 切断肢に関連する体性感覚野の即時的な可塑的变化を裏付ける大腿切断例—Referred Phantom Sensation の体部位再現における経時的変化の検討—, 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2017年8月20日 (千

葉)

- ・江原真人, 高杉潤: 重度体性感覚障害の責任病巣として内包後脚と放線冠が考えられた被殻出血例, 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2017年8月20日(千葉)
- ・加藤将暉, 大賀辰秀, 杉山聡, 朝倉直之, 足立真理, 後藤恭子, 中村純子, 井田雅祥, 高杉潤: 左前大脳動脈梗塞1例におけるMRI所見と下肢運動麻痺の経過, 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2017年8月20日(千葉)
- ・奈村英之, 久保田彩女, 鈴木宏幸, 細矢貴宏, 高杉潤: Ipsilateral pushing と円背を伴う高齢脳卒中片麻痺例の理学療法経過, 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2017年8月20日(千葉)
- ・伊藤有花, 酒巻裕之, 高杉潤, 日下和代: ガム咀嚼周期の違いが認知機能および前頭前野の神経活動に及ぼす効果について, 第12回日本歯科衛生学会学術大会, 2017年9月16日(東京)

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・平成29年度学内共同研究, 鏡像の運動観察で運動を誘発する一健常人におけるミラーセラピーの基礎研究一, 研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 演題査読
- ・「理学療法の科学と研究」投稿論文査読
- ・「脳科学とリハビリテーション」投稿論文査読
- ・第23回千葉県理学療法士学会. 演題査読
- ・第23回千葉県理学療法士学会. 一般演題「基礎I」座長
- ・第24回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 イブニングセミナー座長
- ・第53回日本理学療法学術大会 査読委員

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会 理事. 千葉県理学療法士会 定款検討委員会委員長. 日本理学療法士協会 代議員.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・脳機能とリハビリテーション研究会 ・北米神経科学会 ・日本神経科学会 ・日本臨床神経生理学会 ・日本神経心理学会 ・日本高次脳機能障害学会 ・日本理学療法士協会

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・脳機能とリハビリテーション研究会会長
- ・脳機能とリハビリテーション研究会学術誌「脳科学とリハビリテーション」編集協力部員
- ・千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」査読協力委員

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・進路支援委員会 ・自己点検・評価委員会 報告書作成等部会 ・研究等倫理委員会 ・入試実施部会
- ・開学10周年記念事業実行委員会

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議 ・理学療法学専攻会議.
- ・第3学年(7期生)担任 ・臨床実習II・III・IV統括セミナー, 症例報告会企画 ・運営担当

・臨床実習 OSCE, 実技チェックテスト担当

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学生の教育活動に加え、第3学年の担任として、専攻内の管理・運営に注力した。また種々の委員会、部会に参画し、大学運営にも注力した。学術関連では、千葉県理学療法士の学術局理事および脳機能とリハビリテーション研究会会長として、リハビリテーション関連職種、千葉県内の理学療法士の育成に従事した。

VII 次年度の目標

教育活動を基本とし、研究活動、学術活動に従事し、学生の教育および後進の育成を図る。

講師 大谷 拓哉 博士（保健学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育・研究ともに前年度の活動をベースとし、より発展した内容・成果を達成できるよう努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・理学療法測定学
- ・理学療法測定学演習
- ・運動学実習
- ・物理療法学
- ・日常生活活動学演習
- ・理学療法臨床測定学
- ・理学療法研究方法論
- ・老年期障害理学療法学
- ・神経系障害理学療法学
- ・神経系障害理学療法学特論
- ・機能解剖学
- ・生体機能計測学
- ・臨床実習Ⅰ
- ・臨床実習Ⅱ
- ・臨床実習Ⅲ
- ・臨床実習Ⅳ
- ・卒業研究

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・三和真人，雄賀多聡，大谷拓哉，小川真司：低強度の神経筋電気刺激による生体内機能変化 筋線維伝導と深部温より，第52回日本理学療法学会，2017.5.12-14，千葉。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究 若年健常者におけるベッドからの起き上がり動作の分析 研究代表者
- ・学内共同研究 高齢者の転倒予測のシステム化—6分間歩行のフラクタル解析より— 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，学術局学術誌編集部長，2017.4.1～2018.3.31

2 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士学会
- ・日本基礎理学療法学会
- ・コ・メディカル形態機能学会
- ・理学療法科学学会
- ・日本ヘルスプロモーション理学療法学会

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県理学療法士会 学術誌「理学療法の科学と研究」. 論文査読者. 2017年7月24日～2017年7月28日
- ・千葉県理学療法士会 学術誌「理学療法の科学と研究」. 論文査読者. 2017年10月3日～2018年1月4日
- ・千葉県理学療法士会 学術誌「理学療法の科学と研究」. 論文査読者. 2017年11月6日～2017年11月10日
- ・第23回千葉県理学療法士学会. 演題査読者（2題）. 2017年11月8日～2017年11月27日

3 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県理学療法士会新人教育プログラム講師. 統計方法論. 2018年1月28日. 本学幕張キャンパス

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

学生委員会、ネットワーク委員会、学術推進企画委員会、国際交流委員会、自己点検評価実施推進部会、紀要編集部会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

臨床実習担当

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学内共同研究費の補助を受け、起き上がり動作に関する研究を実施し知見を得た。千葉県理学療法士会の学術誌「理学療法の科学と研究」の発行に取り組んだ。

VII 次年度の目標

H29年度に実施した研究成果を学会および学術雑誌上で広く公表する。

助教 太田 恵 博士 (スポーツ科学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

引き続き、助教としての責務を果たしたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・専門職間の連携活動論.
- ・人体の機能実習.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法測定学演習.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学演習.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・臨床実習Ⅰ.
- ・臨床実習Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅲ.
- ・臨床実習Ⅳ.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・若手の最新研究紹介コーナー 体幹機能不全に関する治療法の確立, 産科と婦人科, 83(3), 345-346.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・松尾真輔, 太田恵: 3年制養成校学生の臨床に向けた行動目標に対する調査, 全国リハビリテーション学校協会 (第30回教育研究大会), 2017年8月, 新潟.
- ・太田恵, 雄賀多聡, 金岡恒治: 健常者における腹横筋の左右対称性一呼吸時に腹壁が引き込まれる時間の左右差一, 日本リハビリテーション医学会 (第54回日本リハビリテーション医学会学術集会), 2016年6月, 岡山.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科研費 若手研究B, 体幹機能不全に関する治療法の確立, 研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本理学療法士協会、理学療法科学学会、臨床スポーツ医学会、体力医学会

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・千葉県理学療法士会、理学療法の科学と研究 査読

・日本運動器理学療法学会、査読

・関東甲信越ブロック理学療法士学会、査読

・千葉県理学療法士学会、査読・座長

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・入試実施部会、特色科目委員会、ネットワーク委員会、体験ゼミナール作業部会、ハラスメント相談員、

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議、

VI 評価（成果および改善すべき事項）

科研費を取得し、研究環境の整備・データの測定および解析、さらには一部の成果を学術大会で発表した。

助教 藤尾 公哉 博士 (学術)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

着任初年度の教員として、新規担当教科の準備をはじめ、助教業務全般に対して尽力すること。本学の組織・構成および千葉県における位置づけについて理解すること。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・専門職間の連携活動論.
- ・運動学 I.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・人体の機能実習.
- ・運動学実習.
- ・理学療法測定学演習.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・生体機能計測学.
- ・臨床実習 I (体験実習).
- ・臨床実習 II (評価実習).
- ・臨床実習 III (総合実習).
- ・臨床実習 IV (総合実習).
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・ Kimura Fujio, Hiroki Obata, Taku Kitamura, Noritaka Kawashima and Kimitaka Nakazawa : Corticospinal Excitability Is Modulated as a Function of Postural Perturbation Predictability, *Frontiers in Human Neuroscience*, 12, 68, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ 藤尾公哉, 小幡博基, 河島則天, 中澤公孝 : 外乱の予測に応じた足関節底背屈の皮質脊髄路興奮性の事前調節, 日本理学療法士協会学術大会, 2017年5月14日, 千葉
- ・ Kimura FUJIO, Hiroki OBATA, Taku KITAMURA, Noritaka KAWASHIMA, Kimitaka NAKAZAWA : Prediction of postural perturbation modulates the corticospinal excitabilities in the ankle muscles, *Neuroscience*2017, 2018. 11. 11-15, Washington D. C.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 科学研究費補助金 若手研究(B), 二足立位を制御する予測の神経基盤, 研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県理学療法士会 学術局学術編集部 2017. 4. 1～2018. 3. 31

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本臨床神経生理学会.
 - ・日本運動疫学学会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書情報委員会、社会貢献委員会、入試評価部会、専門職間の連携活動論作業部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

前任の教員から引き継いだ担当教科、国家試験対策、卒業論文編集業務について、概ね滞りなく完遂することができた。一方で、自身の研究課題については、進捗芳しくなく、次年度以降の課題である。

VII 次年度の目標

2名の教員欠員を穴を埋めるべく、今年度以上に教育活動およびその他専攻内外の業務を担うことを目標とする。特に、助教業務は着任2年目にして単独で遂行しなければならないため、事故のないように慎重に取り組むことを念頭に置く。

リハビリテーション学科
作業療法学専攻

教授 兼 リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 岡村 太郎 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、学生の教育や指導に重点的に行い、臨床実習で問題のあった学生の指導を行う。国家試験対策と同時に就職活動の援助を行い、国家試験の全員合格と全員就職を目標とした。

作業療法学専攻として、リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定と世界作業療法連盟 (WFOT) の認定評価の実施。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・作業療法概論.
- ・作業療法管理学.
- ・作業療法研究法.
- ・社会的適応支援学.
- ・社会的適応支援評価学.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・Taro Okamura, Akiko Hayashi, Shinsuke Matsuo, Kunihiko Shinoda, Isamu Konishi, Haruna Makio and Miwa Tsuji PREVENTION OF FALLS IN THE ELDERLY DEMENTIA TRIAL : A QUASI-EXPERIMENTAL STUDY. Journal of Human Ergology Vol. 47 No.1, 2018. (平成29年12月7日 Accept.)

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・宮本安奈，岡村太郎，坂田祥子，補永薫: Allen Cognitive Level Screen-5 (ACLS-5) と MMSE-J, FIM の関係性について，第51回作業療法学会 2017.9.23, 東京.
- ・岡村太郎，宮本安奈，坂田祥子，佐藤大介，松尾真輔: 病院入院患者の転倒と Allen 認知レベルスクリーン-5 (ACLS-5) との関係，第51回作業療法学会 2017.9.23, 東京.
- ・押川真唯，辻美和，岡村太郎，藤元登四郎，三山吉夫: 認知症高齢者に対する転倒予防プログラム施行後の追跡調査，第51回作業療法学会 2017.9.23, 東京.
- ・斎藤梨菜，岡村太郎，青木啓一郎，儘田孝: 当院における褥瘡の実態調査報告，第51回作業療法学会 2017.9.23, 東京.
- ・岡村太郎: 『アウトカム基盤型教育とミッション，コンピテンス，コンピテンシー』への取り組み，日本作業療法教育学会集會，2017, 11, 12, 首都大学東京荒川キャンパス.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・認知症の人と家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動。2017年9月18日、千葉駅前。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・URとほい大プログラム参加。2017年11月11日、2018年2月7日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本公衆衛生学会、日本衛生学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・一般社団法人作業療法士会、学術部査読委員、平成29年度
- ・一般社団法人作業療法士会学会委員会、演題査読委員、平成29年度

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・現職者共通研修会（一般社団法人千葉県作業療法士会）、作業療法士を対象に「事例報告・事例検討」の講師。2018年2月4日、千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務・企画委員会、図書・情報委員会、自己点検・評価委員会、認証評価部会（部会長）、自己点検・評価実施推進部会（部会長）、教員資格審査委員会、ネットワーク委員会、教員再任資格審査委員会、教授会、将来構想検討委員会、入試委員会、大学運営会議

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科長、作業療法学専攻長、リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

専攻長として、管理運営に関して、大学の認証評価で指摘された努力課題と改善勧告について対応方法とその実施に準備し、大学の重点施策を基に自己点検評価として実施した。作業療法学専攻としてリハビリテーション教育評価機構の教育評価認定と世界作業療法連盟（WFOT）の認定評価を受け認定された。また、教育方面では、4名学生に対して、国家試験対策を1月より2月初旬まで実施したが、2名の国家試験不合格者があった。改善点として、国家試験対策について学習の伸び悩んでいる学生指導を組織的（専攻）に取り組む必要がある。

VII 次年度の目標

学校運営に関しては、認証評価で得られた結果から、内部質保証について検討実施する。国家試験の対策を組織的に実施したい。研究分野においては、作業療法におけるURの「ほい大プログラム」の参加に注力し研究に生かしたい。

教授 高橋 伸佳 博士 (医学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、特に研究・発表に取り組むことを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミ.
- ・人体の構造 I (筋・骨・神経系の構造).
- ・人体の構造実習.
- ・神経内科学総論.
- ・神経内科学各論.
- ・臨床医学概論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・神経系の解剖・生理・病理 (国立障害者リハビリテーションセンター学院)

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・菊池雷太, 高橋伸佳, 片岡舞: 左被殻出血の5年後, 脳梁病変により純粹語聾を呈した一例. 第41回日本神経心理学会学術集会, 2017年10月12日, 東京.
- ・菊池雷太, 高橋伸佳, 佐野正彦: 左中側頭回後部病変により漢字の純粹失書を呈した一例. 第41回日本高次脳機能障害学会学術集会, 2017年12月16日, 大宮.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本神経学会, 日本高次脳機能障害学会, 日本神経心理学会, 日本認知症学会, 日本リハビリテーション医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本神経心理学会, 理事, 編集委員.
- ・日本高次脳機能障害学会, 評議員, 編集委員.
- ・日本神経学会, 査読委員.
- ・第41回日本高次脳障害学会学術総会, プログラム委員, 一般演題座長.
- ・第41回日本神経心理学会総会, プログラム委員, 一般演題座長.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 教授会、教務委員会、キャンパスハラスメント防止対策委員会、共通教育運営会議、教員資格審査委員会、入試実施部会、GPA作成部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育、研究、社会貢献、管理・運営のすべてについて、比較的満足のいく結果であった。

VII 次年度の目標

本年度と同様の活動を継続する。

准教授 安部 能成 博士 (保健学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、特に学生教育・研究・社会貢献という3領域のバランスに配慮することを目標にして活動を行った。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業療法評価学概論
- ・作業療法評価学Ⅱ
- ・作業運動学実習
- ・作業療法治療学Ⅱ
- ・作業療法治療学Ⅱ演習
- ・社会的適応支援学演習
- ・見学実習
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ
- ・卒業研究

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・聖学院大学大学院/人間福祉学研究科非常勤講師 (スピリチュアルケア特論)
- ・千葉大学医学部付属病院地域医療連携部/地域医療インテンシブコース非常勤講師 (緩和リハビリテーション)

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・安部能成, がんリハビリテーションにおける作業療法への期待, 秋田作業療法学研究, vol.20, pp.2-10, 2017.
- ・安部能成, ロコモの発見法—ロコモチェックとロコモスクリーニング, 在宅新療 vol.2 no.4, pp.346-351, 2017.
- ・安部能成, ロコモの改善—ロコトレ, ロコモに関連した治療, 在宅新療 vol.2 no.5, pp.447-451, 2017.
- ・阿部太哉, 三浦正悦, 吉田まき子, 大石春美, 吉田香織, 安部能成, 最後まで生きるための勇気をサポート, 看護, vol.69 no.8, pp.089-092, 2017.
- ・安部能成, ロコモの予防, 在宅新療, vol.2 no.6, pp.537-541, 2017.
- ・安部能成, 在宅診療におけるロコモへのリハビリテーション・アプローチ, 在宅新療, vol.2 no.7, pp.640-644, 2017.
- ・安部能成, ロコモに対する精神的アプローチの根拠—運動不足と認知症, 在宅新療, vol.2 no.8, pp.726-730, 2017.
- ・安部能成, 少子・高齢・多死社会における在宅福祉課題—リハビリテーションの視座, 山下袈裟男先生追悼文集, pp.107-108, 2017.
- ・安部能成, ロコモに対する心理的アプローチ—動機づけと継続性, 在宅新療, vol.2 no.9, pp.828-832, 2017.
- ・安部能成, 転移性骨腫瘍があっても歩行・ADLの維持を, Journal of Clinical Rehabilitation, vol.26 no.10, pp.1000-1003, 2017.
- ・安部能成, 緩和ケアにおけるEBMとNBM, 日本癌治療学会誌, Vol.52 No.1, pp.56-59, 2017.
- ・安部能成, ロコモに対する生理的アプローチ—ロコモとメタボの共通点, 在宅新療, vol.2 no.10, pp.929-933, 2017.
- ・安部能成, ロコモに対する社会的アプローチ—地理的・気候的条件への対応, 在宅新療, vol.2 no.11, pp.1037-1041,

2017.

- ・安部能成, ロコモに対する誤解の防止, および, さらなる展開の可能性, 在宅新療, vol. 2 no. 12, pp. 1115-1119, 2017.
- ・安部能成, ロコモにおける在宅と施設の関係性, 在宅新療, vol. 3 no. 1, pp. 74-78, 2018.
- ・安部能成, がん患者のリハビリテーションにおける作業療法の評価に関する文献レビュー, 千葉保医大紀要, Bull CPUHS, vol. 9, no. 1, 49-54, 2018.
- ・安部能成, いまこそ在宅でロコモ対策を, 在宅新療, vol. 3 no. 3, pp. 273-276, 2018.
- ・Kazunari Abe, At a scenery of forty, twenty and ten years ago; Developmental process of palliative care in Japan, *Fiolia Palliatrix*, (2008);1;4-7.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・がんカフェ, 2017年4月1日~2018年3月31日まで, 千葉市中央区中央港

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会 (アドバイザー委員, 機関誌査読委員)

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本癌学会, 日本癌治療学会, 日本緩和医療学会, 日本臨床死生学会, 日本サイコオンコロジー学会, 日本がんサポーターシップケア学会, 日本死の臨床研究会, 日本ホスピス・在宅ケア研究会, 多施設緩和ケア研究会, 日本ロコモケア研究会, 日本在宅ホスピス協会, 一般社団法人 全国在宅リハビリ支援推進機構, 大学病院の緩和ケアを考える会, 日本コクランセンター正会員, APHN (Asia Pacific Hospice Network), EAPC (European Association for Palliative Care).

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本癌治療学会 (ガイドライン策定委員会, 選挙管理委員会, 査読委員)
- ・日本緩和医療学会 (査読委員)
- ・日本がんサポーターシップケア学会 (骨と健康副部長, 評議員)
- ・多施設緩和ケア研究会 (世話人, 司会者)
- ・日本在宅ホスピス協会 (世話人, THP 担当委員)

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会
- ・社会貢献委員会
- ・千葉県立保健医療大学後援会

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

学生教育, 専門領域の研究, 社会貢献とも, 与えられた時間内では限界に近くなってきている。担当科目の講義・実習ではプレゼンの手法を取り入れることにより一定の成果を得たが, 情報量の減少という欠点が顕在化した。実習では実技指導に力点を置いたが, その評価の困難に遭遇した。研究活動では論文数に一定の成果を得たが, その内容にはまだ改善の余地があり, 著書が一点も出せなかったことは次年度の課題である。社会貢献については目標を下回ったが, 外部への貢献を増やすと内部での活動が減少するというジレンマがあり, 課題解決には検討の余地がある。

VII 次年度の目標

今年度の成果を踏まえて、学生教育においては、担当科目の講義・実習の形態について一層の検討を加えていく。研究領域においては、単独研究には一定の成果を得てきたと考えられるので、今後は共同研究への参加を心掛けていく。社会貢献では、職能団体・学会活動ともに、与えられた時間内では限界近い成果を上げているので、その維持に心掛けていくこととする。

准教授 藤田 佳男 博士 (リハビリテーション科学)

対象期間 : 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動については、担当科目の準備および円滑な講義の実施に努める。
研究活動については、科研最終年度の実験を行い、成果につなげる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・千葉県の健康づくり
 - ・人体の機能実習
 - ・作業運動学 I
 - ・作業運動学実習
 - ・作業療法治療学 I
 - ・日常生活活動技術学
 - ・日常生活活動援助学
 - ・日常生活活動技術学演習
 - ・日常生活活動援助学演習
 - ・臨床体験実習
 - ・評価実習 I・II
 - ・総合実習 I・II
 - ・地域作業療法学実習
 - ・卒業研究

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者 : 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・藤田佳男, 三村将 : 自動車運転にかかわる認知機能, 総合リハビリテーション, 45, 4, 297-302, 2017.
- ・藤田佳男, 三村将, 元木順子, 島田直樹, 飯島節 : 後期高齢者の運転実態 高齢者講習時における調査
作業療法ジャーナル, 51, 10, 1010-1012, 2017.

3 発表 (発表者 : 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・藤田佳男, 宮下康裕 : 高齢免許保有者の事故経験と関連する因子の検討, 日本交通心理学会第 82 回大会,
2017 年 6 月 3 日, 東京
- ・藤田佳男, 琴寄路子, 三村将 : 運転免許の自主返納に影響する因子は何か? , 第 51 回日本作業療法学会,
2017 年 9 月 23 日, 東京.
- ・Y.Fujita, M.Mimura: Assessment of Factors Associated with the Accident Experience of Elderly Drivers, The
Association for Driver Rehabilitation Specialists, The 41st Annual Conference & Exhibits. 7/31/2017,
Albuquerque, NM, USA.
- ・岩谷圭祐, 藤田佳男, 尾北智志ほか : 健常者における Trail Making Test 縦版・横版での年代別成績差について, 第
41 回高次脳機能障害学会, 2017 年 12 月 15 日, 埼玉県.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・The 1st Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium (APOTS TAIWAN 2017), Usefulness of the Driving Fitness Test Type-K by the National Police Agency for the Older Drivers, 10/22/2017, Taipei Taiwan.
 - ・第60回作業療法全国研修会教育講演（滋賀会場），日本作業療法士協会，安全な交通社会に貢献する作業療法士の役割，2017年10月7日，滋賀県。
 - ・第9回研究会，障害と自動車運転に関する研究会特別講演，運転リハビリテーションの推進，2017年10月28日，新潟県。
 - ・第4回運転と作業療法研究会，高齢運転者への医療と心理学の関わりシンポジウム，2017年12月2日，東京都
 - ・第60回作業療法全国研修会教育講演（新潟会場），日本作業療法士協会，安全な交通社会に貢献する作業療法士の役割，2017年12月10日，新潟県
 - ・第30回岡山県作業療法学会特別講演，岡山県作業療法士会，自動車運転支援における作業療法士の実践，2018年3月11日，岡山県。
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C），高次脳機能・VR・実車評価の複合による認知機能障害者の多角的運転能力評価の開発，研究分担者
 - ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C），高齢者の安全運転寿命を延ばすための講習方法の開発，研究代表者，

IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）
- ・葛飾区役所福祉部自立活動支援センター専門相談（2017年4月～2018年3月）東京都葛飾区。
- 3 審議会，委員会，国家試験委員などの実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）
- ・全日本指定自動車教習所協会連合会，「高次脳機能障害を有する運転免許保有者の運転再開に関する調査研究委員会」委員，2017年4月から2019年3月まで
 - ・日本福祉用具・生活支援用具協会（JASPA）「ハンドル形電動車椅子リスク低減策検討委員会」委員，2017年10月から2018年3月まで
- 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）
- ・日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」，委員長，平成28年度～平成29年度
- 5 学会，学術団体への貢献
- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本作業療法士協会，日本老年医学会，日本老年精神医学会，認知神経科学会，日本高次脳機能障害学会，自動車技術会，日本公衆衛生学会，日本リハビリテーション工学協会，運転と認知機能研究会，運転と作業療法研究会，日本安全運転・医療研究会，日本交通心理学会，日本認知心理学会，日本交通科学学会。
 - 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・運転と認知機能研究会 事務局長，平成20年～
 - ・運転と作業療法研究会 代表 平成26年
 - ・日本安全運転・医療研究会 幹事，平成28年
 - ・日本作業療法士協会 学会演題査読委員 平成26年～
 - ・第51回日本作業療法学会 一般演題座長 平成29年
 - ・第52回日本作業療法学会 演題査読委員 平成29年

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・奈良県作業療法士会事業部研修会，奈良県作業療法士会，高次脳機能と運転適性，2017年4月16日，奈良県。
- ・2017政策討論会，全国交通運輸労働組合総連合，運転リハビリテーション，2017年6月9日，東京都。
- ・石川県リハビリテーションセンター研修会，石川県リハビリテーションセンター，自動車運転支援におけるリハビリテーション専門職の役割，2017年7月1日，石川県。
- ・運転に関する作業療法士の基本的考え方研修会，日本作業療法士協会，運転に関する基本的考え方の概説，2017年7月15日，岡山県。
- ・運転に関する作業療法士の基本的考え方研修会，日本作業療法士協会，運転に関する基本的考え方の概説，2017年7月16日，福岡県。
- ・基礎研修会，運転と作業療法研究会，運転リハビリテーション概論・法制度・教習所との連携，2017年7月17日，福岡県。
- ・高次脳機能相談室ゆいっと研修会，武蔵野市高次脳機能相談室ゆいっと，高次脳機能障害と自動車運転，2017年8月7日，東京都。
- ・職員研修会，山口リハビリテーション病院，有効視野と運転適性，2017年9月1日，山口県。
- ・プチ神経科学講座，脳機能とリハビリテーション研究会，自動車運転に関わる認知機能，2017年9月3日，東京都。
- ・院内研修，富山県リハビリテーション病院，有効視野測定ソフトVFIT，2017年9月6日，富山県。
- ・運転に関する作業療法士の基本的考え方研修会，日本作業療法士協会，運転に関する基本的考え方の概説，2017年10月8日，宮城県。
- ・障害者教習指導員研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，2017年10月13日，東京都。
- ・第15回リハビリテーション部会講演会，京都私立病院協会，認知機能と自動車運転，2017年10月14日，京都。
- ・運転に関する作業療法士の基本的考え方研修会，日本作業療法士協会，運転に関する基本的考え方の概説，2017年10月15日，大阪府。
- ・高齢運転者支援士研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，2017年10月26日，東京都。
- ・運転に関する作業療法士の基本的考え方研修会，日本作業療法士協会，運転に関する基本的考え方の概説，2017年11月12日，東京都。
- ・第101回介護予防教室特別講座，群馬県認知症患者センター，いつ？どうなったら免許は返した方が良いのか？，2017年11月30日，（一般市民約300名），群馬県。
- ・千葉県作業療法士会東葛ブロック研修会，千葉県作業療法士会，認知機能と自動車運転，2017年12月17日，千葉県。
- ・学部部後援会，宮城県作業療法士会，自動車運転における作業療法士の役割と課題，2018年2月10日，宮城県。
- ・リハ職向け研修会，美原記念病院，障害者および高齢者の自動車運転の現状と課題，2018年2月24日，群馬県。
- ・第1回有効視野研究会，有効視野研究会，有効視野の最近の知見，2018年3月3日，千葉県。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目委員会，入試実施部会，研究等倫理審査委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・毎日新聞 平成29年9月3日朝刊「運転再開へ路上評価の違法性なし」
- ・毎日新聞 平成29年10月16日朝刊「専門家の支援 米で定着」
- ・本田技研工業広報誌「セーフティジャパン」2018年2-3月号，
「日本全国の作業療法士が運転再開の支援を円滑に進めるための環境整備に向けて」

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当する授業は概ね問題なく実施できた。しかし、演習科目を中心に臨床実技能力の伝達に課題が残る結果となった。
また、4年担任として国会試験対策は円滑に実施できた。研究については講演依頼が多かったため、原著論文をまとめる作業が遅延する結果となった。

VII 次年度の目標

今後担当予定の科目について準備を行いつつ現存の授業や試験について、より臨床的な内容への変換を図る。本来の研究活動および県内での地域貢献に力を注ぐ。

准教授 有川 真弓 博士 (保健科学)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は研究結果を原著論文として発表したい。引き続き、社会貢献活動に力を注ぎたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業運動分析学.
- ・人間発達学.
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法評価学IV.
- ・作業療法治療学IV.
- ・作業療法治療学IV演習.
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I.
- ・評価実習 II.
- ・総合実習 I
- ・総合実習 II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・山西葉子, 土田玲子, 新庄玉恵, 立山清美, 伊藤祐子, 有川真弓, 赤松めぐみ, 山田孝:【不器用児支援のこれから】不器用を主訴とする児への感覚統合療法の効果, 感覚統合研究, 17, 1-15, 2017.
- ・岡田洋一, 寺尾智樹, 島崎貴子, 大根佳菜子, 西宮由貴, 下田佳代子, 兵頭洋子, 有川真弓: 作業療法の現況を概観し, 今後の課題を探る, 埼玉小児医療センター医学誌, 33, 25-29, 2018.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・有川真弓, 酒井康年: 作業療法士による特別支援学校への関与 事例を通して, 日本発達障害学会第52回研究大会, 会. 2017. 9. 9-11. (札幌)
- ・有川真弓, 酒井康年, 満井礼子, 古橋理恵, 西方浩一: 発達障害児への作業療法で用いられるテクニック 熟達した作業療法士のリーズニング分析から, 第51回日本作業療法学会, 2017. 9. 22-24. (東京)
- ・伊藤祐子, 立山清美, 有川真弓, 赤松めぐみ, 山西葉子, 山田孝: 感覚統合療法の効果に関する研究報告 意志およびコミュニケーションと交流技能に着目して. 第35回日本感覚統合学会 研究大会, 2017. 10. 28-29. (長野)

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・千葉県作業療法士会学術部発達障害委員会平成 29 年度研修会，特別支援教育における作業療法（OT）の具体的活用。2017 年 8 月 20 日。千葉県立保健医療大学。
 - ・第 27 回日本作業行動学会学術集会，教育セミナー ポスター発表③メンター，2017 年 6 月 18 日，浜松。
 - ・日本 LD 学会第 26 回大会 大会企画シンポジウム①「学校教育での専門職理解と連携に向けての検討 JDDnet 多職種連携委員会の活動より」話題提供者，2017 年 10 月 7-9 日。（栃木）
 - ・山形県作業療法主催研修会，学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会。2017 年 11 月 25-26 日。山形県立保健医療大学。
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・学内共同研究，作業療法学生の臨床実習適応能力の向上のための学内検査測定実習の取り組み，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・大田区西六郷小学校 特別支援学級医療専門相談。2017 年 12 月～2018 年 3 月。
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師。2017 年 6 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・練馬区障害児保育巡回指導。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会，制度対策部部員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・日本作業療法士協会，学術部部員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・日本作業療法士協会，学会演題査読委員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・千葉県作業療法士会，事務局長。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・千葉県作業療法士会，代議員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・千葉県作業療法士会，理事。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・千葉県作業療法士会，学術部発達障害委員会委員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・千葉県作業療法士会，学術部査読委員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本感覚統合学会，日本作業行動学会，日本 LD 学会，日本発達系作業療法学会，日本リハビリテーション連携科学学会，日本発達障害学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本感覚統合学会，効果研究委員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・日本発達系作業療法学会，理事。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・JDD ネットワーク多職種連携委員会，副委員長。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・実践！発達 OT ミーティング vol.9.0 in ちば実行委員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。
- ・就労支援フォーラム NIPPON2017，運営委員。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・市原市教育センター主催研修会，幼稚園・保育所等における発達が気になる子どもの支援及び保護者との連携，幼稚園

教諭, 保育士他, 2017年8月21日, 市原市教育会館,

・市原マリア・インマクラダ幼稚園, 職員研修, 幼稚園教諭他, 2017年12月19日, 市原マリア・インマクラダ幼稚園,

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・教務委員会, 新々カリキュラム作成作業部会, 問題作成委員,

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

職能団体や学会での委員会活動, 社会貢献活動に力を注ぎ, 満足できる結果を残すことができた. 原著論文1編を共著で発表した.

VII 次年度の目標

平成30年度も引き続き, 研究結果を原著論文として発表したい. また, 社会貢献活動にも力を注いでいきたい.

講師 吉野 智佳子 博士 (学術)

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

新カリキュラムの不足点を掌握し、しっかり対応したい。就職相談は必要があれば相談を受け、県内就職者数を確保していきたい。実習施設確保のための交渉を引き続き行い、臨床実習の準備を行っていく。研究活動をより精力的に行う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・人体の構造実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・作業運動学Ⅱ.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法評価学Ⅰ.
- ・作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系).
- ・作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系).
- ・日常生活活動援助学.
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ,Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ,Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線:著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・日本作業療法士協会教育部養成教育委員会委員 (鈴木孝治, 佐藤真一, 浅井憲義, 伊藤祐子, 岩崎也生子, 吉野智佳子, 宮寺亮輔, 小林隆司, 中本久之, 藤井啓介, 日高幹代): 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則・指導ガイドラインおよび教員・実習指導者の研修に関するアンケート結果報告, 日本作業療法協会誌, 第60号, 6-12, 2017年3月.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・吉野智佳子, 下村義弘: 肘関節屈曲時の段階負荷における筋音図の性差に関する研究, 人間工学, 53巻1号, 1-7, 2017.
- ・吉野智佳子, 下村義弘: 体験用前腕能動仮義手の操作練習過程における筋電図と筋音図の分析, 日本義肢装具学会誌, 34巻2号, 142-149, 2018.
- ・吉野智佳子: 作業療法に視点をおいた筋音図の人間工学的研究 (博士論文), 2018年1月, 1-148, 2018.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・吉野智佳子, 下村義弘: 肘関節屈曲時の段階負荷における筋音図の性差に関する研究, 日本生理人類学会第75回大会, 2017年6月24日, 千葉.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・車いすラグビー公開交流会，2017年5月20日，車いすラグビー体験など学生参加調整。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本作業療法士協会，教育部 部員（養成教育委員会），2009年～現在。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本義肢装具学会，脳機能とリハビリテーション研究会，日本作業療法研究学会，日本臨床生理学会，日本生理人類学会，日本人間工学会，日本臨床神経生理学会，日本シーティング・コンサルタント協会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本リハビリテーション医学会，日本ハンドセラピィ学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本作業療法研究学会，理事，2007年11月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会，事例報告登録制度審査委員，2010年9月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会，学術誌査読委員，2013年4月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会，生涯教育制度推進委員（千葉県作業療法士会），2015年～現在に至る。
- ・日本生理人類学会第75回大会 実行委員，2017年6月24日，千葉。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県作業療法士会 現職者研修会 「実践のための作業療法研究」 講師 2017年11月12日，千葉。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・専門職間の連携活動論作業部会，入試評価部会，学術推進企画委員会，開学10周年記念事業実行委員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

臨床実習の依頼と合わせて求人があれば学生に情報提供を行った。就職相談は身体障害領域において学生から依頼があれば対応した。研究活動では，学会での発表や学術論文の投稿を進め，採択に至った。

VII 次年度の目標

臨床実習担当が変更となるため，実習施設確保のための交渉を行い，臨床実習の準備を行っていく。就職相談は必要があれば相談を受け，県内就職者数を確保していきたい。学位取得については修了した。今後は研究活動をより精力的に行う。学内共同研究を履行し，学会発表や学術論文の投稿を進める。

講師 佐藤 大介 修士 (保健学)

対象期間 : 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、各担当科目の到達目標の達成状況を随時把握し、基本的臨床能力の習得に向けて授業内容の工夫を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業療法評価学Ⅱ(精神・心理機能系).
- ・作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系).
- ・作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系).
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・社会適応支援学演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者 : 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Sato D, Yoshinaga N, Nagai E, et al. : Randomised controlled trial on the effect of internet-delivered computerised cognitive-behavioural therapy on patients with insomnia who remain symptomatic following hypnotics, *BMJ Open*, 8, 1, 1-7, 2018.

3 発表 (発表者 : 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・岡村太郎, 宮本安奈, 坂田祥子, 佐藤大介, 松尾真輔 : 病院入院患者の転倒と Allen 認知レベルスクリーン-5 (ACLS-5) との関係, 第 51 回日本作業療法学会, 2017 年 9 月 23 日, 東京.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会科研費, 基盤研究 C, 発達障害を基盤に有する強迫性障害の拡散テンソル画像解析, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・横須賀市障害程度区分等判定審査会, 審査委員.

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県作業療法士会、代議員。
- ・日本作業療法士協会、代議員。

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・千葉県作業療法士会、日本作業療法士協会。
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・第51回日本作業療法学会、査読。
 - ・千葉県作業療法士会学術誌、査読。
 - ・Disability and Rehabilitation、Reviewer。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県作業療法士会平成28年度第1回現職者共通研修、講師、2017年10月15日、千葉。
- ・千葉県作業療法士会平成28年度第3回現職者共通研修、座長、2018年2月4日、千葉。
- ・千葉県がんのリハビリテーション研修会、講師、2017年11月25、26日、千葉。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、ネットワーク委員会、国際交流委員会、入試実施部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動として臨床実習の調整担当、精神障害領域の臨床実習指導と講義、研究活動として臨床共同研究、社会貢献活動として職能団体及び学術団体の委員活動を行った。担当科目の到達目標の達成状況を随時把握し、理解度に応じた指導方法で教育効果を高める。

VII 次年度の目標

4年生担任として、臨床実習、国家試験受験、進路選択に関する支援体制を整え、年間を通じた支援を実施する。

助教 松尾 真輔 修士（学術）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成29年度は、学内における講義外の学生指導と臨床実習前指導に重点を置き、学生へのより良い教育につなげ質を高め、ていくように取り組んでいく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法基礎理論.
- ・作業療法評価学 I（神経・心肺機能系）.
- ・作業療法治療学IV（認知・知能機能系）.
- ・作業療法学IV演習（認知・知能機能系）.
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・地域作業療法学概論.
- ・作業療法セミナー
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・松尾真輔，太田恵：3年制養成校学生の臨床に向けた行動目標に対する意識調査，リハビリテーション教育研究第24巻，pp18-19，2018.
- ・Taro Okamura, Akiko Hayashi, Shinsuke Matsuo, Kunihiro Shinoda, Isamu Konishi, Haruna Makio and Miwa Tsuji PREVENTION OF FALLS IN THE ELDERLY DEMENTIA TRIAL : A QUASI-EXPERIMENTAL STUDY. Journal of Human Ergology Vol. 47 No. 1, 2018. (平成29年12月7日 Accept.)

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・松尾真輔，太田恵：3年制養成校学生の臨床に向けた行動目標に対する意識調査，第30回教育研究大会・教員研修会，2017. 8. 31，新潟医療福祉大学.
- ・岡村太郎，宮本安奈，坂田祥子，佐藤大介，松尾真輔：病院入院患者の転倒とAllen認知レベルスクリーン-5(ACLS-5)との関係，第51回作業療法学会 2017. 9. 23，東京.

- ・松尾真輔, 浦部智章: 千葉県内におけるMTDLP普及活動の現状と今後の課題, 第19回千葉県作業療法学会, 2018.3.11, 君津中央病院附属看護学校.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第19回千葉県作業療法学会, MTDLPの活用方法について, 2018年3月11日, 君津中央病院附属看護学校.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究. 若手, 理学療法士・作業療法士学生の進路希望と各養成校におけるその傾向についての基礎調査, 研究代表者
- ・学内共同研究, 作業療法学生の臨床実習適応能力の向上のための学内検査測定実習の取り組み, 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・匝瑳市地域活性イベント. 作業療法士会運営スタッフ. 2017年4月2日

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会. MTDLP 担当理事. 2014年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 千葉中央ブロック代議員. 2014年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県生活行為向上マネジメント委員会委員長. 2013年11月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県作業療法誌. 査読者. 2014年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 災害対策委員会. 委員. 2015年4月～現在に至る
- ・千葉県POS連盟. 千葉POS災害対策委員会. 委員. 2016年1月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. ブロック活動部. 部長. 2016年6月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 千葉中央ブロック担当理事. 2016年6月～現在に至る

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会. 日本公衆衛生学会. 千葉県POS連盟.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会災害対策研修会. 運営スタッフ. 2017年5月14日
- ・千葉県作業療法士会. 協会50周年記念式典. 運営スタッフ. 2017年9月30日
- ・千葉県がんリハ研修会. 運営スタッフ. 2017年11月24日～26日
- ・第19回千葉県作業療法学会. 学会運営スタッフ. 2017年11月～2018年3月
- ・千葉県POS連盟. 災害対策研修会運営スタッフ. 2017年4月～2018年3月

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント基礎研修. 2017年6月4日. 八千代リハビリテーション学院
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例検討会. 2017年6月14日. 八千代リハビリテーション学院
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例検討会. 2017年7月12日. 八千代リハビリテーション学院
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント基礎研修. 2017年8月27日. 千葉柏リハビリテーション学院
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例検討会. 2017年10月11日. 千葉県立保健医療大学
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント基礎研修. 2017年10月15日. 亀田メディカルセンター
- ・千葉地域リハビリテーション地域広域センター. ケアマネ研修会. 2017年10月20日. 千葉中央メディカルセンター
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例検討会. 2017年11月8日. かもめメディカルケアセンター

- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例検討会. 2017年11月15日. 千葉県立保健医療大学
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例検討会. 2017年12月16日. 船橋市立リハビリテーション病院
- ・千葉県回復期連携の会. MTDLPのより良い活用について. 2018年1月17日. 千葉市文化センター
- ・千葉県作業療法士会, 千葉県ブロック・リーダー研修会, 2018年3月17日, 千葉県立保健医療大学

7 その他

- ・日本作業療法士協会. MTDLP 全国会議. 2017年6月10日～11日. 東京.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・キャンパス・ハラスメント防止委員会. 紀要編集部会員. 自己点検・評価委員会報告書作成等部会員. 教育研究年報編集部会員. 体験ゼミナール部会員. 千葉県の健康づくり部会員.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 作業療法学専攻会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

体験実習科目担当や臨床実習指導者会議の開催を中心的に進め、さらに委員会や部会員としても他学科と専攻との調整を行い、学内での業務に対して滞りなく取り組めた。また学外でも所属県士会の研修会の運営や委員会活動など、社会貢献としても積極的に講演会、広報活動に携わることができた。

VII 次年度の目標

次年度も担当業務について滞りなく従事し、学内業務を円滑に行えるよう調整していきたい。また学生への個別指導や学内生活指導も時間を取りながら、精力的に熟していきたいと考える。

資料1 履修規程 別表(看護学科 平成25年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2		○			30	選択 4単位 (※1)
		哲学	1・2・3・4前		2		○			30	
		文学	1・2・3・4前		2		○			30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○			30	
		生命倫理	1・2・3・4後		2		○			30	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○			30	
		教育学	1・2・3・4前		2		○			30	
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2		○			30	選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前		2		○			30	
		社会学	1・2・3・4後		2		○			30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○			30	
		経済学	1・2・3・4前		2		○			30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○			30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○			15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○			30	
		科学論	1・2・3・4前		2		○			30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○			30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○			30	
		生物学	1・2・3・4前後		2		○			30	
		物理学	1・2・3・4前		2		○			30	
	化学	1・2・3・4前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	2後	1				○		30	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	1前	1				○		30	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1			○		30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1		○			15	
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○		30	
		英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4後		1			○		30	
英語Ⅳ(英会話)		1・2・3・4後		1			○		30		
英語Ⅴ(保健医療英語)		2後	2			○			30		
英語Ⅵ(応用英語)		1・2・3・4後		1			○		30		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 16 単位 + 選択 4 単位
		生化学総論	2 前	1			○			15	
		栄養学 I (基礎)	1 後	1			○			15	
		栄養学 II (応用)	1 後		1		○			15	
		心の健康	1・2・3・4 後			1	○			15	
		薬理学 I (総論)	1 後	1			○			15	
		薬理学 II (各論)	1 後	1			○			15	
		病理学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		病理学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		発達心理学	2 前		1		○			15	
	臨床心理学	1 後		1			○		30		
	健康と保健医療システム	健康論	1 前		1		○			15	
		公衆衛生学 I (基礎)	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学 II (応用)	2 後	1			○			15	
		疫学・保健統計 I (基礎)	3 前	1			○			15	
		疫学・保健統計 II (応用)	3 前	1			○			15	
		リハビリテーション概論	2 後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			15	
保健医療福祉論 I (基礎)		2 後	1			○			15		
保健医療福祉論 II (応用)		2 後	1			○			15		
食育論 I (基礎)		3 前		1		○			15		
食育論 II (応用)		3 前		1		○			15		
健康と運動		1 後		1		○			15		
家族社会学	1 前		1		○			15			
医療経営管理論	4 後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2 後	1			○			15			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 I (骨・筋・神経系)	1 前	1			○			15	【専門科目】 必修 75 単位 + 選択 4 単位
		人体の構造と機能 II (呼吸器・循環器・消化器系)	1 前	1			○			15	
		人体の構造と機能 III (泌尿器・生殖器・感覚器系)	1 後	1			○			15	
		病態学 I (内科系疾病論)	2 前	2			○			30	
		病態学 II (外科系疾病論)	2 前	2			○			30	
		病態学 III (高齢者・精神疾病論)	2 前	1			○			15	
		臨床検査実習	2 前	1				○		30	
		基礎看護科目	看護学入門	1 前	1				○		
	看護倫理		2 後	1				○		30	
	看護技術論 I (生活援助技術)		1 前	2				○		60	
	看護技術論 II (看護共通技術)		1 後	1				○		30	

(看護学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	2 前	2				○		60	【専門科目】 (再掲) 必修 75 単位 + 選択 4 単位
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	2 後	2				○		60	
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	2 後	1				○		30	
		看護ふれあい体験学習	1 前	2					○	90	
		基礎看護学実習	2 前	2					○	90	
	医療・生活支援	成人看護学概論	2 後	1				○		15	
		成人看護学方法論Ⅰ	3 前	2				○		30	
		成人看護学方法論Ⅱ	3 前	2				○		30	
		がん看護学	2 後	1				○		15	
		ターミナルケア論	3 前		1			○		15	
		成人看護学実習 (急性期)	3 後・4 前	3					○	135	
		成人看護学実習 (慢性期)	3 後・4 前	3					○	135	
	療養支援	こころの健康と看護	1 後	1				○		15	
		療養支援看護概論	2 前	1				○		15	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○		30	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	3 前	2				○		60	
		精神看護学方法論	3 前	2				○		60	
		高齢者看護学実習	3 後・4 前	3					○	135	
		在宅看護学実習	3 後・4 前	1					○	45	
	精神看護学実習	3 後・4 前	2					○	90		
	健康支援	地域看護学概論	2 前	2				○		30	
		地域看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○		15	
		地域看護学方法論Ⅱ	3 前	2				○		30	
		地域看護学方法論Ⅲ	3 前	2				○		30	
		地域看護学実習	3 後・4 前	3					○	135	
	育成支援	育成支援看護概論	2 前	1				○		15	
		小児看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○		30	
		小児看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○		30	
		母性看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○		30	
		母性看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○		30	
		母性看護学実習	3 後・4 前	2					○	90	
		小児看護学実習	3 後・4 前	2					○	90	
		助産学概論	3 前		1			○		15	
		助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)	3 前		1			○		15	
		助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)	4 前			2		○		60	
助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)		4 通			2		○		60		
助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩)		4 後			2		○		60		
助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)		3 後			1			○	45		
助産学実習Ⅱ (継続支援)	4 通			3			○	135			
助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)	4 通			3			○	135			

(看護学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	発展看護科目	看護管理学	4 前	1			○		15	【専門科目】 (再掲) 必修 75 単位 + 選択 4 単位
		感染看護学	2 後		1		○		15	
		看護政策論	4 後		1		○		15	
		災害看護学	3 前	1			○		15	
		看護キャリア発達論	2 前		1		○		15	
		看護管理学実習	4 前	1				○	45	
		総合実習	4 後	2				○	90	
		看護研究	4 通	2				○	60	
		看護学統合	4 後	1				○	30	
		リーダーシップ論	4 後		1		○		15	
		継続看護方法論	4 後		1		○		15	
		国際看護論	2 前		1		○		15	
		家族看護学概論	2 後		1		○		15	
		家族看護学方法論	3 前		1		○		15	

(看護学科 平成 25 年度以降の入学生用)

先修条件

配当 年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																									
		講義科目						演習科目						実習科目													
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ～Ⅴ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論Ⅰ～Ⅲ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習
1 前	看護ふれあい体験学習	○																									
2 前	基礎看護学実習	○	○					○										○									
3 後 4 前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○							○	○								
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○							○	○								
	地域看護学実習					○			○		○							○	○								
	精神看護学実習						○		○			○						○	○								
	在宅看護学実習								○					○				○	○								
	高齢者看護学実習						○		○					○				○	○								
	母性看護学実習								○						○			○	○								
小児看護学実習								○							○		○	○									
4 前	看護管理学実習						○												○	○							
4 後	総合実習																										○:選択する領域の実習

○: 単位を既に修得していること, 又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること.

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	20 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	4 単位	20 単位
専門科目	75 単位	4 単位	79 単位
合計	98 単位	28 単位	126 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎)」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ(ライフサイクル各期)」、「助産診断・技術学Ⅲ(分娩期)」、「助産診断・技術学

IV（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」,「生涯身体運動科学」,「英語Ⅴ（保健医療英語）」,「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

履修規程 別表（看護学科 平成 24 年度以前の入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	2			○			30	必修 4 単位	
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1 前		2		○			30	必修 2 単位 + 選択 4 単位 (※1)
		哲学	1 前		2		○			30	
		文学	1 前		2		○			30	
		歴史と文化	1 前		2		○			30	
		生命倫理	1 後	2			○			30	
		宗教学	1 後		2		○			30	
		教育学	1 前		2		○			30	
		人間関係論	1 前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1 前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1 前後		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1 前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1 後		2		○			30	必修 2 単位 + 選択 6 単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	1 前		2		○			30	
		社会学	1 後		2		○			30	
		文化人類学	1 前		2		○			30	
		経済学	1 前		2		○			30	
		国際関係論	1 後		2		○			30	
		社会福祉学	1 前		1		○			15	
		国際的な健康課題	1 後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	1 後		2		○			30	
		科学論	1 前	2			○			30	
		環境変化と生態	1 後		2		○			30	
		観察生物学入門	1 前後		2		○			30	
		生物学	1 前後		2		○			30	
		物理学	1 前		2		○			30	
	化学	1 前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	2 後	2			○			30	必修 4 単位
		情報リテラシー I	1 前	1				○		30	
		情報リテラシー II	1・2 後		1			○		30	
		情報倫理	1 後	1			○			15	
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1 前		1			○		30	必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II (基礎英会話)	1 前		1			○		30	
		英語 III (講読・記述)	1 後		1			○		30	
		英語 IV (英会話)	1・2 後		1			○		30	
		英語 V (保健医療英語)	2 後	2			○			30	
		英語 VI (応用英語)	1 後		1			○		30	

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み 4 単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から 1 科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち 2 科目を含む 6 単位以上を選択して履修する。

(看護学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 14 単位 + 選択 2 単位
		生化学総論	1 前	1			○			15	
		栄養学	2 後		2		○			30	
		心の健康	1 前		1		○			15	
		薬理学	1 後	1			○			15	
		病理学	1 前	1			○			15	
		微生物学	1 前	1			○			15	
		小児発達論	1 後	1			○			15	
		臨床心理学	1 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学	2 通	2			○			30	
		疫学・保健統計	3 前	2			○			30	
		リハビリテーション概論	2 後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			15	
		保健医療福祉論	2 後	2			○			30	
		食育論	3 前		2		○			30	
		健康と運動	1 後		1		○			15	
		家族社会学	1 前		1		○			15	
		医療経営管理論	4 後		1		○			15	
		リスクマネジメント論	2 後	1			○			15	
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（骨格・筋系）	1 前	1			○			15	【専門科目】 必修 77 単位 + 選択 5 単位
		人体の構造と機能Ⅱ（脈管・器官系）	1 前	1			○			15	
		人体の構造と機能Ⅲ（神経系）	1 後	1			○			15	
		病態学Ⅰ(疾病論)	2 前	2			○			30	
		病態学Ⅱ(精神疾病論)	2 前	1			○			15	
		病態学Ⅲ(高齢者疾病論)	2 前	1			○			15	
		周手術期管理論	2 前	1			○			15	
		臨床検査実習	2 前	1					○	45	
	基礎看護科目	看護学原論	1 前	2			○			30	
		看護倫理	2 後	1				○		30	
		看護技術論Ⅰ (フィジカルアセスメント技術)	2 前	2				○		60	
		看護技術論Ⅱ（生活援助技術）	1 後	2				○		60	
		看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	2 後	2				○		60	
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	3 前	1				○		30	
		看護技術論演習	3 前	1				○		30	
地域ケア実習	2 前	2					○	90			
基礎看護実習	2 前	2					○	90			

(看護学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	医療・生活支援	医療・生活支援看護概論	2 後	1			○			15	【専門科目】 (再掲) 必修 77 単位 + 選択 5 単位
		成人看護学急性期方法論	3 前	2			○			30	
		成人看護学慢性期方法論	3 前	1			○			15	
		リハビリテーション看護	3 前	1			○			15	
		がん看護学	2 後	2			○			30	
		ターミナルケア論	3 前		1		○			15	
		成人看護学実習 (急性期看護過程展開)	3 後・4 前	3					○	135	
		成人看護学実習 (慢性期看護過程展開)	3 後・4 前	3					○	135	
		療養支援	こころの健康と看護	1 後	1			○			
	療養支援看護概論		2 前	1			○			15	
	家族看護学方法論		4 前		1		○			15	
	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ (総論)		2 後	1				○		30	
	高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ (各論)		3 前	2				○		60	
	精神看護学方法論		3 前	2				○		60	
	高齢者看護学実習		3 後・4 前	3					○	135	
	在宅看護学実習		3 後・4 前	1					○	45	
	健康支援	精神看護学実習	3 後・4 前	2					○	90	
		健康支援看護概論	2 前	2			○			30	
		ヘルスプロモーション活動論Ⅰ (地域診断と活動計画)	3 前	2			○			30	
		ヘルスプロモーション活動論Ⅱ (対象別保健指導)	3 前	2			○			30	
		ヘルスプロモーション活動論Ⅲ (学校・産業保健)	3 前	1			○			15	
	地域看護学実習	3 後・4 前	3					○	135		
	育成支援	育成支援看護概論	2 前	1			○			15	
		小児看護学方法論	3 前	2				○		60	
		母性看護学方法論	3 前	2				○		60	
		母子看護学実習	3 後・4 前	3					○	135	
		助産学概論	3 前		1		○			15	
		助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)	3 前		1		○			15	
		助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)	4 前			2		○		60	
		助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)	4 通			2		○		60	
		助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩)	4 後			2		○		60	
		助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)	3 後			1			○	45	
		助産学実習Ⅱ (継続支援)	4 通			3			○	135	
	助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)	4 通			3			○	135		

(看護学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	発展看護科目	看護管理学	4 前	1			○		15	【専門科目】 (再掲) 必修 77 単位 + 選択 5 単位
		感染看護学	2 後	1				○	30	
		看護政策論	4 後		1		○		15	
		異文化看護	3 前		1		○		15	
		災害看護学	3 前	1			○		15	
		看護キャリア発達論	2・3 前		1		○		15	
		看護管理学実習	4 前	1				○	45	
		総合実習	4 後	3				○	135	
		看護研究	4 通	2				○	60	

先修条件

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																											
		講義科目				演習科目					実習科目																		
		看護学原論	こころの健康と看護	医療・生活支援看護概論	育成支援看護概論	健康支援看護概論	療養支援看護概論	リハビリテーション看護	看護管理学	看護技術論ⅠⅡ	看護技術論ⅢⅣ	成人看護学急性期方法論	成人看護学慢性期方法論	ヘルスプロモーション活動論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡ	看護技術論演習	母性看護学方法論	小児看護学方法論	地域ケア実習	基礎看護実習	成人看護学実習(慢性期看護過程展開)	成人看護学実習(急性期看護過程展開)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母子看護学実習	
2 前	基礎看護実習	○	○						○																				
	地域ケア実習	○	○						○																				
3 後 4 前	成人看護学実習(急性期看護過程展開)			○						○	○						○			○	○								
	成人看護学実習(慢性期看護過程展開)			○						○		○								○	○								
	地域看護学実習						○			○			○							○	○								
	精神看護学実習									○			○								○	○							
	在宅看護学実習									○				○							○	○							
	高齢者看護学実習									○				○							○	○							
	母子看護学実習				○					○							○	○	○	○	○	○							
4 前	看護管理学実習								○													○	○						
4 後	総合実習																												

○：単位を既に修得していること，又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

(看護学科 平成 24 年度以前の入学生用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	4 単位	0 単位	4 単位
一般教養科目	10 単位	14 単位	24 単位
保健医療基礎科目	14 単位	2 単位	16 単位
専門科目	77 単位	5 単位	82 単位
合 計	105 単位	21 単位	126 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）」の計 2 単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計 13 単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」,「生涯身体運動科学」,「英語Ⅴ（保健医療英語）」,「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計 8 単位が必要である。

千葉県立保健医療大学履修規程第2条2項に基づき編入学した者の授業科目等を次のとおりとする。

別表（看護学科 編入生 3年生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	3後	1				○		30	必修3単位	
	体験ゼミナール	3前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	3・4前		2		○			30	選択 4単位 (※1)
		哲学	3・4前		2		○			30	
		文学	3・4前		2		○			30	
		歴史と文化	3・4前		2		○			30	
		生命倫理	3・4後		2		○			30	
		宗教学	3・4後		2		○			30	
		教育学	3・4前		2		○			30	
		人間関係論	3・4前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	3・4前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	3・4後		1			○		30	
	生涯身体運動科学	3・4前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	3・4後		2		○			30	【一般教養科目】 選択科目から選択8単位 選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	3・4前		2		○			30	
		社会学	3・4後		2		○			30	
		文化人類学	3・4前		2		○			30	
		経済学	3・4前		2		○			30	
		国際関係論	3・4後		2		○			30	
		社会福祉学	3・4前		1		○			15	
		国際的な健康課題	3・4後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	3・4後		2		○			30	
		科学論	3・4前		2		○			30	
		環境変化と生態	3・4後		2		○			30	
		観察生物学入門	3・4前後		2		○			30	
		生物学	3・4前後		2		○			30	
		物理学	3・4前		2		○			30	
	化学	3・4前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	3・4後	1				○		30	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	3前	1				○		30	
		情報リテラシーⅡ	3・4後		1			○		30	
		情報倫理	3・4後		1		○			15	
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	3・4前		1			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	3・4前		1			○		30	
		英語Ⅲ(講読・記述)	3・4後		1			○		30	
英語Ⅳ(英会話)		3・4後		1			○		30		
英語Ⅴ(保健医療英語)		3後	2			○			30		
英語Ⅵ(応用英語)		3・4後		1			○		30		

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 編入生 3年生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	3前		1		○			15	必修 16 単位 + 選択 4 単位
		生化学総論	—	1			○			15	
		栄養学Ⅰ (基礎)	—	1			○			15	
		栄養学Ⅱ (応用)	3後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ (総論)	—	1			○			15	
		薬理学Ⅱ (各論)	—	1			○			15	
		病理学Ⅰ (総論)	—	1			○			15	
		病理学Ⅱ (各論)	—	1			○			15	
		微生物学Ⅰ (総論)	—	1			○			15	
		微生物学Ⅱ (各論)	—	1			○			15	
		発達心理学	4前		1		○			15	
		臨床心理学	3後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	3前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	—	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	—	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	3前	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	3前	1			○			15	
		リハビリテーション概論	3後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	3前	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	3後	1			○			15	
保健医療福祉論Ⅱ (応用)		3後	1			○			15		
食育論Ⅰ (基礎)		3前		1		○			15		
食育論Ⅱ (応用)		3前		1		○			15		
健康と運動		3後		1		○			15		
家族社会学	3前		1		○			15			
医療経営管理論	4後		1		○			15			
リスクマネジメント論	4後	1			○			15			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ (骨・筋・神経系)	—	1			○			15	【専門科目】 必修 75 単位 + 選択 4 単位
		人体の構造と機能Ⅱ (呼吸器・循環器・消化器系)	—	1			○			15	
		人体の構造と機能Ⅲ (泌尿器・生殖器・感覚器系)	—	1			○			15	
		病態学Ⅰ (内科系疾病論)	—	2			○			30	
		病態学Ⅱ (外科系疾病論)	—	2			○			30	
		病態学Ⅲ (高齢者・精神疾病論)	—	1			○			15	
		臨床検査実習	—	1				○		30	

(看護学科 編入生 3年生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
基礎看護科目	看護学入門	—	1				○		30	
	看護倫理	3 後	1				○		30	
	看護技術論Ⅰ(生活援助技術)	—	2				○		60	
	看護技術論Ⅱ(看護共通技術)	—	1				○		30	
	看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント技術)	—	2				○		60	
	看護技術論Ⅳ(検査治療技術)	—	2				○		60	
	看護技術論Ⅴ(看護過程展開技術)	—	1				○		30	
	看護ふれあい体験学習	—	2					○	90	
	基礎看護学実習	—	2					○	90	
専門科目 実践看護科目	医療・生活支援	成人看護学概論	3 後	1			○		15	【専門科目】 (再掲) 必修 75 単位 + 選択 4 単位
		成人看護学方法論Ⅰ	—	2			○		30	
		成人看護学方法論Ⅱ	—	2			○		30	
		がん看護学	3 後	1			○		15	
		ターミナルケア論	3・4 前		1		○		15	
		成人看護学実習(急性期)	—	3				○	135	
		成人看護学実習(慢性期)	—	3				○	135	
	療養支援	こころの健康と看護	3 後	1			○		15	
		療養支援看護概論 (発展看護科目へ移行)	3 前	1			○		15	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	1				○	30	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	2				○	60	
		精神看護学方法論	—	2				○	60	
		高齢者看護学実習	—	3				○	135	
		在宅看護学実習	—	1				○	45	
		精神看護学実習	—	2				○	90	
	健康支援	地域看護学概論	3 前	2			○		30	
		地域看護学方法論Ⅰ	3 後	1			○		15	
		地域看護学方法論Ⅱ	3 前	2			○		30	
		地域看護学方法論Ⅲ	3 前	2			○		30	
		地域看護学実習	3 後	3				○	135	
	育成支援	育成支援看護概論	4 前	1			○		15	
		小児看護学方法論Ⅰ	—	1				○	30	
		小児看護学方法論Ⅱ	—	1				○	30	
		母性看護学方法論Ⅰ	—	1				○	30	
		母性看護学方法論Ⅱ	—	1				○	30	
		母性看護学実習	—	2				○	90	
		小児看護学実習	—	2				○	90	
		助産学概論	3 前		1		○		15	
助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎)		3 前		1		○		15		

(看護学科 編入生 3年生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	発展看護科目	看護管理学	4 前	1			○			15	【専門科目】 (再掲) 必修 75 単位 + 選択 4 単位
		感染看護学	4 後		1		○			15	
		看護政策論	4 後		1		○			15	
		災害看護学	3 前	1			○			15	
		看護キャリア発達論	3 前	1			○			15	
		看護管理学実習	4 前	1					○	45	
		総合実習	4 後	2					○	90	
		看護研究	4 通	2				○		60	
		看護学統合	4 後	1				○		30	
		リーダーシップ論	4 後		1		○			15	
		継続看護方法論	4 後		1		○			15	
		国際看護論	3 前		1		○			15	
		家族看護学概論	3 後		1		○			15	
		家族看護学方法論	4 前		1		○			15	

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	20 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	4 単位	20 単位
専門科目	75 単位	4 単位	79 単位
合計	98 単位	28 単位	126 単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」, 「生涯身体運動科学」, 「英語Ⅴ（保健医療英語）」, 「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計 8 単位が必要である。

(栄養学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30	必修 3 単位	
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2		○			30	必修 9 単位 + 人間理解群, 生活と環境群, 情報理解群から 選択 13 単位 + 外国語群から 選択 2 単位
		哲学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		文学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○			30	
		生命倫理	1・2・3・4 前	2			○			30	
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○			30	
		教育学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		人間関係論	1・2・3・4 前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後	2			○			30	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2		○			30	
		社会学	1・2・3・4 後		2		○			30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		経済学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2		○			30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1		○			15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後	1			○			15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○			30	
		科学論	1・2・3・4 前		2		○			30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○			30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○			30	
		生物学	1・2・3・4 前後		2		○			30	
	物理学	1・2・3・4 前		2		○			30		
	化学	1・2・3・4 前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後		1			○		30	
		情報リテラシー I	1・2・3・4 前	1				○		30	
		情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1			○		30	
		情報倫理	1・2・3・4 後	1			○			15	
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1			○		30	
		英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1			○		30	
		英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1			○		30	
英語 IV (英会話)		1・2・3・4 後		1			○		30		
英語 V (保健医療英語)		1・2・3・4 前	2			○			30		
英語 VI (応用英語)		1・2・3・4 後		1			○		30		

(栄養学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	4 前		1		○			15	必修 11 単位 + 選択 8 単位
		生化学総論	1 前			1	○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	2 後			1	○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	2 後			1	○			15	
		心の健康	2・4 後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1 後	1			○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1 後	1			○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	2 前	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	2 前	1			○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1・4 前		1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1・4 前		1		○			15	
		発達心理学	1・4 前		1		○			15	
		臨床心理学	1・2・4 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1・4 前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2 前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2 後	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3 前	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3 前	1			○			15	
		リハビリテーション概論	2・4 後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2・4 前		1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2 後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2 後	1			○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3 前	1			○			15	
		食育論Ⅱ（応用）	3 前		1		○			15	
		健康と運動	1・4 後		1		○			15	
		家族社会学	1・4 前		1		○			15	
医療経営管理論	4 後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2・4 後		1		○			15			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	1 前	1			○			15	【専門科目】 必修 76 単位 + 選択 4 単位
		解剖学総論	1 前	2			○			30	
		解剖学実験	1 後	1					○	45	
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		生理学実験	2 前	1					○	45	
		生化学	1 前	2			○			30	
		栄養生化学	1 後	2			○			30	
		生化学実験	2 前	1					○	45	
		疾病論	2 前	2			○			30	
		高齢者医療論	3 後		1		○			15	
		食品学各論	1 前	2			○			30	
		食品学実験	2 前	1					○	45	
		食品学総論演習	1 通	2					○	60	
		食品化学実験	2 前	1					○	45	
		理化学演習	1 後		1				○	30	
		食品衛生学	2 後	2			○			30	

(栄養学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学実験	2 後	1					○	45	【専門科目】 (再掲) 必修 76 単位 + 選択 4 単位
		食品加工学	2 前	2			○			30	
		食品加工学実習	4 前	1					○	45	
		食品微生物学	3 後		1		○			15	
		食事設計と調理	1 前	2			○			30	
		食事設計と調理実習	2 前	1					○	45	
		調理実習	1 後	1					○	45	
		調理科学実験	2 後	1					○	45	
	学 基礎	基礎栄養学	1 後	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 後	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 後	2			○			30	
		応用栄養学Ⅱ	3 前	2			○			30	
		応用栄養学Ⅲ	3 後	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
		スポーツ栄養学	3・4 後		1		○			15	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2 後	2			○			30	
		栄養教育論Ⅱ	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 前	1					○	45	
		栄養教育手法論	3 前	2			○			30	
		国際栄養学	4 前		1		○			15	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		臨床栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学実習	2 後	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論演習	3 通	2				○		60	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 前	1					○	45	
		臨床検査学	2 前	2			○			30	
		在宅栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
		障害者栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30		
	公衆栄養学Ⅱ	2 後	1			○			15		
	公衆栄養学実習	3 前	1					○	45		
	栄養疫学	4 前	1			○			15		
管 給食経営論	給食経営管理論Ⅰ	2 前	2			○			30		
	給食経営管理論Ⅱ	2 後	2			○			30		
	給食経営管理実習	3 前	2					○	90		
	フードマネジメント論	3・4 後		1		○			15		
演習 総合	総合演習	4 前	1					○	30		
	卒業研究	4 通		4				○	120		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 通	2					○	90		
	給食経営管理臨地実習	3 通	2					○	90		
	公衆栄養臨地実習	3 通		1				○	45		
	栄養管理臨地実習	4 通		1				○	45		
	事前指導	3 通	1				○		30		
	事後指導	3 通	1				○		30		

(栄養学科 平成 25 年度以降の入学生用)

先修条件

1. 「給食経営管理臨地実習」、「臨床栄養臨地実習」および「公衆栄養臨地実習」を履修するには、2 年後期までに
 担当された必修の専門科目を単位修得済みであり、3 年前期に担当された必修の専門科目を履修中であること。
2. 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄
 養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3 年次終了までに担当された教職課程の全
 科目を単位修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	9 単位	15 単位	24 単位
保健医療基礎科目	11 単位	8 単位	19 単位
専門科目	76 単位	4 単位	80 単位
合 計	99 単位	27 単位	126 単位

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等		
一般教養科目	理解人間	健康スポーツ科学 (再掲)	1・2前後	1	30	3科目のうち2単位を選択必修とする	
		生涯身体運動科学 (再掲)	1前後・3前	1	30		
	環境生活と	法学（日本国憲法） (再掲)	1・3前	2	30		
		理解情報	情報リテラシーⅠ (再掲)	1前	1		30
	情報リテラシーⅡ (再掲)		1・2後	1	30		
	外国語群	英語Ⅱ（基礎英会話） (再掲)	1・2前	1	30		
		英語Ⅳ（英会話） (再掲)	1 → 2後	1	30		
		英語Ⅵ（応用英語） (再掲)	1 → 2後	1	30		
	栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	3前	2		30
			学校栄養教育論	3後	2		30
教職の意義		教職論	1後	2	30		
		教育の基礎理論	教育学概論	2後	1	15	
教育心理			2前	2	30		
教育制度論			2後	1	15		
教育課程		カリキュラム論	2前	1	15		
		教育の方法と技術	3前	2	30		
		道徳教育・特別活動論	2前	1	15		
生徒指導		生徒指導論	3前	2	30		
		教育相談	3後	2	30		
総合演習		教職実践演習（栄養教諭）	4後	2	60		
栄養教育実習		栄養教諭教育実習：事前・事後指導	4通	1	45		
		栄養教諭教育実習	4通	2	90		

(栄養学科 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	2			○			30	必修4単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1前		2		○			30	必修9単位 + 人間理解群, 生活と環境群, 情報理解群から 選択13単位 + 外国語群から 選択2単位
		哲学	1・2前		2		○			30	
		文学	1・2前		2		○			30	
		歴史と文化	1・2前		2		○			30	
		生命倫理	1後	2			○			30	
		宗教学	3後		2		○			30	
		教育学	1・2前		2		○			30	
		人間関係論	1・2前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1前後・2前		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1・3前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1後	2			○			30	
		法学(日本国憲法)	1・3前		2		○			30	
		社会学	1・3後		2		○			30	
		文化人類学	1前		2		○			30	
		経済学	1前		2		○			30	
		国際関係論	3後		2		○			30	
		社会福祉学	1前		1		○			15	
		国際的な健康課題	4後	1			○			15	
		人権・ジェンダー	1後		2		○			30	
		科学論	1前		2		○			30	
		環境変化と生態	1・2後		2		○			30	
		観察生物学入門	1前後・2前		2		○			30	
	生物学	1前後		2		○			30		
	物理学	1・2前		2		○			30		
	化学	1・2前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	2後		2		○			30	
		情報リテラシーI	1前	1				○		30	
		情報リテラシーII	2後		1			○		30	
		情報倫理	1後	1			○			15	
外国語群	英語I(基礎講読)	1前		1			○		30		
	英語II(基礎英会話)	1前		1			○		30		
	英語III(講読・記述)	1・3後		1			○		30		
	英語IV(英会話)	1・2・3後		1			○		30		
	英語V(保健医療英語)	2前	2			○			30		
	英語VI(応用英語)	1・2後		1			○		30		

(栄養学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前	1			○			15	必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前	1			○			15	
		心の健康	1 前	1			○			15	
		薬理学	1 後	1			○			15	
		病理学	2 前	1			○			15	
		微生物学	1 前		1		○			15	
		小児発達論	1 後	1			○			15	
		臨床心理学	1 後	1				○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学	2 通	2			○			30	
		疫学・保健統計	3 後		2		○			30	
		リハビリテーション概論	2 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前		1		○			15	
		保健医療福祉論	2 後	2			○			30	
		食育論	3 前	2			○			30	
		健康と運動	3 後	1			○			15	
		家族社会学	1 前		1		○			15	
		医療経営管理論	4 後		1		○			15	
		リスクマネジメント論	2 後		1		○			15	
専門科目	専門基礎科目	解剖学総論	1 前	2			○			30	【専門科目】 必修 71 単位 + 選択 8 単位
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		生化学各論	1 後	2			○			30	
		生化学実験	2 前	1					○	45	
		運動生理学各論	2 後	1			○			15	
		運動生理学実験	2 後	1					○	45	
		内科学概論	2 後	1			○			15	
		高齢者医療論	2 後		1		○			15	
		解剖生理学実験	1 後	1					○	45	
		食品学各論演習	1 通	2				○		60	
		食品学実験	1 後	1					○	45	
		食品化学演習	1 通	2				○		60	
		食品化学実験	1 後	1					○	45	
		理化学演習	1 前		2			○		60	
		食品衛生学	1 後	2			○			30	
		食品衛生学実験	2 前	1					○	45	
		食品加工学演習	2 前	1				○		30	
		食品加工学実習	2 前	1					○	45	
		食品微生物学演習	2 後		1			○		30	
		食事設計と栄養演習	1 前	1				○		30	
		食事設計と栄養実習	2 前	1					○	45	
調理実習	1 後	1					○	45			
調理科学実験	2 後	1					○	45			

(栄養学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	基礎栄養学	栄養学入門演習	1 通		2			○		60	【専門科目】 (再掲) 必修 71 単位 + 選択 8 単位
		基礎栄養学	1 前	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 後	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学 (ライフステージ前期)	2 前	2			○			30	
		応用栄養学 (ライフステージ中期)	2 後	2			○			30	
		応用栄養学 (ライフステージ後期)	2 後	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
	栄養教育論	栄養教育論	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 通	2					○	90	
		栄養教育手法演習	3 前	1				○		30	
		栄養調査・評価演習	3 後	1				○		30	
		栄養アセスメント論	3 前	2			○			30	
		健康支援論	4 後		1		○			15	
		健康支援論演習	4 後		1			○		30	
	臨床栄養学	臨床栄養学・基礎	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学・応用	3 前	2			○			30	
		臨床栄養学実習	3 前	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論演習	3 後	2				○		60	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 後	1					○	45	
		臨床検査演習	3 後	1				○		30	
	公衆栄養学	公衆栄養学	2 後	2			○			30	
		公衆栄養学実習	3 前	1					○	45	
		栄養疫学	3 前	2			○			30	
	給食経営管理論	給食経営管理論	2 前	2			○			30	
		給食経営管理演習	2 後	2				○		60	
		給食経営管理実習	3 前	1					○	45	
	総合演習	総合演習	4 前	2				○		60	
		卒業研究	4 通		2			○		60	
	臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 後	2					○	90	
		給食経営管理臨地実習	3 通	2					○	90	
公衆栄養臨地実習		3 通		1				○	45		
事前・事後指導 (臨地実習)		3 通	2					○	90		

(栄養学科 平成 24 年度以前の入学生用)

先修条件

1. 「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」を履修するには、2 年後期までに配当された必修の専門科目を単位修得済みであり、3 年前期に配当された必修の専門科目を履修中であること。
2. 「臨床栄養臨地実習」を履修するには、3 年前期までに配当された必修の専門科目を単位修得済みであること。
3. 「栄養教育実習」及び「栄養教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	4 単位	0 単位	4 単位
一般教養科目	9 単位	15 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	3 単位	19 単位
専門科目	71 単位	8 単位	79 単位
合 計	100 単位	26 単位	126 単位

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等		
一般教養科目	理解人間	健康スポーツ科学 (再掲)	1前後・2前	1	30	3科目のうち2単位を選択必修とする	
		生涯身体運動科学 (再掲)	1・3前後	1	30		
	環境生活と	法学（日本国憲法） (再掲)	1・3前	2	30		
		理解情報	情報リテラシーⅠ (再掲)	1前	1		30
	情報リテラシーⅡ (再掲)		2後	1	30		
	外国語群	英語Ⅱ（基礎英会話） (再掲)	1前	1	30		
		英語Ⅳ（英会話） (再掲)	1・2・3後	1	30		
		英語Ⅵ（応用英語） (再掲)	1・2後	1	30		
	栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	3前	2		30
			学校栄養教育論	3後	2		30
教職の意義		教職論	1後・2前	2	30		
		教育の基礎理論	教育学概論	2前	1	15	
教育心理			2前	2	30		
教育制度論			2後	1	15		
教育課程		カリキュラム論	2前	1	15		
		教育の方法と技術	3前	2	30		
		道徳教育・特別活動論	2前	1	15		
生徒指導		生徒指導論	3前	2	30		
		教育相談	3後	2	30		
総合演習		教職実践演習（栄養教諭）	4後	2	60		
栄養教育実習		栄養教育実習：事前・事後指導	4通	1	45		
		栄養教育実習	4通	2	90		

(歯科衛生学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習					
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30	必修 3 単位			
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45				
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30				
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2			○		30	必修 9 単位	【一般教養科目】 選択科目から選択 13 単位	
		哲学	1・2・3・4 前		2			○		30			
		文学	1・2・3・4 前		2			○		30			
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○		30			
		生命倫理	1・2・3・4 後	2				○		30			
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○		30			
		教育学	1・2・3・4 前		2			○		30			
		人間関係論	1・2・3・4 前		2			○		30			
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2			○		30			
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後	1					○	30			
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30				
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2			○		30			
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前	2				○		30			
		社会学	1・2・3・4 後		2			○		30			
		文化人類学	1・2・3・4 前		2			○		30			
		経済学	1・2・3・4 前		2			○		30			
		国際関係論	1・2・3・4 後		2			○		30			
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1			○		15			
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1			○		15			
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2			○		30			
		科学論	1・2・3・4 前		2			○		30			
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2			○		30			
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2			○		30			
		生物学	1・2・3・4 前後	2				○		30			
	物理学	1・2・3・4 前		2			○		30				
	化学	1・2・3・4 前		2			○		30				
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1					○	30			
		情報リテラシー I	1・2・3・4 前	1					○	30			
		情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1				○	30			
		情報倫理	1・2・3・4 後		1			○		15			
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1				○	30			必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1				○	30			
		英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1				○	30			
英語 IV (英会話)		1・2・3・4 後		1				○	30				
英語 V (保健医療英語)		2 前	2				○		30				
英語 VI (応用英語)		1・2・3・4 後		1				○	30				

(歯科衛生学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学 I (基礎)	1 後	1			○			15	
		栄養学 II (応用)	1 後	1			○			15	
		心の健康	1 後	1			○			15	
		薬理学 I (総論)	1 後	1			○			15	
		薬理学 II (各論)	1 後	1			○			15	
		病理学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		病理学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		発達心理学	1 前		1		○			15	
		臨床心理学	1 後		1			○		30	
		保健医療基礎科目	健康と保健医療システム	健康論	1 前		1		○		
公衆衛生学 I (基礎)	2 前			1			○			15	
公衆衛生学 II (応用)	2 後			1			○			15	
疫学・保健統計 I (基礎)	3 前				1		○			15	
疫学・保健統計 II (応用)	3 前				1		○			15	
リハビリテーション概論	2 後			1			○			15	
救命・救急の理論と実際	2 前			1			○			15	
保健医療福祉論 I (基礎)	2 後			1			○			15	
保健医療福祉論 II (応用)	2 後			1			○			15	
食育論 I (基礎)	3 前			1			○			15	
食育論 II (応用)	3 前				1		○			15	
健康と運動	1 後				1		○			15	
家族社会学	1 前				1		○			15	
医療経営管理論	4 後				1		○			15	
リスクマネジメント論	2 後		1		○			15			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	1 前	2			○			30	必修 27 単位
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		内科学概論	1 後	1			○			15	
		高齢者医療論	2 後	1			○			15	
		口腔解剖学	1 前	2			○			30	
		口腔生理学	2 前	1			○			15	
		口腔病理学	1 後	1			○			15	
		口腔微生物学	1 後	1			○			15	
		歯科薬理学	2 前	1			○			15	
		歯科生化学・臨床検査法	1 後	1			○			15	
		口腔衛生学	1 後	2			○			30	
		歯科感染予防学	2 後	1			○			15	
		歯科診断学	2 後	1			○			15	
		歯科矯正学	3 前	1			○			15	
		歯科材料学	2 前	1			○			15	
歯科治療学 I (保存修復・歯内療法)	2 前	2			○			30			

(歯科衛生学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	歯科衛生基礎	歯科治療学Ⅱ (歯周治療学)	2 前	1			○		15	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択 3 単位	
		歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学)	2 前	2			○		30		
		顎口腔外科学	2 前	2			○		30		
		顎口腔機能論	2 前	1			○		15		
		歯科衛生基礎演習	2 前	1				○	30		
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1 前	2			○		30		必修 17 単位
		チーム歯科医療論	2 前	1			○		15		
		歯科疾患予防学	2 前	1			○		15		
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2 後	3			○		45		
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2 後	3			○		45		
		演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)	3 前	2				○	60		
		演習Ⅱ (歯科予防処置)	3 前	2				○	60		
		顎口腔機能リハビリテーション論	2 後	1			○		15		
		演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)	3 前	1				○	30		
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3 前	1			○		15		
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4 前		1		○		15			
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3 前	1			○		15		必修 11 単位
		保健行動科学論	2 前	1			○		15		
		歯科保健指導・健康教育論	2 前	1			○		15		
		演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)	2 後～3 前	3				○	90		
		歯科衛生統計学	3 前	1			○		15		
		地域歯科衛生学	2 後	1			○		15		
		演習Ⅴ (地域歯科衛生)	3 前	1				○	30		
		国際歯科衛生学	3 前		1		○		15		
		歯科医療管理論	4 前		1		○		15		
		社会保障・社会保険論	3 前	1			○		15		
	総合演習	3 後	1				○	30			
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	3 前	2				○	90		必修 22 単位
		歯科診療所実習	3 後	4				○	180		
		病院実習	4 後	3				○	135		
		継続・個別支援実習	3 後～4 前	4				○	180		
		発達歯科衛生実習Ⅰ (小児)	4 前	2				○	90		
		発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者)	4 前	2				○	90		
地域歯科衛生実習		4 前	1				○	45			
歯科診療室総合実習	3 後～4 前	4				○	180				
研究	卒業研究	3 後～4 通		3			○	90			

(歯科衛生学科 平成 25 年度以降の入学生用)

先修条件

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ(歯科予防処置)を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ(地域歯科衛生)を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。
 - ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
 - イ 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	107単位	19単位	126単位

(歯科衛生学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習					
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	2			○			30	必修 4 単位			
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45				
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30				
一般教養科目	人間理解群	心理学	1 前		2		○			30	必修 12 単位	【一般教養科目】 選択科目から選択 8 単位	
		哲学	1 前		2		○			30			
		文学	1 前		2		○			30			
		歴史と文化	1 前		2		○			30			
		生命倫理	1 後	2			○			30			
		宗教学	1・2 後		2		○			30			
		教育学	1・2 前		2		○			30			
		人間関係論	1・2 前		2		○			30			
		コミュニケーション理論と実際	1 前	2			○			30			
		健康スポーツ科学	1 前後	1					○	30			
	生涯身体運動科学	1 前後・2 前		1				○	30				
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2 後		2		○			30			
		法学（日本国憲法）	1・2 前	2			○			30			
		社会学	1 後		2		○			30			
		文化人類学	1 前		2		○			30			
		経済学	1 前		2		○			30			
		国際関係論	1 後		2		○			30			
		社会福祉学	1 前		1		○			15			
		国際的な健康課題	1 後		1		○			15			
		人権・ジェンダー	1 後		2		○			30			
		科学論	1・2 前		2		○			30			
		環境変化と生態	1 後		2		○			30			
		観察生物学入門	1 前後・2 前		2		○			30			
		生物学	1 前後・2 前	2			○			30			
	物理学	1・2 前		2		○			30				
	化学	1・2 前		2		○			30				
	情報理解群	統計学	2 後	2			○			30			
		情報リテラシー I	1 前	1					○	30			
		情報リテラシー II	1 後		1				○	30			
		情報倫理	1 後		1		○			15			
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1 前		1				○	30			必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II (基礎英会話)	1 前		1				○	30			
		英語 III (講読・記述)	1 後		1				○	30			
英語 IV (英会話)		1 後		1				○	30				
英語 V (保健医療英語)		2 前	2			○			30				
英語 VI (応用英語)		1 後		1				○	30				

(歯科衛生学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 15 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学	1 後	2			○			30	
		心の健康	1 前	1			○			15	
		薬理学	1 後	1			○			15	
		病理学	1 前	1			○			15	
		微生物学	1 前	1			○			15	
		小児発達論	1 後		1		○			15	
		臨床心理学	1 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学	2 通	2			○			30	
		疫学・保健統計	3 前		2		○			30	
		リハビリテーション概論	2 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前		1		○			15	
		保健医療福祉論	2 後	2			○			30	
		食育論	3 前	2			○			30	
		健康と運動	1 後		1		○			15	
		家族社会学	1 前		1		○			15	
		医療経営管理論	4 後		1		○			15	
リスクマネジメント論	2 後	1			○			15			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	1 前	2			○			30	必修 26 単位
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		内科学概論	1 後	1			○			15	
		高齢者医療論	2 後	1			○			15	
		口腔解剖学	1 後	2			○			30	
		口腔生理学	2 前	1			○			15	
		口腔病理学	2 前	1			○			15	
		口腔微生物学	2 前	1			○			15	
		歯科薬理学	2 前	1			○			15	
		口腔衛生学	2 前	1			○			15	
		歯科感染予防学	3 前	1			○			15	
		歯科診断学	2 前	1			○			15	
		歯科矯正学	3 前	1			○			15	
		歯科材料学	2 後	1			○			15	
		歯科治療学 I (保存修復・歯内療法学)	2 後	2			○			30	
		歯科治療学 II (歯周治療学)	2 後	1			○			15	
		歯科治療学 III (歯科補綴学)	2 後	2			○			30	
顎口腔外科学	2 後	2			○			30			
顎口腔機能論	2 後	1			○			15			
歯科衛生基礎演習	2 前	1				○		30			

(歯科衛生学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
専門科目	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1 前	2			○			30	必修 15 単位	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択 2 単位
		チーム歯科医療論	2 後	1			○			15		
		歯科疾患予防学	2 後	1			○			15		
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2 後	2			○			30		
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2 後	3			○			45		
		演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)	3 前	2				○		60		
		演習Ⅱ(歯科予防処置)	3 前	2				○		60		
		顎口腔機能リハビリテーション論	3 前	1			○			15		
		演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)	3 前	1				○		30		
	在宅歯科衛生管理論	4 前		1		○			15			
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	2 後	1			○			15	必修 13 単位	
		保健行動科学論	3 前	1			○			15		
		歯科保健指導・健康教育論	2 後	1			○			15		
		健康支援論	4 後	1			○			15		
		健康支援論演習	4 後	1				○		30		
		演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)	2 後～3 前	3				○		90		
		歯科衛生統計学	3 前	1			○			15		
		地域歯科衛生学	2 後	2			○			30		
		演習Ⅴ(地域歯科衛生)	3 前	1				○		30		
		国際歯科衛生学	3 後		1		○			15		
		歯科医療管理論	4 前		1		○			15		
	総合演習	3 後	1				○		30			
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	3 前	2					○	90	必修 20 単位	
		歯科診療所実習	3 後	4					○	180		
		病院実習	3 後	3					○	135		
		継続・個別支援実習	4 通	4					○	180		
		発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)	4 前	1					○	45		
発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)		4 前	1					○	45			
地域歯科衛生実習		4 前	1					○	45			
歯科診療室総合実習		4 通	4					○	180			
研究	卒業研究	4 通	4				○	120	必修 4 単位			

(歯科衛生学科 平成 24 年度以前の入学生用)

先修条件

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ(歯科予防処置)を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ(地域歯科衛生)を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。
 - ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
 - イ 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として4年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	4単位	0単位	4単位
一般教養科目	14単位	10単位	24単位
保健医療基礎科目	15単位	3単位	18単位
専門科目	78単位	2単位	80単位
合計	111単位	15単位	126単位

(リハビリテーション学科理学療法専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30	必修 3 単位	
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2				○	30	必修 2 単位	
		哲学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		文学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○	30		
		生命倫理	1・2・3・4 後		2			○	30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○	30		
		教育学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		人間関係論	1・2・3・4 前		2			○	30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2			○	30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1				○		30
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2				○	30	一般教養科目から選択 14 単位 このうち「人間関係論」「コミュニケーション理論と実際」から 1 科目を選択 「文化人類学」「国際関係論」「国際的健康課題」から 1 科目を選択
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2				○	30	
		社会学	1・2・3・4 後		2				○	30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2				○	30	
		経済学	1・2・3・4 前		2				○	30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2				○	30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1				○	15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1				○	15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2				○	30	
		科学論	1・2・3・4 前		2				○	30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2				○	30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2				○	30	
		生物学	1・2・3・4 前後		2				○	30	
		物理学	1・2・3・4 前	2					○	30	
	化学	1・2・3・4 前		2				○	30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1					○	30	必修 2 単位
		情報リテラシー I	1・2・3・4 前	1					○	30	
		情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1				○	30	
		情報倫理	1・2・3・4 後		1				○	15	
外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1				○	30	必修 2 単位 + 選択 2 単位	
	英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1				○	30		
	英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1				○	30		
	英語 IV (英会話)	1・2・3・4 後		1				○	30		
	英語 V (保健医療英語)	1・2・3・4 前	2					○	30		
	英語 VI (応用英語)	1・2・3・4 後		1				○	30		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 7 単位 + 選択 2 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学Ⅰ (基礎)	1 後		1		○			15	
		栄養学Ⅱ (応用)	1 後		1		○			15	
		心の健康	1 後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ (総論)	1 後		1		○			15	
		薬理学Ⅱ (各論)	1 後		1		○			15	
		病理学Ⅰ (総論)	1 前	1			○			15	
		病理学Ⅱ (各論)	1 前		1		○			15	
		微生物学Ⅰ (総論)	1 前	1			○			15	
		微生物学Ⅱ (各論)	1 前		1		○			15	
		発達心理学	1 前		1		○			15	
	臨床心理学	1 後	1				○		30		
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	2 前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	2 後		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	3 前		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	3 前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	1 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前		1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	2 後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ (応用)	2 後	1			○			15	
		食育論Ⅰ (基礎)	3 前		1		○			15	
		食育論Ⅱ (応用)	3 前		1		○			15	
		健康と運動	1 後		1		○			15	
		家族社会学	1 前		1		○			15	
医療経営管理論		4 後		1		○			15		
リスクマネジメント論	2 後		1		○			15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ (筋・骨・神経系の構造)	1 前	1			○			30	必修 24 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ (脈管・内臓・感覚器の構造)	1 後	1			○			30	
		人体の構造実習	1 後	1				○		45	
		人体の機能Ⅰ (動物性功能)	1 前	1			○			30	
		人体の機能Ⅱ (植物性功能)	1 後	1			○			30	
		人体の機能実習	2 前	1				○		45	
		運動学Ⅰ (運動の基礎科学)	1 後	1			○			30	
		運動学Ⅱ (応用的運動科学)	2 前	1			○			30	
		運動学実習	2 後	1				○		45	
		臨床運動学	2 後	1			○			30	
		機能解剖学	1 後	1			○			30	
		人間工学	2 後		1		○			30	
		人間発達学	2 前	1			○			30	
		医学総論	1 後	1			○			15	
		内科学総論	2 前	1			○			30	
		内科学各論	2 後	1			○			30	
		神経内科学総論	2 前	1			○			30	
		神経内科学各論	2 後	1			○			30	
		整形外科学総論	2 前	1			○			30	

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 平成25年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
	整形外科各論	2後	1				○		30		
	精神神経科学総論	2前	1				○		30		
	精神神経科学各論	2後		1			○		30		
	老年科学	3前	1				○		30		
	小児科学	3前	1				○		30		
	臨床医学概論	3前	1				○		30		
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1前	2			○			30	必修18単位	
	理学療法管理学	4後	1			○			15		
	運動療法学	2前	2			○			30		
	理学療法測定学	2前	2			○			30		
	理学療法測定学演習	2前	1				○		30		
	理学療法臨床測定学	2後	1				○		30		
	日常生活活動学	2前	2			○			30		
	日常生活活動学演習	2後	1				○		30		
	物理療法学	2後	1			○			15		
	物理療法学演習	2後	1				○		30		
	義肢装具学	3前	2			○			30		
	義肢装具学演習	3前	1				○		30		
	理学療法研究方法論	3前	1				○		30		
専門科目	理学療法専門科目	運動器障害理学療法学	3前	2			○			30	必修22単位 + 選択3単位
		運動器障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
		運動器障害理学療法学特論	3後		1			○		30	
		神経系障害評価学	3前	1			○			15	
		神経系障害理学療法学	3前	2			○			30	
		神経系障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
		神経系障害理学療法学特論	3後		1			○		30	
		内部障害理学療法学	3前	2			○			30	
		内部障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	内部障害理学療法学特論	3後		1		○			30		
	老年期障害理学療法学	3前	2			○			30		
	老年期障害理学療法学演習	3後	1				○		30		
	発達障害理学療法学	3前	2			○			30		
	発達障害理学療法学演習	3後	1				○		30		
	発達障害理学療法学特論	3後		1		○			15		
	地域理学療法学	3前	2			○			30		
	地域理学療法学演習	3後	1				○		30		
	地域理学療法学特論	3後	1			○			15		
理学療法技術論	4後	1				○		30			
生体機能計測学	3前	1				○		30			
理学療法発展領域論	4後		1			○		30			
実習	臨床	臨床実習Ⅰ(体験実習)	1後	1				○	45	必修20単位	
		臨床実習Ⅱ(評価実習)	3後	5				○	180		

	臨床実習Ⅲ（運動器系総合実習）	4 前	7				○	315	
	臨床実習Ⅳ（神経系総合実習）	4 前	7				○	315	
研究	卒業研究	4 通	2				○	60	必修 2 単位

先修条件

1. 「運動療法学」, 「臨床運動学」, 「理学療法測定学」, 「理学療法測定学演習」, 「理学療法臨床測定学」および「神経系障害評価学」を履修するには, 1 年次配当の必修科目「人体の構造Ⅰ」, 「人体の構造Ⅱ」, 「人体の構造実習」, 「運動学Ⅰ」および「機能解剖学」単位を修得しておくこと.
2. 「物理療法学」, 「日常生活活動学」, 「運動器障害理学療法学」, 「神経系障害理学療法学」および「発達障害理学療法学」を履修するには, 1 年次配当の必修科目「人体の機能Ⅰ」, 「人体の機能Ⅱ」の単位を修得しておくこと.
3. 「臨床実習Ⅱ」を履修するには, 3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得していること.
4. 「臨床実習Ⅲ」および「臨床実習Ⅳ」を履修するには, 既に「臨床実習Ⅱ」の必修科目の単位を修得しておくこと.

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	16 単位	24 単位
保健医療基礎科目	7 単位	2 単位	9 単位
専門科目	86 単位	4 単位	90 単位
合計	104 単位	22 単位	126 単位

(リハビリテーション学科理学療法専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	2			○			30	必修4単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1前	2			○		30	必修2単位	
	哲学	1前		2			○		30		
	文学	1前		2			○		30		
	歴史と文化	1前		2			○		30		
	生命倫理	1後		2			○		30		
	宗教学	1後		2			○		30		
	教育学	1前		2			○		30		
	人間関係論	1前		2			○		30		
	コミュニケーション理論と実際	1前		2			○		30		
	健康スポーツ科学	1前後		1				○	30		
	生涯身体運動科学	1前後		1				○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1後		2			○		30	【一般教養科目】選択科目から選択15単位(※3)
	法学(日本国憲法)	1前		2				○		30	
	社会学	1後		2				○		30	
	文化人類学	1前		2				○		30	
経済学	3前		2				○		30		
国際関係論	2後		2				○		30		
社会福祉学	1前		1				○		15		
国際的な健康課題	1後		1				○		15		
人権・ジェンダー	1後		2				○		30		
科学論	3前		2				○		30		
環境変化と生態	1後		2				○		30		
観察生物学入門	1前後		2				○		30		
生物学	1前後		2				○		30		
物理学	1前	2					○		30		
化学	1前		2				○		30		
情報理解群	統計学	1・2後	2				○		30	必修3単位	
	情報リテラシーⅠ	1前	1					○	30		
	情報リテラシーⅡ	1後		1				○	30		
	情報倫理	1後		1				○	15		
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1前		1				○	30	必修2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1前		1				○	30		
	英語Ⅲ(講読・記述)	1後		1				○	30		
	英語Ⅳ(英会話)	1後		1				○	30		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2前	2					○	30		
	英語Ⅵ(応用英語)	1後		1				○	30		

※3 一般教養科目における選択科目の履修方法について

- (1) 人間理解群のうち、「人間関係論」及び「コミュニケーション理論と実際」から1科目を選択して履修する。
- (2) 生活と環境群のうち、「文化人類学」、「国際関係論」及び「国際的な健康課題」から1科目を選択して履修する。
- (3) 外国語群から2科目を選択して履修する。

(リハビリテーション学科理学療法専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修7単位 + 選択2単位
		生化学総論	1前		1		○			15	
		栄養学	1後		2		○			30	
		心の健康	1前		1		○			15	
		薬理学	1後		1		○			15	
		病理学	1前	1			○			15	
		微生物学	1前	1			○			15	
		小児発達論	1後		1		○			15	
		臨床心理学	1後	1				○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○			15	
		公衆衛生学	2通		2		○			30	
		疫学・保健統計	3前		2		○			30	
		リハビリテーション概論	1後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2前		1		○			15	
		保健医療福祉論	2後	2			○			30	
		食育論	3前		2		○			30	
		健康と運動	1後		1		○			15	
		家族社会学	1前		1		○			15	
		医療経営管理論	4後		1		○			15	
リスクマネジメント論	2後		1		○			15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1				○		30	必修24単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1				○		30	
		人体の構造実習	1後	1					○	45	
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1前	1				○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1後	1				○		30	
		人体の機能実習	2前	1					○	45	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	1後	1				○		30	
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	2前	1				○		30	
		運動学実習	2後	1					○	45	
		運動分析学	2前	1			○			15	
		臨床・病態運動学	2後	1			○			15	
		人間工学	2後		1				○	30	
		人間発達学	2前	1					○	30	
		医学総論	1後	1			○			15	
		内科学総論	2前	1				○		30	
		内科学各論	2後	1				○		30	
		神経科学総論	2前	1				○		30	
		神経科学各論	2後	1				○		30	
		整形外科学総論	2前	1				○		30	
		整形外科学各論	2後	1				○		30	
		精神神経科学総論	2前	1				○		30	
		精神神経科学各論	2後		1			○		30	
		老年科学	3前	1				○		30	
小児科学	3前	1				○		30			
臨床医学概論	3前	1				○		30			
リハビリテーション医学	2後	1				○		30			

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1 前	1			○			15	必修 16 単位
	理学療法概論演習	1 前	1				○		30	
	理学療法管理学	4 後	1			○			15	
	基礎理学療法学	2 前	2			○			30	
	理学療法評価学	2 前	1			○			15	
	理学療法評価学演習	2 前	1				○		30	
	日常生活活動学	2 前	2			○			30	
	日常生活活動学演習	2 前	1				○		30	
	物理療法学	2 後	1			○			15	
	物理療法学演習	2 後	1				○		30	
	義肢装具学	2 前	2			○			30	
	義肢装具学演習	2 前	1				○		30	
	理学療法研究方法論	3 前	1				○		30	
	理学療法専門科目	運動器障害評価学	3 前	1			○			
運動器障害理学療法学		3 前	2			○			30	
運動器障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
運動器障害理学療法学特論		3 後		1			○		30	
神経系障害評価学		3 前	1			○			15	
神経系障害理学療法学		3 前	2			○			30	
神経系障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
神経系障害理学療法学特論		3 後		1			○		30	
内部障害評価学		3 前	1			○			15	
内部障害理学療法学		3 前	2			○			30	
内部障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
内部障害理学療法学特論		3 後		1			○		30	
老年期障害評価学		3 前	1			○			15	
老年期障害理学療法学		3 前	2			○			30	
老年期障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
発達障害評価学		3 前	1			○			15	
発達障害理学療法学		3 前	2			○			30	
発達障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
発達障害理学療法学特論		3 後		1		○			15	
地域理学療法学Ⅰ(総論)		3 前	1			○			15	
地域理学療法学Ⅱ(各論)	3 前	1			○			15		
地域理学療法学演習	3 後	1				○		30		
地域理学療法学実習	4 後	1					○	45		
臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)	1 後	1					○	45	必修 21 単位
	臨床実習Ⅱ(評価実習)	3 後	4					○	180	
	臨床実習Ⅲ(運動器系総合実習)	4 前後	7					○	315	
	臨床実習Ⅳ(神経系総合実習)	4 前後	7					○	315	
研究	卒業研究	4 通	2				○	60		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 平成 24 年度以前の入学生用)

先修条件

「臨床実習Ⅲ」及び「臨床実習Ⅳ」を履修するには、既に「臨床実習Ⅱ」の単位を修得していること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	4 単位	0 単位	4 単位
一般教養科目	9 単位	15 単位	24 単位
保健医療基礎科目	7 単位	2 単位	9 単位
専門科目	85 単位	4 単位	89 単位
合計	105 単位	21 単位	126 単位

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成25年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30	必修3単位
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
		哲学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4 後		2		○		30	
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4 前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2		○		30	必修 2単位
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4 前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4 後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1		○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○		30	
		科学論	1・2・3・4 前		2		○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○		30	
		生物学	1・2・3・4 前後		2		○		30	
		物理学	1・2・3・4 前		2		○		30	
	化学	1・2・3・4 前		2		○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後		1			○	30	必修 2単位
情報リテラシー I		1 前		1			○	30		
情報リテラシー II		1・2・3・4 後		1			○	30		
情報倫理		1・2・3・4 後		1		○		15		
外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1			○	30	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1			○	30		
	英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1			○	30		
	英語 IV (英会話)	1・2・3・4 後		1			○	30		
	英語 V (保健医療英語)	2 前		2		○		30		
	英語 VI (応用英語)	1・2・3・4 後		1			○	30		

【一般教養科目】選択科目から選択 12 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 6 単位 + 選択 1 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学Ⅰ (基礎)	1 後		1		○			15	
		栄養学Ⅱ (応用)	1 後		1		○			15	
		心の健康	1 後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ (総論)	1 後		1		○			15	
		薬理学Ⅱ (各論)	1 後		1		○			15	
		病理学Ⅰ (総論)	1 前	1			○			15	
		病理学Ⅱ (各論)	1 前		1		○			15	
		微生物学Ⅰ (総論)	1 前		1		○			15	
		微生物学Ⅱ (各論)	1 前		1		○			15	
	発達心理学	1 前		1		○			15		
	臨床心理学	1 後	1				○		30		
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	2 前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	2 後		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	3 前		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	3 前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	1 後	1			○			15	
救命・救急の理論と実際		2 前		1		○			15		
保健医療福祉論Ⅰ (基礎)		2 後	1			○			15		
保健医療福祉論Ⅱ (応用)		2 後	1			○			15		
食育論Ⅰ (基礎)		3 前		1		○			15		
食育論Ⅱ (応用)	3 前		1		○			15			
健康と運動	1 後		1		○			15			
家族社会学	1 前		1		○			15			
医療経営管理論	4 後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2 後		1		○			15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ (筋・骨・神経系の構造)	1 前	1				○		30	必修 24 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ (脈管・内臓・感覚器の構造)	1 後	1				○		30	
		人体の構造実習	1 後	1					○	45	
		機能解剖学	1 後		1			○		30	
		人体の機能Ⅰ (動物性功能)	1 前	1				○		30	
		人体の機能Ⅱ (植物性功能)	1 後	1				○		30	
		人体の機能実習	2 前	1					○	45	
		作業運動学Ⅰ (作業運動の基礎)	1 後	1				○		30	
		作業運動学Ⅱ (作業運動の応用)	2 前	1				○		30	
		作業運動学実習	2 後	1					○	45	
		作業運動分析学	2 前	1			○			15	
		臨床運動学	2 前		1			○		30	
		人間工学	2 後		1			○		30	
		人間発達学	2 前	1				○		30	
		医学総論	1 後	1			○			15	
		内科学総論	2 前	1				○		30	
		内科学各論	2 後	1				○		30	
神経内科学総論	2 前	1				○		30			
神経内科学各論	2 後	1				○		30			

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門基礎科目	整形外科学総論	2 前	1				○		30	
	整形外科学各論	2 後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2 前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2 後	1				○		30	
	老年科学	3 前	1				○		30	
	小児科学	3 前	1				○		30	
	臨床医学概論	3 前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3 前	1				○		30	
基礎作業療法学	作業療法概論	1 前	2			○			30	必修 7 単位 + 選択 1 単位
	作業療法管理学	3 後		1		○			15	
	作業療法基礎理論	2 前		1			○		30	
	作業療法研究法	3 後	1			○			15	
	基礎作業学・演習	1 前	1				○		30	
	基礎作業学実習	1 後	1					○	45	
	作業療法評価学概論	1 後	1			○			15	
	地域作業療法学概論	3 前	1			○			15	
専門科目 実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ（神経・心肺機能系）	2 前	2			○			30	必修 32 単位
	作業療法治療学Ⅰ（神経・心肺機能系）	2 後	2			○			30	
	作業療法学Ⅰ演習（神経・心肺機能系）	3 前	1				○		30	
	作業療法評価学Ⅱ（廃用・運動機能系）	2 前	2			○			30	
	作業療法治療学Ⅱ（廃用・運動機能系）	2 後	2			○			30	
	作業療法学Ⅱ演習（廃用・運動機能系）	3 前	1				○		30	
	作業療法評価学Ⅲ（精神・心理機能系）	2 前	2			○			30	
	作業療法治療学Ⅲ（精神・心理機能系）	2 後	2			○			30	
	作業療法学Ⅲ演習（精神・心理機能系）	3 前	1				○		30	
	作業療法評価学Ⅳ（認知・知能機能系）	2 前	2			○			30	
	作業療法治療学Ⅳ（認知・知能機能系）	2 後	2			○			30	
	作業療法学Ⅳ演習（認知・知能機能系）	3 前	1				○		30	
	日常生活活動技術学	3 前	2			○			30	
	日常生活活動技術学演習	3 後	1				○		30	
	日常生活活動援助学	3 前	2			○			30	
	日常生活活動援助学演習	3 後	1				○		30	
	社会的適応支援評価学	2 後	2			○			30	
社会的適応支援学	3 前	2			○			30		
社会的適応支援学演習	3 後	1				○		30		
作業療法セミナー	3 前～4 前	1				○		30		
臨床実習	臨床体験実習	1 通	1				○		45	必修 27 単位
	評価実習Ⅰ	3 通	3				○		135	
	評価実習Ⅱ	3 通	3				○		135	
	総合実習Ⅰ	4 通	8				○		360	
	総合実習Ⅱ	4 通	8				○		360	
	地域作業療法学実習	4 通	3				○		135	
研究	卒業研究	4 通	1				○		30	

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	16 単位	24 単位
保健医療基礎科目	6 単位	1 単位	7 単位
専門科目	90 単位	2 単位	92 単位
合 計	107 単位	19 単位	126 単位

先修条件

1. 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得していること。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	2			○			30	必修4単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1前	2			○			30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
		哲学	1前		2		○			30	
		文学	1前		2		○			30	
		歴史と文化	1前		2		○			30	
		生命倫理	1後		2		○			30	
		宗教学	1後		2		○			30	
		教育学	1前		2		○			30	
		人間関係論	1前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1前後		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1後		2		○			30	必修 2単位
		法学(日本国憲法)	1前		2		○			30	
		社会学	1後		2		○			30	
		文化人類学	1前		2		○			30	
		経済学	3前		2		○			30	
		国際関係論	2後		2		○			30	
		社会福祉学	1前		1		○			15	
		国際的な健康課題	1後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	1後		2		○			30	
		科学論	2前		2		○			30	
		環境変化と生態	1後		2		○			30	
		観察生物学入門	1前後		2		○			30	
		生物学	1前後		2		○			30	
	物理学	1前	2			○			30		
	化学	1前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	1後	2			○			30	必修 3単位
情報リテラシーⅠ		1前	1				○		30		
情報リテラシーⅡ		1後		1			○		30		
情報倫理		1後		1		○			15		
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1前		1			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1前		1			○		30		
	英語Ⅲ(講読・記述)	1後		1			○		30		
	英語Ⅳ(英会話)	1後		1			○		30		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2前	2			○			30		
	英語Ⅵ(応用英語)	1後		1			○		30		

【一般教養科目】選択科目から選択 11単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前	1			○		15	必修6単位 + 選択1単位	
		生化学総論	1前	1			○		15		
		栄養学	1後	2			○		30		
		心の健康	1前	1			○		15		
		薬理学	1後	1			○		15		
		病理学	1前	1			○		15		
		微生物学	1前	1			○		15		
		小児発達論	1後	1			○		15		
		臨床心理学	1後	1				○	30		
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○		15		
		公衆衛生学	2通	2			○		30		
		疫学・保健統計	3前	2			○		30		
		リハビリテーション概論	1後	1			○		15		
		救命・救急の理論と実際	2前	1			○		15		
		保健医療福祉論	2後	2			○		30		
		食育論	3前	2			○		30		
		健康と運動	1後	1			○		15		
		家族社会学	1前	1			○		15		
		医療経営管理論	4後	1			○		15		
リスクマネジメント論	2後	1			○		15				
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1				○	30	必修24単位 + 選択1単位	
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1				○	30		
		人体の構造実習	1後	1					○		45
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1前	1				○	30		
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1後	1				○	30		
		人体の機能実習	2前	1					○		45
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	1後	1				○	30		
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	2前	1				○	30		
		作業運動学実習	2後	1					○		45
		作業運動分析学	2前	1			○		15		
		臨床・病態運動学	2後	1	1		○		15		
		人間工学	2後	1	1			○	30		
		人間発達学	2前	1				○	30		
		医学総論	1後	1			○		15		
		内科学総論	2前	1				○	30		
		内科学各論	2後	1				○	30		
		神経科学総論	2前	1				○	30		
		神経科学各論	2後	1				○	30		
		整形外科総論	2前	1				○	30		
		整形外科各論	2後	1				○	30		
		精神神経科学総論	2前	1				○	30		
		精神神経科学各論	2後	1				○	30		
		老年科学	3前	1				○	30		
小児科学	3前	1				○	30				
臨床医学概論	3前	1				○	30				
リハビリテーション医学	2後	1				○	30				

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1			○			15	必修9単位 + 選択1単位		
	作業療法基礎演習	1前	1				○		30			
	作業療法管理学	4前	1			○			15			
	作業療法基礎理論	2前	1				○		30			
	作業療法研究法	3前	1			○			15			
	基礎作業学	1前	1			○			15			
	基礎作業学実習Ⅰ(作業活動の基礎)	1前	1					○	45			
	基礎作業学実習Ⅱ(作業活動の応用)	1後		1				○	45			
	基礎作業学特論	1後		1		○			15			
	作業療法評価学概論	2前	1			○			15			
	地域作業療法学概論	3前	1			○			15			
	専門科目 実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ(運動・神経・心肺機能系)	2前	1			○				15	必修23単位 + 選択6単位
		作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2後	1			○				15	
作業療法治療学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)		3前	1				○		30			
作業療法治療学Ⅰ特論(神経・心肺機能系)		3後		1		○			15			
作業療法治療学Ⅱ(廃用・運動機能系)		2後	1			○			15			
作業療法治療学Ⅱ演習(廃用・運動機能系)		3前	1				○		30			
作業療法治療学Ⅱ特論(廃用・運動機能系)		3後		1		○			15			
作業療法評価学Ⅱ(精神・心理・認知機能系)		2前	1			○			15			
作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系)		2後	1			○			15			
作業療法治療学Ⅲ演習(精神・心理機能系)		3前	1				○		30			
作業療法治療学Ⅲ特論(精神・心理機能系)		3後		1		○			15			
作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)		2後	1			○			15			
作業療法治療学Ⅳ演習(認知・知能機能系)		3前	1				○		30			
作業療法治療学Ⅳ特論(認知・知能機能系)		3後		1		○			15			
日常生活活動技術評価学		2前	1			○			15			
日常生活活動技術学		2後	1			○			15			
日常生活活動技術学演習		3前	1				○		30			
日常生活活動技術学特論		3後		1		○			15			
日常生活活動援助評価学		2前	1			○			15			
日常生活活動援助学		2後	1			○			15			
日常生活活動援助学演習		3前	1				○		30			
日常生活活動援助学特論		3後		1		○			15			
社会的適応支援評価学Ⅰ(個人生活・余暇活動系)		2前	1			○			15			
社会的適応支援評価学Ⅱ(社会生活・職業関連系)		2前	1			○			15			
社会的適応支援学		2後	1			○			15			
社会的適応支援学演習		3前	1				○		30			
社会的適応支援学特論		3後		1		○			15			
作業療法治療学実習	3後～4前	2					○	90				
地域作業療法学演習	3後	1				○		30				

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	臨床実習 臨床実習Ⅰ（臨床体験実習） 臨床実習Ⅱ（評価実習） 臨床実習Ⅲ（総合実習） 地域作業療法学実習	1前	1					○	45	必修27単位
		3通	6					○	270	
		3後～4前	14					○	630	
		4後	4					○	180	
	研究 卒業研究	4通	2				○	60		

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	4単位	0単位	4単位
一般教養科目	9単位	15単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	83単位	8単位	91単位
合計	102単位	24単位	126単位

氏名	科目
稲垣 三恵子	英語Ⅰ(基礎講読)
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英会話)
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英会話)
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英会話)
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英会話)
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)
大西 仁	科学論
橋本 健一	観察生物学入門
橋本 健一	観察生物学入門
安孫子 誠男	経済学
水口 章	国際関係論
大澤 絵里	国際的な健康課題
虎頭 恭子	
西山 美希	
山本 裕子	
小林 奈緒	コミュニケーション理論と実際①
常山 吾朗	
小林 奈緒	コミュニケーション理論と実際②
常山 吾朗	
島村 賢一	社会学
佐藤 真生子	社会福祉学
大江 満	宗教学
島村 賢一	人権・ジェンダー
高橋 良博	心理学
上野 義雪	生活とデザイン
橋本 健一	生物学
橋本 健一	生物学
橋本 健一	生物学
小館 貴幸	生命倫理
森 禎徳	生命倫理
高井 寛	哲学
常山 吾朗	人間関係論
岩崎 三郎	物理学
岩崎 三郎	物理学
柴 佳世乃	文学
安倍 宰	文化人類学
覺正 豊和	法学(日本国憲法)
黒崎 輝人	歴史と文化
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
高尾 公矢	家族社会学
高梨 一彦	発達心理学
清水 健	微生物学Ⅰ(総論)
清水 健	微生物学Ⅱ(各論)
福井 謙二	病理学Ⅰ(総論)
福井 謙二	病理学Ⅱ(各論)
本多 敏明	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅰ(総論)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅱ(各論)
高橋 静子	リスクマネジメント論
矢口 大雄	臨床心理学
児玉 久仁子	家族看護学概論
児玉 久仁子	家族看護学方法論
鈴木 康美	看護管理学
鈴木 明子	感染看護学

伊藤 尚子	国際看護論
岡野 達弥	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
賀川 真吾	
鈴木 秀海	
高野 重紹	
三島 敬	
石川 博士	
山浦 晶	
渡邊 倫子	
杉澤 淳子	病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)
雨宮 歩	解剖学総論
佐久間 祐子	教育心理
佐久間 祐子	教育相談
三好 美紀	国際栄養学
田中 和美	在宅栄養支援論
藤谷 朝実	障害者栄養支援論
土橋 昇	食品化学実験
土橋 昇	食品学総論演習
土橋 昇	食品学総論演習
土橋 昇	食品加工学実習
土橋 昇	食品微生物学
本 国子	スポーツ栄養学
須藤 千尋	生理学総論
中澤 健	
松澤 大輔	
加藤 秀雄	フードマネジメント論
土橋 昇	理化学演習
野本 たかと	演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)
雨宮 歩	解剖学総論
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション論
阿部 伸一	口腔解剖学
三友 啓介	
田崎 雅和	口腔生理学
奥田 克爾	口腔微生物学
木戸田 直実	在宅歯科衛生管理論Ⅰ
吉田 由加里	在宅歯科衛生管理論Ⅱ
相川 敬子	歯科医療管理論
石原 和幸	歯科衛生基礎演習
松井 恭平	
山口 大	歯科矯正学
佐藤 裕	歯科生化学・臨床検査法
鈴木 俊雄	歯科薬理学
上條 英之	社会保障・社会保険論
須藤 千尋	生理学総論
中澤 健	
松澤 大輔	
加藤 邦大	運動器障害理学療法学演習
鈴木 勝	
高間 省吾	運動器障害理学療法学特論
石川 修平	
山内 弘喜	
山本 喜美夫	運動療法学
稲垣 武	
須田 裕紀	
高橋 素彦	
田口 直枝	
前田 雄	義肢装具学

須田 裕紀	義肢装具学演習
高橋 素彦	
田口 直枝	
前田 雄	
高柳 正樹	小児科学
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
北村 泰子	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)
杉澤 淳子	精神神経科学各論
小松 尚也	精神神経科学総論
渡邊 博幸	
中村 信義	地域理学療法学
中村 信義	地域理学療法学演習
田中 康之	地域理学療法学特論
高橋 哲也	内部障害理学療法学
鶴澤 吉宏	内部障害理学療法学演習
田中 繁	人間工学
栗田 英明	発達障害理学療法学
宮原 なおみ	発達障害理学療法学演習
宮原 なおみ	発達障害理学療法学特論
村永 信吾	理学療法管理学
市橋 則明	理学療法発展領域論
對馬 栄輝	
吉永 勝訓	リハビリテーション医学
浅川 育世	老年期障害理学療法学演習
川口 真	理学療法技術論
村山 尊司	
米持 喬	作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)
石川 隆志	作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)
宮本 礼子	作業療法基礎理論
小倉 由紀	作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)
小倉 由紀	作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)
酒井 ひとみ	社会的適応支援学
池澤 直行	社会的適応支援学演習
大越 満	
倉持 昇	社会的適応支援評価学
坂田 祥子	
高柳 正樹	小児科学
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
北村 泰子	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)
杉澤 淳子	精神神経科学各論
小松 尚也	精神神経科学総論
渡邊 博幸	
大熊 明	地域作業療法学概論
浦田 敦	日常生活活動援助学
浦田 敦	日常生活活動援助学演習
加瀬澤 文芳	
坂田 祥子	日常生活活動技術学演習
田中 繁	人間工学
吉永 勝訓	リハビリテーション医学

自己点検・評価委員会 報告書作成等部会

部会長 豊島裕子

部会員 石川紀子

金子潤

杉本亜矢子

高杉潤

松尾真輔

山中紗都

(五十音順)



Annual Report of Education and Research
Chiba Prefectural University Of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel: 043-296-2000 / Fax: 043-272-1716